高野山大学・大学院

講義概要・授業計画

平成31年度

2019
KOYASAN UNIVERSITY
OVERVIEW LECTURE-LESSON PLANS

講義概要・授業計画

平成 31 年度（2019）

高野山大学

総　目　次

■　本誌の利用に際して

■　シラバスを活用しよう！

■　入学から卒業までの履修について　密教学科・人間学科

■　《僧侶実力養成プログラム》

■　カリキュラムマップ　密教学科・人間学科

■　講義概要・授業計画

文学部／別科　文１～文69

大　学　院　院１～院８

教員別索引（50音順）　索引１～索引３

本誌の利用に際して

この「講義概要・授業計画」は、平成 31 年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目の頁を開くことで見ることができます。

文　学　部

別　　科

シラバスを活用しよう！

副学長（教務担当）

この冊子は『高野山大学・大学院　講義概容・授業計画　平成 31 年度』と名づけられています。その名の通り、ここには今年度の高野山大学のすべての科目について、授業の到達目標及びテーマ、授業の概要、授業計画、テキスト、参考書･参考資料、受講生に対する評価方法、ルーブリック（目標に準拠した評価）、その他の注意点などがコンパクトにまとめられています。こういうものを「シラバス」（syllabus）とも言います。シラバスは、今年度１年間のみなさんの学修の指針となるものです。別の言い方をすると、シラバスは、学生諸君に対する私たち教員の約束です。今年度１年間の授業はここに書いてあるように展開されます。シラバスを大切にし、学修に役立ててください。

本学は、2019 年度から GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制を導入しました。GPA については前のページに載せてありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員に何度でもたずねてください。とても大事なことですから、はっきりした理解を持ってください。

また本学は、今年度入学の１回生から新しいカリキュラムを導入しました。これについても注意してください。しかし、この新カリキュラムが「宗教的教養を持った社会人」を育成するよう設計されていることは、これまでのカリキュラムと変わりません。宗教的教養を持った社会人とは、宗教の智慧を人生の指針とし、それを社会で活かしていける力を持った社会人です。言い換えれば、弘法大師の教えを具現化できる人です。

カリキュラムマップは、そうした人になるための学修の体系を図示したものです。弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を経営したり、福祉事業を展開したりするための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっています。

こうした能力、こうした教養は、僧侶になる人にも一般企業に就職する人にも役に立ちます。これを基礎に、僧侶を目指す人は教学実習科目等の授業を、一般企業を目指す人は就職支援授業をさらに活用してください。

みなさんの健闘を期待しています。

◆目次について

この『平成 31 年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学科のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門	乾　　龍　仁	2	1 年次	−		1

開講学期
曜日
時間

講義コード

授業科目名

担当教員名

単位数

シラバス
ページ番号

◆講義コードについて

講義コードは５ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

□　□　□　□　□　（５ケタ）

課程
３＝文学部１回生用
４＝文学部２～４回生用
５＝文学部共通
８＝別科生用
９＝大学院生用

曜日
１＝月曜日
２＝火曜日
３＝水曜日
４＝木曜日
５＝金曜日
６＝土曜日
７＝集中講義
８＝実習
９＝論文

時限
１＝１講時
２＝２講時
３＝３講時
４＝４講時
５＝５講時

通し番号
01 ～ 49 ＝前期授業
および通年授業
51 ～ 99 ＝後期授業

◆受講登録について

1　受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、**4月8日（月）から4月12日（金）午後5時まで**に教務課へ提出してください。

2　履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。

①　学籍番号（※ 身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。

②　履修登録欄には、今年度に受講するすべての授業科目を、『平成31年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。

3　履修登録票を教務課へ提出した学生は、**4月19日（金）から4月26日（金）午後5時まで**に、教務課で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、教務課へ提出してください。

4　最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。

5　履修を取り消したい科目がある場合は、前期は5月31日（金）まで、後期は11月1日（金）まで受け付けますので教務課に申し出てください。（※ ただし、導入研修、英語Ⅰ・Ⅱは履修取り消しができません。）

6　後期（9月23日開講）授業科目の追加及び登録変更は、**9月23日（火）から9月27日（金）午後5時まで**の後期履修登録変更期間に、教務課へ申し出てください。ただし、通年科目の追加･変更･取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第3回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。

それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」(999)になりますので留意してください。

◆報恩日（21日）の授業実施について

報恩日（21日）は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

◆ＧＰＡについて

１　ＧＰＡとは

ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のＧＰ（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

２　目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを目的としています。

３　対象

平成31年度入学生から対象となります。また３年次編入学生は平成33年度入学生からとなります。

４　ＧＰＡの計算方法

履修登録した各科目の成績（ＧＰ）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第３位は四捨五入。

合　否	評　点	評語	ＧＰ	判　定　基　準
合　格	90点以上	S	4	特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	優れた成績である
	79点～70点	B	2	妥当と認められる成績である
	69点～60点	C	1	合格と認められる最低限の成績である
不合格	59点以下	D	0	合格と認められない成績である
失　格	999点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認　定	888点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録した科目のＧＰ×その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

５　ＧＰＡに参入されない科目

他大学で取得し、本学にて認定された「Ｎ」評価の科目。

６　履修取り消し

前期は５月31日（金）まで、後期は11月１日（金）までと履修取り消し期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、ＧＰＡ算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目（導入研修・英語Ⅰ・Ⅱ）もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

入学から卒業までの履修について(密教学科)2019年度入学生用

卒業認定・学位授与に関する方針（密教学科ディプロマ・ポリシー　ＤＰ）

高野山大学文学部密教学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

１．仏教・密教に関する専門知識。（DP1）
２．体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。（DP2）
３．真言宗僧侶としての基礎的技能。（DP3）
４．日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。（DP4）
５．現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。（DP5）

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部密教学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条）。

密教学科の科目は、建学の精神科目、導入科目、語学科目、基礎ゼミ、基礎科目、実技科目、講読、実習、特殊講義、講読演習、演習、卒業論文の必修科目と、選択科目、自由科目に区分されています。

必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計64単位以上を取得してください。

また、必修科目以外に、選択科目の中から60単位を取得する必要があります。

密教学科の学生は、必修科目64単位と選択科目60単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	２単位	基礎科目	４単位	特殊講義	４単位
導入科目	２単位	実技科目	10単位	講読演習	４単位
語学科目	６単位	講　　読	８単位	演　　習	８単位
基礎ゼミ	４単位	実　　習	４単位	卒業論文	８単位
				必修科目合計	64単位
				選択科目合計	60単位
				合　　計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、１回生は履修できません。

以下では、密教学科の学生が卒業に必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。
卒業後にどのようになりたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかを考えてください。

高野山キャンパスで学んでいる２回生以上の学生は、難波サテライト教室で開講されている科目を履修することができます（１部科目を除く）。ただし、１回生から入学した学生は、難波サテライト教室や学外で行う科目を60単位以上は認定できません。難波サテライト社会人編入生については、難波サテライト教室での取得単位に上限はありません。

必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず66単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、基礎講義は４単位以上となっていますが、開講科目は８単位分開講されおり、その中から４単位以上を履修することができます。

科目区分／科目名	学年配当	開講時期	履修単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	授業内容
【建学の精神科目】２単位必修									
空海の思想入門	1	半期	2	◎		○			仏教思想の基礎と建学の精神である空海の思想を学ぶ。
【導入研修】２単位必修									
導入研修	1	半期	2	○	◎				合宿形式で、大学での学びを体験するとともに、グループ活動・宗教体験を通して自己を見つめる。
【語学科目】６単位必修（英語Ⅰ・英語Ⅱは必修、漢文・サンスクリット語はどちらか２単位を必修）									
英語Ⅰ	1	通年	2		◎		○		リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
英語Ⅱ	2	通年	2		◎		○		リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
漢文	1	通年	2		◎		○		訓点を正しく使う能力を養い、漢文読解の基礎を身に付ける。
サンスクリット語	1	通年	2		◎		○		サンスクリット語の基礎を学び、読解力を高める。
【基礎ゼミ】２＋２単位必修（２科目４単位以上）									
密教学科基礎ゼミ	1	半期	2		◎	○			密教学科の学びの基礎となる資料収集や文章読解、文章作成、実践などをトレーニングする。
【基礎科目】２＋２単位必修（２科目４単位以上）									
密教学概論	2	半期	2	◎				○	密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。
仏教学概論	2	半期	2	◎				○	縁起・空・唯識・中観といった仏教の専門用語を習得し、仏教思想の総合的理解を培う。
密教史概説	2	半期	2	◎				○	インド・チベット・中国における密教の歴史に関する基礎知識を習得し、あわせて日本密教の歴史的展開を理解する。
仏教史概説	2	半期	2	◎				○	インド文化における仏教の誕生と天界に関する基礎知識を習得し、あわせて東アジアの仏教の歴史的変遷を理解する。
【実技科目】10単位必修（常用経典・声明・法式・布教は必修。漢字Ⅰ・かなⅠはどちらか２単位を履修）									
常用経典	1	通年	2	○		◎			真言宗の常用経典の読誦法（お経の読み方）の習得。
声明	1	通年	2	○		◎			真言宗の僧侶として必要な仏教音楽「声明」の基礎的トレーニング。
法式	1	通年	2	○		◎			真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識の解説。
布教	1	通年	2	○		◎			布教原理の学習と実習（真言法話・詠歌等）を通して伝道の重要性を認識する。
漢字Ⅰ	1	通年	2		◎	○			中国の伝統的書道教育を根底に、楷書・篆書・隷書などの臨書を経て、作品制作を行う。
かなⅠ	1	通年	2		◎	○			「かな」成立の歴史を知り、実習を経て行書き・ちらし書きの創作を行う。
【講読】８単位必修（祖典講読Ⅰは必修。祖典講読Ⅱ・宗典講読はどちらか4単位を履修）									
祖典講読Ⅰ	2	通年	4	◎		○			弘法大師空海の『即身成仏義』を読み、その根本思想を把握する。
祖典講読Ⅱ	3	通年	4	◎		○			弘法大師の著作の講読を通して、その思想の特質を理解するとともに、真言密教の教理と実践の関係を理解する。
宗典講読	3	通年	4	○		◎			密教・真言宗の文献の講読を通して、密教の思想と実践を学び、真言密教が社会に提供できるものを考える。

【実習】４単位必修

加行Ⅰ	1	集中	1	○		◎			前期加行の実習を通して、自分自身を見つめ、真言密教の修学に結び付ける。
加行Ⅱ	1	集中	1	○		◎			後期加行の実習を通して、自分自身を見つめ、真言密教の修学に結び付ける。
ボランティア	1	集中	2			○		◎	ボランティアの体験を通じて社会貢献の精神、公共性、社会性を身につける。
巡礼・遍路	1	集中	2		○			◎	巡礼・遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養し、企画力、実行力、報告能力を身に付ける。

【特殊講義】２＋２単位必修（２科目４単位以上）

密教学特殊講義	3	集中	2	◎			○		密教学／仏教学の卒業論文作成に向けた専門教育の講義であり、各自の希望に応じた選択によって、専門知識の習得や資格取得を実現する。
仏教学特殊講義	3	集中	2	◎				○	
真言密教特殊講義	3	集中	2	◎		○			

【講読演習】２＋２単位必修（２科目４単位以上）

密教学講読演習	3	集中	2	◎			○		密教学／仏教学の卒業論文作成に向けて、各自の希望に応じた選択によって、専門的な文献の読解を行う。
仏教学講読演習	3	集中	2	◎				○	
真言密教講読演習	3	集中	2	◎		○			

【演習】４＋４単位必修（３回生、４回生で各１科目必修）

密教学演習	3・4	通年	4	○	◎				卒業論文作成のために、資料収取、読解、報告、執筆する力を身につける。

【卒業論文】８単位必修

密教学科卒業論文	4	通年	8	◎	○				4年間の学びの集大成として、各自の研究成果を論文として作成する。

選択科目

密教学科の必修科目を64単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの60単位は、人間学科の必修科目（人間学演習を除く）や文学部共通科目である企画科目、外国語科目、僧侶科目、実技・実習科目、古文書学科目、普通科目、書道師範科目、学芸員資格科目から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目を当てることもできます。

自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（密教学科）2019年度入学生用

	１年次		２年次		３年次		４年次
建学の精神科目	空海の思想入門						
導入科目	導入研修						
語学科目	英語Ⅰ		英語Ⅱ				
	漢文	※１科目選択					
	サンスクリット語						
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ	※２科目受講					
基礎科目			密教学概論	※２科目選択			
			仏教学概論				
			密教史概説				
			仏教史概説				
実技科目	常用経典						
	声明						
	法式						
	布教						
	書道（漢字Ⅰ）	※１科目選択					
	書道（かなⅠ）						
講読			祖典講読Ⅰ		祖典講読Ⅱ	※1科目選択	
					宗典講読		
実習	加行Ⅰ	※春期休業中	加行Ⅱ	※夏期休業中			
	ボランティア	※１科目選択	ボランティア	※１科目選択			
	巡礼・遍路		巡礼・遍路				
特殊講義					密教学特殊講義	※２科目選択	
					仏教学特殊講義		
					真言密教特殊講義		
講読演習					密教学講読演習	※２科目選択	
					仏教学講読演習		
					真言密教講読演習		
演習					密教学演習		密教学演習
卒業論文							密教学科卒業論文
選択科目							

《僧侶実力養成プログラム》（2019 年度からの入学生用）

密教学科主任

密教学科の講義の中には潅頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

密教学科では、２回生までに得度・受戒・加行・灌頂を終えるケースをモデルとして想定しています。

＜モデルケース＞

	《僧侶への道》		《授業科目》	
1回生	５～６月頃	得　　度	常用経典	実技科目（教学実習科目）
	６月頃	受　　戒	声　　明	
	⋮		法　　式	
	春期休業	前期加行	布　　教	
2回生	⋮		加 行 Ⅰ	※ 受講登録・レポート提出
	夏期休業	後期加行		
	⋮		加 行 Ⅱ	※ 受講登録・レポート提出
	11 月頃	灌　　頂		

《授業科目》※ 開講科目例。変更する場合もあります。

3回生　4回生	十八道次第	諸作法伝授
	秘密儀軌	引導作法伝授
	金剛界伝授次第	中院流三十三尊法 1
	胎蔵界伝授次第	中院流三十三尊法 2

２年次において専修学院（学外施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

専修学院以外の場所で加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用経典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用経典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので、必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

専修学院（学外授業実施施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、学外施設において開講する指定科目を履修することにより本学の開講する必修科目・選択科目と同等の科目と見なし算入することができます。学外施設における指定された科目は毎年 12 月頃に掲示で告知しますので注意しておいてください。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

入学から卒業までの履修について（密教学科）2018年度までの入学生用

文学部密教学科では卒業までに130単位以上の科目を履修することとしています（履修規程第３条）。

授業科目は、大きく必修科目と選択科目に分かれ、その中でいくつかにグループ分けされていて、グループごとに何単位を履修するかが定められています。また、必修・選択科目以外に資格取得や就職準備のための自由科目が用意されていますが、自由科目は卒業に必要な単位に算入されません。また履修できるのは１年間に50単位まで（2019年４月変更）と上限が定められています（自由科目を除く）ので、４年で卒業するには１回生からコンスタントに学習することが重要です。

必修科目には、①１回生履修科目、②２回生履修科目、③３回生履修科目、④４回生履修科目があり、①～④で卒業に必要な単位数が決まっています。選択科目には密教学科科目、総合科目などの種類がありますが、基本的には選択科目全体で卒業に必要な合計単位数が決まっています。それぞれの科目グループで単位をいくつ履修しなければならないかの詳細は、『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程 別表Ｉに記載していますので参照してください。なお、原則として最終授業時に、期末試験・レポート試験の採点済み答案を返却します。

以下では必修・選択科目それぞれの中にある科目グループについて説明します。これを参考に、各自の興味や関心に沿った履修を計画してください。

必修科目

必修科目とは、卒業までに必ず履修しなければならない科目のことです。学年が上がってくると、「○科目のうちから○科目以上履修すればよい」という場合もありますが、１、２回生では「指定された科目を必ず履修しなければならない」という場合がほとんどです。これを取り損ねると次年度からの履修にも支障を来しますので、必ず指定された学年で履修しましょう。

１回生必修科目

以下の１回生必修科目はすべて合格しないと卒業できない科目です。それだけ今後の学習において重要な位置を占めると考え、必ず１回生のうちに履修をすませてください。

１）「建学の精神」科目

空海の思想入門

文字どおり本学の教育の基本となる科目で、学長が担当します。空海について名前くらいしか知らないという人を想定して、その思想を中心に基本的なことを学びます。

２）語学科目

英語Ｉ

語学はコミュニケーションの手段としても、またそれを通じて世界の見方を広げる手段としても重要です。１回生では高校レベルの復習を中心に学びます。１回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

３）導入科目

日本語

大学での筆記試験やレポート、ひいては４回生での卒業論文の作成を念頭に、その準備として「読む・書く」を中心としたトレーニングをします。１回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

４）基礎講義

現代思想　人間と宗教　釈尊伝　弘法大師伝

本学で学び始めたみなさんに最低限知っておいてもらいたい、考えてもらいたい内容です。一方で、現代の抱える問題、人間が抱えてきた問題を学び、他方で仏教の開祖であるブッダや真言宗の開祖である弘法大師について、名前くらいしか知らないという人を想定して、その時代背景と生涯を学びます。

５）古典語

漢文Ⅰ・Ⅱ

古典を学ぶのに必須となる漢文の力を養います。１回生では中学・高校レベルの復習を中心に学びます。

２回生必修科目

以下の２回生必修科目もほとんどが**合格しないと卒業できない科目**です。３回生から始まる専門科目を学ぶための基礎としても重要です。必ず２回生のうちに履修をすませてください。

１）語学科目

英語Ⅱ

２年次には高校レベルをベースに長文を読み進める忍耐力を養います。２回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

２）講義Ⅰ

密教学概論　密教史概説　仏教学概論　仏教史概説

１年次の**空海の思想入門、釈尊伝、弘法大師伝**を基礎として、密教と仏教それぞれについて、その学問分野の全体像と歴史を学びます。

３）２回生講読

祖典講読Ⅰ・Ⅱ

弘法大師の思想は本学での学習に欠かせない要素です。それを原典の漢文で読み進めていきます。弘法大師の思想に触れると共に、それが漢文でどのように表現されているかについても学びます。

３回生必修科目

いよいよ３回生から本格的な専門の内容を学びます。履修科目の選択にあたっては４回生になってどんな内容で卒業論文を書きたいか、その希望も踏まえてその領域の科目を重点的に学んでください。

１）３回生講読

祖典講読Ⅲ・Ⅳ

２回生に引きつづき弘法大師の著作を原典で読み、その思想に触れます。漢文の勉強もしっかり進めてください。

２）講読演習

密教学講読演習　仏教学講読演習　真言密教講読演習

講読演習は卒業論文作成の準備作業としての意義を持つ科目です。１冊または複数の文献を丁寧に読み、要点をまとめ、それを自分の考察や議論に生かしていくための方法を学びます。

３）講義Ⅱ

密教学特殊講義　仏教学特殊講義　真言密教特殊講義

２回生までに学んだ密教、仏教の基礎的知識を踏まえ、担当教員がそれぞれの得意分野で専門的な講義を展開します。自分の興味や卒業論文のテーマに合わせ、３回生と４回生で必要単位がそろうように履修してください。

４）演習Ⅰ

密教学演習

４回生、大学院生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。３回生のうちは特に、４回生の卒論報告を聞いて資料の集め方、議論の進め方、発表の仕方などを学びます。このほかに、卒論作成の力をつける課題に取り組むこともあります。

４回生必修科目

１）講読演習

密教学講読演習　仏教学講読演習　真言密教講読演習

３回生必修科目と同じです。

２）講義Ⅱ

密教学特殊講義　仏教学特殊講義　真言密教特殊講義

３回生必修科目と同じです。

３）演習Ⅱ

密教学演習

３回生、大学院生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。４回生の卒論報告は３回生のための手本ともなります。必要に応じて担当教員に相談しながら、早めに準備を始めて納得のいく卒業論文を仕上げてください。このほかに、卒論作成の力をつける課題に取り組むこともあります。

※ 演習の選択にあたって

演習は卒業論文を作成するための科目です。主にどの教員の指導を受けて卒論を書くか、３回生までにいろいろな教員の授業を受けながらよく考えておいて下さい。何か書いてみたいテーマがぼんやりとでも見えてきたら、オフィスアワーや授業の前後の時間を利用して、教員に直接相談してみるのもよいでしょう。場合によっては、卒論はこの先生の指導で書くが、あの先生の演習も受けて参考にしたいという希望が出てくるかもしれません。その時にはそれぞれの教員にその希望を伝え、十分に相談してから受講して下さい。

選択科目

選択科目とは、本学での学びを支えるために用意された科目です。企画科目や**総合科目**などいくつかのグループがありますが、グループ分けにこだわらず興味のあるものを選び、卒業までに全体で 52 単位を履修することが必要です。

選択科目と必修科目が重複して開講されている場合には必修科目を優先して履修してください。時間割をつくる際には、まず前の学年で履修できなかった必修科目があればそれを登録し、次に今の学年の必修科目を登録し、その後で空いている時間に選択科目を登録していくといいでしょう。１学年で履修できる科目の上限が 50 単位ですから、月曜から金曜まで、１講時から４講時（５講時）まで、すべてを授業で埋めることはできません。受けている授業の予習・復習をしたり、図書館で調べ物をしたり、空き時間をうまく活用して勉強を進めてください。密教合同研究室を覗いて先輩たちにアドバイスをもらったり、学習・就職支援室で就職活動の準備をするのもいいでしょう。

資格科目について

密教学科では、必要な科目を履修することによって、以下の免許・資格を取得できます。

・教育職員免許（宗教中学校１種、宗教高等学校１種、国語中学校１種、国語高等学校１種）
・高野山金剛峯寺・高野山大学書道師範
・社会福祉主事任用資格
・僧階

いずれも『**高野山大学要覧**』の**高野山大学履修規程**および**高野山大学履修要項**を参考にしてください。特に教職免許は卒業単位以外に必要となる科目が多いので、１回生のうちから計画的に履修していくことが重要です。

カリキュラムマップ（密教学科）

建学の精神科目　空海の思想入門

		古典に学ぶ	伝統文化を学ぶ	人と関わる	社会に生かす	僧侶
1・2回生	必修	密教学概論Ⅰ・Ⅱ 仏教学概論Ⅰ・Ⅱ 密教史概説Ⅰ・Ⅱ 仏教史概説Ⅰ 祖典講読Ⅰ・Ⅱ	漢文Ⅰ・Ⅱ	人間と宗教 英語Ⅰ・Ⅱ	現代思想	
	選択	サンスクリット語Ⅰ・Ⅱ チベット語 宗教思想史Ⅰ・Ⅱ 宗教学Ⅰ・Ⅱ 宗教史Ⅰ・Ⅱ 総合科目（書誌学） 総合科目（古文書学） 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 漢文学概論Ⅰ・Ⅱ 企画科目（古文書読解）	日本文学Ⅰ・Ⅱ 国文法Ⅰ・Ⅱ 国語学Ⅰ・Ⅱ 漢字Ⅰ・Ⅱ かなⅠ・Ⅱ 企画科目（舞踊） 企画科目（華道） 企画科目（仏画） 企画科目（歴史学） 日本文学史概説Ⅰ・Ⅱ 日本文学史概説Ⅰ・Ⅱ 国語学講義Ⅰ・Ⅱ 篆刻Ⅰ・Ⅱ 書道史（日本） 伝統文化実習（茶道） 企画科目（巡礼・遍路）	心理学Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ 体育実技 企画科目（地域連携） 哲学方法論 企画科目（高野文化圏論） 企画科目（キャリア研修）	社会学Ⅰ・Ⅱ 現代の人権 日本国憲法 情報処理 社会保障総論Ⅰ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ 企画科目（地方行政論） 企画科目（地方自治法） 企画科目（社会調査入門） 企画科目（質的調査論） 企画科目（地域産業論） 企画科目（カウンセリング論） 企画科目（発達心理学） 伝統文化実習（民俗調査） 社会福祉各論Ⅰ（地域福祉Ⅰ） 社会保障総論Ⅰ	梵字悉曇 常用経典 声明 法式 布教 企画科目（寺院経営） 企画科目（声明上級） 企画科目（詠歌） 企画科目（加行Ⅰ） 企画科目（加行Ⅱ） 宗教学方法論

3・4回生	必修	祖典講読ⅢA（『菩提心論』を読む） 祖典講読ⅢB（『弁顕密二教論』を読む） 祖典講読ⅢC（『吽字義』を読む） 祖典講読ⅢD（般若心経秘鍵を読む）	祖典講読ⅣA（『吽字義』を読む） 祖典講読ⅣB（『弁顕密二教論』を読む） 祖典講読ⅣC（『吽字義』を読む） 祖典講読ⅣD（般若心経秘鍵を読む）
	講読演習	密教学講読演習A（密教図像①） 密教学講読演習B（密教観法の理解①） 密教学講読演習C（密教観法の理解②） 密教学講読演習D（『大日経』を読む） 密教学講読演習E（『金剛頂経』を読む） 密教学講読演習F（日本密教の歴史）【難波】 密教学講読演習G（密教図像②）【難波】 仏教学講読演習A（『スッタニパータ』を読む） 仏教学講読演習B（『続日本後紀』を読む） 仏教学講読演習C（心とはなにか①）【難波】 仏教学講読演習D（『発心集』を読む）【難波】	仏教学講読演習E（『スッタニパータ』を読む）【難波】 真言密教講読演習A（死生観の思想史の理解） 真言密教講読演習B（十八道次第関連儀軌を読む） 真言密教講読演習C（秘密儀軌を読む） 真言密教講読演習D（金剛界伝授次第） 真言密教講読演習E（胎蔵界伝授次第） 真言密教講読演習F（『性霊集』を読む）【難波】 真言密教講読演習G（『鯨珠記』を読む）【難波】 真言密教講読演習H（真言密教の儀礼①）【難波】 真言密教講読演習Ⅰ（真言密教の儀礼②）【難波】 真言密教講読演習J（地蔵説話を読む）【難波】
	特殊講義	密教学特殊講義A（インド・チベット密教の図像研究） 密教学特殊講義B（日本美術史） 密教学特殊講義C（高野山の仏教美術の研究） 密教学特殊講義D（空海の行書の理論と実践①）【難波】 密教学特殊講義E（空海の行書の理論と実践②）【難波】 密教学特殊講義F（密教図像③）【難波】 仏教学特殊講義A（信心について） 仏教学特殊講義B（奈良仏教の研究） 仏教学特殊講義C（心とはなにか②）【難波】 仏教学特殊講義D（仏教用語の研究）【難波】	真言密教特殊講義A（葬送儀礼①） 真言密教特殊講義B（葬送儀礼②） 真言密教特殊講義C（『宗義決択集』の研究） 真言密教特殊講義D（中院流三十三尊法の研究①） 真言密教特殊講義E（中院流三十三尊法の研究②） 真言密教特殊講義F（『密教大辞典』を読む）【難波】 真言密教特殊講義G（高野山の宗教文化①）【難波】 真言密教特殊講義H（高野山の宗教文化②）【難波】 真言密教特殊講義Ⅰ（密教瞑想））【難波】
	演習	密教学演習A（中国書論を読む） 密教学演習B（釈雲照書簡の研究） 密教学演習C（仏教要語の研究） 密教学演習D（卒業論文作成トレーニング） 密教学演習E（『大日経』を読む）	密教学演習F（密教図像④） 密教学演習G（『行法肝葉鈔』を読む） 密教学演習H（再履修）（『人生欲生経』を読む） 密教学演習Ⅰ（文献研究トレーニング））【難波】 密教学演習J（論文作成トレーニング））【難波】
	選択	日本文化特殊講義A（『平家物語』を読む） 日本文化特殊講義B（『愚管抄』を読む） 日本文化特殊講義C（中世の王権と真言密教） 中国文化特殊講義（王羲之書法と空海書道の比較） 中国文化講読演習A（『説文解字』の研究） 中国文化講読演習B（新釈漢文体系）【難波】	キャリアカウンセリングⅢ（就職活動に必要なスキルの修得①） 総合科目（インターンシップ）（就職活動に必要なスキルの修得②） 総合科目（古文書学）（日本古文書学の諸問題） 総合科目（書誌学）（古典籍と書誌学・文献学） 条幅制作A（漢字）（条幅作品の創作①） 条幅制作B（かな）（条幅作品の創作②）

卒　業　論　文

教員・就職（自由科目）			
1回生	2回生	3回生	4回生
教職入門 教育原論 教育社会学 教育課程論	教育心理学 宗教科教育法Ⅰ・Ⅱ 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ 教育方法論 情報技術論 道徳教育の研究 特別教育活動 生徒指導・進路指導	宗教科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 教育相談 教育実習Ⅰ 教育実習の研究	教職実践演習 教育実習Ⅱ

入学から卒業までの履修について(人間学科)2019年度入学生用

卒業認定・学位授与に関する方針（人間学科ディプロマ・ポリシー　ＤＰ）

高野山大学文学部人間学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

１．社会人として必要な一般教養を身に付けている。**（DP1：社会人基礎力）**

２．他者の理解ができるとともに、自分の考えてをまとめ、他者に伝達するコミュニケーション能力を持っている。**（DP2：コミュニケーション力）**

３．自らが置かれた現状を客観的に分析し、対応を立案し、実行できる。**（DP3：課題解決能力）**

４．大学での学びを社会のために、役立てようとする意識を持っている。**（DP4：社会貢献意識）**

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部人間学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条）。

人間学科の科目は、建学の精神科目、導入科目、語学科目、基礎ゼミ、基礎科目、キャリア科目、教養科目、実習、専門講義、実践演習、演習、卒業論文に区分されています。これらは必修ですが、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。

これらの科目では、必要単位が決められています。各科目の必要単位を取得し、合計62単位以上を取得しなければ、卒業できません。

また、必修科目以外に、選択科目の中から62単位を取得する必要があります。

人間学科の学生は、必修科目62単位と選択科目62単位の合計124単位以上を取得すなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	２単位	基礎科目	６単位以上	専門講義	４単位以上
導入科目	２単位	キャリア科目	10単位以上	実践演習	２単位以上
語学科目	４単位	教養科目	４単位以上	演習	８単位
基礎ゼミ	８単位	実習	４単位以上	卒業論文	８単位
				必修科目合計	62単位
				選択科目合計	62単位
				合　　計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、１回生は履修できません。

以下では、人間学科の学生が卒業のために必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。卒業後にどのようになりたいのか、どのコース（地域デザイン・心理ケア）に進みたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかなどを考えてください。高野山キャンパスで学んでいる2回生以上の学生は、難波サテライト教室で開講されている心理ケア関係の科目を履修することができます。ただし、１回生から入学した学生は、難波サテライト教室や学外で行う科目を60単位以上は認定できません。編入生については関係ありません。

必修科目

卒業するためには、必修科目を62単位以上取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義が設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、専門講義は4単位以上となっていますが、地域デザインや心理ケアの専門的な講義が複数開講されており、その中から4単位以上を選択することができます。

科目区分／科目名	履修単位	学年配当	DP1	DP2	DP3	DP4	授業内容
【建学の精神科目】２単位必修							
空海の思想入門	2	1				◎	建学の精神である空海の思想を学ぶ。
【導入科目】２単位必修							
導入研修	2	1	○		○	◎	合宿形式で、大学での学びを体験するとともに、グループ活動から協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。
【語学科目】４単位必修							
英語Ⅰ	2	1	○	◎			リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
英語Ⅱ	2	2	○	◎			リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
【基礎ゼミ】８単位必修							
基礎ゼミⅠ、Ⅱ	4	1	○	◎	○	○	文章読解、資料収集、プレゼンテーション、文章作成などの学び方の基礎を学ぶ。
基礎ゼミⅢ、Ⅳ	4	2	○	◎	○	○	専門教育に向けて、専門文献の講読や資料収集などの方法を学ぶ。
【基礎科目】６単位以上必修（社会学必修、心理学Ⅰ・Ⅱと社会福祉論・社会保障論は各１科目２単位以上） ※必修単位を取得して卒業することで、社会福祉主事任用資格が取得できる。							
心理学Ⅰ、Ⅱ	4	1	◎			○	心理ケアの基本を学ぶ。
社会学	2	1	◎			○	時事問題に触れることを通して、地域デザインの基本を学ぶ。
社会福祉論	2	1	◎			○	両コースの基礎となる社会福祉・社会保障を学ぶ。
社会保障論	2	1	◎			○	
【キャリア科目】10単位上必修（キャリアデザインⅠ～Ⅳ必修、その他１科目２単位以上選択）							
キャリアデザインⅠ、Ⅱ	4	1	◎	○	○	◎	進路を考える前提として、自己分析・自己理解を行う。
キャリアデザインⅢ、Ⅳ	4	2	◎	○	○	○	多様な進路を理解するために、業界・業種の研究を行う。
キャリアデザインⅤ、Ⅵ	4	3	◎	○	○	○	インターンシップや就職活動を目前として、その意義を考える。
キャリア研修	2	2	○	○	◎	○	合宿研修を通じて、これまで学んできたことを実践し、その後の学修に結び付ける。
インターンシップ	2	3	○	○	◎	○	職場での実体験を通して、進路に対する意識を強くするとともに、実社会を理解する。
【教養科目】4単位以上必修（2科目4単位以上選択）							
教養講義	2	1	◎			○	高校での教育を確認し、大学の学びにつなげるとともに、社会人基礎力を養成する。
【実習】４単位以上必修（人間学実習は必修、その他１科目２単位以上選択）							
人間学実習	2	2	○		◎		調査実習を通して、地域デザイン、心理ケアの研究方法を体験し、専門教育につなげる。
ボランティア	2	1	○			◎	ボランティアの体験を通じて社会貢献の精神、公共性、社会性を身につける。
巡礼・遍路	2	1	◎			○	巡礼・遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養し、企画力、実行力、報告能力を身に付ける。

【専門講義】４単位以上（２科目４単位以上選択）

人間学専門講義	2	2	◎			○	地域デザイン・心理ケアの専門教育にあわせた講義であり、各自の希望に応じた選択によって資格取得、志望する進路を実現する。

【実践演習】２単位以上（１科目以上選択）

人間学実践演習	2	3	○	◎	◎	○	卒業論文に向けて、より専門性の高い調査方法を学ぶ。

【演習】８単位上必修（３回生、４回生で各１科目必修）

人間学演習	8	3・4	○	◎	◎	○	卒業論文の作成のために、資料収取、読解、報告、執筆する力を身につける。特に討論などのグループによる学びを通じて、効果を高める。

【卒業論文】８単位以上必修

人間学科卒業論文	8	4	○	◎	◎	○	4年間の学びの集大成として、各自の研究成果を論文として作成する。

※DP1：社会人基礎力、DP２：コミュニケーション力、DP3：課題解決能力、DP4：社会貢献意識

選択科目

人間学科の必修科目を62単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの62単位は、密教学科の必修科目（密教学演習を除く）や文学部共通科目である企画科目、外国語科目、僧侶科目、実技・実習科目、古文書学科目、普通科目、書道師範科目、学芸員資格科目から履修することができます。また余分に履修した人間学科必修科目を当てることもできます。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（人間学科）2019年度入学生用

	1年次	2年次	3年次	4年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ		
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ・Ⅱ	基礎ゼミⅢ・Ⅳ		
基礎科目	心理学Ⅰ・Ⅱ			
	社会福祉論			
	社会保障論			
キャリア科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ			
		キャリアデザインⅢ・Ⅳ		
			キャリアデザインⅤ・Ⅵ	
		キャリア研修		
			インターンシップ	
教養科目	教養講義（社会科学）			
	教養講義（人文科学）			
	教養講義（数的処理）			
	教養講義（自然科学）			
	教養講義（数的処理）			
	教養講義（人権論）			
実習科目		人間学実習（社会調査）		
		人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ）		
	ボランティア			
	巡礼・遍路			
専門講義科目		人間学専門講義		
		社会調査入門		
		社会調査方法論		
		質的調査論		
		情報リテラシー論		
		基礎統計学		
		地方行政論		
		地方自治法		
		地域産業論		
		高野文化圏論		
		地域連携		
		こころのケアとは		
		発達心理学		
		家族心理学		
		学校心理学		
		社会心理学		
		深層心理学		
		災害心理学		
		カウンセリング論		
		もの語り心理学		
		メンタルヘルス		
		心理統計法		
		心理測定法		
		臨床心理学面接演習Ⅰ～Ⅳ		
		理検査法演習Ⅰ・Ⅱ		
		心理学基礎実験演習Ⅰ・Ⅱ		
		スピリチャルケア実践論		
		スピリチュアルケア演習Ⅰ・Ⅱ		
		臨床死生学		
		死生観		
		自殺学		
		悲嘆学		
		宗教学入門		
		一神教の世界		
実践演習			人間学実践演習（学外研修Ⅰ）	人間学実践演習（学外研修Ⅱ）
			人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ・Ⅱ）	
			人間学実践演習（臨床実習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ）	人間学実践演習（臨床実習Ⅱ・Ⅴ）
人間学演習			人間学演習	人間学演習
人間学科卒業論文				人間学科卒業論文
選択科目				

※　科目によって半期・通年・集中がある。
※　開講科目については、隔年開講も含めて年度ごとに変更する。
※　開講場所は、高野山キャンパスのみ、難波サテライト教室のみ、両方、学外で開講する科目がある。

入学から卒業までの履修について（人間学科）2018 年度までの入学生用

文学部人間学科では卒業までに 124 単位以上の科目を履修することとしています（履修規程第３条）。

授業科目は、大きく**必修科目**と**選択科目**に分かれ、その中でいくつかにグループ分けされていて、グループごとに何単位を履修するかが定められています。また、必修・選択科目以外に資格取得や就職準備のための**自由科目**が用意されていますが、自由科目は卒業に必要な単位に算入されません。また履修できるのは**１年間に 50 単位まで（2019 年４月変更）**と上限が定められています（**自由科目を除く**）ので、４年で卒業するには １ 回生からコンスタントに学習することが重要です。

必修科目には、①１回生履修科目、②２回生履修科目、③３回生履修科目、④４回生履修科目があり、①～④で卒業に必要な単位数が決まっています。選択科目は、選択科目全体で卒業に必要な合計単位数が決まっています。それぞれの科目グループで単位をいくつ履修しなければならないかの詳細は、『**高野山大学要覧**』の**高野山大学履修規程 別表Ⅰ**に記載していますので参照してください。

以下では必修・選択科目それぞれの中にある科目グループについて説明します。これを参考に、各自の興味や関心に沿った履修を計画してください。

必修科目

卒業までに必ず履修しなければならない科目のことです。これを取り損ねると次年度からの履修にも支障を来しますので、必ず指定された学年で履修しましょう。

１回生必修科目

以下の １ 回生必修科目はすべて**合格しないと卒業できない科目**です。必ず １回生のうちに履修をすませてください。

１）「建学の精神」科目

空海の思想入門

空海について名前くらいしか知らないという人を想定して、その思想を中心に基本的なことを学びます。

２）語学科目

英語Ⅰ

１回生では高校レベルの復習を中心に学びます。

３）学科基礎科目

人間学基礎ゼミⅠ、Ⅱ

大学での筆記試験やレポート、ひいては４回生での卒業論文の作成を念頭に、その準備として「読む・書く」を中心としたトレーニングをします。

４）基礎講義

現代思想　人間と宗教

人間学科での学びの出発点となる、いろいろな問題を学びます。

５）キャリア教育

キャリアカウンセリングⅠ

働くことの意義を学ぶことで、社会に出る準備を始めます。

２回生必修科目

以下の２回生必修科目も３回生から始まる専門科目を学ぶための基礎としても重要です。必ず２回生のうちに履修をすませてください。

１）語学科目

英語Ⅱ

２年次には高校レベルをベースに長文を読み進める忍耐力を養います。

２）講義

人間学概論Ⅰ・Ⅱ

地域デザイン、日本文化、心理ケアの連続講義で、一つのテーマを５つの学問の視点から考察します。さまざまな角度から人間を見ることを学びます。

３）ゼミ

人間学基礎ゼミⅢ、Ⅳ

人間学概論で学んだ知識を深めるための、人間学概論で取り上げられたテーマに関する文献講読、発表、話し合いを行います。

４）伝統文化実習

茶道、民俗調査など

実際に体を使った学びを通して、たんなる座学に留まらない立体的学びを目指します。

５）キャリア教育

キャリアカウンセリングⅡ

職業世界について理解を深め、自己分析を通した自分の職業的傾向を把握します。

３回生必修科目

いよいよ卒論に向けた準備が始まります。自分なりのテーマを見つけ、卒業論文作成に向けて、計画的に研究を進めましょう。

１）語学科目

英語Ⅲ

３年次には、ネット上の時事英語の読解など、より実践的な英語を学びます。

２）ゼミ

人間学演習Ⅰ

３，４年生共通の卒論作成ゼミです。先輩の卒論発表を聴き、議論に参加することで、卒論作成についての準備を開始します。

人間学特殊ゼミⅠ、Ⅱ

地域デザイン、日本文化、心理ケアのコースごとに開講されます。自分の卒論テーマに近い特殊ゼミを受講し、それぞれの専門分野の理解を深めます。

３）キャリア教育

キャリアカウンセリングⅢ

就職活動に必要な知識、技能を学びます。

４回生必修科目

１）ゼミ

人間学演習Ⅱ

３回生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。４回生の卒論報告は３回生のための手本ともなります。必要に応じて担当教員に相談しながら、早めに準備を始めて納得のいく卒業論文を仕上げてください。

選択科目

選択科目とは、必修科目に加えて、より広い教養を身につけてもらうための科目です。なお、人間学科生が密教学科科目を履修した場合、選択科目にカウントされます。密教学科科目を含めた選択科目の中から、76 単位を履修してください。

＊時間割作成上の注意

選択科目と必修科目が重複して開講されている場合には必修科目を優先して履修してください。時間割をつくる際には、まず前の学年で履修できなかった必修科目があればそれを登録し、次に今の学年の必修科目を登録し、その後で空いている時間に選択科目を登録していくといいでしょう。

資格科目について

人間学科では、必要な科目を履修することによって、以下の免許・資格を取得できます。

・高野山金剛峯寺・高野山大学書道師範
・社会福祉主事任用資格
・僧階

いずれも『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程および高野山大学履修要項を参考にしてください。

カリキュラムマップ（人間学科）

講義・実習をゼミ・卒業論文へつなぐ

・３年生から地域デザイン、日本文化、心理ケアの３コースに所属して、それぞれの専門分野について学びます。人間学概論、人間学科特殊ゼミで、３コースの基礎を学びます。

・１回生～４回生までのゼミが学びの中心です。発表・議論を通してコミュニケーション能力を養うとともに、ゼミ生同士や教員とのふれあいによって人間力を向上させます。４年間の総括として卒業論文を作成します。コース毎に用意された選択科目を目安として履修し、専門性を深め、自分なりのテーマを見つけましょう。

・伝統文化実習では、茶道や民俗調査によって、体験的に伝統文化や地域の文化を学びます。

・キャリアカウンセリングは１回生から始まります。社会人基礎力の習得に向けた段階的指導を行います。

・１回生から、一人ひとりの学生にチューターを決め、個人学習支援を行います。個人学習支援では、修学に関することはもちろん、進路のことなども含めた支援を行います。

人間学科　コース制　カリキュラム（平成29年度入学生より）

		１年次	２年次		３年次		４年次
必修科目	建学の精神科目	空海の思想入門					
	語学科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ		英語Ⅲ		
	導入科目	人間学基礎ゼミⅠ	人間学基礎ゼミⅢ				
		人間学基礎ゼミⅡ	人間学基礎ゼミⅣ				
	演習				人間学演習Ⅰ		人間学演習Ⅱ
	特殊ゼミ				人間学特殊ゼミⅠ		
					人間学特殊ゼミⅡ		
	卒業論文						人間学科卒業論文
	講義Ⅰ		人間学概論Ⅰ				
			人間学概論Ⅱ				
	伝統文化		伝統文化実習				
	基礎講義	現代思想					
		人間と宗教					
	キャリア教育	キャリアカウンセリングⅠ	キャリアカウンセリングⅡ		キャリアカウンセリングⅢ		
専門・選択科目	日本文化コース	日本文学Ⅰ	国語学講義Ⅰ		日本文化特殊講義Ａ		
		日本文学Ⅱ	国語学講義Ⅱ		日本文化特殊講義Ｂ		
		歴史学	日本文学史概説Ⅰ		日本文化特殊講義Ｃ		
		国文法Ⅰ	日本文学史概説Ⅱ		中国文化特殊講義		
		国文法Ⅱ	日本文学概論Ⅰ		中国文化講読演習Ａ		
		国語学Ⅰ	日本文学概論Ⅱ		中国文化講読演習Ｂ		
		国語学Ⅱ	漢文学概論Ⅰ				
			漢文学概論Ⅱ				
			書道史				
専門・選択科目	地域デザインコース	心理学Ⅰ	社会調査入門	※	インターンシップ		
		心理学Ⅱ	質的調査論	※	真言密教特殊講義Ｇ		
		社会学Ⅰ	キャリア研修	※	真言密教特殊講義Ｈ		
		社会学Ⅱ	社会調査方法論	※	社会保障総論Ⅰ		
			高野文化圏論	※	社会保障総論Ⅱ		
			心理統計学	※	社会福祉各論Ⅰ		
			地方行政論	※	社会福祉各論Ⅱ		
			地方自治法	※			
			地域連携	※			
専門・選択科目	心理ケアコース	心理学Ⅰ	心理統計学	※	心理検査法Ⅰ	※	臨床実習Ⅱ
		心理学Ⅱ	心理測定法	※	心理検査法Ⅱ	※	臨床実習Ⅴ
		教育心理学	心理学基礎実験演習Ⅰ	※	臨床心理学面接演習Ⅰ	※	
		教育相談	心理学基礎実験演習Ⅱ	※	臨床心理学面接演習Ⅱ	※	
			発達心理学	※	スピリチュアルケア概論	※	
			家族心理学	※	スピリチュアルケア演習Ⅰ	※	
			社会心理学	※	スピリチュアルケア演習Ⅱ	※	
			カウンセリング論	※	臨床実習Ⅰ	※	
			コミュニケーション訓練Ⅰ	※	臨床実習Ⅲ	※	
			コミュニケーション訓練Ⅱ	※	臨床実習Ⅳ	※	
			死生学	※	メンタルヘルス	※	

※ 印は企画科目です。

《僧侶実力養成プログラム》（2018 年度までの入学生用）

密教学科主任

僧階取得を目指す学生は、必ず得度、受戒、加行、灌頂を在学中におこなってください。詳しくは掲示に注意するとともに学生手帳「D 僧侶の道」をよく読んでおいてください。

二年次において専修学院（学外授業実施施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

専修学院以外の場所で加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用経典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用経典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

専修学院（学外授業実施施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、学外施設において開講する指定科目を履修することにより本学の開講する必修科目・選択科目と同等の科目と見なし算入することができます。学外施設における指定された科目は毎年 12 月頃に掲示で告知しますので注意しておいてください。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

密教学科の講義の中には灌頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

その他、僧侶として身につけておいた方が良い科目群を「僧侶実力養成プログラム」と題して選び出しています。これらの科目についても積極的に受講してください。

受講モデルケース

１回生		
常用経典	阿字観	声明
詠歌	法式	

２回生		
布教	声明上級	梵字悉曇

３回生　４回生		
法式上級	密教学特殊講義（事相）	一流伝授

僧侶実力養成プログラム

【教学実習科目】

法式　声明　常用経典　布教

【企画科目】

詠歌　阿息観　月輪観と阿字観　法式上級　声明上級　一流伝授

【選択科目】

梵字悉曇

【講義】

金剛界伝授次第　胎蔵界伝授次第　事作法伝授　葬送儀礼　中院流三十三尊法の研究

文 学 部 目 次

H31 文学部 密教学科

1．必修科目

［密教学科 1年次履修科目］

1）「建学の精神」科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門 A	乾　　龍 仁	2	1年次	－		1

2）導入科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	集中	集中	37051	導入研修	学 科 主 任	2	1年次	－		1

3）語学科目（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	月	2	51201	英語Ⅰ	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎		2
通年	木	1	34101	漢文	南　　昌 宏	2	1年次	－		3
通年	木	1	54101	サンスクリット語ⅠA	徳 重 弘 志	2	1年次	－		3

4）基礎ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	月	4	31401	密教学基礎ゼミ1	櫻　木・　他	2	1年次	－		4
後期	月	4	31451	密教学基礎ゼミ2	櫻　木・　他	2	1年次	－		4

5）実技科目（10）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次	僧階補任		10
通年	金	1	55101	声明	辻　　秀 道	2	1年次	僧階補任		10
通年	月	1	51101	法式	内 海 周 浩	2	1年次	僧階補任		10
通年	火	4	32401	布教A	近 藤 堯 寛	2	1年次	僧階補任		11
通年	木	3	34301	布教B（詠歌）	上山・辻・本間	2	1年次	僧階補任		11
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田　　悟	2	1年次	書道師範/教免(国語)		11
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範/教免(国語)		11

6）実習（6）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	集中	集中	37052	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	－		16
通年	集中	集中	37001	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	－		17
通年	集中	集中	37002	巡礼・遍路	密教学科主任	2	1年次	－		17

2．選択科目

1）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	戸 來 知 子	2	1年次	社会福祉主事		9
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	戸 來 知 子	2	1年次	社会福祉主事		9

前期	月	3	31302	社会学	森 本 一 彦	2	1年次	社会福祉主事		9
前期	木	3	34301	社会福祉論	福 本 幹 雄	2	1年次	社会福祉主事		9
前期	木	4	34401	社会保障論	福 本 幹 雄	2	1年次	社会福祉主事		10
前期	火	2	32201	キャリアデザインⅠ	高 田 綾 子	2	1年次	−		12
後期	火	2	32251	キャリアデザインⅡ	高 田 綾 子	2	1年次	−		12
前期	火	4	32403	教養講義（数的処理）	木 地 茂 典	2	1年次	−		16
後期	火	4	32451	教養講義（自然科学）	木 地 茂 典	2	1年次	−		16
後期	水	4	33451	教養講義（人権論）	竹 村 和 也	2	1年次	−		16
前期	木	1	34102	教養講義（社会科学）	森 本 一 彦	2	1年次	−		15
後期	木	1	34151	教養講義（人文科学）	森 本 一 彦	2	1年次	−		15

2）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	火	4	52401	企画科目（仏画）	有 松 孝 雄	2	1年次	学芸員		29
前期	水	3	53301	企画科目（寺院経営講座）	加 賀 博	2	1年次	−		30
通年	木	4	54402	企画科目 （日本語留学生中級Ａ）	廣田恵美子	2	1年次	−		31
通年	木	5	54501	企画科目 （日本語留学生上級Ａ）	廣田恵美子	2	1年次	−		31
通年	月	3	51301	企画科目 （日本語留学生中級Ｂ）	松 本 貴 子	2	1年次	−		32
通年	月	5	51501	企画科目 （日本語留学生上級Ｂ）	松 本 貴 子	2	1年次	−		32

3）外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	木	4	54401	チベット語	テンジン・ウセル	2	1年次	−		32
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	−		33
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	−		33

4）僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	金	3	55301	梵字悉曇	齋 藤 天 譽	2	1年次	−		33

5）実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	木	3	54301	体育実技	今 井 邦 夫	2	1年次	教職基礎		33
通年	火	3	52301	情報処理	木 地 茂 典	2	1年次	教職基礎		34
通年	火	4	32402	伝統文化（華道）	五 味 和 樹	2	1年次	−		28
通年	水	3	33301	伝統文化（茶道）	岡 本 文 音	2	1年次	−		17
通年	月	3	31301	宗教芸能（舞踊）	高 祖・ 辻	2	1年次	−		27

6）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	金	4	55402	宗教思想史ⅠＡ	奥 山 直 司	2	1年次	教免（宗教）		35
前期	月	3	51302	宗教思想史ⅡＡ	櫻 木 潤	2	1年次	教免（宗教）		35
後期	月	3	31351	哲学	山 脇 雅 夫	2	1年次	教免（宗教）		36
前期	火	1	52102	日本文学Ⅰ	浜 畑 圭 吾	2	1年次	教免（国語）		38
後期	火	1	52151	日本文学Ⅱ	浜 畑 圭 吾	2	1年次	教免（国語）		38
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1年次	社会福祉主事／教職基礎		41

7）学芸員資格関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	水	5	31501	生涯学習概論	櫻 木　　潤	2	1年次	学芸員		44
前期	木	5	34501	博物館概論	坂 口 太 郎	2	1年次	学芸員		43
後期	月	5	31551	博物館教育論	櫻 木　　潤	2	1年次	学芸員		44

2．自由科目（卒業要件には参入されません）

1）教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	水	2	53251	教育原論	山 脇 雅 夫	2	1年次	教免必修		44
前期	水	1	53151	教職入門	嶋 田　　博	2	1年次	教免必修		44
後期	月	3	41354	教育社会学	森 本 一 彦	2	1年次	教免必修		45
前期	水	2	53201	教育課程論	嶋 田　　博	2	1年次	教免必修		45

H31 文学部 人間学科

1．必修科目

［人間学科 1年次履修科目］

1）「建学の精神」科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門 A	乾　　龍 仁	2	1年次	−		1

2）導入科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	集中	集中	37051	導入研修	学 年 主 任	2	1年次	−		1

3）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	月	2	51201	英語Ⅰ	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎		2

4）基礎ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	月	4	51401	人間学基礎ゼミⅠA	森 本 一 彦	2	1年次	−		5
後期	月	4	51451	人間学基礎ゼミⅡA	森 本 一 彦	2	1年次	−		5
前期	月	4	51402	人間学基礎ゼミⅠB	山 脇 雅 夫	2	1年次	−		5
後期	月	4	51452	人間学基礎ゼミⅡB	山 脇 雅 夫	2	1年次	−		5

5）基礎科目（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	戸 來 知 子	2	1年次	社会福祉主事		9
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	戸 來 知 子	2	1年次	社会福祉主事		9
前期	月	3	31302	社会学	森 本 一 彦	2	1年次	社会福祉主事		9
前期	木	3	34301	社会福祉論	福 本 幹 雄	2	1年次	社会福祉主事		9
前期	木	4	34401	社会保障論	福 本 幹 雄	2	1年次	社会福祉主事		10

6）キャリア科目（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	火	2	32201	キャリアデザインⅠ	高 田 綾 子	2	1年次	−		12
後期	火	2	32251	キャリアデザインⅡ	高 田 綾 子	2	1年次	−		12

7）教養科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	火	4	32403	教養講義（数的処理）	木 地 茂 典	2	1年次	−		16
後期	火	4	32451	教養講義（自然科学）	木 地 茂 典	2	1年次	−		16
後期	水	4	33451	教養講義（人権論）	竹 村 和 也	2	1年次	−		16
前期	木	1	34102	教養講義（社会科学）	森 本 一 彦	2	1年次	−		15
後期	木	1	34151	教養講義（人文科学）	森 本 一 彦	2	1年次	−		15

8）実習（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	集中	集中	37001	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	－		17
通年	集中	集中	37002	巡礼・遍路	密教学科主任	2	1年次	－		17

2．選択科目

1）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	木	1	34101	漢文	南　昌 宏	2	1年次	－		3
通年	木	1	54101	サンスクリット語ⅠA	德 重 弘 志	2	1年次	－		3
通年	水	4	53401	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次	僧階補任		10
通年	金	1	55101	声明	辻　秀 道	2	1年次	僧階補任		10
通年	月	1	51101	法式	内 海 周 浩	2	1年次	僧階補任		10
通年	火	4	32401	布教A	近 藤 堯 寛	2	1年次	僧階補任		11
通年	木	3	34301	布教B（詠歌）	上山・辻・本間	2	1年次	僧階補任		11
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田　悟	2	1年次	書道師範/教免(国語)		11
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範/教免(国語)		11
前期	集中	集中	37052	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	－		16

2）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	火	4	52401	企画科目（仏画）	有 松 孝 雄	2	1年次	学芸員		29
前期	水	3	53301	企画科目（寺院経営講座）	加 賀　博	2	1年次	－		30
通年	木	4	54402	企画科目 （日本語留学生中級A）	廣田恵美子	2	1年次	－		31
通年	木	5	54501	企画科目 （日本語留学生上級A）	廣田恵美子	2	1年次	－		31
通年	月	3	51301	企画科目 （日本語留学生中級B）	松 本 貴 子	2	1年次	－		32
通年	月	5	51501	企画科目 （日本語留学生上級B）	松 本 貴 子	2	1年次	－		32

3）外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	木	4	54401	チベット語	テンジン・ウセル	2	1年次	－		32
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	－		33
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	－		33

4）僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	金	3	55301	梵字悉曇	齋 藤 天 譽	2	1年次	－		33

5）実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	木	3	54301	体育実技	今 井 邦 夫	2	1年次	－		33
通年	火	3	52301	情報処理	木 地 茂 典	2	1年次			34
通年	火	4	32402	伝統文化（華道）	五 味 和 樹	2	1年次	－		28
通年	水	3	33301	伝統文化（茶道）	岡 本 文 音	2	1年次	－		17
通年	月	3	31301	宗教芸能（舞踊）	高　祖・　辻	2	1年次	－		27

6）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	金	4	50303	宗教思想史ＩＡ	奥 山 直 司	2	1年次	－		35
前期	月	3	50302	宗教思想史ⅡＡ	櫻 木 潤	2	1年次	－		35
後期	月	3	31351	哲学	山 脇 雅 夫	2	1年次	－		36
前期	火	1	52102	日本文学Ⅰ	浜 畑 圭 吾	2	1年次	－		38
後期	火	1	52151	日本文学Ⅱ	浜 畑 圭 吾	2	1年次	－		38
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1年次	社会福祉主事		41

7）学芸員資格関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	水	1	31501	生涯学習概論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		44
前期	木	5	34501	博物館概論	坂 口 太 郎	2	1年次	学芸員		43
後期	月	5	31551	博物館教育論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		44

H30 まで　文学部 密教学科

1．必修科目

［密教学科 1年次履修科目］

1）「建学の精神」科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門Ａ	乾　　龍 仁	2	2年次	－		1
前期	木	2	54202	空海の思想入門Ｂ	乾　　龍 仁	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	50

2）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	月	4	41401	英語Ⅰ（再履修）	伊藤佳世子	2	2年次	教職基礎		3

3）基礎講義（2+2+2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	月	3	41351	現代思想	山 脇 雅 夫	2	2年次	教免（宗教）		36
前期	木	1	44101	人間と宗教	山 脇 雅 夫	2	2年次	－		1

4）古典語（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	月	5	41551	漢文Ⅰ（再履修）	高柳健太郎	2	2年次	教免（国語）		4
前期	月	5	41501	漢文Ⅱ（再履修）	高柳健太郎	2	2年次	教免（国語）		4

［密教学科２年次履修科目］

1）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	水	4	43401	英語Ⅱ	伊藤佳世子	2	2年次	教職基礎		2
通年	水	3	43301	英語Ⅱ（再履修）	伊藤佳世子	2	3年次	教職基礎		3

2）講義Ⅰ（2+2+2+2+2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	月	2	41201	密教学概論Ⅰ	佐 藤 隆 彦	2	2年次	教免（宗教）		7
後期	月	2	41251	密教学概論Ⅱ	佐 藤 隆 彦	2	2年次	教免（宗教）		7
前期	水	1	43101	仏教学概論Ⅰ	前 谷　　彰	2	2年次	教免（宗教）		7
前期	月	3	41302	密教史概説Ⅰ	奥 山 直 司	2	2年次	教免（宗教）		7
後期	月	3	41352	密教史概説Ⅱ	櫻 木　　潤	2	2年次	教免（宗教）		8
後期	水	1	43151	仏教史概説Ⅰ	前 谷　　彰	2	2年次	教免（宗教）		8

3）２回生講読（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	火	2	42202	祖典講読ⅠＡ	松 長 恵 史	2	2年次	教免（宗教）		14
前期	火	2	42203	祖典講読ⅠＢ	土 居 夏 樹	2	2年次	教免（宗教）		14
後期	火	2	42251	祖典講読ⅡＡ	松 長 恵 史	2	2年次	教免（宗教）		14
後期	火	2	42252	祖典講読ⅡＢ	土 居 夏 樹	2	2年次	教免（宗教）		14

［密教学科３年次履修科目］

１）３回生講読（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	月	4	41402	祖典講読ⅢA	佐 藤 隆 彦	2	３年次	－		14
前期	火	1	42101	祖典講読ⅢB	土 居 夏 樹	2	３年次	－		14
前期	月	3	41305	祖典講読ⅢC	土 居 夏 樹	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	50
前期	金	3	45306	祖典講読ⅢD	松 長 恵 史	2	３年次	－		51
後期	月	4	41451	祖典講読ⅣA	佐 藤 隆 彦	2	３年次	－		15
後期	火	1	42151	祖典講読ⅣB	土 居 夏 樹	2	３年次	－		15
後期	月	3	41356	祖典講読ⅣC	土 居 夏 樹	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	51
後期	金	3	45353	祖典講読ⅣD	松 長 恵 史	2	３年次	－		51

２）講読演習（2+2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	月	2	41252	密教学講読演習A	松 長 恵 史	2	３年次	教免（宗教）		18
前期	木	2	44201	密教学講読演習B	T.ドライトライン	2	３年次	教免（宗教）		18
後期	木	2	44251	密教学講読演習C	T.ドライトライン	2	３年次	教免（宗教）		18
前期	木	3	44304	密教学講読演習D	川 﨑 一 洋	2	３年次	教免（宗教）		19
後期	木	3	44351	密教学講読演習E	川 﨑 一 洋	2	３年次	教免（宗教）		19
後期	木	2	44254	密教学講読演習F	乾　　龍 仁	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	55
後期	金	4	45453	密教学講読演習G	松 長 恵 史	2	３年次	－		56
後期	火	2	42253	仏教学講読演習A	前 谷　　彰	2	３年次	教免（宗教）		19
前期	木	1	44102	仏教学講読演習B	櫻 木　　潤	2	３年次	教免（宗教）		19
後期	月	4	41454	仏教学講読演習C	岡 田 英 作	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	56
前期	金	2	45203	仏教学講読演習D	浜 畑 圭 吾	2	３年次	－		56
前期	金	4	45405	仏教学講読演習E	前 谷　　彰	2	３年次	－		56
後期	火	3	42351	真言密教講読演習A	土 居 夏 樹	2	３年次	教免（宗教）		20
前期	木	1	44103	真言密教講読演習B	T.ドライトライン	2	３年次	教免（宗教）	已灌頂者	20
後期	木	1	44152	真言密教講読演習C	T.ドライトライン	2	３年次	教免（宗教）	已灌頂者	20
前期	金	1	45102	真言密教講読演習D	T.ドライトライン	2	３年次	教免（宗教）	已灌頂者	20
後期	金	1	45151	真言密教講読演習E	T.ドライトライン	2	３年次	教免（宗教）	已灌頂者	21
後期	火	2	42256	真言密教講読演習F	櫻 木　　潤	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	57
後期	火	4	42456	真言密教講読演習G	坂 口 太 郎	2	３年次	－		57
後期	水	5	43552	真言密教講読演習H	北 川 真 寛	2	３年次	－		57
前期	水	6	43601	真言密教講読演習Ⅰ	北 川 真 寛	2	３年次	－		57
後期	金	2	45253	真言密教講読演習J	浜 畑 圭 吾	2	３年次	－		58

３）講義Ⅱ（2+2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	月	3	41353	密教学特殊講義A	奥 山 直 司	2	３年次	教免（宗教）		21
前期	火	4	42405	密教学特殊講義B	和 田 圭 子	2	３年次	教免（宗教）		21
後期	火	4	42451	密教学特殊講義C	和 田 圭 子	2	３年次	教免（宗教）		21
前期	木	3	44308	密教学特殊講義D	野 田　　悟	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	53
後期	木	3	44354	密教学特殊講義E	野 田　　悟	2	３年次	－		53
前期	金	4	45404	密教学特殊講義F	松 長 恵 史	2	３年次	－		54
前期	火	2	42204	仏教学特殊講義A	前 谷　　彰	2	３年次	教免（宗教）		22
後期	木	1	44151	仏教学特殊講義B	櫻 木　　潤	2	３年次	教免（宗教）		22

前期	月	4	41405	仏教学特殊講義C	岡 田 英 作	2	3年次	−	大阪サテライト教室にて開講	54
後期	金	4	45454	仏教学特殊講義D	前 谷 彰	2	3年次	−		54
前期	月	1	41102	真言密教特殊講義A	中 西 雄 泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者、前期後期通して受講	22
後期	月	1	41151	真言密教特殊講義B	中 西 雄 泰	2	3年次	教免（宗教）		22
前期	火	3	42303	真言密教特殊講義C	土 居 夏 樹	2	3年次	教免（宗教）		23
前期	金	2	45201	真言密教特殊講義D	T.ドライトライン	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	23
後期	金	2	45251	真言密教特殊講義E	T.ドライトライン	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	23
後期	火	3	42356	真言密教特殊講義F	南 昌 宏	2	3年次	−	大阪サテライト教室にて開講	54
前期	水	5	43502	真言密教特殊講義G	北 川 真 寛	2	3年次	−		54
前期	水	7	43701	真言密教特殊講義H	北 川 真 寛	2	3年次	−		55
後期	集中	集中	47055	真言密教特殊講義Ⅰ（密教瞑想）	佐 藤 隆 彦	2	3年次	−		55

4）演習Ⅰ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	水	2	43201	密教学演習A	野 田 悟	4	3年次	−		24
通年	水	2	43202	密教学演習B	奥 山 直 司	4	3年次	−		25
通年	水	2	43203	密教学演習C	前 谷 彰	4	3年次	−		25
通年	水	2	43204	密教学演習D	櫻 木 潤	4	3年次	−		25
通年	水	2	43205	密教学演習E	土 居 夏 樹	4	3年次	−		25
通年	水	2	43206	密教学演習F	松 長 恵 史	4	3年次	−		26
通年	水	2	43207	密教学演習G	T.ドライトライン	4	3年次	−	已灌頂者	26
通年	月	1	41101	密教学演習H（再履修）	南 昌 宏	4	3年次	−		26
通年	月	2	41203	密教学演習Ⅰ	土 居 夏 樹	4	3年次	−	大阪サテライト教室にて開講	58
通年	木	4	44406	密教学演習J	奥 山 直 司	4	3年次	−		58

［密教学科４年次履修科目］

1）講読演習（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
後期	月	2	41252	密教学講読演習A	松 長 恵 史	2	4年次	教免（宗教）		18
前期	木	2	44201	密教学講読演習B	T.ドライトライン	2	4年次	教免（宗教）		18
後期	木	2	44251	密教学講読演習C	T.ドライトライン	2	4年次	教免（宗教）		18
前期	木	3	44304	密教学講読演習D	川 﨑 一 洋	2	4年次	教免（宗教）		19
後期	木	3	44351	密教学講読演習E	川 﨑 一 洋	2	4年次	教免（宗教）		19
後期	木	2	44254	密教学講読演習F	乾 龍 仁	2	4年次	−	大阪サテライト教室にて開講	55
後期	金	4	45453	密教学講読演習G	松 長 恵 史	2	4年次	−		56
後期	火	2	42253	仏教学講読演習A	前 谷 彰	2	4年次	教免（宗教）		19
前期	木	1	44102	仏教学講読演習B	櫻 木 潤	2	4年次	教免（宗教）		19
後期	月	4	41454	仏教学講読演習C	岡 田 英 作	2	4年次	−	大阪サテライト教室にて開講	56
前期	金	2	45203	仏教学講読演習D	浜 畑 圭 吾	2	4年次	−		56
前期	金	4	45405	仏教学講読演習E	前 谷 彰	2	4年次	−		56
後期	火	3	42351	真言密教講読演習A	土 居 夏 樹	2	4年次	教免（宗教）		20
前期	木	1	44103	真言密教講読演習B	T.ドライトライン	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	20
後期	木	1	44152	真言密教講読演習C	T.ドライトライン	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	20
前期	金	1	45102	真言密教講読演習D	T.ドライトライン	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	20
後期	金	1	45151	真言密教講読演習E	T.ドライトライン	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	20

後期	火	2	42256	真言密教講読演習Ｆ	櫻 木　　潤	2	４年次	－	大阪サテライト教室にて開講	57
後期	火	4	42456	真言密教講読演習Ｇ	坂 口 太 郎	2	４年次	－		57
後期	水	5	43552	真言密教講読演習Ｈ	北 川 真 寛	2	４年次	－		57
前期	水	6	43601	真言密教講読演習Ｉ	北 川 真 寛	2	４年次	－		57
後期	金	2	45253	真言密教講読演習Ｊ	浜 畑 圭 吾	2	４年次	－		58

２）講義Ⅱ（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	月	3	41353	密教学特殊講義Ａ	奥 山 直 司	2	４年次	教免（宗教）		21
前期	火	4	42405	密教学特殊講義Ｂ	和 田 圭 子	2	４年次	教免（宗教）		21
後期	火	4	42451	密教学特殊講義Ｃ	和 田 圭 子	2	４年次	教免（宗教）		21
前期	木	3	44308	密教学特殊講義Ｄ	野 田　　悟	2	４年次	－	大阪サテライト教室にて開講	53
後期	木	3	44354	密教学特殊講義Ｅ	野 田　　悟	2	４年次	－		53
前期	金	4	45404	密教学特殊講義Ｆ	松 長 恵 史	2	４年次	－		54
前期	火	2	42204	仏教学特殊講義Ａ	前 谷　　彰	2	４年次	教免（宗教）		22
後期	木	1	44151	仏教学特殊講義Ｂ	櫻 木　　潤	2	４年次	教免（宗教）		22
前期	月	4	41405	仏教学特殊講義Ｃ	岡 田 英 作	2	４年次	－	大阪サテライト教室にて開講	54
後期	金	4	45454	仏教学特殊講義Ｄ	前 谷　　彰	2	４年次	－		54
前期	月	1	41102	真言密教特殊講義Ａ	中 西 雄 泰	2	４年次	教免（宗教）		22
後期	月	1	41151	真言密教特殊講義Ｂ	中 西 雄 泰	2	４年次	教免（宗教）		22
前期	火	3	42303	真言密教特殊講義Ｃ	土 居 夏 樹	2	４年次	教免（宗教）		23
前期	金	2	45201	真言密教特殊講義Ｄ	T.ドライトライン	2	４年次	教免（宗教）	已灌頂者	23
後期	金	2	45251	真言密教特殊講義Ｅ	T.ドライトライン	2	４年次	教免（宗教）	已灌頂者	23
後期	火	3	42356	真言密教特殊講義Ｆ	南　　昌 宏	2	４年次	－	大阪サテライト教室にて開講	54
前期	水	5	43502	真言密教特殊講義Ｇ	北 川 真 寛	2	４年次	－		55
前期	水	7	43701	真言密教特殊講義Ｈ	北 川 真 寛	2	４年次	－		55
後期	集中	集中	47055	真言密教特殊講義Ｉ（密教瞑想）	佐 藤 隆 彦	2	４年次	－		55

３）演習Ⅱ（４）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	水	2	43201	密教学演習Ａ	野 田　　悟	4	４年次	－		24
通年	水	2	43202	密教学演習Ｂ	奥 山 直 司	4	４年次	－		25
通年	水	2	43203	密教学演習Ｃ	前 谷　　彰	4	４年次	－		25
通年	水	2	43204	密教学演習Ｄ	櫻 木　　潤	4	４年次	－		25
通年	水	2	43205	密教学演習Ｅ	土 居 夏 樹	4	４年次	－		25
通年	水	2	43206	密教学演習Ｆ	松 長 恵 史	4	４年次	－		26
通年	水	2	43207	密教学演習Ｇ	T.ドライトライン	4	４年次	－	已灌頂者	26
通年	月	1	41101	密教学演習Ｈ（再履修）	南　　昌 宏	4	４年次	－		26
通年	月	2	41203	密教学演習Ｉ	土 居 夏 樹	4	４年次	－	大阪サテライト教室にて開講	58
通年	木	4	44406	密教学演習Ｊ	奥 山 直 司	4	４年次	－		58

４）卒業論文（8）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	論文	論文	49001	密教学科卒業論文	密教学科主任	8	４年次	－		
前期	論文	論文	49002	密教学科卒業論文（前期）	密教学科主任	8	４年次	－	７月提出許可者に限る	

2．選択科目

1）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	金	3	45304	総合科目（古文書学）	坂 口 太 郎	2	3年次	－		34
前期	水	1	43102	総合科目（書誌学）	坂 口 太 郎	2	3年次	－		34
通年	集中	集中	47003	総合科目（インターシップ）	就 職 担 当	2	3年次	－		13
前期	金	5	45501	総合科目（チベット仏教入門Ⅰ）	ﾃﾝｼﾞﾝ･ｳｾﾙ	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	59
後期	金	5	45551	総合科目（チベット仏教入門Ⅱ）	ﾃﾝｼﾞﾝ･ｳｾﾙ	2	3年次	－		59

2）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	月	2	41202	企画科目（社会調査入門）	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		27
後期	月	2	41253	企画科目（質的調査論）	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		27
通年	月	3	41301	企画科目（舞踊）	高 祖・ 辻	2	2年次	－		27
前期	火	3	42304	企画科目（カウンセリング論Ａ）	上 野 和 久	2	2年次	－		28
後期	火	3	42354	企画科目（発達心理学Ａ）	上 野 和 久	2	2年次	－		28
後期	火	3	42352	企画科目（地方行政論）	笛 木 淳	2	2年次	－		28
通年	火	4	42402	企画科目（華道）	五 味 和 樹	2	2年次	－		28
通年	火	4	52401	企画科目（仏画）	有 松 孝 雄	2	2年次	－		29
前期	火	4	42406	企画科目（数的処理）	木 地 茂 典	2	2年次	－		16
後期	火	4	42452	企画科目（自然科学）	木 地 茂 典	2	2年次	－		16
後期	火	4	42453	企画科目（地方自治法）	笛 木 淳	2	2年次	－		29
前期	水	1	43103	企画科目（高野文化圏論）	森 本 一 彦	2	2年次	－		29
後期	水	1	43152	企画科目（基礎統計学）	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		29
前期	水	2	43212	企画科目（歴史学）	坂 口 太 郎	2	2年次	－		30
後期	水	2	43251	企画科目（古文書読解Ａ）	坂 口 太 郎	2	2年次	－		30
前期	木	1	44104	企画科目（社会科学）	森 本 一 彦	2	2年次	－		15
後期	木	1	44153	企画科目（人文科学）	森 本 一 彦	2	2年次	－		15
通年	木	3	44301	企画科目（詠歌）	上山･辻･本間	2	2年次	－		11
前期	水	3	53301	企画科目（寺院経営講座）	加 賀 博	2	2年次	－		30
前期	木	4	44404	企画科目（地域連携）	森 本 一 彦	2	2年次	－		30
通年	金	3	45302	企画科目（声明上級）	辻 秀 道	2	2年次	－		31
前期	金	4	45401	企画科目（地域産業論）	鈴 木 裕 範	2	2年次	－		31
後期	火	2	42255	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅰ－２）	高 田 綾 子	2	2年次	－	キャリアカウンセリングⅠ－１と同年に履修すること	12
後期	火	4	42454	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅱ－２）	高 田 綾 子	2	2年次	－	キャリアカウンセリングⅡ－１と同年に履修すること	12
後期	火	3	42353	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅲ－２）	高 田 綾 子	2	3年次	－	キャリアカウンセリングⅢ－１と同年に履修すること	13
後期	集中	集中	47051	企画科目（加行Ⅰ）	密教学科主任	1	2年次	－		16
後期	集中	集中	47052	企画科目（加行Ⅱ）	密教学科主任	1	2年次	－		17
通年	集中	集中	47001	企画科目（ボランティア）	人間学科主任	2	2年次	－		17
通年	集中	集中	47002	企画科目（巡礼・遍路）	密教学科主任	2	2年次	－		17
後期	集中	集中	47053	企画科目（キャリア研修）	森 本 一 彦	2	2年次	－		13

通年	木	4	54402	企画科目 （日本語留学生中級Ａ）	廣田恵美子	2	２年次	－	外国人留学生に限る	31
通年	木	5	54501	企画科目 （日本語留学生上級Ａ）	廣田恵美子	2	２年次	－		31
通年	月	3	51301	企画科目 （日本語留学生中級Ｂ）	松本貴子	2	２年次	－		32
通年	月	5	51501	企画科目 （日本語留学生上級Ｂ）	松本貴子	2	２年次	－		32
前期	土	第３週	46004	企画科目 （臨床心理学面接演習Ⅲ）	山本和美	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	60
後期	土	第３週	46054	企画科目 （臨床心理学面接演習Ⅳ）	上野・森崎	2	３年次	－		60
前期	火	4	42409	企画科目（古文書読解Ｂ）	坂口太郎	2	２年次	－		60
前期	火	6	42601	企画科目 （心理検査法演習Ⅰ）	木下忠恭	2	２年次	－		61
後期	火	6	42652	企画科目 （心理検査法演習Ⅱ）	木下忠恭	2	２年次	－		61
前期	水	6	43602	企画科目（心理統計学）	五明優介	2	２年次	－		61
後期	水	6	43652	企画科目（心理測定法）	五明優介	2	２年次	－		61
前期	水	7	43702	企画科目 （心理学基礎実験演習Ⅰ）	五明優介	2	２年次	－		62
後期	水	7	43752	企画科目 （心理学基礎実験演習Ⅱ）	五明優介	2	２年次	－		62
前期	木	5	44501	企画科目 （こころのケアとは）	山添　正	2	２年次	－		62
後期	木	5	44551	企画科目（深層心理学）	山添　正	2	２年次	－		63
前期	木	6	44601	企画科目 （臨床心理学面接演習ⅠＡ）	山添　正	2	２年次	－		63
後期	木	6	44652	企画科目 （臨床心理学面接演習ⅡＡ）	山添　正	2	２年次	－		63
前期	金	6	45601	企画科目（発達心理学Ｂ）	西川みち子	2	２年次	－		63
後期	金	6	45651	企画科目（家族心理学）	西川みち子	2	２年次	－		64
後期	金	7	45751	企画科目 （カウンセリング論Ｂ）	木下忠恭	2	２年次	－		64
前期	金	7	45701	企画科目（学校心理学）	木下忠恭	2	２年次	－		64
後期	集中	集中	47058	企画科目 （コミュニケーション演習Ⅰ）	橋本久仁彦	2	２年次	－		66
後期	集中	集中	47059	企画科目 （コミュニケーション演習Ⅱ）	橋本久仁彦	2	２年次	－		67
後期	集中	集中	47056	企画科目 （スピリチュアルケア概論）	窪寺俊之	2	２年次	－		66
後期	集中	集中	47060	企画科目 （もの語り心理学）	やまだようこ	2	２年次	－		67
後期	集中	集中	47061	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）	森崎雅好	2	３年次	－		59
後期	集中	集中	47062	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）	森崎雅好	2	４年次	－		60
後期	集中	集中	47057	企画科目（死生観）	山本佳世子	2	２年次	－		66
通年	実習	実習	48003	企画科目（臨床実習Ⅰ）	森崎雅好	2	３年次	－		67
通年	実習	実習	48004	企画科目（臨床実習Ⅱ）	森崎雅好	2	４年次	－		67
通年	実習	実習	48005	企画科目（臨床実習Ⅲ）	森崎雅好	2	３年次	－		68
通年	実習	実習	48006	企画科目（臨床実習Ⅳ）	川口道雄	2	３年次	－		68
通年	実習	実習	48007	企画科目（臨床実習Ⅴ）	川口道雄	2	４年次	－		68
後期	水	7	43751	企画科目（災害心理学）	森崎雅好	2	２年次	－		62
前期	土	第１週	46001	企画科目 （メンタルヘルス）	根岸和政	2	３年次	－		64
後期	土	第１週	46051	企画科目（社会心理学）	松下歩睦	2	３年次	－		65
前期	土	第２週	46002	企画科目 （臨床心理学面接演習ⅠＢ）	山添　正	2	３年次	－		65
後期	土	第２週	46052	企画科目 （臨床心理学面接演習ⅡＢ）	山添　正	2	３年次	－		65
前期	土	第３週	46003	企画科目 （スピリチュアルケア演習Ⅰ）	大河内大博	2	３年次	－		65

後期	土	第3週	46053	企画科目 （スピリチュアルケア演習Ⅱ）	大河内大博	2	3年次			66

3）語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	木	1	54101	サンスクリット語ⅠA	德重弘志	2	2年次	－		3
通年	金	3	55302	サンスクリット語ⅠB	前谷　彰	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	68
通年	木	4	44401	サンスクリット語Ⅱ	前谷　彰	2	2年次	－		32
通年	木	4	54401	チベット語	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	－		32
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	2年次	－		33
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	2年次	－		33

4）健康実技

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	木	3	54301	体育実技	今井邦夫	2	1年次	教職基礎		33

5）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	金	4	55402	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	2年次	－		35
前期	月	3	51302	宗教思想史ⅡA	櫻木　潤	2	2年次	－		35
後期	木	3	54351	宗教思想史ⅠB	奥山直司	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	69
前期	火	2	52202	宗教思想史ⅡB	櫻木　潤	2	2年次	－		69
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	戸來知子	2	2年次	社会福祉主事		9
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	戸來知子	2	2年次	社会福祉主事		9
後期	集中	集中	57051	心理学ⅠB	上野和久	2	2年次	社会福祉主事	大阪サテライト教室にて開講	50
後期	集中	集中	57052	心理学ⅡB	上野和久	2	2年次	社会福祉主事		50
前期	月	3	41302	社会学Ⅰ	森本一彦	2	2年次	社会福祉主事		9
前期	火	1	52102	日本文学Ⅰ	浜畑圭吾	2	2年次	教免（国語）		38
後期	火	1	52151	日本文学Ⅱ	浜畑圭吾	2	2年次	教免（国語）		38
前期	月	4	41404	国文法Ⅰ	浜畑圭吾	2	2年次	教免（国語）		37
後期	月	4	41453	国文法Ⅱ	浜畑圭吾	2	2年次	教免（国語）		37
前期	金	3	45303	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	教免（国語）		37
後期	金	3	45351	国語学Ⅱ	上田恭寿	2	2年次	教免（国語）		37
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹村和也	2	2年次	社会福祉主事／教職基礎		41
後期	水	4	43452	現代の人権	竹村和也	2	2年次	－		16
通年	火	3	52301	情報処理	木地茂典	2	2年次	教職基礎		34
通年	金	3	55301	梵字悉曇	齋藤天譽	2	2年次	－		33

6）教学実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮田永明	2	2年次	僧階補任		10
通年	金	1	55101	声明	辻　秀道	2	2年次	僧階補任		10
通年	月	1	51101	法式	内海周浩	2	2年次	僧階補任		10
通年	火	4	42401	布教	近藤堯寛	2	2年次	僧階補任		11

7）教育職員免許状関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	金	1	45103	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		34

後期	金	1	45152	宗教学Ⅱ	奥 山 直 司	2	2年次	教免（宗教）		35
前期	金	2	45202	宗教史Ⅰ	土 居 夏 樹	2	2年次	教免（宗教）		35
後期	金	2	45252	宗教史Ⅱ	土 居 夏 樹	2	2年次	教免（宗教）		36
前期	月	3	41304	哲学方法論	山 脇 雅 夫	2	2年次	教免（宗教）		36
後期	木	4	44451	宗教学方法論	森 本 一 彦	2	2年次	教免（宗教）		36
前期	火	5	42501	日本文学概論Ⅰ	浜 畑 圭 吾	2	2年次	教免（国語）		39
後期	火	5	42551	日本文学概論Ⅱ	浜 畑 圭 吾	2	2年次	教免（国語）		39
前期	火	4	42407	日本文学史概説Ⅰ	下 西 忠	2	2年次	教免（国語）		38
後期	火	4	42455	日本文学史概説Ⅱ	下 西 忠	2	2年次	教免（国語）		38
前期	木	3	44307	漢文学概論Ⅰ	南 昌 宏	2	2年次	教免（国語）		39
後期	木	3	44353	漢文学概論Ⅱ	南 昌 宏	2	2年次	教免（国語）		39
前期	金	4	45402	国語学講義Ⅰ	上 田 恭 寿	2	2年次	教免（国語）		40
後期	金	4	45451	国語学講義Ⅱ	上 田 恭 寿	2	2年次	教免（国語）		40
後期	水	1	43153	日本文化特殊講義A	浜 畑 圭 吾	2	3年次	教免（国語）		40
前期	木	3	44305	日本文化特殊講義B	坂 口 太 郎	2	3年次	教免（国語）		40
後期	木	3	44352	日本文化特殊講義C	坂 口 太 郎	2	3年次	教免（国語）		41
前期	金	4	45403	中国文化特殊講義	野 田 悟	2	3年次	教免（国語）		41
後期	金	4	45452	中国文化講読演習A	野 田 悟	2	3年次	教免（国語）		41
前期	火	3	42306	中国文化講読演習B	南 昌 宏	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	41

8）書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田 悟	2	2年次	書道師範/教免(国語)		11
通年	火	4	42403	漢字Ⅱ	木 本 滋 久	2	2年次	書道師範/教免(国語)		42
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範/教免(国語)		11
通年	木	3	44303	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範/教免(国語)		42
前期	火	1	42102	篆刻Ⅰ	野 田 悟	2	2年次	書道師範		42
後期	火	1	42152	篆刻Ⅱ	野 田 悟	2	2年次	書道師範		42
通年	火	3	42301	条幅制作A（漢字）	木 本 滋 久	2	3年次	書道師範		43
通年	木	4	44402	条幅制作B（かな）	塩野三恵子	2	3年次	書道師範		43
通年	金	1	45101	書道史（日本）	野 田 悟	4	2年次	書道師範		43

9）社会福祉主事関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	木	3	44306	社会福祉各論Ⅰ （地域福祉Ⅰ）	福 本 幹 雄	2	2年次	社会福祉主事		9
前期	木	4	44403	社会保障総論Ⅰ	福 本 幹 雄	2	2年次	社会福祉主事		10

10）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	火	2	42201	キャリアカウンセリングⅠ－1	高 田 綾 子	2	2年次	－	企画科目（キャリアカウンセリングⅠ－2）と同年に履修すること	12
前期	火	4	42404	キャリアカウンセリングⅡ－1	高 田 綾 子	2	2年次	－	企画科目（キャリアカウンセリングⅡ－2）と同年に履修すること	12
前期	火	3	42302	キャリアカウンセリングⅢ－1	高 田 綾 子	2	3年次	－	企画科目（キャリアカウンセリングⅢ－2）と同年に履修すること	13

11）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	木	3	44302	伝統文化実習（民俗調査）	森 本 一 彦	2	2年次	－		18

通年	水	3	43302	伝統文化実習（茶道）	岡 本 文 音	2	2年次	－	平成27年度以前の入学生は企画科目として履修	17

3．自由科目（卒業要件には参入されません）

1）教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	水	1	53151	教職入門	嶋 田 博	2	2年次	教免必修		44
後期	水	2	53251	教育原論	山 脇 雅 夫	2	2年次	教免必修		44
後期	木	1	44154	教育心理学	戸 來 知 子	2	2年次	教免必修		45
後期	月	3	41354	教育社会学	森 本 一 彦	2	2年次	教免必修		45
前期	水	2	53201	教育課程論	嶋 田 博	2	1年次	教免必修		45
前期	月	1	41103	宗教科教育法Ⅰ	松 長 恵 史	2	2年次	教免（宗教）		47
後期	月	1	41152	宗教科教育法Ⅱ	松 長 恵 史	2	2年次	教免（宗教）		47
前期	火	4	42408	宗教科教育法Ⅲ	岡 田 英 作	2	3年次	教免（宗教）		47
前期	火	3	42305	国語科教育法Ⅰ	下 西 忠	2	2年次	教免（国語）		48
後期	火	3	42355	国語科教育法Ⅱ	下 西 忠	2	2年次	教免（国語）		48
前期	火	2	42206	国語科教育法Ⅲ	浜 畑 圭 吾	2	3年次	教免（国語）		48
後期	月	3	41355	国語科教育法Ⅳ	南 昌 宏	2	3年次	教免（国語）		48
後期	集中	集中	47054	教育方法論	伊 藤 博 美	2	2年次	教免必修	8/3～8/5	46
後期	水	2	43252	情報技術論	戸 來 知 子	2	2年次	教免必修		46
前期	木	1	44105	道徳教育の研究	戸 來 知 子	2	2年次	教免必修		45
前期	木	2	44203	特別教育活動指導	戸 來 知 子	2	2年次	教免必修		46
後期	木	2	44253	生徒指導・進路指導	戸 來 知 子	2	2年次	教免必修		46
前期	金	3	45305	教育相談	戸 來 知 子	2	3年次	教免必修		47
後期	金	3	45352	教職実践演習（中・高）	山脇・戸來	2	4年次	教免必修		49
実習	集中	集中	48001	教育実習Ⅰ	山脇・戸來	2	3年次	教免必修		
実習	集中	集中	48002	教育実習Ⅱ	山脇・戸來	2	4年次	教免必修		
前期	木	4	44405	教育実習の研究	山脇・戸來	2	3・4年次	教免必修		

H30 まで　文学部 人間学科

1．必修科目

［人間学科 1年次履修科目］

1）「建学の精神」科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門A	乾　　龍 仁	2	2年次	－		1
前期	木	2	54202	空海の思想入門B	乾　　龍 仁	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	50

2）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	月	4	41401	英語Ⅰ（再履修）	伊藤佳世子	2	2年次	－		3

3）導入科目（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	月	4	51401	人間学基礎ゼミⅠA	森 本 一 彦	2	2年次	－		5
後期	月	4	51451	人間学基礎ゼミⅡA	森 本 一 彦	2	2年次	－		5
前期	月	4	51402	人間学基礎ゼミⅠB	山 脇 雅 夫	2	2年次	－		5
後期	月	4	51452	人間学基礎ゼミⅡB	山 脇 雅 夫	2	2年次	－		5

4）基礎講義（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	月	3	41351	現代思想	山 脇 雅 夫	2	2年次	－		36
前期	木	1	44101	人間と宗教	山 脇 雅 夫	2	2年次	－		1

5）キャリア教育（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	火	2	42201	キャリアカウンセリングⅠ－1	高 田 綾 子	2	2年次	－	企画科目（キャリアカウンセリングⅠ－2）と同年に履修すること	12

［人間学科 2年次履修科目］

1）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	水	4	43401	英語Ⅱ	伊藤佳世子	2	2年次	－		2
通年	水	3	43301	英語Ⅱ（再履修）	伊藤佳世子	2	3年次	－		3

2）講義Ⅰ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	5	43501	人間学概論Ⅰ	坂口・浜畑	2	2年次	－		8
後期	水	5	43551	人間学概論Ⅱ	森本・上野	2	2年次	－		8

3）基礎ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	火	2	42205	人間学基礎ゼミⅢA	上 野 和 久	2	2年次	－		6
後期	火	2	42254	人間学基礎ゼミⅣA	上 野 和 久	2	2年次	－		6
前期	水	4	43402	人間学基礎ゼミⅢB	廣田恵美子	2	2年次	－	外国人留学生に限る	6
後期	水	4	43451	人間学基礎ゼミⅣB	廣田恵美子	2	2年次	－		6

4）伝統文化実習（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	木	3	44302	伝統文化実習（民俗調査）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		18
通年	水	3	43302	伝統文化実習（茶道）	岡本文音	2	2年次	－		17

5）キャリア教育（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	火	4	42403	キャリアカウンセリングⅡ－1	高田綾子	2	2年次	－	企画科目（キャリアカウンセリングⅡ－2）と同年に履修すること	12

［人間学科３年次履修科目］

1）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	金	3	45301	英語Ⅲ	静春樹	2	3年次	－		2

2）演習（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	水	2	43208	人間学演習ＩＡ	森本一彦	4	3年次	－		26
通年	水	2	43209	人間学演習ＩＢ	上野和久	4	3年次	－		27
通年	月	5	41502	人間学演習ＩＣ（臨床心理学演習）	上野和久	4	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	58
通年	火	7	42701	人間学演習ＩＤ（臨床心理学演習）	森崎雅好	4	3年次	－		58
通年	木	7	44701	人間学演習ＩＥ（臨床心理学演習）	大河内大博	4	3年次	－		58

3）特殊ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	木	2	44202	人間学特殊ゼミＩＡ	森崎雅好	2	3年次	－		23
後期	木	2	44252	人間学特殊ゼミⅡＡ	森崎雅好	2	3年次	－		24
前期	月	4	41403	人間学特殊ゼミＩＢ	松本貴子	2	3年次	－	外国人留学生に限る	24
後期	月	4	41452	人間学特殊ゼミⅡＢ	松本貴子	2	3年次	－		24
前期	月	6	41601	人間学特殊ゼミＩＣ（教育心理学）	上野和久	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	51
後期	月	6	41651	人間学特殊ゼミⅡＣ（人格心理学）	上野和久	2	3年次	－		52
前期	火	5	42502	人間学特殊ゼミＩＤ（宗教学入門）	山脇雅夫	2	3年次	－		52
後期	火	5	42552	人間学特殊ゼミⅡＤ（一神教の世界）	山脇雅夫	2	3年次	－		52
前期	火	6	42602	人間学特殊ゼミＩＥ（悲嘆学）	森崎雅好	2	3年次	－		52
後期	火	6	42651	人間学特殊ゼミⅡＥ（自殺学）	森崎雅好	2	3年次	－		53
前期	木	6	44602	人間学特殊ゼミＩＦ（悲嘆学）	大河内大博	2	3年次	－		52
後期	木	6	44651	人間学特殊ゼミⅡＦ（スピリチュアルケア実践論）	大河内大博	2	3年次	－		53

4）キャリア教育（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	火	3	42302	キャリアカウンセリングⅢ－1	高田綾子	2	3年次	－	企画科目（キャリアカウンセリングⅢ－2）と同年に履修すること	13

［人間学科４年次履修科目］

１）演習（４）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	水	2	43210	人間学演習ⅡＡ	森本一彦	4	４年次	－		26
通年	水	2	43211	人間学演習ⅡＢ	上野和久	4	４年次	－		27
通年	月	5	41503	人間学演習ⅡＣ（臨床心理学演習）	上野和久	4	４年次	－	大阪サテライト教室にて開講	59
通年	火	7	42702	人間学演習ⅡＤ（臨床心理学演習）	森崎雅好	4	４年次	－		59
通年	木	7	44702	人間学演習ⅡＥ（臨床心理学演習）	大河内大博	4	４年次	－		59

２）卒業論文（８）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
通年	論文	論文	49003	人間学科卒業論文	人間学科主任	8	４年次	－		
前期	論文	論文	49004	人間学科卒業論文（前期）	人間学科主任	8	４年次	－		

２．選択科目

１）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	金	3	45304	総合科目（古文書学）	坂口太郎	2	３年次	－		34
前期	水	1	43102	総合科目（書誌学）	坂口太郎	2	３年次	－		34
通年	集中	集中	47003	総合科目（インターンシップ））	就職担当	2	３年次	－		34
前期	金	5	45501	総合科目（チベット仏教入門Ⅰ）	テンジン・ウセル	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	59
後期	金	5	45551	総合科目（チベット仏教入門Ⅱ）	テンジン・ウセル	2	３年次	－		59

２）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	月	2	41253	企画科目（質的調査論）	森本一彦	2	２年次	社会調査士		27
前期	月	2	41202	企画科目（社会調査入門）	森本一彦	2	２年次	社会調査士		27
通年	月	3	41301	企画科目（舞踊）	高祖・辻	2	２年次	－		27
前期	火	3	42304	企画科目（カウンセリング論Ａ）	上野和久	2	２年次	－		28
後期	火	3	42354	企画科目（発達心理学Ａ）	上野和久	2	２年次	－		28
後期	火	3	42352	企画科目（地方行政論）	笛木　淳	2	２年次	－		28
通年	火	4	42402	企画科目（華道）	五味和樹	2	２年次	－		28
後期	火	4	42451	企画科目（自然科学）	木地茂典	2	２年次	－		16
前期	火	4	42406	企画科目（数的処理）	木地茂典	2	２年次	－		16
後期	火	4	42453	企画科目（地方自治法）	笛木　淳	2	２年次	－		29
通年	火	4	52401	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	２年次	－		29
後期	水	1	43152	企画科目（基礎統計学）	森本一彦	2	２年次	社会調査士		29
前期	水	1	43103	企画科目（高野文化圏論）	森本一彦	2	２年次	－		29
後期	水	2	43251	企画科目（古文書読解Ａ）	坂口太郎	2	２年次	－		30
前期	水	2	43212	企画科目（歴史学）	坂口太郎	2	２年次	－		30
前期	木	1	44104	企画科目（社会科学）	森本一彦	2	２年次	－		15
後期	木	1	44153	企画科目（人文科学）	森本一彦	2	２年次	－		15
通年	木	3	44301	企画科目（詠歌）	上山・辻・本間	2	２年次	－		11
前期	水	3	53301	企画科目（寺院経営講座）	加賀　博	2	２年次	－		30

前期	木	4	44404	企画科目（地域連携）	森 本 一 彦	2	２年次	－		30
通年	金	3	45302	企画科目（声明上級）	辻　　秀 道	2	２年次	－		31
前期	金	4	55401	企画科目（地域産業論）	鈴 木 裕 範	2	２年次	－		31
後期	火	2	42255	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅠ－２）	高 田 綾 子	2	２年次	－	キャリアカウンセリングⅠ－１と同年に履修すること	12
後期	火	4	42453	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅡ－２）	高 田 綾 子	2	２年次	－	キャリアカウンセリングⅡ－１と同年に履修すること	12
後期	火	3	42353	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅢ－２）	高 田 綾 子	2	３年次	－	キャリアカウンセリングⅢ－１と同年に履修すること	13
前期	集中	集中	47051	企画科目（加行Ⅰ）	密教学科主任	1	２年次	－		16
後期	集中	集中	47052	企画科目（加行Ⅱ）	密教学科主任	1	２年次	－		17
通年	集中	集中	47001	企画科目（ボランティア）	人間学科主任	2	２年次	－		17
通年	集中	集中	47002	企画科目（巡礼・遍路）	密教学科主任	2	２年次	－		17
通年	集中	集中	47053	企画科目（キャリア研修）	人間学科主任	2	２年次	－		13
通年	木	4	54402	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	廣田恵美子	2	２年次	－	外国人留学生に限る	31
通年	木	5	54501	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	廣田恵美子	2	２年次	－		31
通年	月	3	51302	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	松 本 貴 子	2	２年次	－		32
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	松 本 貴 子	2	２年次	－		32
前期	土	第３週	46004	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）	山 本 和 美	2	２年次	－	大阪サテライト教室にて開講	
後期	土	第３週	46054	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）	上野・森本	2	２年次	－		
前期	火	4	42409	企画科目（古文書読解Ｂ）	坂 口 太 郎	2	２年次	－		
前期	火	6	42601	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）	木 下 忠 恭	2	２年次	－		
後期	火	6	42652	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）	木 下 忠 恭	2	２年次	－		
後期	水	6	43652	企画科目（心理測定法）	五 明 優 介	2	２年次	－		
前期	水	6	43602	企画科目（心理統計学）	五 明 優 介	2	２年次	－		
前期	水	7	43702	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）	五 明 優 介	2	２年次	－		
後期	水	7	43752	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）	五 明 優 介	2	２年次	－		
前期	木	5	44501	企画科目（こころのケアとは）	山 添　　正	2	２年次	－		
後期	木	5	44551	企画科目（深層心理学）	山 添　　正	2	２年次	－		
前期	木	6	44601	企画科目（臨床心理学面接演習ＩＡ）	山 添　　正	2	２年次	－		
後期	木	6	44652	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＡ）	山 添　　正	2	２年次	－		
後期	金	6	45651	企画科目（家族心理学）	西川みち子	2	２年次	－		
前期	金	6	45601	企画科目（発達心理学Ｂ）	西川みち子	2	２年次	－		
後期	金	7	45751	企画科目（カウンセリング論Ｂ）	木 下 忠 恭	2	２年次	－		
前期	金	7	45701	企画科目（学校心理学）	木 下 忠 恭	2	２年次	－		
後期	集中	集中	47058	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）	橋本久仁彦	2	２年次	－		
後期	集中	集中	47059	企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）	橋本久仁彦	2	２年次	－		
後期	集中	集中	47056	企画科目（スピリチュアルケア概論）	窪 寺 俊 之	2	２年次	－		
後期	集中	集中	47060	企画科目（もの語り心理学）	やまだようこ	2	２年次	－		
後期	集中	集中	47061	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）	森 崎 雅 好	2	３年次	－		
後期	集中	集中	47062	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）	森 崎 雅 好	2	４年次	－		
後期	集中	集中	47057	企画科目（死生観）	山本佳世子	2	２年次	－		
通年	実習	実習	48003	企画科目（臨床実習Ⅰ）	森 崎 雅 好	2	３年次	－		

通年	実習	実習	48004	企画科目（臨床実習Ⅱ）	森 崎 雅 好	2	4年次	－	大阪サテライト教室にて開講	67
通年	実習	実習	48005	企画科目（臨床実習Ⅲ）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		68
通年	実習	実習	48006	企画科目（臨床実習Ⅳ）	川 口 道 雄	2	3年次	－		68
通年	実習	実習	48007	企画科目（臨床実習Ⅴ）	川 口 道 雄	2	4年次	－		68
後期	水	7	43751	企画科目（災害心理学）	森 崎 雅 好	2	2年次	－		62
前期	土	第1週	46001	企画科目（メンタルヘルス）	根 岸 和 政	2	3年次	－		64
後期	土	第1週	46051	企画科目（社会心理学）	松 下 歩 睦	2	3年次	－		65
前期	土	第2週	46002	企画科目（臨床心理学面接演習ⅠB）	山 添 正	2	3年次	－		65
後期	土	第2週	46052	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡB）	山 添 正	2	3年次	－		65
前期	土	第3週	46003	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）	大河内大博	2	3年次	－		65
後期	土	第3週	46053	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）	大河内大博	2	3年次	－		66

3）語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	木	1	54101	サンスクリット語ⅠA	德 重 弘 志	2	2年次	－		3
通年	金	3	55302	サンスクリット語ⅠB	前 谷 彰	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	68
通年	木	4	44401	サンスクリット語Ⅱ	前 谷 彰	2	2年次	－		32
通年	木	4	54401	チベット語	テンジン・ウセル	2	2年次	－		32
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	2年次	－		33
通年	火	1	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	2年次	－		33

4）健康実技

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	木	3	54301	体育実技	今 井 邦 夫	2	2年次	－		33

5）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	金	4	55402	宗教思想史ⅠA	奥 山 直 司	2	2年次	－		35
前期	月	3	51302	宗教思想史ⅡA	櫻 木 潤	2	2年次	－		35
後期	木	3	54351	宗教思想史ⅠB	奥 山 直 司	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	69
前期	火	2	52202	宗教思想史ⅡB	櫻 木 潤	2	2年次	－		69
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	戸 來 知 子	2	2年次	社会福祉主事		9
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	戸 來 知 子	2	2年次	社会福祉主事		9
後期	集中	集中	57051	心理学ⅠB	上 野 和 久	2	2年次	社会福祉主事	大阪サテライト教室にて開講	50
後期	集中	集中	57052	心理学ⅡB	上 野 和 久	2	2年次	社会福祉主事		50
前期	月	3	41302	社会学Ⅰ	森 本 一 彦	2	2年次	社会福祉主事		9
前期	火	1	52102	日本文学Ⅰ	浜 畑 圭 吾	2	2年次	－		38
後期	火	1	52151	日本文学Ⅱ	浜 畑 圭 吾	2	2年次	－		38
前期	月	4	41404	国文法Ⅰ	浜 畑 圭 吾	2	2年次	－		37
後期	月	4	41453	国文法Ⅱ	浜 畑 圭 吾	2	2年次	－		37
前期	金	3	45303	国語学Ⅰ	上 田 恭 寿	2	2年次	－		37
後期	金	3	45351	国語学Ⅱ	上 田 恭 寿	2	2年次	－		37
後期	水	4	43452	現代の人権	竹 村 和 也	2	2年次	－		16
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹 村 和 也	2	2年次	社会福祉主事		41
通年	火	3	52301	情報処理	木 地 茂 典	2	2年次	－		34
通年	金	3	55301	梵字悉曇	齋 藤 天 譽	2	2年次	－		33

前期	金	1	45103	宗教学Ⅰ	奥 山 直 司	2	2年次	－		34
後期	金	1	45152	宗教学Ⅱ	奥 山 直 司	2	2年次	－		35
前期	金	2	45202	宗教史Ⅰ	土 居 夏 樹	2	2年次	－		35
後期	金	2	45252	宗教史Ⅱ	土 居 夏 樹	2	2年次	－		36
前期	月	3	41304	哲学方法論	山 脇 雅 夫	2	2年次	－		36
後期	木	4	44451	宗教学方法論	森 本 一 彦	2	2年次	－		36
前期	火	5	42501	日本文学概論Ⅰ	浜 畑 圭 吾	2	2年次	－		39
後期	火	5	42551	日本文学概論Ⅱ	浜 畑 圭 吾	2	2年次	－		39
前期	火	4	42407	日本文学史概説Ⅰ	下 西 忠	2	2年次	－		38
後期	火	4	42455	日本文学史概説Ⅱ	下 西 忠	2	2年次	－		38
前期	木	3	44307	漢文学概論Ⅰ	南 昌 宏	2	2年次	－		39
後期	木	3	44353	漢文学概論Ⅱ	南 昌 宏	2	2年次	－		39
前期	金	4	45402	国語学講義Ⅰ	上 田 恭 寿	2	2年次	－		40
後期	金	4	45451	国語学講義Ⅱ	上 田 恭 寿	2	2年次	－		40
後期	水	1	43153	日本文化特殊講義A	浜 畑 圭 吾	2	3年次	－		40
前期	木	3	44305	日本文化特殊講義B	坂 口 太 郎	2	3年次	－		40
後期	木	3	44352	日本文化特殊講義C	坂 口 太 郎	2	3年次	－		41
前期	金	4	45403	中国文化特殊講義	野 田 悟	2	3年次	－		41
後期	金	4	45452	中国文化講読演習A	野 田 悟	2	3年次	－		41
前期	火	3	42306	中国文化講読演習B	南 昌 宏	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	69

6）教学実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮 田 永 明	2	2年次	僧階補任		10
通年	金	1	55101	声明	辻 秀 道	2	2年次	僧階補任		10
通年	月	1	51101	法式	内 海 周 浩	2	2年次	僧階補任		10
通年	火	4	42401	布教	近 藤 堯 寛	2	2年次	僧階補任		11

7）書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田 悟	2	2年次	書道師範		11
通年	火	4	42403	漢字Ⅱ	木 本 滋 久	2	2年次	書道師範		42
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		11
通年	木	3	44303	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		42
前期	火	1	42102	篆刻Ⅰ	野 田 悟	2	2年次	書道師範		42
後期	火	1	42152	篆刻Ⅱ	野 田 悟	2	2年次	書道師範		42
通年	火	3	42301	条幅制作A（漢字）	木 本 滋 久	2	3年次	書道師範		43
通年	木	4	44402	条幅制作B（かな）	塩野三恵子	2	3年次	書道師範		43
通年	金	1	45101	書道史（日本）	野 田 悟	4	2年次	書道師範		43

8）社会福祉主事関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	木	3	44306	社会福祉各論Ⅰ （地域福祉Ⅰ）	福 本 幹 雄	2	2年次	－		9
前期	木	4	44403	社会保障総論Ⅰ	福 本 幹 雄	2	2年次	社会福祉主事		10

9）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
後期	月	5	41551	漢文Ⅰ（再履修）	高柳健太郎	2	2年次	－		4
前期	月	5	41501	漢文Ⅱ（再履修）	高柳健太郎	2	2年次	－		4
前期	月	2	41201	密教学概論Ⅰ	佐藤隆彦	2	2年次	－		7
後期	月	2	41251	密教学概論Ⅱ	佐藤隆彦	2	2年次	－		7
前期	水	1	43101	仏教学概論Ⅰ	前谷彰	2	2年次	－		7
前期	月	3	41303	密教史概説Ⅰ	奥山直司	2	2年次	－		7
後期	月	3	41352	密教史概説Ⅱ	櫻木潤	2	2年次	－		8
後期	水	1	43151	仏教史概説Ⅰ	前谷彰	2	2年次	－		8
後期	月	2	41252	密教学講読演習A	松長恵史	2	3年次	－		18
前期	木	2	44201	密教学講読演習B	T.ドライトライン	2	3年次	－		18
後期	木	2	44251	密教学講読演習C	T.ドライトライン	2	3年次	－		18
前期	木	3	44304	密教学講読演習D	川﨑一洋	2	3年次	－		19
後期	木	3	44351	密教学講読演習E	川﨑一洋	2	3年次	－		19
後期	火	2	42253	仏教学講読演習A	前谷彰	2	3年次	－		19
前期	木	1	44102	仏教学講読演習B	櫻木潤	2	3年次	－		19
後期	火	3	42351	真言密教講読演習A	土居夏樹	2	3年次	－		20
前期	木	1	44103	真言密教講読演習B	T.ドライトライン	2	3年次	－	已灌頂者	20
後期	木	1	44152	真言密教講読演習C	T.ドライトライン	2	3年次	－	已灌頂者	20
前期	金	1	45102	真言密教講読演習D	T.ドライトライン	2	3年次	－	已灌頂者	20
後期	金	1	45151	真言密教講読演習E	T.ドライトライン	2	3年次	－	已灌頂者	21
後期	月	3	41353	密教学特殊講義A	奥山直司	2	3年次	－		21
前期	水	3	43304	密教学特殊講義B	和田圭子	2	3年次	－		21
後期	水	3	43351	密教学特殊講義C	和田圭子	2	3年次	－		21
前期	火	2	42204	仏教学特殊講義A	前谷彰	2	3年次	－		22
後期	木	1	44151	仏教学特殊講義B	櫻木潤	2	3年次	－		22
前期	月	1	41102	真言密教特殊講義A	中西雄泰	2	3年次	－	已灌頂者	22
後期	月	1	41151	真言密教特殊講義B	中西雄泰	2	3年次	－	已灌頂者	22
前期	火	3	42303	真言密教特殊講義C	土居夏樹	2	3年次	－		23
前期	金	2	45201	真言密教特殊講義D	T.ドライトライン	2	3年次	－	已灌頂者	23
後期	金	2	45251	真言密教特殊講義E	T.ドライトライン	2	3年次	－	已灌頂者	23
後期	木	2	44254	密教学講読演習F	乾龍仁	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	55
後期	金	4	45453	密教学講読演習G	松長恵史	2	3年次	－		56
後期	月	4	41454	仏教学講読演習C	岡田英作	2	3年次	－		56
前期	金	2	45203	仏教学講読演習D	浜畑圭吾	2	3年次	－		56
前期	金	4	45405	仏教学講読演習E	前谷彰	2	3年次	－		56
後期	火	2	42256	真言密教講読演習F	櫻木潤	2	3年次	－		57
後期	火	4	42456	真言密教講読演習G	坂口太郎	2	3年次	－		57
後期	金	2	45253	真言密教講読演習J	浜畑圭吾	2	3年次	－		58
前期	木	3	44308	密教学特殊講義D	野田悟	2	3年次	－		53
後期	木	3	44354	密教学特殊講義E	野田悟	2	3年次	－		53
前期	金	4	45404	密教学特殊講義F	松長恵史	2	3年次	－		54
前期	月	4	41405	仏教学特殊講義C	岡田英作	2	3年次	－		54
後期	金	4	45454	仏教学特殊講義D	前谷彰	2	3年次	－		54
後期	火	3	42356	真言密教特殊講義F	南昌宏	2	3年次	－		54
前期	水	5	43502	真言密教特殊講義G	北川真寛	2	3年次	－		55
前期	水	7	43701	真言密教特殊講義H	北川真寛	2	3年次	－		55
後期	集中	集中	47055	真言密教特殊講義Ⅰ（密教瞑想）	佐藤隆彦	2	3年次	－		55

別　科　目　次

別科

1．必修科目

1）基礎科目（16）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振　替　科　目	担当者	単位	履修年次	備　考	頁
通年	月	2	81201	真言宗の教え（別）	密教学概論Ⅰ	佐藤隆彦	4	1年次		7
	月	2			密教学概論Ⅱ					
後期	水	1	83151	釈尊の生涯（別）	仏教史概説Ⅰ	前谷　彰	2	1年次		8
前期	水	1	83101	弘法大師空海の生涯（別）	空海の思想入門A	乾　龍仁	2	1年次		1
通年	火	2	82201	真言宗典講読1（別）	祖典講読ⅠA	松長恵史	4	1～2年次		14
					祖典講読ⅡA	松長恵史				
通年	月	4	81401	真言宗典講読2（別）	祖典講読ⅢA	佐藤隆彦	2	1～2年次	2-1、2-2は同年に履修すること	14
					祖典講読ⅣA	佐藤隆彦	2	1～2年次		15

2）実習科目（14）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振　替　科　目	担当者	単位	履修年次	備　考	頁
通年	木	2	84201	観法の理論と実習（別）	密教学講読演習B	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	1～2年次		18
					密教学講読演習C	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ				
通年	金	3	85302	梵字悉曇（別）	梵字悉曇	齋藤天譽	2	1年次		33
通年	金	1	85101	声明（別）	声明	辻　秀道	2	1年次		10
通年	水	4	83401	常用経典（別）	常用経典	宮田永明	2	1年次		10
通年	月	1	81101	法式（別）	法式	内海周浩	2	1年次		10
通年	火	4	82401	布教（別）	布教	近藤堯寛	2	1年次		11

3）実習科目（18）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振　替　科　目	担当者	単位	履修年次	備　考	頁
後期	水	4	83451	人権と福祉（別）	現代の人権	竹村和也	2	1～2年次		16
通年	金	1	85102	世界の宗教（別）	宗教学Ⅰ	奥山直司	4	1～2年次		34
					宗教学Ⅱ	奥山直司				35
通年	金	2	85202	宗教の歴史（別）	宗教史Ⅰ	土居夏樹	4	1～2年次		35
					宗教史Ⅱ	土居夏樹				36
通年	金	2	85201	心の科学（別）	心理学ⅠA	戸來知子	4	1～2年次		9
					心理学ⅡA	戸來知子				
前期	水	3	83301	寺院と法律（別）	企画科目（寺院経営講座）	加賀　博	2	1～2年次		30
通年	火	4	82402	仏教芸術（別）	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	1～2年次		29
前期	木	1	84102	哲学A（別）	人間と宗教	山脇雅夫	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	1
後期	月	3	81351	哲学B（別）	現代思想	山脇雅夫				36
前期	月	3	81301	社会保障A（別）	社会学Ⅰ	森本一彦	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	9
前期	木	4	84402	社会保障B（別）	社会保障総論Ⅰ	福本幹雄				10
前期	木	3	84301	地域福祉A（別）	社会福祉各論Ⅰ（地域福祉Ⅰ）	福本幹雄	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	9
前期	木	4	84403	地域福祉B（別）	企画科目（地域連携）	森本一彦				30
通年	木	1	84101	サンスクリット語（別）	サンスクリット語ⅠA	徳重弘志	2	1～2年次		3
通年	木	4	84401	チベット語（別）	チベット語	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1～2年次		32
通年	金	3	85301	声明上級（別）	企画科目（声明上級）	辻　秀道	2	1～2年次		31
通年	火	3	81102	密教儀礼の理論と実習（別）	真言密教特殊講義C	土居夏樹	4	1～2年次		22
	金	2			真言密教特殊講義D	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ				

講　義　概　要

・

授　業　計　画

科目名	空海の思想入門A 弘法大師空海の生涯（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	乾　龍仁

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の密教思想を学ぶための基礎的な知識を身につける

テ ー マ：弘法大師の生涯とその密教思想

授業の概要

高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。その大師の教育思想は『性霊集』に収録されている「綜芸種智院式并びに序」に述べられているが、さらにその背景には密教の思想がある。この授業では、弘法大師の生涯とその思想に関する基礎的な知識を養うことを目標とし、その概略について学習する。併せて密教を知るためにも必要な仏教の基本知識を学習する。

授業計画

1．インドから世界に広まった仏教　　＊付、般若心経の唱え方
2．仏陀（釈尊）の教えとは（三宝、四諦八聖道、四法印）
3．般若心経とは－その１（五蘊・十二処・十八界）
4．般若心経とは－その２（色即是空・空即是色）
5．般若心経とは－その３（十二因縁・涅槃と菩提・神呪（真言））
6．密教とその広がり
7．高野山の開創とその意義
8．弘法大師の生涯
9．弘法大師の教育観とその教え
10. 青年時代の思想遍歴と『三教指帰』の著作
11. 密教とは（顕教との相違点と密教の相承系譜）
12. 密教の成仏論（即身成仏思想）
13. 十段階の心のあり方（十住心の思想）
14. 密教経典としての般若心経
15. おわりに（まとめ）

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

高神覚昇『般若心経講義』角川ソフィア文庫
中村元・紀野一義『般若心経・金剛般若経』岩波文庫
松長有慶『高野山』(岩波新書) 岩波書店
松長有慶『大宇宙に生きる』（中公文庫）中央公論新社、他

学生に対する評価

期末の筆記試験（80％）、授業参加への積極性（20％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）般若心経を唱えることができ、仏教や密教の基本用語を覚えている。
（B）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを含む複数の参考書を見ながら自分の言葉で説明できる。
（S）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを含む複数の参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

その他

授業中にノートをしっかり取ること。
配布資料や参考文献の必要な箇所に赤線を引くこと。

科目名	導入研修
学期	集中
単位数	2
担当者	密教学科主任 人間学科主任

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：各自が高野山大学における学ぶ目的意識を持つとともに、学習の仕方を習得する。

テ ー マ：高野山大学での学び方

授業の概要

合宿による集中講義により、大学での学びを体験するとともに、グループによって活動することで、協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。

授業計画

1．高野山、高野山大学について
2．宗教体験①金剛峯寺参拝
3．グループ活動
4．宗教体験②奥之院参拝
5．キャリア形成
6．学内フィールドワーク
7．宗教体験③礼拝行
8．ワークショップ①
9．宗教体験④瞑想
10. 宗教体験⑤勤行
11. 山内フィールドワーク
12. ワークショップ②
13. 宗教体験⑥写経
14. 宗教体験⑦（宗教行事①）
15. 宗教体験⑧（宗教行事②）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法　第２版』
ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価

レポート（40％）、発表など授業参加の積極性（60％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）指示されたことが理解できる。
（B）授業内容を理解した上で、積極的に行動する。
（A）グループをまとめ、リーダーシップを発揮することができる。
（S）大学で学ぶ意義を理解して、行動することができる。

その他

・本講義は、密教学科・人間学科の2019年度以降の入学生は全員必修となっているので、必ず履修すること。
・本講義は、入学式後のオリエンテーション期間中を中心に開講されるが、７月までの宗教行事（報恩日、宗祖降誕日など）に２回以上に参加するともに、レポートを提出することによって単位を認定する。

科目名	人間と宗教 哲学A（別）
学期	後期
単位数	2
担当者	山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：本学で密教を学ぶために、宗教学の基礎知識を習得する。

テ ー マ：宗教学入門

授業の概要

世界のさまざまな宗教を参照しながら、宗教学の基礎を学ぶ。

授業計画

1．宗教学の成立
2．宗教の定義
3．宗教の原初形態
4．アニミズム、マナイズム
5．自然崇拝、
6．宗教の類型
7．宗教の四大要素
8．教義の諸相①
9．教義の諸相②
10. 宗教儀礼①
11. 宗教儀礼②
12. 葬制の諸類型
13. 宗教体験①
14. 宗教体験②
15. 現代社会における宗教
16. テスト・講評

テキスト

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）

参考書・参考資料等

学生に対する評価

定期試験(70％)､授業中の小テストおよび小作文(30％)で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）宗教学の基本的概念を理解している。
（B）宗教学の基礎的概念を説明できる。
（A）宗教学の知識に基づいて、宗教学のより専門的な問題について自分で学習できる。
（S）宗教学の専門的知識に基づき、宗教の問題についての自分の見解を構築している。

その他

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名	英語Ⅰ
学期	通年
単位数	2
担当者	伊藤佳世子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日英の比較文化を題材とした総合教材を使用し、リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化し、あわせてe-learning教材でリスニング力も伸ばしていく。
テ ー マ：英語の４技能を総合的に育む。

授業の概要

基本的な英文法を再確認しながら英訳し、あわせて Link English を使用してリスニングを演習する。

授業計画

【前期】
1．予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2．Ch 1 Differences in Greetings between Japan and the West
3．　同上　リスニング小テスト
4．Ch2. Which Is More Difficult, English or Japanese?
5．　同上　リスニング小テスト
6．Ch3. Different Ways of Thinking: Sense of Identity
7．　同上　リスニング小テスト
8．Ch 4. Mysteries of Alphabet and Kanji
9．　同上　リスニング小テスト
10. Ch 5. Laughing in Culture and Science
11. 　同上　リスニング小テスト
12. Ch 6. Different Americans and the Same Japanese
13. 　同上　リスニング小テスト
14. Chapter7 Japanese Outlook on Religions
15. 総括

【後期】
1．Ch 8. Compact Culture in Japan
2．　同上　リスニング小テスト
3．Ch 9. Life after Death: Differences between Christianity and Buddhism
4．　同上　リスニング小テスト
5．Ch10.　Aging Society with the Declining Birthrate
6．　同上　リスニング小テスト
7．Ch11.　Right Culture and Left Culture
8．　同上　リスニング小テスト
9．Ch12.　Foot Culture and Hand Culture
10. 　同上　リスニング小テスト
11. Ch 13.　What Labor Means in Japan and the West
12. 　同上　リスニング小テスト
13. Ch 14.　Westernization of Japan and the Japanese Culture
14. Ch 15.　English Education in Japan and Why Japanese Are Poor at English
15. 総括

テキスト（書店で購入）

『Step Up to Better English』石井隆之著、朝日出版　ISBN: 978-4-255-15469-5

参考書・参考資料等

講義中に適宜プリントを配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。
毎回の小テスト（80%）、、発表（10%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）英文の構造が理解できる。
（A）短い会話のやり取りができるようになる。
（S）パラグラフ単位で英文を理解できる。

その他

必ず予習を行って授業に臨むこと。
授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。

科目名	英語Ⅱ
学期	通年
単位数	2
担当者	伊藤佳世子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化し、あわせてe-learning教材でリスニング力も伸ばしていく。
テ ー マ：英語の４技能を総合的に育む。

授業の概要

基本的な英文法を再確認しながら訳し、あわせて Link English を使用してリスニングを演習する。

授業計画

【前期】
1．予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2．Ch1:Severn Cullis-Suzuki’s Address to the Plenary Session at the Earth Summit.
3．　同上. Listening pop test
4．2: Free the Children.
5．　同上 Listening pop test
6．Ch 3: The Legacy of Landmines
7．　同上 Listening pop test
8．Ch 4: President Kennedy's Inaugural Address
9．　同上 Listening pop test
10. Link English 文法解説と演習
11. 　Link English 文法解説と演習
12. Ch5: Albert Einstein: VOA Special English Science Report
13. 　同上 Listening pop test
14. Chapter 6: Dr.Wangari Maathai’s Nobel Peace Prize Acceptance Speech
15. 総括

【後期】
1．Ch Chapter 7: Many Winters
2．　同上　Listening pop test
3．Ch8: Condensed Philosophy
4．　同上　Listening pop test
5．Link English 文法解説と演習
6．Link English 文法解説と演習
7．Ch9: COSMOS
8．　同上　Listening pop test
9．Chapter 10: MOMO
10. 　同上　Listening pop test
11. Ch11: The Little Prince
12. 　同上
13. Ch12: Peter Pan
14. 同上
15. 総括

テキスト（書店で購入）

Read and Think:12 Inspired Massages
（岩永道子著、朝日出版、ISBN：978-4-255-15421-3）

参考書・参考資料等

講義中に適宜プリントを配布する。

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。
毎回の小テスト（80%）、発表（10%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）英文の構造が理解できる。
（A）基本的な英文が聞き取れる。
（S）パラグラフ単位で英文を理解できる。

その他

必ず予習を行って授業に臨むこと。
授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。

科目名	英語Ⅲ
学期	通年
単位数	2
担当者	静春樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：
【前期】外国人旅行者と接する状況で簡単な会話ができるようになる。
【後期】外国語旅行者と情報をやり取りする際に使える英語を身につける。
テ ー マ：
【前期】知識として学んだことと実際に使えることの落差・断絶に気づく
【後期】第二言語としての英語を目指して

授業の概要

【前期】受講生がこれまでに身につけた知識としての英語を「実用英語」に「活性化」する。具体的には、基礎的な短い英文の質問に対して応答が口をついて出てくる練習をします。
【後期】高野山を訪れた外国人旅行者との英語で会話がしたくなる勉強を目指す。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス
2．自己紹介（1）
3．自己紹介（2）
4．自分の出身地について話す（1）
5．自分の出身地について話す（2）
6．学生生活について話す（1）
7．学生生活について話す（2）
8．プレゼンテイション（1）
9．高野山について（1）
10. 高野山について（2）
11. 高野山大学での勉強（1）
12. 高野山大学での勉強（2）
13. ロールプレイで練習しよう（1）
14. プレゼンテイション（2）
15. まとめのフリートーキング
16. 前期の総括
※プログラムは改訂される場合があります。

【後期】
1．ガイダンス
2．聞き返すときの表現
3．頼みごとをするときの表現
4．相手の意見を聞くときの表現
5．自分の意見を言うときの表現
6．～を英語ではどう言いますか？
7．高野山はいかがですか。どこが？何が？
8．どちらからお越しですか？
9．各国・地域名を英語で言えるようにしたい。
10. 道を尋ねられたとき
11. これまで日本のどこへ行きましたか？
12. これからどこへ行かれますか？
13. 宿坊での会話（1）
14. 宿坊での会話（2）
15. まとめのフリートーキング
16. 後期の総括
※プログラムは改訂される場合があります

テキスト（書店で購入）

必要に応じて担当者からプリントを配布する。

参考書・参考資料等

受講生各自が中学高校で使った英語の教科書
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（20%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）外国人を避ける気持ちが薄くなる。
（B）外国人に話しかけてみたくなる。
（A）日本語を介さずに外国人との会話から新情報・新知識が得られる。
（S）英語がもはや外国語(FL)ではなくなり、自分の第二言語（SL）となる。

その他

科目名	漢文
学期	通年
単位数	2
担当者	南　昌宏

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：訓点を正しく使う能力を養い、漢文訓読の基礎を身に付ける。
テ ー マ：漢文訓読の基礎

授業の概要

返り点のとおりに読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。また、漢文を読みつつテキストを参照し、文法解説をする。

授業計画

1．送りがな・返り点
2．書き下し文（1）
3．書き下し文（2）
4．熟語の構造
5．漢文の構造
6．再読文字（1）
7．再読文字（2）
8．否定の形（1）
9．否定の形（2）
10．否定の形（3）
11．否定の形（4）
12．疑問・反語の形（1）
13．疑問・反語の形（2）
14．復習（1）
15．まとめ
16．疑問・反語の形（3）
17．使役・受身の形
18．比較選択・願望の形
19．仮定・抑揚の形
20．限定・累加の形
21．文字の整理（1）
22．文字の整理（2）
23．文字の整理（3）
24．文字の整理（4）
25．文字の整理（5）
26．文字の整理（6）
27．復習（1）
28．復習（2）
29．復習（3）
30．復習（4）
31．まとめ

テキスト

佐藤雅一『発展 30 日完成（33）　漢文　高校初級用』（日栄社）
書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫）など。

学生に対する評価

中間・期末試験の平均点を評点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。

科目名	サンスクリット語ⅠA（サンスクリット語（別））
学期	通年
単位数	2
担当者	徳重弘志

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：サンスクリット語の基礎的な文法力と読解力の取得
テ ー マ：サンスクリット語の文法入門と文献読解

授業の概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教は、その聖典をサンスクリット語で著している。この授業は、当該の言語の基礎を学び、読解力を高めることを目的とする。

授業計画

【前期】
1．イントロダクション
2．文法（1）：文字と発音
3．文法（2）：母音の階梯
4．文法（3）：連声法（Sandhi）
5．文法（4）
　：名称詞の曲用（母音）
6．文法（5）
　：名称詞の曲用（子音）
7．文法（6）
　：比較法・代名詞・数詞
8．文法（7）
　：動詞の活用（第１次活用法）
9．文法（8）
　：動詞の活用（第２次活用法）
10．文法（9）：準動詞
11．文法（10）：名称詞造語法
12．文法（11）：合成語法
13．文法（12）：不変化詞
14．文法（13）：韻律
15．文法の総括

【後期】
1．イントロダクション
2．読解（1）：*Hitopadeśa* ①
3．読解（2）：*Hitopadeśa* ②
4．読解（3）：*Pañcatantra* ①
5．読解（4）：*Pañcatantra* ②
6．読解（5）：*Pañcatantra* ③
7．読解（6）：*Pañcatantra* ④
8．読解（7）：*Pañcatantra* ⑤
9．読解（8）：*Pañcatantra* ⑥
10．読解（9）：*Bhagavadgītā* ①
11．読解（10）：*Bhagavadgītā* ②
12．読解（11）：*Bhagavadgītā* ③
13．読解（12）：*Bhagavadgītā* ④
14．読解（13）：*Bhagavadgītā* ⑤
15．読解（14）：*Bhagavadgītā* ⑥

テキスト

吹田隆道『実習サンスクリット文法』、春秋社。（書店で購入）

参考書・参考資料等

辻直四郎『サンスクリット文法』、岩波書店。

学生に対する評価

課題レポート（100％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な単語を覚えている。
（B）文法を理解できている。
（A）長文をある程度翻訳できる。
（S）長文を正確に翻訳できる。

その他

前期の第２回目の授業までに、上記のテキストを購入すること。

科目名	英語Ⅰ（再履修）
学期	通年
単位数	2
担当者	伊藤佳世子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：基本的な英文法を理解し、運用できるようになること。
テ ー マ：英文の基本的構文の習得

授業の概要

基本的な英文法を学習し、練習問題やロールプレイを用いて理解を深める。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション（講義概要・評価説明）
2．It's good to see you.
3．代名詞
4．When do you sleep?
5．一般動詞
6．A baked potato, please.
7．加算名詞と不可算名詞
8．That is me.
9．不定詞
10．動名詞
11．These look really fresh.
12．形容詞・副詞
13．What is everybody doing?
14．現在進行形・過去進行形
15．授業の総括

【後期】
1．I'm free on Saturday afternoon.
2．場所や時を表す前置詞
3．Do they have any smaller ones?
4．形容詞の比較級と最上級
5．I haven't been there for a long time.
6．現在完了
7．Thrilled by universal studio.
8．受動態
9．I'll be fine.
10．助動詞
11．Hopes and dreams.
12．接続詞
13．I'm going to miss you.
14．未来形
15．授業の総括

テキスト（書店で購入）

On Your way（Robert Hickling著　金星堂　ISBN:978-4-7647-3932-1）

参考書・参考資料等

講義内で適宜プリントを配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。
毎回の小テスト（80％）、発表（10％）、授業参加の積極性（10％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な英文法が理解できる。
（B）英文の構造が理解できる。
（A）短い会話のやり取りができる。
（S）パラグラフ単位で英文を理解できる。

その他

必ず予習を行って授業に臨むこと。
授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。

科目名	英語Ⅱ（再履修）
学期	通年
単位数	2
担当者	伊藤佳世子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：基本的な英文法を理解し、運用できるようになること。
テ ー マ：英文の基本的構文の習得

授業の概要

基本的な英文法を学習し、練習問題やロールプレイ（役割演技）を用いて理解を深める。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション（講義概要,評価説明）
2．Travel Tips.
3．　同上 ロールプレイ
4．Studying Abroad.
5．　同上　ロールプレイ
6．Homestay Hints.
7．　同上　ロールプレイ
8．Keep the Change!
9．　同上　ロールプレイ
10．Adventure Travel
11．　同上　ロールプレイ
12．London Taxis.
13．　同上　ロールプレイ
14．Hotels with a Difference.
15．presentation

【後期】
1．Asian Shopping Tour.
2．　同上　ロールプレイ
3．Flying High.
4．　同上　ロールプレイ
5．Two Unique Places in Britain.
6．　同上　ロールプレイ
7．Making New Friends.
8．　同上　ロールプレイ
9．Bali-The Land of the Gods
10．　同上　ロールプレイ
11．A Celtic Celebration.
12．　同上　ロールプレイ
13．presentation
14．presentation
15．総括

テキスト（書店で購入）

On the Go: English Skills for Global Communications（Steven Gershon 著、Pearson Longman 出版、ISBN: 978-962-00-5254-5）

参考書・参考資料等

講義内で適宜プリントを配布する。

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。
毎回の小テスト（60％）、プレゼンテーション（30％）、授業参加の積極性（10％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）英文の構造が理解できる。
（A）短い会話のやり取りができる。
（S）英語での短いプレゼンテーションができる。

その他

必ず予習を行って授業に臨むこと。
授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。

科目名	漢文Ⅰ（再履修）
学期	後期
単位数	2
担当者	高柳 健太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：訓点を正しく使う能力を養い、漢文訓読の基礎を身に付ける。

テ ー マ：漢文訓読の基礎（入門）

授業の概要

返り点のとおりに読む練習、返り点を打つ練習から始める。再履修科目であるため、基本的に「漢文Ⅰ」の講義に準じて講義・試験・評価をする。

授業計画

1．送りがな・返り点
2．書き下し文（1）
3．書き下し文（2）
4．熟語の構造
5．漢文の構造
6．総合演習（1）
7．再読文字（1）
8．再読文字（2）
9．総合演習（2）
10．否定の形（1）
11．否定の形（2）
12．否定の形（3）
13．否定の形（4）
14．総合演習（3）
15．疑問・反語の形（1）
16．期末試験・講評

テキスト

佐藤雅一『発展 30 日完成（33）漢文 高校初級用』（日栄社）
漢文Ⅰと同じテキストを用いるので、新たに購入する必要はない。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫）

学生に対する評価

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。期末試験の素点を評点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

その他

2018年度以前の入学生用。

科目名	漢文Ⅱ（再履修）
学期	前期
単位数	2
担当者	高柳 健太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：訓点を正しく使う能力を養い、漢文訓読の基礎を身に付ける。

テ ー マ：漢文訓読の基礎（初級）

授業の概要

Ⅰの続き。再履修科目であるため、基本的に「漢文Ⅱ」の講義に準じて講義・試験・評価をする。

授業計画

1．疑問・反語の形（2）
2．疑問・反語の形（3）
3．総合演習（4）
4．使役・受身の形
5．比較選択・願望の形
6．仮定・抑揚の形
7．限定・累加の形
8．総合演習（5）
9．文字の整理（1）
10．文字の整理（2）
11．文字の整理（3）
12．文字の整理（4）
13．文字の整理（5）
14．文字の整理（6）
15．漢詩
16．期末試験・講評

テキスト

佐藤雅一『発展 30 日完成（33）漢文 高校初級用』（日栄社）
漢文Ⅱと同じテキストを用いるので、新たに購入する必要はない。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫）

学生に対する評価

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。期末試験の素点を評点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

その他

漢文Ⅰに合格した者のみ、受講を許可する。ただし、４年次生は、その限りではない。

科目名	密教学基礎ゼミ1
学期	前期
単位数	2
担当者	櫻木 潤・松長 恵史・他 T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山大学での学びと密教を研究するための基礎的知識を修得する。

テ ー マ：密教学研究への扉をひらく。

授業の概要

「密教って何だろう？」本授業は、密教を研究するための基礎的な知識を身につける入門講座。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業計画

1．ガイダンス（4/8）【櫻木】
2．密教を研究するための視点（4/15）【櫻木】
3．密教の事相を知る①（4/22）【ドライトライン】
4．密教の事相を知る②（5/6）【ドライトライン】
5．密教の事相を知る③（5/13）【ドライトライン】
6．密教の事相を知る④（5/20）【ドライトライン】
7．文献や資料の探し方を知ろう①（5/27）【櫻木】
8．文献や資料の探し方を知ろう②（6/3）【櫻木】
9．弘法大師空海の生涯を知る①（6/10）【櫻木】
10．弘法大師空海の生涯を知る②（6/17）【櫻木】
11．弘法大師空海の生涯を知る③（6/24）【櫻木】
12．弘法大師空海の生涯を知る④（7/1）【櫻木】
13．レポートの書き方を学ぶ①（7/8）【櫻木】
14．レポートの書き方を学ぶ②（7/15）【櫻木】
15．レポートの書き方を学ぶ③（7/22）【櫻木】
16．まとめとレポート提出（7/29）【櫻木】
※ 各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年）
松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年）
その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（30％）、授業参加の積極性（40％）、授業テーマごとの課題（30％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

その他

高野山大学での学びの基礎となる授業ですので、出席を重視する。
３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。

科目名	密教学基礎ゼミ2
学期	後期
単位数	2
担当者	櫻木 潤・松長 恵史・他 T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山大学での学びと密教を研究するための基礎的知識を修得する。

テ ー マ：密教学研究への扉をひらく。

授業の概要

「密教って何だろう？」本授業は、密教を研究するための基礎的な知識を身につける入門講座。前期での学習をふまえて、さらに密教研究の多面性を知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業計画

1．ガイダンス（9/23）【櫻木】
2．夏休みの成果の確認と後期の目標（9/30）【櫻木】
3．密教事相の学びを深める①（10/7）【ドライトライン】
4．密教事相の学びを深める②（10/14）【ドライトライン】
5．密教事相の学びを深める③（10/28）【ドライトライン】
6．密教事相の学びを深める④（11/4）【ドライトライン】
7．密教の美術を知る①（11/11）【松長】
8．密教の美術を知る②（11/18）【松長】
9．密教の美術を知る③（11/25）【松長】
10．密教の美術を知る④（12/2）【松長】
11．高野山の歴史を知る①（12/9）【櫻木】
12．高野山の歴史を知る②（12/16）【櫻木】
13．高野山の歴史を知る③（12/23）【櫻木】
14．研究論文の読み方を学ぶ①（1/6）【櫻木】
15．研究論文の読み方を学ぶ②（1/20）【櫻木】
16．まとめとレポート提出（1/27）【櫻木】
※ 各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年）
松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年）
その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（30％）、授業参加の積極性（40％）、授業テーマごとの課題（30％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

その他

高野山大学での学びの基礎となる授業ですので、出席を重視する。
３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。

科目名	人間学基礎ゼミⅠA
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。
テ ー マ：学び方の技法Ⅰ

授業の概要
高校とは違う大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業計画
1．大学の学び方
2．授業の受け方：ノートの取り方（1）
3．授業の受け方：ノートの取り方（2）
4．授業の受け方：配布資料の整理と使い方
5．予習・復習の必要性
6．本の読み方（1）
7．本の読み方（2）
8．レポートの作成の仕方（1）
9．レポートの作成の仕方（2）
10．レポートの作成の仕方（3）
11．資料の検索（1）図書館の利用
12．資料の検索（2）インターネットの利用
13．レポート作成の実践（1）
14．レポート作成の実践（2）
15．レポート作成の実践（3）

テキスト
プリントを配布する

参考書・参考資料等
田中共子編『よくわかる学びの技法　第２版』
ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価
最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

その他
・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。
・授業に出席することは当然であるが、大学4年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。

科目名	人間学基礎ゼミⅠB
学期	前期
単位数	2
担当者	山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。
テ ー マ：学び方の技法Ⅰ

授業の概要
高校とは違う大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業計画
1．大学の学び方
2．授業の受け方：ノートの取り方（1）
3．授業の受け方：ノートの取り方（2）
4．授業の受け方：配布資料の整理と使い方
5．予習・復習の必要性
6．本の読み方（1）
7．本の読み方（2）
8．レポートの作成の仕方（1）
9．レポートの作成の仕方（2）
10．レポートの作成の仕方（3）
11．資料の検索（1）図書館の利用
12．資料の検索（2）インターネットの利用
13．レポート作成の実践（1）
14．レポート作成の実践（2）
15．レポート作成の実践（3）

テキスト
プリントを配布する

参考書・参考資料等
田中共子編『よくわかる学びの技法　第２版』
ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価
最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

その他
・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。
・授業に出席することは当然であるが、大学4年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。

科目名	人間学基礎ゼミⅡA
学期	後期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。
テ ー マ：学び方の技法Ⅱ

授業の概要
人間学基礎ゼミⅠに続いて、大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業計画
1．発表するには
2．データの収集（1）
3．データの収集（2）
4．データの記録（1）メモ
5．データの記録（2）写真
6．データの記録（3）動画
7．データと思考の整理
8．レジュメの作成（1）
9．レジュメの作成（2）
10．パワーポイントの作成（1）
11．パワーポイントの作成（2）
12．発表の実践（1）
13．発表の実践（2）
14．討論（1）
15．討論（2）

テキスト
プリントを配布する

参考書・参考資料等
田中共子編『よくわかる学びの技法　第２版』
ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価
最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

その他
・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。
・授業に出席することは当然であるが、大学4年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。

科目名	人間学基礎ゼミⅡB
学期	後期
単位数	2
担当者	山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。
テ ー マ：学び方の技法Ⅱ

授業の概要
人間学基礎ゼミⅠに続いて、大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業計画
1．発表するには
2．データの収集（1）
3．データの収集（2）
4．データの記録（1）メモ
5．データの記録（2）写真
6．データの記録（3）動画
7．データと思考の整理
8．レジュメの作成（1）
9．レジュメの作成（2）
10．パワーポイントの作成（1）
11．パワーポイントの作成（2）
12．発表の実践（1）
13．発表の実践（2）
14．討論（1）
15．討論（2）

テキスト
プリントを配布する

参考書・参考資料等
田中共子編『よくわかる学びの技法　第２版』
ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価
最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

その他
・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。
・授業に出席することは当然であるが、大学4年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。

科目名	人間学基礎ゼミⅢA
学期	前期
単位数	2
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：人間について学ぶための基礎力をつける。
テ ー マ：心と身体のつながり（思考と感情と身体・行動の関係）

授業の概要

体験学習を通して、自分を表現することを学び、他者の自己表現に心を向けて寄り添うことを学び、お互いに表現し合い、受けとめ合い、交流し合うことで自己像と他者像がどのように変わってゆくのかについて学んでゆく。授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、楽しみながら学んでゆく。

授業計画

1．オリエンテーション　自己紹介と人間学について
2．心とは何か
　自分を何かの“もの”に例えて、・・・・話し合おう・・・我・汝
3．感覚と知覚・・・現実感覚とは
4．身体と感覚・・・・「身体の緊張：五感とストレスと言語」
5．人間の持つ言語の不思議
6．心の時間と現実の時間
7．心と身体は「感情・情動」によってむすばれる
8．「思い」と「言葉」・・・・・ワンウエイコミュニケーション.
9．学習（古典的条件づけ）
10．学習（オペラントの条件づけ）
11．記憶 について
12．記憶と学習とトラウマ
13．仏教カウンセリングの基礎理論Ⅰ 「空間・戒律・仏性」
14．仏教カウンセリングの基礎理論Ⅱ 「静寂と正念（マインドフルネス）」
15．まとめ.

テキスト

随時プリントにて配布

参考書・参考資料等

『心理学　第２版　心のはたらきを知る』
　　梅本堯夫、大山　正、岡本浩一、高橋雅延共著
『禅セラピー　仏教から心理療法への道』
　　デビットプレイジャー著　コスモスライブラリー著
『脳にみる心、心にみる脳：mind サイトによる新しいサイコセラピー』
　　ダニエル・J・シーゲルス著　清和書店
『マインドフルネス入門講座』大谷　彰著　金剛出版

学生に対する評価

授業での発言、積極的行動、毎回の授業レポートによる評価（50%）試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）身体感覚とともに自分を知ることと人間学とのつながりが理解できている。
（B）言語と言語以外のコミュニケーションを通して自他を知ることの大切さが理解できている。
（A）人間学とは何かについて、自分の言葉と文字で表現することができる。
（S）人間学とは何かについて、自分の言葉と文字で表現し、他者に伝えることができる。

その他

体験学習が主になりますので、積極的な参加を期待しています。

科目名	人間学基礎ゼミⅢB
学期	前期
単位数	2
担当者	廣田恵美子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本社会についての基礎知識をつける。
テ ー マ：日本社会で働くための基礎知識及びビジネス日本語の習得

授業の概要

テキストに沿って進める。
実用的な日本のビジネスマナーから日本の文化を理解する。
又、実用敬語についてのロールプレイを行うことを通して、日本文化を実感する。
新聞を題材とし、日本の時事問題にも理解を深める。

授業計画

1．授業の進め方について
2．しごとの日本語 ユニット１ 実用敬語 あいさつ１
3．しごとの日本語 ユニット２ 実用敬語 あいさつ２
4．しごとの日本語 ユニット３ 実用敬語 依頼する１
5．しごとの日本語 ユニット４ 実用敬語 依頼する２
6．新聞記事 時事ニュース 実用敬語 尋ねる１
7．しごとの日本語 ユニット５ 実用敬語 尋ねる２
8．しごとの日本語 ユニット６ 実用敬語 許可を求める
9．しごとの日本語 ユニット７ 実用敬語 申し出る
10．しごとの日本語 ユニット８ 実用敬語 誘う
11．新聞記事 時事ニュース 実用敬語 断る
12．しごとの日本語 ユニット９ 実用敬語 苦情を言う
13．しごとの日本語 ユニット 10 実用敬語 聞き返す
14．しごとの日本語 ユニット 11 実用敬語 電話を受ける
15．レポート作成と発表

テキスト

釜渕優子『しごとの日本語 ビジネスマナー編』
釜渕優子『マンガでわかる実用敬語 初級編』
（購入は教師の指示に従うこと）

参考書・参考資料等

各紙新聞
後醍院良成『ビジネス日本語 テキスト①内定者編』
宮崎道子他『にほんごで働く！ ビジネス日本語 30 時間』

学生に対する評価

期末試験（50%）、課題の提出（40%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）正しいビジネスマナー、実用敬語をある程度、理解することができる。
（B）正しいビジネスマナー、実用敬語を理解することができる。
（A）正しいビジネスマナーとその場に応じた実用敬語をある程度、実践することができる。
（S）正しいビジネスマナーとその場に応じた実用敬語を実践することができる。

その他

ロールプレイや発話練習が主となるため、積極的な授業参加が望まれる。
又、普段から、日本のニュースや新聞記事に積極的に触れるようにすること。

科目名	人間学基礎ゼミⅣA
学期	後期
単位数	2
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：この世で生きる限り、私たちの脳と身体が一致することで、安心・安全感を持つことができる。そこには、感情と言う人間学の中心的概念がある。これは神経生理学から理解することができる。それはまた、私たちの大いなる時間と自然が育んできた生命そのものから生まれたものである。
この授業は、感情を中心に身体・脳（思考）・行動に気づきを持ちながら、さまざまな体験学習を行う。その体験プロセスから、体感したこと、イメージしたことを形（文字・文章）にする学習をする。その体験過程を言語化する中で、そこに関連情報を集め収集し、集めた情報を吟味し、文章を書くことを学ぶ。
テ ー マ：文章を書くこと、読むこと、創造する喜び。

授業の概要

体験学習を通して、感情を中心に、脳と身体感覚、行動（運動）について考察し、フェルトセンスを感じることを目的とした授業形態である。それは、書くこと、読むこと、歌うこと、身体を動かすことを通して身体感覚を育み、自他への思いやりの大切さが理解できるようなエクササイズを中心としたものである。

授業計画

授業計画
1．授業の進め方について　心とは
2．心身の「安全」と「絆」について（生理学的視点から）・・ポリベーガル理論概論
3．第１章　こころ①　「我と汝」・自分の中の対話
4．　　こころ②　自分と大自然と対話してみよう。
5．　　こころ③　人生曲線とは。　俯瞰する時間と記憶
6．　　こころ④　家系図を描いてみよう：　なぜ人間学科を選んだのか？
7．第２章　不　安　　日本大震災からの学び・・・・・現代社会と宗教を考える
8．第３章　静謐と狂気　言語と身体の自由な往復運動　サウンドを作ろう。
　　ミュージックセラピー・ダンスセラピー
9．第４章　　死　　犯罪被害者支援を考える：　被害者の文章を　黙読と音読で読む
10．第５章　　私　　私を俯瞰する・・ゲシュタルト療法より擬人化ワーク
11．第６章　超　越①　　他者を通して自分を知る
12．　　超　越②　　他者を支援する
13．スピリチュアリティとは何か：人生の俯瞰的な視点について
14．「癒しの糸をたぐりよせるために」レポート作成の授業
15．まとめの質疑応答

テキスト

『「生・死」の刹那に生きる　仏教＜心理臨床＞講話』大塚秀高著　阿吽社

参考書・参考資料等

『この世とあの世の風通し　加藤清は語る』加藤清　上野圭一著　春秋社
『心理臨床の視座の転換をめざして』倉戸ヨシヤ著　ナカニシヤ出版
心理臨床家のあなたへ』 皆藤　章著　福村出版
『ポリベーガル理論入門』 スティファン・W・ポージャス　春秋社

学生に対する評価

授業での発言、積極的行動、毎回の授業レポートによる評価（50%）レポート試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で行ったエクササイズについてレポートが書ける。
（B）授業で行った体験学習について、文献を引用しながら検討できる。
（A）自分のテーマを見つけて情報収集し、創造的な視点から論述できる。
（S）自分のテーマを見つけて情報収集し、創造的な視点から論述し、かつ、他者に適切に伝えることができる。

その他

動きやすい服装で参加してください。

科目名	人間学基礎ゼミⅣB
学期	後期
単位数	2
担当者	廣田恵美子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本社会についての基礎知識をつける。
テ ー マ：日本社会で働くための基礎知識及びビジネス日本語の習得

授業の概要

テキストに沿って進める。
実用的な日本のビジネスマナーから日本の文化を理解する。
又、実用敬語についてのロールプレイを行うことを通して、日本文化を実感する。
新聞を題材とし、日本の時事問題にも理解を深める。

授業計画

1．新聞記事 時事ニュース 実用敬語 依頼
2．しごとの日本語 ユニット 12 実用敬語 許可
3．しごとの日本語 ユニット 13 実用敬語 誘い
4．しごとの日本語 ユニット 14 実用敬語 申し出
5．しごとの日本語 ユニット 15 実用敬語 アドバイス
6．新聞記事 時事ニュース 実用敬語 意見
7．しごとの日本語 ユニット 16 実用敬語 指示
8．しごとの日本語 ユニット 17 実用敬語 ほめる
9．しごとの日本語 ユニット 18 実用敬語 苦情
10．しごとの日本語 ユニット 19 実用敬語 尊敬語
11．新聞記事時事ニュース 実用敬語 謙譲語
12．しごとの日本語 ユニット 20 実用敬語 丁寧語
13．新聞記事 時事ニュース 実用敬語 美化語
14．レポート作成
15．発表

テキスト

釜渕優子『しごとの日本語 ビジネスマナー編』
釜渕優子『マンガでわかる実用敬語 初級編』
（購入は教師の指示に従うこと）

参考書・参考資料等

各紙新聞
後醍院良成『ビジネス日本語 テキスト①内定者編』
宮崎道子他『にほんごで働く！ ビジネス日本語 30 時間』

学生に対する評価

期末試験（50%）、課題の提出（40%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）正しいビジネスマナー、実用敬語をある程度、理解することができる。
（B）正しいビジネスマナー、実用敬語を理解することができる。
（A）正しいビジネスマナーとその場に応じた実用敬語を実践することができる。
（S）正しいビジネスマナーとその場に応じた実用敬語を実践することができる。

その他

ロールプレイや発話練習が主となるため、積極的な授業参加が望まれる。
又、普段から、日本のニュースや新聞記事に積極的に触れるようにすること。
前期科目「人間学基礎ゼミⅢB」の受講を前提とする。

科目名	密教学概論Ⅰ 真言宗の教え1（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。
テ ー マ：密教の基礎知識を養成する。

授業の概要

インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観する。

授業計画

1．講義内容の説明
2．密教とは：①密教・真言宗の意味、密教の分類
3．密教経典の成立と特色：①密教の源流
4．密教経典の成立と特色：②仏教のなかでの密教の発展過程
5．密教経典の成立と特色：③密教経典の分類
6．密教経典の成立と特色：④密教経典の特色
7．中国密教の成立：①密教経典の訳出
8．中国密教の成立：②唐代密教の展開
9．奈良時代の密教と空海請来の密教
10．密教思想の教判：①真言密教の教判・顕密二教の教判
11．密教思想の教判：③顕密二教の教判
12．十住心の思想：①十住心思想の構成
13．十住心の思想：②十住心思想の特徴
14．十住心の思想：③②十住心思想の特徴
15．試験
16．試験問題の解答と確認

テキスト

高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

参考書・参考資料等

松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店
勝又俊教著『密教入門』春秋社
金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫
佐和隆研編『密教辞典』法藏館
中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店　他

学生に対する評価

試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の基本的な用語を理解している。
（B）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を説明できる。
（A）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
（S）配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。

その他

講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。
授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートにとること。

科目名	密教学概論Ⅱ 真言宗の教え2（別）
学期	後期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。
テ ー マ：密教の基礎知識を養成する。

授業の概要

インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観する。

授業計画

1．講義内容の説明
2．真言密教の仏陀観：①釈迦如来から大日如来へ
3．真言密教の仏陀観：②大日如来と四仏（五仏）・密教の仏身観
4．真言密教の仏陀観：③様々な信仰の対象、密教の祖師
5．曼荼羅：①両部曼荼羅の成立
6．曼荼羅：②四種曼荼羅とは
7．真言密教の人間観：①空海と心の本性の探求
8．真言密教の人間観：②心性本浄思想の源流
9．即身成仏への道：①密教の三昧耶戒、②四重禁戒と十善戒
10．即身成仏への道：③浄菩提心と観法
11．即身成仏思想：①六大・四曼・三密1
12．即身成仏思想：①六大・四曼・三密2
13．即身成仏思想：②即身の意味と三種即身成仏
14．密教の特性
15．試験
16．試験の解答と確認

テキスト

高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

参考書・参考資料等

松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店
勝又俊教著『密教入門』春秋社
金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫
佐和隆研編『密教辞典』法藏館
中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店

学生に対する評価

試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の基本的な用語を理解している。
（B）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を説明できる。
（A）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
（S）配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。

その他

講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。
授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートにとること。

科目名	仏教学概論Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	前谷　彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教学研究の諸問題を理解することができるようになる。
テ ー マ：仏教とは何か

授業の概要

仏教とは何か。一朝一夕には解決しないこの根本的な問いに向き合うために授業では、仏教が初期、大乗、密教と歴史展開してきた足跡を追い、使い古された俗説を改めながら、仏教の多様なありかたを学ぶ。

授業計画

1．オリエンテーション
2．「仏教学と就学」（平川　彰）①
3．「仏教学と就学」（平川　彰）②
4．「仏教の思想史的研究」（田村芳朗）①
5．「仏教の思想史的研究」（田村芳朗）②
6．「関係（縁）・関係性（縁起）・関係主義（縁起説）
　　－特に「縁」から「縁起への二つの仮設（三枝充悳）①
7．「関係（縁）・関係性（縁起）・関係主義（縁起説）
　　－特に「縁」から「縁起への二つの仮設（三枝充悳）②
8．「縁起説論争」（梶山雄一）
9．「出発点としての大乗教」（梶芳光運）①
10．「出発点としての大乗教」（梶芳光運）②
11．「空思想研究のための諸水平」（立川武蔵）①
12．「空思想研究のための諸水平」（立川武蔵）②
13．「密教研究の方向」（津田眞一）①
14．「密教研究の方向」（津田眞一）②
15．総括
16．試験・講評

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

竹村牧男『入門 哲学としての仏教（講談社現代新書）
前谷　彰『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』（講談社）

学生に対する評価

授業参加への積極性（30%）、学期末のレポート（70%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用して、説明することができる。

その他

ノートを漏らさずとり、欠席しないこと。復習を欠かさない。

科目名	密教史概説Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：インド・チベット密教史に関する基礎的な知識を身につける。
テ ー マ：インド・チベット密教史

授業の概要

インド密教がどのようにして形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点について映像資料などをまじえながら立体的に講義する。

授業計画

1．イントロダクション
2．インド・チベット仏教における密教経典分類法
3．インド初期密教　萌芽から形成へ
4．インド中期密教　組織化の時代1
5．インド中期密教　組織化の時代2
6．インド後期密教　新たな展開1
7．インド後期密教　新たな展開2
8．古代チベット王国と仏教の伝来
9．仏教国教化への道のり
10．古代チベット王国の崩壊と仏教の復興
11．諸宗派の形成1
12．諸宗派の形成2
13．ゲルク派の覇権
14．ダライ・ラマ法王とは何か
15．筆記試験
16．まとめ

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

松長有慶『密教の歴史』平楽寺書店
奥山直司『チベット［マンダラの国］』小学館

学生に対する評価

課題レポート（20%）、期末試験（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教、大乗仏教、密教、上座部仏教の関係が説明できる。
（B）インド・チベット仏教における密教経典分類法が説明できる。
（A）チベット仏教の四大宗派の特徴が説明できる。
（S）インド・チベット密教史の流れが概括的に説明できる。

その他

遅刻3 回で1 欠席と見なす。

科目名	密教史概説Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	櫻木　潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：インドに生まれた密教が、唐代の中国で隆盛し、弘法大師空海によって日本に伝えられた後、日本仏教の中でどのように根付き、展開を遂げるのかについて、その歴史的変遷を理解する。
テ ー マ：中国密教・日本密教の歴史的変遷を知るとともに、真言宗のあゆみを知る。

授業の概要

中国・日本の密教と真言宗の歴史をテキストにもとづきながら、最新の研究成果をふまえて概説する。

授業計画

1．授業ガイダンス
2．中国への密教伝来
3．唐代の密教隆盛
4．空海以前の日本密教
5．最澄・空海による密教の請来
6．空海による真言密教の確立
7．天台宗の密教化
8．密教修法の隆盛と真言密教の分派
9．ユーラシア帝国・元とアジア諸国の密教
10. 覚鑁の改革と挫折
11. 密教と鎌倉仏教
12. 密教と戒律復興運動
13. 密教教学の発展
14. 江戸時代の戒律復興運動と密教
15. 近代社会と密教
16. まとめと期末試験

テキスト

松長有慶『密教の歴史〈サーラ叢書 19〉』
（平楽寺書店、2007 年。初版は 1969 年）

参考書・参考資料等

立川武蔵・頼富本宏編『中国密教〈シリーズ密教３〉』
（春秋社、2005 年。初版は 1999 年）
立川武蔵・頼富本宏編『日本密教〈シリーズ密教４〉』
（春秋社、2005 年。初版は 2000 年）
佛教史学会編『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
その他、授業中に適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験（60%）、毎回の授業で行う課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（S）東アジアにおける密教のあゆみを理解し、これからの密教のあり様について展望することができる。
（A）密教が東アジア、特に日本仏教の歴史の中でどのような役割を担ってきたのかを説明できる。
（B）東アジアにおける密教の歴史的展開について説明することができる。
（C）日本密教と真言宗のあゆみを理解する。

その他

授業では、中国密教や日本密教、真言宗にゆかりの深い寺院なども紹介します。積極的にその地を訪ね、日本密教や真言宗の歴史について、さらに理解を深めることを望む。

科目名	仏教史概説Ⅰ釈尊の生涯（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	前谷　彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教がインドのいかなる思想を背景に誕生し、いかなる歴史的変容を被りながら展開して行ったかについての基本的知識を身につける。
テ ー マ：インドにおける仏教誕生とその後の展開

授業の概要

仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史的変容を被りながら展開して行ったかについて概説する。

授業計画

1．導入：仏教が興起する以前のインド
2．バラモン教の思想：ヴェーダの思想的特徴
3．ヴェーダの思想的特徴
4．古ウパニシャッドの思想①
5．古ウパニシャッドの思想②
6．反ヴェーダ思想（六師外道）
7．ジャイナ教の思想
8．釈尊の誕生から成道までの歴史概観
9．初期仏教思想の特徴①
10. 初期仏教思想の特徴②
11. 初期仏教思想の特徴③
12. 大乗諸派の思想的特徴
13. 中国仏教の特徴
14. 大乗非仏説論
15. 初期仏教と大乗の思想的相違点

テキスト

担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。

参考書・参考資料等

前谷　彰（恵紹）著『ブッダのおしえ～真訳スッタ二パータ』講談社

学生に対する評価

期末試験（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている
（B）ヴェーダの基本的思想を理解し、ウパニシャッドにおける梵我一如の思想を理解していること。
（A）（B）の理解を踏まえ、初期仏教における「縁起」の思想を理解していること。
（S）（B）・（A）の理解に加え、初期仏教と大乗の思想の違いについて、自身の見解を明らかにし得る能力を有していること。

その他

科目名	人間学概論Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾 坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：文学作品や記録を通して人間の諸相を理解する。
テ ー マ：文学と歴史学から人間について考える。

授業の概要

人間を理解する上で、宗教はひとつの窓口である。前半では高野山に関わる文学作品を取り上げ、人間の諸相について考える。また、後半では中世社会と宗教との関係について、さまざまな切り口から考えていく。

授業計画

1．ガイダンス
2．聖地を目指す人々
3．信仰の源
4．弘法大師空海の出定
5．聖地に籠もる人々
6．聖地をつなぐ人々
7．高野聖の姿
8．高野山と聖遺物
9．中世仏教をめぐる呪術性と合理性
10. 中世の出生をめぐる信仰
11. 中世の死と信仰と葬送
12. 中世仏教と女人①
13. 中世仏教と女人②
14. 中世仏教と戦争
15. 高野山町石道をめぐる宗教文化
16. 高野山町石道の見学（校外授業）

テキスト

テキストを指定せず、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

最終レポート（60%）、受講態度及びリアクションペーパー（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義で取り上げた作品や記録の内容を理解している。
（B）各回のテーマを理解している。
（A）各回のテーマを理解した上で、文学や歴史学の成果に基づいて、意見を述べることが出来る。
（S）各回のテーマを基に、人間の諸相に関する新知見を述べることができる。

その他

（浜畑）私語厳禁。概論ではあるが意見を求めていくので、積極的な姿勢を望む。リアクションペーパーを有効に活用して欲しい。
（坂口）講義中の私語やスマートフォンの使用は、絶対に慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。必要に応じて、図書館に赴き、講義で紹介する参考文献を読むこと。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	人間学概論Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	森上和久 本野彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：心理ケア、地域デザインの基礎を理解する。
テ ー マ：心理ケア、地域デザインの基礎

授業の概要

心理ケアと地域デザインの担当者が、３年からのコースの基礎について解説を行う。

授業計画

1．コース選択について：心理ケアと地域デザインの概要
2．現代社会と臨床心理学（心理ケア）
3．臨床心理学の歴史（心理ケア）
4．教育と臨床心理学（心理ケア）
5．福祉と臨床心理学（心理ケア）
6．医療と臨床心理学（心理ケア）
7．産業と臨床心理学（心理ケア）
8．司法と臨床心理学（心理ケア）
9．現代日本の現状（地域デザイン）
10. データから見る課題：超少子高齢社会（地域デザイン）
11. 身近な地域の課題（地域デザイン）
12. 課題の設定（地域デザイン）
13. 課題の調査（地域デザイン）
14. 解決方法の提案（地域デザイン）
15. レポート発表（地域デザイン）

テキスト

テキストを指定せず、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

山崎亮『ミュニティデザイン―人がつながるしくみをつくる』
学芸出版社、2011 年

学生に対する評価

最終レポート（70%）、小レポートなどの課題（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）心理ケア、地域デザインに関する基本用語が説明できる。
（B）心理ケア、地域デザインに関する各分野の考え方が説明できる。
（A）心理ケア、地域デザインについて自分の考え方が説明できる。
（S）心理ケア、地域デザインについて理解し、実践できる。

その他

・本講義は、2018年度以前の入学生の必修科目である。
・３回生以降のコースを選択するための重要な授業である。
・最終レポートは、心理ケア、地域デザインごとに作成し、評価は総合して行う。

科目名	心理学ⅠA 心の科学（別）1
学期	前期
単位数	2
担当者	戸来知子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：心理学の基礎知識を習得する。
テ ー マ：感覚、思考、学習など個人内における心理学現象について学ぶ。

授業の概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達的視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業計画及び授業方法

1．オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2．実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3．感覚と知覚について学ぶ。（その１）
4．感覚と知覚について学ぶ。（その２）
5．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その１）
6．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その２）
7．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その３）
8．学習について学ぶ。（その１）
9．学習について学ぶ。（その２）
10．学習について学ぶ。（その３）
11．言語と思考について学ぶ。（その１）
12．言語と思考について学ぶ。（その２）
13．言語と思考について学ぶ。（その３）
14．意識と認知システムについて学ぶ。
15．まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

テキスト

特に指定しない。プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

放送大学テキスト 『心理学概論』、津太子、森公美子編著 ,2018 年。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
（B）短期記憶、長期記憶などの記憶のメカニズムを理解している。
（A）学習の仕組みを説明することができる。
（S）認知システムについて説明することができる。

その他

毎回出席を取る。

科目名	心理学ⅡA 心の科学（別）2
学期	後期
単位数	2
担当者	戸来知子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：社会と発達の視点から心理学を学ぶ。
テ ー マ：心理学の基礎知識を習得する。

授業の概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。臨床心理学やカウンセリングの基礎となっている心理学を学習する。とりわけ、社会と発達という視点から、人間の心理活動について学ぶ。

授業計画及び授業方法

1．オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2．動機づけと情動について学ぶ。（その１）
3．動機づけと情動について学ぶ。（その２）
4．動機づけと情動について学ぶ。（その３）
5．性格理論を学ぶ。（その１）
6．性格理論を学ぶ。（その２）
7．性格理論を学ぶ。（その３）
8．人間の発達理論と課題について学ぶ。（その１）
9．人間の発達理論と課題について学ぶ。（その２）
10．人間の発達理論と課題について学ぶ。（その３）
11．対人関係の心理学を学ぶ。（その１）
12．対人関係の心理学を学ぶ。（その２）
13．対人関係の心理学を学ぶ。（その３）
14．個人と社会の心理について学ぶ。
15．まとめ。疑問点の再確認等。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜、紹介する。
放送大学、『心理学概論』、津太子、森公美子編著 ,2018 年。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（10%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）動機づけ・性格理論・発達臨論・対人関係に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
（B）各性格理論について説明するこができる。
（A）エリクソンのライフサイクル論などの発達理論について説明することができる。
（S）対人関係に関する諸理論について説明することができる。

その他

毎回出席を取る。

科目名	社会学ⅠA 社会保障（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：現代の社会問題を社会学的な視点から検討することを通して、大学教育で必要とされる基礎的な考え方を習得する。
テ ー マ：現代の社会問題

授業の概要

現代の社会問題を取り上げ、社会学によって説明をすることを通して、社会学的な視点を学ぶとともに、それを身に付ける。

授業計画

1．現代社会とはどういう時代か。
2．人口問題（1）
3．人口問題（2）
4．経済と労働問題（1）
5．経済と労働問題（2）
6．貧困と社会保障（1）
7．貧困と社会保障（2）
8．情報化社会（1）
9．情報化社会（2）
10．環境問題（1）
11．環境問題（2）
12．国際問題とグローバル化（1）
13．国際問題とグローバル化（2）
14．包摂と排除
15．現代社会をどう生きるか。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明した社会問題の基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した社会問題を説明できる。
（A）授業で説明した社会問題を社会学的に説明できる。
（S）授業で説明した社会問題について解決策を提示できる。

その他

・人間学科の2019年度入学生以降は、基礎科目として人間学科の学生は全員必修であるので、必ず履修すること。
・社会福祉主事任用資格の科目である。
・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題に興味を持ち、今何が起こっているのかを確認しておくこと。

科目名	社会福祉論 福祉各論Ⅰ（地域福祉Ⅰ）A（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	福本幹雄

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：地域福祉の概念や地域組織化とその活動の理解を深め、地域住民の一員として自らが主体的に地域福祉活動に参加できるように学びを深める。
テ ー マ：地域福祉の概念とその展開方法

授業の概要

講義を中心にしながらグループワークによる演習を取り入れる。対象者別の縦割りの福祉ではなく、身近な地域の事例を紹介しながら、横断的に地域福祉を捉えたい。事例解説にパワーポイントを積極的に活用する。

授業計画

1．地域福祉の考え方
2．地域福祉の源流
3．地域福祉の発展過程
4．地域福祉の定義
5．コミュニティケアの移入と地域福祉の展開
6．コミュニティの定義
7．地域福祉の主体と対象
8．地域福祉における地方自治体の役割
（社会福祉計画、地域福祉計画、自治体職員の専門性）
9．地域福祉における民間の役割
（民生委員・児童委員、ボランティア、住民、営利企業）
10．地域福祉における専門職の役割（1）
（社会福祉協議会、地域包括支援センター、社会福祉施設等）
11．地域福祉における専門職の役割（2）（保健、医療等）
12．地域福祉における専門職の役割（3）（保育所、児童館等、その他）
13．もう一つの福祉ネットワークキング
14．地域における社会資源の活用・調整・改善・開発
15．地域福祉における人的資源の育成
16．グループワーク（演習）で事例検討を行う

テキスト

授業中に必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

社会福祉士シリーズ９『地域福祉の理論と方法』、弘文堂
新・社会福祉士養成講座９『地域福祉の理論と方法』、中央法規出版
『社会福祉士のための基礎知識Ⅰ～Ⅱ』、中央法規出版
『福祉への道標』－教職のための社会福祉－、サンライズ出版

学生に対する評価

レポート･筆記試験（50%）、発表（20%）、積極的な授業参加（30%）で評価する

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地域福祉の基礎的な概念を理解している。
（B）地域福祉の基礎的な概念と基礎的な内容を理解している。
（A）地域福祉の基礎的な概念と内容及び枠組みを理解している。
（S）地域福祉の基礎及び専門的な概念と内容の枠組みを理解している。

その他

グループワークや演習には積極的に参加し、発言・発表すること。

科目名
社会保障総論Ⅰ 社会保障論 社会保障B（別）
学期
前期
単位数
2
担当者
福本幹雄

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、特に選別的・救貧的福祉から一般的・普遍的福祉へ、応能負担から応益負担という社会保障の動向を理解する。社会保障の意義、社会保障とは何かに関して学びを深める。
テ ー マ：社会保障の仕組み及び歴史と現状

授業の概要

社会保障が我々の生活にどのように関連してくるかなど、身近な生活の場で社会生活の問題や介護問題の解決に実践・活用できるような知識として社会保障の学びを深める。事例解説にパワーポイントを積極的に活用する。

授業計画

1．社会保障の基本的な考え方とその範囲
2．社会保障の理念と機能
3．欧米における社会保障の歴史的展開
4．日本における社会保障の歴史的展開
5．社会保障制度の体系
6．社会保険の構造
7．社会扶助の構造
8．社会保障の費用と財源
9．年金保険制度の沿革と概要
10. 国民年金
11. 厚生年金保険と共済年金
12. 年金保険制度をめぐる最近の動向
13. 医療保険制度の沿革と概要
14. 国民健康保険制度と後期高齢者医療制度
15. 介護保険制度と成年後見制度の概要
16. 介護保険制度をめぐる最近の動向

テキスト

授業中に必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

新・社会福祉士養成講座 12『社会保障』第５版、中央法規出版
『社会福祉士のための基礎知識Ⅰ～Ⅱ』、中央法規出版
『福祉への道標』－教職のための社会福祉－、サンライズ出版
『社会福祉小六法 2018(平成 30 年版)』、ミネルヴァ書房

学生に対する評価

レポート･筆記試験（60％）、発表（10％）、積極的授業参加（30％）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会保障の基礎的な概念を理解している。
（B）社会保障の基礎的な概念と体系を理解している。
（A）社会保障の基礎的な概念と体系及び枠組みを理解している。
（S）社会保障の基礎及び専門的な概念と体系及び枠組みを理解している。

その他

グループワークや演習には積極的に参加し、発言・発表をすること。

科目名
常用経典 常用経典（別）
学期
通年
単位数
2
担当者
宮田永明

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『理趣経』、『梵網経』、礼懺、三陀羅尼、般若心経、立義分、諸真言等が読誦できる様に務める。
テ ー マ：真言宗の常用経典の読誦法（お経の読み方）の習得（他）

授業の概要

『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の勤行・法要などに用いる諸経典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを暗誦できるように務める。
『真言宗常用諸経要聚』等の経典に用いられている仏教用語の基礎的理解を助け、経典が描く仏教・密教的世界観が理解しやすくなるようなるべく簡単に用語の概説をおこなう。
また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『観音経』、『梵網経』『金胎礼懺』「三陀羅尼」『梵讃』に務める。

授業計画

【前期】
☆『真言宗常用諸経要聚』に収録される経典や偈文の読誦法を順次教授し、稽古する。
☆僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる
1「開経偈」2「懺悔文」3「礼文」4「理趣経」5「金・胎礼懺」6「観音経」7「立義分」8「梵網経」9「般若心経」10「九条錫杖」11「梵讃・三陀羅尼」12「諸真言」の読誦を先に行う。
☆各授業時間の中で、時間が許せば読誦する経典の内容（意味）を簡単に解説する。
☆経典理解の基礎的知識を簡単に概説する。

【後期】
前期同様
☆を中心に、前期に学んだ諸経典の読誦の稽古を引き続き行う。
僧侶志望者の必要性を鑑み、『理趣経』『金胎礼懺』「三陀羅尼」『諸真言』読誦に務める。
☆受講者の理解、興味等の様子を見て、『真言宗常用諸経要聚』所載の弘法大師空海著作『般若心経秘鍵』を読む。

テキスト

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を用いる。
その他、資料を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

授業態度（30％）、実技（70％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『理趣経』が滞りなく読める。
（B）『理趣経』、三陀羅尼が読め、梵讃が暗唱できる。
（A）常用経典が全てスラスラ読める。
（S）特にお経の理解と、独自にお勤めができる。

その他

講義には、念珠と輪袈裟、中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を持参すること。他の経本は授業を進める上で（ページの指示・訂正箇所の不一致など）時間のロスが多くなる。
経典の不所持は、出席を認めない。受講拒否とみなす。
IC レコーダー等の用意が有れば使用を許可する。なるべく持って来ることを勧める。
伽藍の金堂で開壇される「結縁灌頂」に入壇することを原則として義務付ける。
これは法会の中でどの様に用いられているか、実際上知ってもらう為である。

科目名
声明 声明（別）
学期
通年
単位数
2
担当者
辻秀道

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：法要の基本となる「理趣三昧法会」で使われる声明を研鑽する。
テ ー マ：僧侶として必ず必要な声明を基礎から学ぼう。

授業の概要

日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」。我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎（楽理を含む）の導入部分から学ぶ。

授業計画

【前期】
1．声明の楽譜、音階、唱え方（旋律型）の解説及びオリエンテーション
2．三　礼
3．四智梵語（1）
4．四智梵語（2）
5．大日讃（1）
6．大日讃（2）
7．不動讃
8．四智漢語（1）
9．四智漢語（2）
10. 心略漢語（1）
11. 心略漢語（2）
12. 仏　讃（1）
13. 仏　讃（2）
14. 散華（初段目）（1）
15. 前期試験
16. 散華（初段目）（2）

【後期】
1．散華（二段目）（1）
2．散華（二段目）（2）
3．散華（二段目）（3）
4．散華（三段目）（1）
5．散華（三段目）（2）
6．対　揚（1）
7．対　揚（2）
8．対　揚（3）
9．対　揚（4）
10. 唱　礼　（金剛界）（1）
11. 唱　礼（2）
12. 唱　礼（3）
13. 唱　礼（4）
14. 理趣経（中曲）（1）
15. 後期試験
16. 理趣経（中曲）（2）／称名礼

テキスト

宮野宥智編　『南山進流声明類聚・附伽陀』を松本日進堂にて事前に購入しておくこと。
(注、必ず同一内容の声明類聚で、できるだけ新しく購入した本を準備する事)

参考書・参考資料等

小山公淳著　『真言宗法儀解説』

学生に対する評価

前期・後期の小テスト発表（40％）、授業参加の積極性（20％）
前後期末試験（40％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）南山進流声明を、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（B）南山進流声明を概ね理解し、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（A）理趣三昧の声明を概ね唱える事が出来る。
（S）南山進流声明の理論・唱え方を理解し、理趣三昧声明を一人で唱える事が出来る。

その他

筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。
声明は毎週の積み重ねとなるので、できる限り欠席しない様にすること。

科目名
法式 法式（別）
学期
通年
単位数
2
担当者
内海周浩

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：真言宗僧侶としての基礎を修得する
テ ー マ：道場荘厳・壇荘厳の基礎

授業の概要

真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識を解説する。

授業計画

【前期】
1．講義内容の説明
2．道場荘厳の解説について（1）
3．道場荘厳の解説について（2）
4．道場荘厳の解説について（3）
5．道場荘厳の解説について（4）
6．道場荘厳の解説について（5）
7．道場荘厳の解説について（6）
8．道場荘厳の解説について（7）
9．道場荘厳の解説について（8）
10. 道場荘厳の解説について（9）
11. 道場荘厳の解説について（10）
12. 六種供養について（1）
13. 六種供養について（2）
14. 六種供養について（3）
15. 道場荘厳見学

【後期】
1．講義内容の説明
2．壇荘厳の解説について（1）
3．壇荘厳の解説について（2）
4．壇荘厳の解説について（3）
5．壇荘厳の解説について（4）
6．壇荘厳の解説について（5）
7．壇荘厳の解説について（6）
8．壇荘厳の解説について（7）
9．壇荘厳の解説について（8）
10. 壇荘厳の解説について（9）
11. 壇荘厳の解説について（10）
12. 壇荘厳の解説について（11）
13. 壇荘厳の解説について（12）
14. 壇荘厳の解説について（13）
15. 壇荘厳見学

テキスト

前期：『真言宗の事作法』教務課にて購入のこと。
後期：授業時にプリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

大山公淳著『真言宗法儀解説』入手方法は授業時に説明する。

学生に対する評価

定期試験（80％）、授業参加の積極性（20％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語を覚えている。
（B）道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語の理解が出来ている。
（A）道場荘厳・壇荘厳の様式について理解が出来ている。
（S）道場荘厳・壇荘厳の基礎を理解した上で、説明することが出来る。

その他

科目名	布教A（別）
学期	通年
単位数	2
担当者	近藤堯寛

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：布教原理の学習と実習を通して伝道の重要性を認識し、真言法話を語れるようになる。
テ ー マ：空海の名言を語る

授業の概要

本講義は布教初心者の科目である。布教の知識と方法を学び、空海名言に基づいた法話づくりの授業 である。

授業計画

【前期】
1．布教の原理
2．世界の宗教
3．宗教と科学
4．釈尊成道と初転法輪
5．説法の方法
6．弘法大師胎動
7．入唐の準備
8．入唐の風景
9．師資相承
10. 密教伝来
11. 真言密教の宣布
12. 供養と信仰
13. 遍路・巡礼
14. 原稿の書き方①
15. 原稿の書き方②

【後期】
1．駐在布教の見学
2．提出レポートの感想
3．布教の心得と発声練習
4．三分法話（実習）
5．発表布教①
6．発表布教②
7．発表布教③
8．発表布教④
9．発表布教⑤と再発表
10. 発表の所感
11. 般若心経の法話①
12. 般若心経の法話②
13. 観音経の法話①
14. 観音経の法話②
15. 総括

テキスト

近藤堯寛著『空海名言辞典 付・現代語訳』高野山出版社／配布プリント

参考書・参考資料等

白象の会著・近藤堯寛監修『空海散歩』筑摩書房／寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社／川喜田二郎著『続・発想法』中公新書 210

学生に対する評価

授業中の質疑応答（20%）・文書レポート（30%）・発表布教（50%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の基本用語が読み書きできて、その意味を語ることができる。
（B）資料や原稿をを見ながら真言密教の法話ができる。
（A）空海名言をベースにした体験談や例話をまじえた法話ができる。
（S）指定された空海名言の法話を創作して、それを人々に語って共感させることができる。

この授業の特徴

現代布教とは、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を利用することである。集めた資料は、推敲とヒラメキと直感によって個性的な内容になる。書き方と話し方にはコツがある。
布教Ｂ（詠歌）と両方受講することが望ましい。

科目名	布教B（詠歌）企画科目（詠歌）
学期	通年
単位数	2
担当者	本間克佰 辻山秀道 雄慈

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：御詠歌を中心に宗教音楽を学び布教活動の実践に生かせる
テ ー マ：宗教音楽を体験実習する

授業の概要

御詠歌の唱え方や理論や歴史を学びながら、その他の宗教音楽にもふれる。
布教活動の実践の参考となるよう学外授業も交えながら楽しい御詠歌をめざす。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーションの後 大師教会で御詠歌大会見学（学外授業）
2．いろは歌／追弔和讃Ⅰ
3．いろは歌／追弔和讃Ⅱ
4．詠歌理論／宗教音楽Ⅰ
5．生誕
6．楊柳Ⅰ
7．楊柳Ⅱ
8．個人発表
9．相互供養和讃／竜華Ⅰ
10. 詠歌理論／宗教音楽Ⅱ
11. めぐみの光かがやきてⅠ
12. めぐみの光かがやきてⅡ
13. 心経和讃Ⅰ
14. 心経和讃Ⅱ
15. 前期総括
16. 実技テスト／講評

【後期】
1．前期履修曲総括
2．相互供養和讃、所作全般（立行）
3．布教活動と実践
4．夢遍路Ⅰ
5．夢遍路Ⅱ
6．楽理／宗教音楽Ⅰ
7．修行和讃Ⅰ竜華の復習
8．修行和讃Ⅱ
9．個人発表
10. 楽理／宗教音楽
11. 入唐求法和讃Ⅰ
12. 入唐求法和讃Ⅱ
13. 法悦歓喜和讃Ⅰ
14. 法悦歓喜和讃Ⅱ
15. 後期曲の復習（実技テストの確認の為）
16. 実技テスト／レポート提出／講評

テキスト

オリエンテーション時にプリントを配布し購入書を指示する。

参考書・参考資料等

オリエンテーション時にプリントを配布し購入書を指示する。

学生に対する評価

レポート（20%）、発表／実技（50%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）一人で数曲を安定して唱える事ができ、所作もできる。
（B）２～３曲を安定して唱え、所作も少し出来る。
（A）一人でお唱えだけ出来る。
（S）他の人と一緒に唱える事が出来る。

その他

布教Ａと両方受講することが望ましい。

科目名	漢字Ⅰ
学期	通年
単位数	2
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：1．各時代の古典臨書の基本的認識。
2．漢字を扱う上での歴史的関連性の認識。
3．臨書で培った基礎を原点に創作する。
テ ー マ：
【前期】唐代楷書：顔真卿「多寶塔碑」、褚遂良「雁塔聖教序」。
２回目以降の受講生…北魏系楷書「張猛龍碑」、「張玄墓誌」。
【後期】（篆書）秦代「嶧山刻石」、清代鄧石如「白氏草堂記」、呉讓之「崔子玉座右銘」
２回目以降の受講生…（隷書）漢代「禮器碑」（必須）、「曹全碑」、「張遷碑」、「石門頌」（三点の中から2つを選ぶ）

授業の概要

本講座は基本的に古典臨書を根底とし、形臨、背臨を経て、学生同士で切磋琢磨し、最後は個々に作品制作を行う。方法としては、国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根底にした指導を行う。

授業計画

1．ガイダンス
2．顔真卿「多寶塔碑」
（２回目の受講生は「張猛龍碑」）①
3．顔真卿「多寶塔碑」（ 〃 ）②
4．顔真卿「多寶塔碑」（ 〃 ）③
5．褚遂良「雁塔聖教序」
（２回目の受講生は「張玄墓誌」）①
6．褚遂良「雁塔聖教序」（ 〃 ）②
7．褚遂良「雁塔聖教序」（ 〃 ）③
8．前半半紙臨書作品の提出。
9．二つの法帖を比較臨書①
10. 二つの法帖を比較臨書②
11. 自分で法帖を１つに絞り再度臨書する。
12. 写経創作①
13. 写経創作②
14. 写経創作③
15. 予備
16. 写経作品提出

1．『嶧山刻石』（２回生以上は『礼器碑』）①
2．『嶧山刻石』（ 〃 ）②
3．『嶧山刻石』（ 〃 ）③
4．鄧石如『白氏草堂記』（２回生以上は『礼器碑』以外を自分で選択）①
5．鄧石如『白氏草堂記』（ 〃 ）②
6．鄧石如『白氏草堂記』（ 〃 ）③
7．前半半紙臨書作品の提出。
呉讓之『崔子玉座右銘』
（２回目の受講生はやっていない隷書を自分で選択）①
8．呉讓之『崔子玉座右銘』（ 〃 ）②
9．呉讓之『崔子玉座右銘』（ 〃 ）③
10. 自分で法帖を１つに絞り再度臨書する。①
11. 自分で法帖を１つに絞り再度臨書する。②
12. 半切の制作①
13. 半切の制作②
14. 半切の制作③
15. 予備
16. 作品提出

テキスト

・二玄社法書選（二玄社）：
40 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』/56『鄧石如集』、58『呉熙載集』
２回目の受講生……23『張猛龍碑』、26『墓誌銘集･下』/ 3『石門頌』、5『礼器碑』、8『曹全碑』、9『張遷碑』
※ 写経用紙セット LA26-59

参考書・参考資料等

・字書：『字源』、伏見冲敬編『書道字典』（角川書店）、『清人篆隷字典』（雄山閣）等
・その他必要に応じてプリントを配布する。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（素点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）形臨ができる。
（B）背臨ができる。
（A）臨書を基にした高いレベルでの創作できる。
（S）長落款を含めた高いレベルでの創作ができる。

その他

・筆（太筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、半紙、文鎮は個々に準備のこと。また創作用の半切画宣紙の使用については、レベルに合わせて個々に指示をする。
・書道実技の講座として、毎回の課題が課される。
・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。
・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。

科目名	かなⅠ
学期	通年
単位数	2
担当者	塩野三恵子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：【前期】「かな」成立の歴史を知り、行書き～ちらし書きのかな創作ができる。
【後期】古筆の臨書方法を理解できる。
テ ー マ：【前期】細筆の使い方・墨の使い方を身につけ、かなの美を知る。
【後期】古筆の臨書方法を理解する。

授業の概要

【前期】日本独自の文字「かな」の成立の歴史を知り、その字母を覚える。かなの技術を身につける。
【後期】古筆を読み取り実習する。

授業計画

【前期】
1．講義目標・概要の解説 ・アンケート
2．かな成立の歴史を解説 ・かなの基本線の練習
3．「いろは歌」による単体練習・字母説明
4．「変体仮名」解説・実習・ 字母テスト
5．「いろは歌」単体、作品提出
6．連綿の解説・実習（二字連綿・三字連綿）
7．連綿の解説・実習（多字連綿）
8．行書きの実習1
9．行書きの実習2
10. 行書きの実習3
11. ちらし書きの解説・実習1
12. ちらし書きの実習2
13. ちらし書き創作1
14. ちらし書き創作2
15. ちらし書き創作3、作品提出
16. ちらし書き創作まとめ

【後期】
1．古筆臨書（高野切第１種）１（高野切解説）
2．古筆臨書（高野切第１種）２
3．古筆臨書（高野切第１種）３
4．古筆臨書（高野切第１種）４
5．古筆臨書（高野切第１種）５
6．古筆臨書（高野切第１種）６ 作品提出
7．古筆臨書（高野切第３種）１
8．古筆臨書（高野切第３種）２
9．古筆臨書（高野切第３種）３
10. 古筆臨書（高野切第３種）４
11. 古筆臨書（高野切第３種）５
12. 古筆臨書（高野切第３種）６ 作品提出
13. 古筆臨書（高野切第１種・第３種）作品提出
14. 古筆臨書（高野切第１種・第３種）背臨１
15. 古筆臨書（高野切第１種・第３種）背臨２
16. 古筆臨書まとめ

テキスト

プリント・「日本名筆選１高野切第１種」二玄社・「日本名筆選５高野切第３種」二玄社

参考書・参考資料等

二玄社の法帖・古筆全般・かな字典

学生に対する評価

授業提出課題（70%）、授業への主体的な取り組み姿勢・態度（30%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な筆使いができている。
（B）かな創作、古筆の臨書ができる。
（A）かな創作、古筆の臨書が確実にできる。
（S）高いレベルでの創作、臨書が自分でできる。

その他

・筆（小筆）、墨、かな半紙、毛氈、文鎮、創作用の半懐紙、高野切練習用臨書用紙は個々に準備のこと。
・粘り強く実習に取り組むこと。授業以外の課題が課される。

科目名	キャリアカウンセリングⅠ―1 キャリアデザインⅠ
学期	前期
単位数	2
担当者	高田綾子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：大学生活と社会の接点、職業観を養うとともに、キャリア形成の基本となる自己表現や自己形成の考え方を習得する。
テ ー マ：キャリアデザインのためのスタートアップ

授業の概要

①これまでの自分の目的意識、価値観、経験などを振り返りながら、将来のキャリアを見据え大学で学ぶことの意味を考え、現時点でできること、これから学習していくことは何かを、学生同士が議論しながら進める。
②主体性、コミュニケーション能力など、社会人になる前段階として必要な基本スキルを、体感ワークを通じて身につけていく。

授業計画

1．キャリアとは何かを考える
2．大学生活を考える①（大学生と高校生の違い・役割）
3．大学生活を考える②（これまでの歩みを整理する）
4．大学生活を考える③（学びの意味を考え目標を立てる）
5．大学生活を考える④（ボランティア活動）
6．コミュニケーション力をつける①（基礎づくり①）
7．コミュニケーション力をつける②（基礎づくり②）
8．コミュニケーション力をつける③（傾聴）
9．コミュニケーション力をつける④（伝える）
10．コミュニケーション力をつける⑤（プレゼンテーション）
11．コミュニケーション力をつける⑥（アンガーマネジメント）
12．コミュニケーション力をつける⑦（アサーション）
13．コミュニケーション力をつける⑧（ホスピタリティ）
14．コミュニケーション力をつける⑨（チーム・ビルディング）
15．成果と課題を考える

テキスト

齊藤博・上本裕子『大学１年からのキャリアデザイン実践』
（八千代出版）「書店で購入」
教員作成の資料

参考書・参考資料等

平木典子「アサーション・トレーニング ―さわやかな〈自己表現〉のために」（金子書房）
大山雅嗣「コミュニケーションスキルワークブック 15 講」
（公益財団法人日本生産性本部）
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解している。
（B）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解し、その内容を説明できる。
（A）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解した上で、他人の意見を尊重して聞き、正しく理解し、自分の意見を分かりやすく表現できる。
（S）グループでの討論や議論において適切な手順・手段を用いて、グループの中での意見を自分なりにまとめ、分かりやすくメンバーに伝えることができる。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

科目名	企画科目（キャリアカウンセリングⅠ―2） キャリアデザインⅡ
学期	後期
単位数	2
担当者	高田綾子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：自己理解を深め、働くことの本質を理解し、就労への関心を高める。職業社会を理解する上で必要な基礎知識を習得する。
テ ー マ：キャリアデザインのための基礎的自己理解

授業の概要

①自分自身を見つめ、キャリアデザインのための自己理解を深める。
②アセスメントを活用しながら自分の興味関心、能力を認識するとともに、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。
③グループワークを通して、人間関係形成・社会形成能力やコミュニケーション能力を高めるとともに課題対応能力や将来に向けたキャリアプランニング能力も身につける

授業計画

1．自己理解とキャリアデザインについて考える
2．自分らしさについて考える①（自分らしさとは）
3．自分らしさについて考える②（性格）
4．自分らしさについて考える③（興味）
5．自分らしさについて考える④（価値観）
6．職業興味の探索①（職業レディネス・テストの実施）
7．自分らしさについて考える⑤（自己概念）
8・キャリアデザインの理解
9．キャリアデザインに必要な考え方
10．キャリアデザインの意識
11．ワークキャリアとライフキャリア①
12．ワークキャリアとライフキャリア②
13．就労をイメージする
14．職業興味の探索②（職業レディネス・テスト結果によるグループワーク）
15．キャリアプランを作り実行する

テキスト

教員作成の資料
齊藤博・上本裕子『大学１年からのキャリアデザイン実践』（八千代出版）
「書店で購入」

参考書・参考資料等

大山雅嗣「キャリアデザインワークブック 15 講」
（公益財団法人日本生産性本部）
中嶌剛「キャリアデザイン入門テキスト」（学事出版）
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解できる。
（B）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。
（A）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。また、グループワークでわかりすく他者に説明することができる。
（S）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、将来を展望しキャリアプランニングについて考えることができる。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

科目名	キャリアカウンセリングⅡ―1
学期	前期
単位数	2
担当者	高田綾子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：職場や地域社会で多様な人々と仕事・社会生活をしていくために社会人として必要な基礎的な力について、知識の習得だけにとどまらず、行動に繋げる。
テ ー マ：社会人基礎力

授業の概要

グループディスカッション等を通じて実践しながら社会人基礎力である「３つの能力・12 の能力要素」を学び、その能力要素について現在の自分を振り返り、その能力要素を強化するために今日から実践することを考える。また、近年の働き方や生き方の変化に伴い提唱されている新たな社会人基礎力について学ぶことにより、より中長期的な視点に立った必要な能力について考える。

授業計画

1．人生設計とキャリアデザインを考える
2．社会人の心構えと求められる能力
3．社会人基礎力（前に踏み出す力①－主体性）
4．社会人基礎力（前に踏み出す力②－実行力）
5．社会人基礎力（前に踏み出す力③－働きかけ力）
6．社会人基礎力（考え抜く力①－課題発見力）
7．社会人基礎力（考え抜く力②－計画力）
8．社会人基礎力（考え抜く力③－創造力）
9．社会人基礎力（チームで働く力①－発信力）
10．社会人基礎力（チームで働く力②－傾聴力）
11．社会人基礎力（チームで働く力③－柔軟性）
12．社会人基礎力（チームで働く力④－状況把握力）
13．社会人基礎力（チームで働く力⑤－規律性）
14．社会人基礎力（チームで働く力⑥－ストレスコントロール力）
15．人生 100 年時代に求められる能力

テキスト

山﨑 紅『社会人基礎力講座』（日経ＢＰ社）「書店で購入」

参考書・参考資料等

新井明・玄田有史「キャリア基礎講座テキスト」（日経ＢＰ社）
井下千以子「思考を鍛える大学の学びの入門」（慶応義塾大学出版会）
森岡孝二「就職とは何か」岩波新書
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会基礎力について理解している。
（B）社会基礎力について理解し、積極的な意見の発表、質問ができる。
（A）社会人基礎力について理解し、テーマについてセルフワークができ、グループワークで議論できる。
（S）社会人基礎力について理解し、テーマについてプレゼンテーションやマネジメントができる。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

科目名	企画科目（キャリアカウンセリングⅡ―2）
学期	後期
単位数	2
担当者	高田綾子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：産業（業種）・職種・企業についての理解を促進し、仕事の世界を拡げるとともに、現代社会における多様な働き方の現状を理解する。
テ ー マ：キャリアデザインのための職業理解

授業の概要

①産業・業種・職業の定義を理解し、産業と職業の両面から就職先を考える必要性を学ぶ。
②アセスメントツールを用いて自分の興味ある分野を考え自己理解を深める。
③職業情報収集を通じて、職業の世界を知り、職業への関心の幅を拡げる。

授業計画

1．「社会人」と「働くこと」
2．現代社会の多様な働き方を知る
3．企業のしくみを知る
4．産業・業種と業界研究①
5．産業・業種と業界研究②
6．職業（職種）を知る
7．資格・免許と職業
8．職業理解と自己理解の深化
9．職業情報の収集
10．社会人インタビュー情報から学ぶ①
11．社会人インタビュー情報から学ぶ②
12．社会人インタビュー情報から学ぶ③
13．社会人インタビュー情報から学ぶ④
14．社会人インタビュー情報から学ぶ⑤
15．今後の社会と生き方を考える

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

岩松養亮・下村英雄『大学生のキャリアガイダンス論』（金子書房）
北浦正行『実践キャリアデザイン論 30 講』（日本生産性本部）
森岡孝二『就職とは何か』（岩波新書）
『会社四季報　業界地図』（東洋経済新報社）
リンダ グラットン他『ＬＩＦＥ　ＳＨＩＦＴ－１００年時代の人生戦略』
（東洋経済新報社）
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業への参加度・学習態度（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解している。
（B）職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解した上で、内容を適切な文章で表現できる。
（A）職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて考えることができる。
（S）職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考え、そのために必要な行動を実践することができる。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

科目名	キャリアカウンセリングⅢ－1
学期	前期
単位数	2
担当者	高田綾子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：労働法や働き方改革が必要とされる労働者を取り巻く問題を理解し、望ましい職場環境のあり方を主体的に考えていくために必要なスキルを習得する。大学卒業時点での「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。
テ ー マ：就職活動の意識づけと行動化

授業の概要

①労働法を理解し、グループワークを通じて望ましい労働環境について考える。
②志望する業界や職種の研究と自己分析を通じて就職に対する意識を高める。社会に対する視野を広げ、就職活動の進め方や必要なスキルを身につける。
③演習、フィードバック等による実践的な授業により、社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力について考える。

授業計画

1．就職活動の流れと労働市場について知る
2．働くときに知っておきたい法律・制度①
3．働くときに知っておきたい法律・制度②
4．働くときに知っておきたい法律・制度③
5．働くときに知っておきたい法律・制度④
6．働くときに知っておきたい法律・制度⑤
7．ワークライフバランスと多様な働き方
8．メンタルヘルスとストレスマネジメント
9．職業生活での様々な問題を考える
10. 社会の変化とライフプラン
11. インターンシップを考える①（必要性、目標）
12. インターンシップを考える②（ビジネスマナーとは何か）
13. インターンシップを考える③（ビジネスにおけるコミュニケーション法）
14. インターンシップを考える④（非対面的なコミュニケーションのあり方）
15. インターンシップを考える⑤（人間関係のあり方）

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

『ポケット労働法 2018』『就活必携・労働法』（東京都産業労働局）
『知って役立つ労働法』（厚生労働省）
『働くときのＡ・Ｂ・Ｃ』(全国労働基準関係団体連合会)
長谷川文代・飯塚純一・小松由美
『ワークで学ぶインターンシップリテラシー』（モリモト印刷）
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストの内容及び社会人に必要な能力を理解している。
（B）テキストの内容及び社会人に必要な能力を理解し、演習について基本動作ができる。
（A）テキストの内容を理解し、社会人に必要な能力を説明でき、演習について基本動作がスムーズにできる。
（S）テキストの内容を理解し、社会人に必要な能力を身に着け、演習について基本動作ができる上に、日々の行動で実践できている。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

科目名	企画科目（キャリアカウンセリングⅢ－2）
学期	後期
単位数	2
担当者	高田綾子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：自己の能力を確認し、就職活動に必要なスキルを習得する。大学卒業時点での「就職」をゴールとするのではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。
テ ー マ：就職活動の意識づけと行動化

授業の概要

①志望する業界や職種の研究と自己分析を通じて就職に対する意識を高める。社会に対する視野を広げ、就職活動の進め方や必要なスキルを身につける。
②演習、フィードバック等による実践的な授業により、社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力を養う。

授業計画

1．インターンシップの経験を整理する
2．働くための能力、興味、価値観を知る
3．働く時の行動特性や性格・傾向を知る
4．職業への興味や能力から適職を探す
5．求人情報収集と企業分析
6．キャリア・プランシートの作成①
7．キャリア・プランシートの作成②
8．キャリア・プランシートの作成③
9．働く上での基礎的適性能力①
10. 働く上での基礎的適性能力②
11. 面接演習①（面接の流れと心構え）
12. 面接演習②（想定質問演習）
13. 面接演習③（グループ面接）
14. 面接演習④（個人面接）
15. 面接演習⑤（グループディスカッション）

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

本間啓二・山本公子・金屋光彦『４訂版 キャリアデザイン概論』（雇用問題研究会）
『一般常識チェック＆マスター』（実教出版）
他は授業中に紹介する

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（40%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会人に必要な能力を理解している。
（B）社会人に必要な能力を理解し、書類作成・演習について基本動作ができる。
（A）社会人に必要な能力を説明でき、書類作成・演習について基本動作がスムーズにできる。
（S）社会人に必要な能力を身に着け、書類作成・演習についてアピール性の高い基本動作ができる上に、日々の行動で実践できている。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。

科目名	総合科目（インターンシップ）
学期	集中
単位数	2
担当者	就職担当

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：インターンシップを体験することによって、職業意識を涵養し、各自のキャリア設計を具体化する。
テ ー マ：インターンシップ

授業の概要

大学が指定する高野町役場やわかやまインターンシップ、堺・南大阪インターンシップなどに参加して職業体験を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業計画

1．事前指導
2．職業体験①
3．職業体験②
4．職業体験③
5．職業体験④
6．職業体験⑤
7．職業体験⑥
8．職業体験⑦
9．職業体験⑧
10. 職業体験⑨
11. 職業体験⑩
12. 職業体験⑪
13. 職業体験⑫
14. 職業体験⑬
15. 事後指導

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

村山昇・若田紗希『働き方の哲学 360 度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018 年
その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート（30%）、授業参加の積極性（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）キャリア形成について理解している。
（B）キャリア研修に積極的に参加できる。
（A）キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

その他

・インターンシップについては、5月、6月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。
・インターンシップは企業に受入れを依頼するので、最低限のビジネスマナーを心得ておく必要がある。
・関連授業として、キャリアカウンセリングⅢ-１、キャリアカウンセリングⅢ-２を同時に受講すること。

科目名	企画科目（キャリア研修）
学期	集中
単位数	2
担当者	人間学科主任

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：研修を体験することによって、職業意識を涵養する。
テ ー マ：学外研修プログラム

授業の概要

大学が指定する南大阪地域大学コンソーシアムなどのキャリア研修を受講し、担当大学から単位認定を受ける。

授業計画

1．事前指導
2．キャリア研修①
3．キャリア研修②
4．キャリア研修③
5．キャリア研修④
6．キャリア研修⑤
7．キャリア研修⑥
8．キャリア研修⑦
9．キャリア研修⑧
10. キャリア研修⑨
11. キャリア研修⑩
12. キャリア研修⑪
13. キャリア研修⑫
14. キャリア研修⑬
15. 事後指導

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

村山昇・若田紗希『働き方の哲学 360 度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018 年
その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート（30%）、授業参加の積極性（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）キャリア形成について理解している。
（B）キャリア研修に積極的に参加できる。
（A）キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

その他

・研修プログラム等については、7月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。
・プログラムによっては参加費が必要である。

科目名	祖典講読ⅠA・B 真言宗典講読1―1（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	B A 土松 居長 夏恵 樹史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の原典に親しみ、その根本思想を把握することを目標とする。

テ ー マ：『即身成仏義』を読む

授業の概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．成仏思想とは？－三劫成仏と即身成仏－
3．『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4．『即身成仏義』を読む（1）発端問答
5．　〃　（2）二経一論八箇の証文①
6．　〃　（3）二経一論八箇の証文②
7．　〃　（4）二経一論八箇の証文③
8．　〃　（5）二頌八句①
9．　〃　（6）二頌八句②
10．　〃　（7）二頌八句③
11．　〃　（8）「六大無碍にして常に瑜伽なり」①
12．　〃　（9）「六大無碍にして常に瑜伽なり」②
13．　〃　（10）「六大無碍にして常に瑜伽なり」③
14．　〃　（11）「六大無碍にして常に瑜伽なり」④
15．前期まとめとテスト①
16．前期まとめとテスト②

テキスト

高野山大学編『十巻章』、高野山大学出版部

参考書・参考資料等

その他、授業において指示します。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など（40%）、テスト（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）「発端問答」と「二頌八句」を暗誦できる。
（B）「二経一論八箇の証文」について理解している。
（A）即身成仏思想の特徴を、自分の言葉で説明できる。
（S）即身成仏思想の特徴を、原典資料から説明できる。

その他

毎回受講者に素読してもらいますので、必ず予習をすること。

科目名	祖典講読ⅡA・B 真言宗典講読1―2（別）
学期	後期
単位数	2
担当者	B A 土松 居長 夏恵 樹史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の原典に親しみ、その根本思想を把握することを目標とする。

テ ー マ：『即身成仏義』を読む

授業の概要

『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカヴァーして、テクストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後には、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。

授業計画

1．概論と前期の復習
2．『即身成仏義』を読む（12）「六大能生」①
3．　〃　（13）「六大能生」②
4．　〃　（14）「六大の顕密／無碍自在の身」
5．　〃　（15）「四種曼荼各不離」①
6．　〃　（16）「四種曼荼各不離」②
7．　〃　（17）「三密加持速疾顕」①
8．　〃　（18）「三密加持速疾顕」②
9．　〃　（20）「三密加持速疾顕」③
10．　〃　（21）「重重帝網名即身」
11．　〃　（22）「法然具足薩般若」①
12．　〃　（23）「法然具足薩般若」②
13．　〃　（24）「心数心王過刹塵／各具五智無際智」
14．　〃　（25）「円鏡力故実覚智」
15．後期まとめとテスト①
16．後期まとめとテスト②

テキスト

高野山大学編『十巻章』、高野山大学出版部

参考書・参考資料等

授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など（40%）、テスト（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『即身成仏義』全体を素読できる。
（B）六大・四曼・三密の概念を理解している。
（A）六大・四曼・三密の関係を説明できる。
（S）「即身の頌」と「成仏の頌」の関連を説明できる。

その他

毎回受講者に素読してもらうので、必ず予習をすること。

科目名	祖典講読ⅢA 真言宗典講読2―1（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『菩提心論』の講読を通して密教瞑想法の理解を深めることを目的とする。

テ ー マ：『菩提心論』の研究

授業の概要

『菩提心論』は勝義、行願、三摩地の三種心を説く。このうち、三摩地段は古来不読段に触れる場合が少なくない。そこで今回は、『菩提心論』の三摩地段に着目して講義を進める。『菩提心論』の講読を通して密教の構造を解明する端緒としたい。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『菩提心論』梗概
3．『菩提心論』梗概
4．『菩提心論』梗概
5．『菩提心論』「菩提心の概説」①
6．『菩提心論』「大悲行願心について」②
7．『菩提心論』「大悲行願心について」③
8．『菩提心論』「大智勝義心について」④
9．『菩提心論』「大智勝義心について」⑤
10．『菩提心論』「大智勝義心について」⑥
11．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑦
12．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑧
13．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑨
14．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑩
15．三種心の総復習とレポート提出
16．総括

テキスト

高野山大学編『十巻章』高野山出版

参考書・参考資料等

吉祥真雄著『菩提心論講説』藤井佐兵衛
小田慈舟著『十巻章講説』高野山出版社
田中千秋著『田中千秋著作講話集』高野山出版社
生井智紹編『密教　自心の探求『菩提心論』を読む』大法輪閣

学生に対する評価

授業参加への積極性（40%）　レポート（60%）とし評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる
（B）原典の基本的な内容を理解できる
（A）原典にしたがって全体像を理解できる
（S）原典の内容を注釈書に沿って理解できる

その他

科目名	祖典講読ⅢB
学期	前期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の著作に親しみつつ、教相判釈および仏身論の基礎知識を習得し、顕密教判の基本を理解する。

テ ー マ：『弁顕密二教論』巻上を読む （1）

授業の概要

弘法大師空海の『弁顕密二教論』では、法身説法という思想を中心に、密教の特徴が論じられている。この講義では、『弁顕密二教論』巻上を原典から読み進み、「密教とは何か」という問題を考えて行く。前期は特に、教相判釈･仏身論の基礎知識と、『釈摩訶衍論』による顕密教判を中心に進める。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ①－教相判釈とは？ －
3．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ②－仏身論の基礎知識 －
4．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ③－顕密対弁の変遷 －
5．『弁顕密二教論』巻上を読む
（1）顕教と密教 ① 顕教とは？
6．　〃　（2）顕教と密教 ② 秘蔵金剛頂経の説
7．　〃　（3）顕教への執着と造論の意義
8．　〃　（4）顕教と密教の違い－法身説法の有無－
9．　〃　（5）仏教思想の伝承＆『二教論』の典拠
10．　〃　（6）『釈摩訶衍論』による顕密教判 ①
『釈摩訶衍論』について
11．　〃　（7）『釈摩訶衍論』による顕密教判 ②
五重問答－ 総問答 －
12．　〃　（8）『釈摩訶衍論』による顕密教判 ③
五重問答－初重～第五重 －
13．　〃　（9）『釈摩訶衍論』による顕密教判 ④
果海問答・因海問答
14．　〃　（10）『釈摩訶衍論』による顕密教判 ⑤
不二摩訶衍・円円海
15．前期テスト
16．前期のまとめ

テキスト

高野山大学編　『十巻章』高野山大学出版部

参考書・参考資料等

中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社、1977 年
栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社、1976 年
金岡秀友『空海　弁顕密二教論』、太陽出版、2003 年
小田慈舟『十巻章講説』下巻、高野山出版社、1985 年
宮坂宥勝監修『空海コレクション』ちくま学芸文庫、2004 年
※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業内での素読（20%）､授業への参加度（20%）､期末レポート（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『弁顕密二教論』の素読ができる。
（B）「仏身論」についての基礎的な説明ができる。
（A）『弁顕密二教論』の引用経論とその特徴について説明できる。
（S）『弁顕密二教論』における法身説法説の特徴を説明できる。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習をすること。
・わからない単語に出会ったら、辞書などを引く習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅣA 真言宗典講読2―2（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『吽字義』の総合的理解
テ ー マ：密教実践の教理的解釈

授業の概要

『吽字義』は『即身義』『声字義』とあわせて三部書といわれる。ところが、内容的には密教の実践法とも密接なかかわりが想定される。そこで、『吽字義』と密教実践について着目してみたい。特に密教教理と密教実践との接点を『吽字義』に探り、多角的総合的に理解を深めたい。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『吽字義』の成立背景
3．『吽字義』の綱領
4．『吽字義』の講読
5．『吽字義』の講読
6．『吽字義』の講読
7．『吽字義』の講読
8．『吽字義』の講読
9．『吽字義』と『阿字観用心口訣』
10．『吽字義』と『阿字観用心口訣』
11．『吽字義』と『秘蔵記』
12．『吽字義』と『秘蔵記』
13．『吽字義』と字輪観
14．『吽字義』と字輪観
15．総復習とレポート提出
16．総括

テキスト

『十巻章』高野山大学出版

参考書・参考資料等

小田慈舟著『十巻章講説』高野山出版社など

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）・試験（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる。
（B）原典の基本的な内容を理解できる。
（A）原典にしたがって全体像を理解できる。
（S）原典の内容を注釈書に沿って理解できる。

その他

科目名	祖典講読ⅣB
学期	後期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の著作に親しみつつ、大師当時の諸宗の教学に関する基礎知識を習得し、大師の定義する密教の特徴を理解する。
テ ー マ：『弁顕密二教論』巻上を読む （2）

授業の概要

前期に引き続き、『弁顕密二教論』巻上を読み進める。この講義では、『弁顕密二教論』巻上に引用された諸宗のテキストおよび大師の解釈、さらにはそれが諸宗の教学本来の立場ではどのように論じられるものであるのか、という点を踏まえつつ、「密教とは何か」という問題を考えて行く。

授業計画

1．前期のまとめと概論（講義の進め方等）
2．『弁顕密二教論』（11）華厳宗の果分不説 ①－「因分可説・果分不可説」－
3．〃（12）華厳宗の果分不説 ②－華厳教学における法蔵解釈－
4．〃（13）華厳宗の果分不説 ③－華厳教学と密教－
4．〃（13）天台宗の果分不説 ①－三諦と随情説・随情智説・随智説－
5．〃（14）天台宗の果分不説 ②－宗極か初住か－
6．〃（15）天台宗の果分不説 ③－『法華経』教主と「或者」－
7．〃（16）法相宗の果分不説 ①－四重二諦と三能変－
8．〃（17）法相宗の果分不説 ②－法相教学における法身説法－
9．〃（18）三論宗の果分不説 ①－八不・無生法忍・有為空・無為空－
10．〃（19）三論宗の果分不説 ②－『般若灯論釈』の仏身論－
11．〃（20）三論宗の果分不説 ③－三論教学の法身説法 －
12．〃（21）二重二諦と密号名字－『智度論』の果分可説－
13．〃（22）五種言説と十種心量－『釈摩訶衍論』の果分可説－
14．〃（23）『菩提心論』による顕密対弁
15．後期テスト
16．後期のまとめ

テキスト

高野山大学編 『十巻章』高野山大学出版部

参考書・参考資料等

中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社、1977 年
栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社、1976 年
金岡秀友『空海 弁顕密二教論』、太陽出版、2003 年
小田慈舟『十巻章講説』下巻、高野山出版社、1985 年
宮坂宥勝監修『空海コレクション』Ⅰ、ちくま学芸文庫、2004 年
※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業内での素読（20%）、授業への参加度（20%）、期末レポート（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『弁顕密二教論』の素読ができる。
（B）「教相判釈」についての基礎的な説明ができる。
（A）『弁顕密二教論』の引用経論とその特徴について説明できる。
（S）『弁顕密二教論』における法身説法説の特徴を説明できる。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習をすること。
・わからない単語に出会ったら、辞書などを引く習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。

科目名	教養講義（人文科学） 企画科目（人文科学）
学期	後期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：歴史・地理・文学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎とする。
テ ー マ：歴史・地理・文学の基礎

授業の概要

歴史・地理・文学の基本について講義をする。前回の講義内容に関する確認テストを行う。

授業計画

1．日本史①原始～古代
2．日本史②中世
3．日本史③近世
4．日本史④近代
5．世界史①アジア史
6．世界史②西洋古代史
7．世界史③西洋中世史
8．世界史④西洋近代史
9．世界史⑤西洋現代史
10．地理①地形と気候
11．地理②農林水産業・鉱工業
12．地理③世界の国々と人間
13．文学 日本・世界の文学作品
14．思想 西洋・日本の思想
15．現代社会を生きるために

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高校で使用した日本史･世界史･地理･現代社会･文学史などの教科書･副教材があれば参考にすること。

学生に対する評価

授業内試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の事象を説明できる。
（A）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の自分のことばで説明できる。
（S）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の問題について解決策を提示できる。

その他

・人間学科の2019年度入学生以降の選択必修科目である。
・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、3、4回生も履修すること。
・高校の教科書などを見直すこと。
・前回の確認をするので、復習をしておくこと。

科目名	教養講義（社会科学） 企画科目（社会科学）
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：社会科学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎とする。
テ ー マ：政治・経済の基礎

授業の概要

政治・経済の基本について講義をする。前回の講義内容に関する確認テストを行う。

授業計画

1．政治①政治原理と政治制度
2．政治②選挙制度
3．政治③政党・圧力団体
4．政治④行政
5．政治⑤地方自治
6．政治⑥国際連合・国際社会
7．法律①法律概論
8．法律②日本国憲法
9．法律③民法・刑法・その他
10．経済①需要・供給・市場
11．経済②国民所得・経済政策
12．経済③金融政策
13．経済④財政・租税
14．経済⑤貿易体制
15．経済⑥経済史

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高校で使用した現代社会や政治経済などの教科書・副教材があれば参考にすること。

学生に対する評価

授業内試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明した政治・経済の基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した政治・経済の事象を説明できる。
（A）授業で説明した政治・経済の事象を自分のことばで説明できる。
（S）授業で説明した政治・経済の問題について解決策を提示できる。

その他

・人間学科の2019年度入学生以降の選択必修科目である。
・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、3、4回生も履修すること。
・高校の教科書などを見直すこと。
・前回の確認をするので、復習をしておくこと。

科目名	教養講義（人権論） 現代の人権 人権と福祉（別）
学期	後期
単位数	2
担当者	竹村和也

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で理解すること、及び批判的思考ができること。

テ ー マ：現代社会における人権

授業の概要

授業はパワーポイントを利用し講義形式とする。

現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきている。本講義は、憲法を中心に、憲法上の権利と権利の現代的展開に焦点を当てながら、法的な側面から現代社会を理解しようとする試みである。

講義形式での授業ですが、授業の中で議論を試みる。

授業計画

社会において現代の人権と関わる新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱うとともに、参加する学生諸君の関心にもなるべく、応えていこうと思うので、適宜変更の可能性がある。

1．イントロダクション
2．人権を守る仕組み（統治機構）①
3．人権を守る仕組み（統治機構）②
4．人権を守る仕組み（基本原理）①
5．人権を守る仕組み（基本原理）②
6．国際的人権保障（紛争と人権）
7．国際的人権保障（国際的な人権保障の枠組み）①
8．国際的人権保障（国際的な人権保障の枠組み）②
9．憲法総論（幸福追求権・自己決定権）
10. 医療における自己決定権（治療選択の権利・死ぬ権利）
11. 新たな医療技術とそれを用いる権利（子どもを産む権利）①
12. 新たな医療技術とそれを用いる権利（子どもを産む権利）②
13. 臓器移植と臓器の売買？
14. クローン技術規制法
15. 人の選別と優生思想（選択的堕胎と受精卵診断）

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（第５版）2018 年

学生に対する評価

定期試験もしくは最終レポート（80%）

授業中のミニッツ・ペーパーや持ち帰りの課題提出、授業への積極的な参加（20%）

授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではない。

授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

期末筆記試験の形式やレポート課題により若干異なる

（C）それなりの努力が読み取れる場合
（B）内容を概ね理解したと思われる場合
（A）授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている場合
（S）授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されていると共に批判的な検討が行われている場合

その他

受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要である。

科目名	教養講義（自然科学） 企画科目（自然科学）
学期	後期
単位数	2
担当者	木地茂典

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：物理的な現象・数学的な思考力を考えたとき、科学に関する社会問題に対し意思決定や科学の重要な発見を自分自身の中に発見し、人間の喜びをみつけられることが望まれる。

自然科学の仕組みをこの講座を通して少しでも認識してくれることを目標とする。

テ ー マ：この日常生活から自然科学を少しでも自分のものにしていくこと。科学の理解をみる目標は、存在の発見・起源の探究・過程の解明・原理の応用という問いかけを通して認識していく。

授業の概要

自然科学という漠然といた講義内容であるが、それぞれの分野に分けて行っていく。学ぶひとつの目的に社会現象についての意思決定があげられるが社会に関係する自然科学の現象について様々な角度からの総合的な意見をもつことの重要性を取り上げる。

授業計画

1．全てに対応できる知力について（序章）
2．教養的な物理（基礎）
3．教養的な科学（基礎）
4．教養的な数学（基礎）
5．物理・数学の融合性について（1）
6．物理・数学の融合性について（2）
7．物理・数学の融合性について（3）
8．科学的な実践問題（1）
9．科学的な実践問題（2）
10. 科学的な実践問題（3）
11. 日常での科学的方法について（1）
12. 日常での科学的方法について（2）
13. 科学の総括的な捉え方について（1）
14. 科学の総括的な捉え方について（2）
15. 総括まとめ（終章）

テキスト

参考資料は、随時提示していく。

参考書・参考資料等

この一冊とは限らず参考資料を紹介する。ＳＰＩ問題を通して実践的な問題を提示する。

学生に対する評価

毎回実践問題を提示し解決度の積み重ねで評価がでる。思考方法を理解していくことが大きな評価に繋がる。

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）思考方法を知る姿勢が感じられること。
（B）論理性に気がつきより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
（A）論理性に理解を示そうとして、授業を通して認識・理解を探究できること。
（S）論理的に理解ができていて、授業を通じて認識・理解できていること。

その他

科学の理論は、自然界の普遍的な真理を表すとともに、有る科学者の創造力による芸術作品と云えるものが数多く存在する。その一つ一つを少しでも理解の域に混入していく努力をする。

今たくさんの科学の事象で想定外が起ってきているというが、そうではないといえる部分がたくさん存在してきている。そういうところを自分の考え方をもつことを大切にする重要性を解いていく。

科目名	教養講義（数的処理） 企画科目（数的処理）
学期	前期
単位数	2
担当者	木地茂典

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：数的処理の感性づくり、数的処理といえば何よりも数学的判断により事がすすんだという実践感をもてることである。いろいろな志向性が感じられることを目標に考えています。

テ ー マ：実践的な問題を解けるようになること。それに伴い理論的な方法を考えられるようになること。

授業の概要

人間が生きていく上で知っておきたい概念のひとつに数学の考え方がある。それらを駆使したものである数的処理の基本は、小学校の算数の文章題にある。それらを基本からそして実践的になってくる論理思考を説明していく。解くことは難しいことかもしれないが、その仕組みをみていく。

授業計画

1．全てに対応できる思考力の必要性について（序章）
2．教養的な思考力（基礎）～代数編（1）
3．教養的な思考力（基礎）～代数編（2）
4．教養的な思考力（基礎）～幾何編（1）
5．教養的な思考力（基礎）～幾何編（2）
6．教養的な思考力（基礎）～確率編
7．実践的な思考力編
8．日常的なものとの対比編（1）
9．日常的なものとの対比編（2）
10. 論理編（1）
11. 論理編（2）
12. 論理編（3）
13. 総括まとめ（1）
14. 総括まとめ（2）
15. 総括まとめ（終章）

テキスト

講座を展開する中で、必要に応じて提示していく。

参考書・参考資料等

展開していく中で、毎回参考資料は提示するが、その都度参考書は提示していく。

学生に対する評価

基本的には、毎回問題提示する中で解けることで評価を決めていくが、一概にそうとは限らず理解度の評価になる。数学的な問題だが、単に解ければいいということではない。そこに注意してほしい。

楽しさが常にある講座にしていくので、この講座では思考の表現力が必要である。

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）すべて一般的に求める姿勢を感じられること
（B）論理性に気がつきより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
（A）論理性に理解を示そうとして、授業を通して認識・理解を探究できること。
（S）論理的に理解ができていて、授業を通じて認識・理解できていること。

その他

数的推理から連想するものは、どういうものでしょうか？ＳＰＩ問題からよく聞く単語でもあるが、この機会に論理性を推理してもらいたいと考えている。

科目名	加行Ⅰ 企画科目（加行Ⅰ）
学期	実習
単位数	1
担当者	密教学科主任

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

テ ー マ：加行（前期）の実践

授業の概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（前期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は前期加行（十八道／金剛界）とし、事後のレポートを作成する。

授業計画

加行Ⅰは、以下の手順を経て評価する。

1．加行申し込み：前期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2．前期加行①
3．前期加行②
4．前期加行③
5．前期加行④
6．前期加行⑤
7．前期加行⑥
8．前期加行⑦
9．前期加行⑧
10. 前期加行⑨
11. 前期加行⑩
12. 前期加行⑪
13. 前期加行⑫
14. 前期加行⑬
15. 前期加行結願後：掲示される所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。受講登録はこの時点で行うこと。

テキスト

加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

学生に対する評価

加行結願（50%）、事後レポート：テーマ「前期加行を終えて」2,000 字程度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）前期加行の結願、および事後レポートの提出。
（B）上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
（A）上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
（S）上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

その他

・加行そのものへの単位授与ではないので、注意すること（集団加行のルールを厳守すること）。
・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。
・結願していない者のレポート提出は認めない。
・事後レポートの未提出者の単位は認めない。
・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。
・加行を途中で辞退した場合は、「巡礼・遍路」「ボランティア」への受講登録変更を認める。

科目名	企画科目（加行Ⅱ）加行Ⅱ
学期	実習
単位数	1
担当者	密教学科主任

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。
テ ー マ：加行（後期）の実践

授業の概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（後期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は後期加行（胎蔵／護摩）とし、事後のレポートを作成する。

授業計画

加行Ⅱは、以下の手順を経て評価する。
1．加行申し込み　：後期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2．後期加行①
3．後期加行②
4．後期加行③
5．後期加行④
6．後期加行⑤
7．後期加行⑥
8．後期加行⑦
9．後期加行⑧
10．後期加行⑨
11．後期加行⑩
12．後期加行⑪
14．後期加行⑬
15．後期加行成満後：掲示される所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。

テキスト

加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

学生に対する評価

加行成満（50%）、事後レポート：テーマ「後期加行を終えて」2,000 字程度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）後期加行の成満、および事後レポートの提出。
（B）上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
（A）上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
（S）上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

その他

・加行そのものへの単位授与ではないので、注意すること（集団加行のルールを厳守すること）。
・受講登録は後期加行成満後、事後レポート提出時に行うこと。
・成満していない者のレポート提出は認めない。
・事後レポートの未提出者の単位は認めない。
・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。
・加行を途中で辞退した場合は、「巡礼・遍路」「ボランティア」への受講登録変更を認める。

科目名	企画科目（ボランティア）ボランティア
学期	集中
単位数	2
担当者	人間学科主任

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：ボランティア活動を通じて倫理観や社会貢献の精神、公共性や社会性の意識を身につける。実社会において行動できるようになる。
テ ー マ：ボランティア実習

授業の概要

大学から指定された実習先において、合計 40 時間以上のボランティア実習を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。
実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業計画

1．事前指導
2．ボランティア実習①
3．ボランティア実習②
4．ボランティア実習③
5．ボランティア実習④
6．ボランティア実習⑤
7．ボランティア実習⑥
8．ボランティア実習⑦
9．ボランティア実習⑧
10．ボランティア実習⑨
11．ボランティア実習⑩
12．ボランティア実習⑪
13．ボランティア実習⑫
14．事後指導①
15．事後指導②

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

守本 友美・河内 昌彦・立石 宏昭・岡本 栄一『ボランティアのすすめ―基礎から実践まで（実践のすすめ）』ミネルヴァ書房、2005 年
その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（10%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）ボランティアについて理解している。
（B）ボランティア実習に積極的に参加できる。
（A）ボランティア実習の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもボランティアに積極的に参加できる。

その他

実習先、実習期間等については、４月に告知する。

科目名	企画科目（巡礼・遍路）巡礼・遍路
学期	実習
単位数	2
担当者	密教学科主任

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：巡礼や遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養するとともに、計画を立てて実行し、報告する能力を身に付ける。
テ ー マ：巡礼・遍路の体験

授業の概要

一定期間日常を離れ、四国八十八ヶ所や西国三十三観音などの一部を巡礼することで、座学では得られない、体験を通した心身の覚醒を図ることを目的としている。実習時間は 40 時間とし、事前に実習計画書を作成し、実習中には実習日誌、事後には実習レポートを作成する。

授業計画

巡礼・遍路は、以下の手順を経て評価する。
1．事前説明会　：事前説明会に出席する（日程等は掲示にて告知する）。この際に実習計画書・実習日誌を配布するので、受領すること。
2．実習計画書の作成：実習計画書を作成する。実習が複数年度にわたる場合は、実習の都度、計画書を出すこと。
3．実習計画書の提出：実習計画書を教務課窓口に提出する（実習予定の1週間前まで）。
4．実習許可　：提出した実習計画書に基づいて実習の可否が判断され、結果が掲示で告示される。不許可の場合は、実習計画書を修正して再提出する。
5．巡礼・遍路①
6．巡礼・遍路②
7．巡礼・遍路③
8．巡礼・遍路④
9．巡礼・遍路⑤
10．巡礼・遍路⑥
11．巡礼・遍路⑦
12．巡礼・遍路⑧
13．巡礼・遍路⑨
実習計画書に基づいて、実習を開始する。実習期間中は１日４時間以上、８時間以内とする。40時間分の実習を行い、実習日誌を完成させる。なお、実習は複数年にわたってもよいが、実習日誌は。
14．実習終了　：実習終了後は、実習レポートを作成する。
15．実習日誌等の提出：実習日誌・実習レポートを提出する（受講登録はこの時点で行う）。

テキスト

特に無し。

参考書・参考資料等

各自の希望にあわせて随自指導する。

学生に対する評価

実習計画書（25%）、実習日誌（30%）、実習レポート（25%）、事後報告会（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）巡礼・遍路を自分で建てた計画に従って実施・報告できる。
（B）巡礼・遍路の体験以前と以後の違いを説明できる。
（A）巡礼・遍路の体験の意味を大まかに説明できる。
（S）巡礼・遍路の体験の意味を客観的に説明できる。

その他

・実習は複数年度にわたってもよい。ただし、実習を行う都度に、1週間前までに実習計画書を提出すること。
・履修登録は、40時間分の実習日誌と実習レポートを提出する際に行うこと。
・健康状態や事情に応じた計画を立てること。
・課外授業用の保険に加入すること（事前説明会にて説明する）。
・大学主催の研修旅行などへの参加も認める。

科目名	企画科目（茶道）伝統文化実習（茶道）伝統文化
学期	通年
単位数	2
担当者	岡本文音

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：茶の湯の基本的な所作や点前を修得し、歴史・思想・精神・美意識の理解と考察へと繋げる。
テ ー マ：茶の湯における亭主と客との心の感応

授業の概要

日本の伝統的な文化のひとつである茶の湯の理解を深めるために、初風炉・開炉・初釜などの茶会を経験し、また実際に基本的な所作や点前を修得する。そのうえで受講生自らが茶会を企画し実践し、亭主側と客側の体験をする。それらをとおして、茶の湯の精神や美意識について考える。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス
2．講義　茶事のながれ
3．客の所作と心得１
　お茶のいただき方（薄茶）
4．客の所作と心得２
　席入りの仕方
5．講義　茶道史１
6．盆略点前１　割稽古
7．盆略点前２　割稽古
8．講義　茶の湯の文化１
9．盆略点前３　割稽古
10．盆略点前４　割稽古
11．講義　茶道具について１
12．盆略点前５　通し稽古
13．盆略点前６　通し稽古
14．講義　茶の湯の文化２
15．風炉の茶会（夏茶事）
16．試験・講評

【後期】
1．講義　茶の湯の文化２
2．盆略点前の復習１
3．盆略点前の復習２
4．盆略点前の復習３
5．講義　茶道具について２
6．客の所作と心得３
　お茶のいただき方（濃茶）
7．炉開きの茶会
8．講義　茶道史３
9．茶杓削り
10．茶会の企画と実践１
11．茶会の企画と実践２
12．茶会の企画と実践３
13．講義　茶の湯の文化３
14．新年の茶会（初釜）
15．七事式
16．試験・講評

テキスト

『学校茶道（初級編）』財団法人茶道文化振興財団発行
授業時に一括購入

参考書・参考資料等

谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社
谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社

学生に対する評価

授業時に随時課す提出物 30%　茶会の企画と実践 35%　期末試験 35%

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
（B）基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
（A）客の所作と盆略点前を修得している
（S）茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

その他

実習の費用（茶・菓子・炭）として、前期・後期、それぞれ3,000円必要である。

科目名	伝統文化実習（民俗調査）
学期	通年
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：地域調査法の基礎を習得するとともに、実社会を理解するために、受講生自らが調査計画を立て上で、地域調査を行い、報告書を作成する。
テ ー マ：高野山および周辺集落における課題（社会調査士G科目）

授業の概要

高野山および周辺集落の地域について調査を実施する。まず地域調査の概要ついて説明するとともに、調査地域を実見し、地域の課題を知る。高野町役場などで既存資料を収集した上で、調査計画を立案する。行政や地域住民に対してインタビュー調査を実施する。受講生の報告をもとに、最終的に調査報告書を作成する。

授業計画

1．地域調査の概要
2．テーマを設定する（1）
3．テーマの設定する（2）
4．調査法の確認（1）
　質的調査法
5．調査法の確認（2）
　量的調査法
6．調査計画書の作成（1）
7．調査計画書の作成（2）
8．既存資料の収集（1）
9．既存資料の収集（2）
10．既存資料の収集（3）
11．既存資料の整理・分析
12．観察調査の実施（1）
13．観察調査の実施（2）
14．観察調査の実施（3）
15．観察調査の整理
16．インタビュー調査の実施(1)
17．インタビュー調査の実施(2)
18．インタビュー調査の実施(3)
19．インタビュー調査のデータ整理・分析
20．中間報告（1）
21．追加調査の実施（1）
22．追加調査の実施（2）
23．追加調査の実施（3）
24．中間報告（2）
25．調査報告書の作成（1）
26．調査報告書の作成（2）
27．調査報告書の作成（3）
28．調査報告書の作成（4）
29．受講生の報告（1）
30．調査報告書の修正

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

上野和男他編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館
その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

報告書（50%）、授業中の発言やコミュニケーションカードなど積極的な授業態度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テーマを選び、調査計画を立てることができる。
（B）調査計画に基づいて、調査ができる。
（A）調査に基づき、報告書を作成できる。
（S）学んだことをもとに、自身で調査ができる。

その他

・積極的に授業を参加するとともに、授業外における課題の作成、調査が必要であることを了解した上で履修すること。
・社会調査士G科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	密教学講読演習A
学期	後期
単位数	2
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教尊像の基本的な智識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになることを目的とする。
テ ー マ：図像学における密教尊格の表現、および尊格構成とその譜系について学ぶ。

授業の概要

インドに興り、東南アジア･中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乗仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加える。インドの図像資料としては､『サーダナマーラー』や『ニシュパンナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどる。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．漢訳資料の基本的な扱い方
3．漢文資料の基本的な講読練習①
4．漢文資料の基本的な講読練習②
5．尊格表現方法の基本知識①
6．尊格表現方法の基本知識②
7．尊格表現方法の基本知識③
8．尊格表現方法の基本知識④
9．漢訳図像資料講読①
10．漢訳図像資料講読②
11．密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12．図像資料講読演習①
13．図像資料講読演習②
14．図像資料講読演習③
15．図像資料講読演習④
16．レポート試験・講評

テキスト

大正新脩大蔵経　図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編　『密教を知るためのガイドブック』　法蔵館　1995 年
頼富本宏・下泉全暁　『密教仏像図典』　人文書院　1994 年
佐和隆研　『仏像図典』　吉川弘文館　1962 年

学生に対する評価

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。
レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢訳資料を扱える
（B）密教尊像に関する知識を得る
（A）密教図像に関する資料を扱える
（S）密教図像成立を体系的に理解できる

その他

科目名	密教学講読演習B 観法の理論と実習（別）1
学期	前期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教観法の理解
テ ー マ：月輪観と阿字観の理論と実習（初級）

授業の概要

密教に伝わる瞑想の初級編。密教の代表的な観法の月輪観の理論を解説するとともに実習をおこないながら、秘密儀軌のなかの月輪観の典拠の一つである『無畏三蔵禅要』を講読する。阿字観の基本を『阿字観用心口決』から学ぶ。観法の前行として数息観と阿息観の実習もおこなう。理論だけでなく瞑想の実習を授業に取り入れる。

授業計画

1．顕教と密教における瞑想：目的と種類
2．数息観の理論と実習
3．阿息観の理論と実習
4．月輪観の理論
5．『無畏三蔵禅要』1
6．『無畏三蔵禅要』2
7．『無畏三蔵禅要』3
8．『無畏三蔵禅要』4と月輪観の実習
9．『無畏三蔵禅要』5と月輪観の実習
10．『無畏三蔵禅要』6と月輪観の実習
11．『阿字観用心口決』1
12．『阿字観用心口決』2
13．『阿字観用心口決』3
14．『阿字観用心口決』4と阿字観の実習
15．『阿字観用心口決』5と阿字観の実習
16．『阿字観用心口決』6と阿字観の実習

テキスト

『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』のコピーを配布

参考書・参考資料等

北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）瞑想の基本概念について説明できる。
（B）月輪観と阿字観の実践法を理解し説明できる。
（A）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明できる。
（S）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』の要点を説明でき、密教観法の思想的背景について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
プログラムは改訂される場合がある。
瞑想の実践を毎回行うので、僧侶でない受講者は座りやすい服装で受講すること。
僧侶の受講者は黒衣に如法依で受講する。
その他のことは講師と相談すること。

科目名	密教学講読演習C 観法の理論と実習（別）2
学期	後期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教観法の理解
テ ー マ：阿字観の理論と実習の深み（中級）

授業の概要

密教瞑想の中級編。前期の数息観・月輪観・阿字観の実習と理論を踏まえて、さらに深く阿字観について学んでいくため、頼瑜の『阿字秘釈』を講読する。理論だけでなく阿字観の実践を前期に続けておこなう。

授業計画

1．数息観・月輪観・阿字観について
2．『阿字秘釈』1と阿字観の実習
3．同上2
4．同上3
5．同上4
6．同上5
7．同上6
8．同上7
9．同上8
10．同上9
11．同上10
12．同上11
13．同上12
14．同上13
15．同上14
16．同上15

テキスト

『阿字秘釈』の刊本のコピーを配布

参考書・参考資料等

北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）月輪観と阿字観の実践法を理解し説明できる。
（B）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の要点を解説できる。
（A）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の内容を詳しく説明できる。
（S）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の内容を詳しく説明でき、密教観法の思想的背景について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
プログラムは改訂される場合がある。
瞑想の実践を毎回行うので、僧侶でない受講者は座りやすい服装で受講すること。
僧侶の受講者は黒衣に如法依で受講する。
その他のことは講師と相談すること。

科目名	密教学講読演習D
学期	前期
単位数	2
担当者	川﨑一洋

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：漢文読解力と密教経典や注釈書等に対する知識を培う
テ ー マ：『大日経』「住心品」を読む

授業の概要

真言密教において『金剛頂経』とともに「両部の大経」として重要視される『大日経』の漢訳テキストを読みながら、その内容を学習する。本年度は、悟りとは何か？心とは何か？を説く「住心品」を取り上げる。
受講者が分担してテキストを読解し、講師が、漢訳の『大日経』を読む場合の基本的注釈書である『大日経疏』や、チベット語訳の『大日経』などを参照しながら、解説を加える形式で講義を進める。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『大日経』とはどのような経典か（1）
3．『大日経』とはどのような経典か（2）
4．「住心品」を読む　序
5．「住心品」を読む　三句段（1）
6．「住心品」を読む　三句段（2）
7．「住心品」を読む　三句段（3）
8．「住心品」を読む　三句段（4）
9．「住心品」を読む　九句段・外道段
10．「住心品」を読む　八心段・六十心段
11．「住心品」を読む　三劫段（1）
12．「住心品」を読む　三劫段（2）
13．「住心品」を読む　十地段・六無畏段
14．「住心品」を読む　十喩段
15．まとめ

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

福田亮成『新国訳大蔵経・密教部１　大日経』大蔵出版
頼富本宏『『大日経』入門　慈悲のマンダラ世界』大法輪閣
松長有慶『大日経住心品講讃』大法輪閣
高橋尚夫他『空海とインド中期密教』春秋社　など

学生に対する評価

試験（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
（B）『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
（A）『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	密教学講読演習E
学期	後期
単位数	2
担当者	川﨑一洋

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：漢文読解力と密教経典や註釈書等に対する知識を培う。
テ ー マ：『金剛頂経』を読む－『理趣経』との比較を通して－

授業の概要

真言密教において『大日経』とともに「両部の大経」として重要視される『金剛頂経』の漢訳テキスト（不空訳・三巻本『教王経』）を読み、その内容を学習する。本年度は、序分から、金剛界曼荼羅の三十七尊の出生段までを読む。なお、『金剛頂経』と真言宗の常用経典である『理趣経』は、序分がほぼ同内容であり、金剛界曼荼羅の十六大菩薩は、『理趣経』の八大菩薩を２倍にして成立したことが知られている。この講義では、『金剛頂経』と密接な関係にある『理趣経』（不空訳・『般若理趣経』）も併せて読み、『金剛頂経』の理解を深める。
受講者が分担してテキストを読解し、講師がそれに『金剛頂経』や『理趣経』のサンスクリット原典や注釈書などを参照して解説を加える形式で講義を進める。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『金剛頂経』とはどのような経典か（1）
3．『金剛頂経』とはどのような経典か（2）
4．金剛界曼荼羅概説
5．通序
6．別序
7．五相成身観（1）
8．五相成身観（2）
9．十六大菩薩の出生（1）
10．十六大菩薩の出生（2）
11．十六大菩薩の出生（3）
12．十六大菩薩の出生（4）
13．四波羅蜜と八供養女の出生
14．四摂菩薩の出生
15．まとめ

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

松長有慶他『新国訳大蔵経・密教部４　金剛頂経・理趣経他』大蔵出版
頼富本宏『『金剛頂経』入門　即身成仏への道』大法輪閣
高橋尚夫他『空海とインド中期密教』春秋社
津田真一『梵文和訳　金剛頂経』春秋社
松長有慶『理趣経講讃』　など

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
（B）『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
（A）『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	仏教学講読演習A
学期	
単位数	2
担当者	前谷彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教思想の基本を、仏教における最古の経典と目されている『スッタニパータ』の講読を通して理解して行く。
テ ー マ：ブッダのおしえとはいかなるものであったか。

授業の概要

『スッタニパータ』の講読を通して、ブッダの肉声に迫り、仏教思想の根幹を学んで行く。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『スッタニパータ』という経典について解説する。
3．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。①
4．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。②
5．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。③
6．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。④
7．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑤
8．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑥
9．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑦
10．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑧
11．『スッタニパータ』コラム１を読んで解説。
12．『スッタニパータ』コラム２を読んで解説。
13．『スッタニパータ』コラム３を読んで解説。
14．『スッタニパータ』コラム４を読んで解説。
15．『スッタニパータ』コラム５を読んで解説。
16．総まとめ

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

前谷　彰　訳・解説『ブッダのおしえ』（講談社）

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

その他

科目名	仏教学講読演習B
学期	前期
単位数	2
担当者	櫻木潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：奈良時代の歴史書や寺院の資財帳の講読を通じて、歴史学の研究手法を身につける。
テ ー マ：『続日本紀』・『西大寺資財流記帳』を読み、弘法大師空海が請来する以前の日本密教と、奈良時代の社会と仏教について考える。

授業の概要

史料にもとづいて歴史的事実を解明する学問である歴史学を研究するにあたり、史料が読解できることは不可欠なスキルである。本授業では、奈良時代研究の基本史料である『続日本紀』と、空海請来以前の日本密教を考える上で重要な寺院史料である『西大寺資財流記帳』の輪読を通して、歴史学の研究手法と史料の読み方を習得することを目指す。

授業計画

1．授業ガイダンス
2．歴史学研究における史料とその読解
3．奈良時代の社会と仏教－『続日本紀』・『西大寺資財流記帳』を読む前に－
4．『続日本紀』とはどのような史料か？－歴史資料としての歴史書－
5．『続日本紀』「称徳紀」を読む（1）（担当箇所についての発表）
6．『続日本紀』「称徳紀」を読む（2）（担当箇所についての発表）
7．『続日本紀』「称徳紀」を読む（3）（担当箇所についての発表）
8．『続日本紀』「称徳紀」を読む（4）（担当箇所についての発表）
9．『続日本紀』「称徳紀」を読む（5）（担当箇所についての発表）
10．『西大寺資財流記帳』とはどのような史料か？－歴史資料としての仏教史料－
11．『西大寺資財流記帳』を読む（1）（担当箇所についての発表）
12．『西大寺資財流記帳』を読む（2）（担当箇所についての発表）
13．『西大寺資財流記帳』を読む（3）（担当箇所についての発表）
14．『西大寺資財流記帳』を読む（4）（担当箇所についての発表）
15．『西大寺資財流記帳』を読む（5）（担当箇所についての発表）
16．まとめ

テキスト

テキストとして、黒板勝美編『新訂増補国史大系　続日本紀』（吉川弘文館、1981年）・竹内理三編『寧楽遺文　中巻』（東京堂出版、1977年）を用いますが、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等

小山田和夫『入門　史料を読む　古代・中世』（吉川弘文館、1995年）
吉川真司『天皇の歴史２　聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018年）
勝浦令子『ミネルヴァ日本評伝選　孝謙・称徳天皇』（ミネルヴァ書房、2014年）
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

輪読担当部分の発表（50%）・予習・復習などの授業への参加度（50%）によって評価する。
全授業の３分の２以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）歴史学の研究における史料読解の重要性を理解する。
（B）歴史学の研究手法と史料としての歴史書や仏教史料の読み方について理解する。
（A）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を読むことができる。
（S）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を解釈することができる。

その他

卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。本授業では各自に担当箇所を割り当て、発表により史料を読み進めていく。辞書などを使って予習をして毎回の授業に臨むとともに、積極的に討論に参加することを望む。

科目名	真言密教講読演習A
学期	前期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解する。

テ ー マ：死生観の思想史～釈尊から空海まで～

授業の概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教思想における死生観を前提に、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように捉えられ得るのかについて考える。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．凡夫の生死①－苦としての生死－
3．　〃　②－五蘊と無我－
4．　〃　③－十二因縁 －
5．　〃　④－輪廻の世界－
6．仏陀観の変遷①－釈尊の生涯－
7．　〃　②－変容する釈尊－
8．　〃　③－仏陀の出現－
9．即身成仏の思想①－六大と人間－
10．　〃　②－真理の表現－
11．　〃　③－心とマンダラ－
12．生死の意味①－字相と字義－
13．　〃　②－縁起生から本不生へ－
14．　〃　③－真に帰す－
15．期末テスト
16．まとめ

テキスト

各回毎のテーマに関するテキストプリントを授業中に配布する。

参考書・参考資料等

・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。
※ その他、授業において指示する。

学生に対する評価

期末試験（60%）、授業内での質疑応答（30%）、発表（20%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教用語の基礎知識を身に付けている。
（B）仏陀観の変遷について基本的な説明ができる。
（A）大乗仏教と密教の関係について基本的な説明ができる。
（S）弘法大師教学における死生観を説明できる。

その他

・必ず質問をすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。
・授業実数の３分の１を超えて欠席した者は失格とする。
・遅刻／早退については２分の１欠席と見なす。

科目名	真言密教講読演習B
学期	前期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。

テ ー マ：十八道次第の関連儀軌を読む

授業の概要

十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道次第の理解を深める。『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利 甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁麼儀軌』、『阿閦法等軌』、『阿閦法等軌』、『阿閦法』等 を平行して解読しながら比較研究を行う。已潅頂者のみが受講できる。

授業計画

1．秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較１
3．同上２
4．同上３
5．同上４
6．同上５
7．同上６
8．同上７
9．同上８
10．同上９
11．同上 10
12．同上 11
13．同上 12
14．同上 13
15．同上 14
16．同上 15

テキスト

浄厳の木版『秘密儀軌』からコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
プログラムは改訂される場合がある。
已潅頂者（伝法潅頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	真言密教講読演習C
学期	後期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。

テ ー マ：秘密儀軌を読み、内容を理解する

授業の概要

一尊法に関する漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界と胎蔵界次第の理解を深める。胎蔵次第・金剛界次第と関連する秘密儀軌の内容について考察する。『大日経』関連の成就法として『聖観自在儀軌』、『七支念誦法』、『立印儀軌』などを読む。『金剛頂経』系の儀軌については『蓮華部心軌』、『如意輪瑜伽』、『文殊菩薩供養法』、『五秘密儀軌』などを読む。已潅頂者のみが受講できる。

授業計画

1．『大日経』関連の儀軌を読む１
2．同上２
3．同上３
4．同上４
5．同上５
6．同上６
7．『金剛頂経』系の儀軌を読む１
8．同上２
9．同上３
10．同上４
11．同上５
12．同上６
13．同上７
14．同上８
15．同上９
16．同上 10

テキスト

浄厳の木版『秘密儀軌』からコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
プログラムは改訂される場合がある。
已潅頂者（伝法潅頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	真言密教講読演習D
学期	前期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

テ ー マ：中院流の金剛界の伝授次第の伝授と講義

授業の概要

中院流の一流伝授の最初に学習するのは両界の伝授次第である。金剛界の伝授次第は淳祐の『金剛界念誦次第 石山中院』（石山二巻次第）という中院流の本次第とそれを修法しやすくした宥快の『金剛界念誦頸次第 中院』（宥快和会次第）である。この授業では、石山二巻次第を参考しながら宥快和会次第を伝授し、四度加行の『金剛界念誦次第』（大門寺次第）と比較して、真言密教における深い意味を講義する。已潅頂者のみが受講できる。

授業計画

1．金剛界次第の種類と概略
2．金剛界伝授次第１
3．同上２
4．同上３
5．同上４
6．同上５
7．同上６
8．同上７
9．同上８
10．同上９
11．同上 10
12．同上 11
13．同上 12
14．同上 13
15．同上 14
16．同上 15

テキスト

高岡隆心編『金剛界念誦次第 石山中院』と『金剛界念誦頸次第 中院』

参考書・参考資料等

『中院流聖教』３・４、『真言宗全書』24、『中院流四度宥快口傳』、『中院流四度長淳口訣』、『中院流四度宥勢口説』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、大山公淳『中院流の研究』他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

受講者は伝法潅頂入壇者（已潅頂者）のみとする。
授業は伝授形式なので、受講者は黒衣に如法依で受講する。
受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	真言密教講読演習E
学期	後期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：中院流の胎蔵界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深める。
テ ー マ：中院流の胎蔵界の伝授次第の伝授と講義

授業の概要

中院流の一流伝授の最初に学習するのは両界の伝授次第である。胎蔵界の伝授次第は淳祐の『胎蔵界念誦次第 石山中院』（石山次第）という中院流の本次第とそれを修法しやすくした宥快の『胎蔵界念誦頸次第 中院』（宥快和会次第）である。この授業では、石山二巻次第を参考しながら宥快和会次第を伝授し、四度加行の『胎蔵界念誦次第』（大門寺次第）と比較して、真言密教における深い意味を講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業計画

1．胎蔵界次第の種類と概略
2．胎蔵界伝授次第１
3．同上２
4．同上３
5．同上４
6．同上５
7．同上６
8．同上７
9．同上８
10．同上９
11．同上 10
12．同上 11
13．同上 12
14．同上 13
15．同上 14
16．同上 15

テキスト

高岡隆心編『胎蔵界念誦次第 石山中院』と『胎蔵界念誦頸次第 中院』

参考書・参考資料等

『中院流聖教』３・５、『真言宗全書』25、『中院流四度宥快口傳』、『中院流四度長淳口訣』、『中院流四度宥勢口説』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、大山公淳『中院流の研究』、他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中院流の各種の胎蔵界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）中院流の各種の胎蔵界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）中院流の各種の胎蔵界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）中院流の各種の胎蔵界次第の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。
授業は伝授形式なので、受講者は黒衣に如法依で受講する。
受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	密教学特殊講義A
学期	後期
単位数	2
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：インド・チベットの仏教図像に関する基礎的な知識と研究方法を身につけると共に、図像資料に基づいてインド・チベット仏教史の流れを概括的に把握することを到達目標とする。
テ ー マ：インド・チベット密教の図像資料の研究

授業の概要

チベット探検で知られる河口慧海が持ち帰った図像資料などに基づいて、インド･チベット仏教美術の主題と表現形式を学び、さらに『三百尊図像集』などを用いて、図像の解読の訓練を行う。あわせて図像資料に基づいて、インド・チベット仏教史の流れについて基礎的な知識の整理と修得に努める。

授業計画

第 1 回：イントロダクション―チベットのタンカをどう見るか
第 2 回：インド・チベット仏教美術の主題と表現形式
第 3 回：河口慧海の事績
第 4 回：河口コレクションの概要
第 5 回：河口コレクションによるチベット美術の主題と表現形式（1）
第 6 回：河口コレクションによるチベット美術の主題と表現形式（2）
第 7 回：河口コレクションによるチベット美術の主題と表現形式（3）
第 8 回：梵文写本およびチベット語経典とそのミニアチュール
第 9 回：チベットの仏伝美術
第 10 回：『三百尊図像集』の概要
第 11 回：『三百尊図像集』を用いたインド・チベット仏教史の概説（1）
第 12 回：『三百尊図像集』を用いたインド・チベット仏教史の概説（2）
第 13 回：『三百尊図像集』を用いたインド・チベット仏教史の概説（3）
第 14 回：『三百尊図像集』を用いたインド・チベット仏教史の概説（4）
第 15 回：まとめ
定期試験

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加状況（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）一次資料を正確に読み解くことができる。
（B）一次資料その他を用いて、出来事を立体的に再現できる。
（A）一次資料その他を用いて、印度留学生たちの思想と行動の意義を明らかにできる。
（S）彼らの思想と行動に学んで、これからの仏教界に提言することができる。

その他

科目名	密教学特殊講義B
学期	前期
単位数	2
担当者	和田圭子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：代表的な仏教美術を中心に、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術の歴史を概観する。
また、実際に仏像や仏画を見学することによって、仏教美術の基礎的理解と習得を目指す。
テ ー マ：日本仏教美術史

授業の概要

寺院に祀られる仏像や仏画は崇高な礼拝対象である一方、歴史的文化遺産としても重要な意義を持つ。授業では、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術について、彫像や仏画の代表的な作品を画像で示しつつ、その歴史について概観する。また、高野山霊宝館等、学外での実地見学をおこなう。

授業計画

1．仏教美術の基礎知識
2．飛鳥時代の仏教美術１
3．高野山霊宝館等学外での実地見学１
4．飛鳥時代の仏教美術２
5．奈良時代の仏教美術１
6．奈良時代の仏教美術２
7．高野山霊宝館等学外での実地見学２
8．平安時代前期の仏教美術１
9．平安時代前期の仏教美術２
10．平安時代後期の仏教美術１
11．高野山霊宝館等学外での実地見学３
12．平安時代後期の仏教美術２
13．鎌倉時代の仏教美術１
14．鎌倉時代の仏教美術２
15．高野山霊宝館等学外での実地見学４

テキスト

授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。

参考書・参考資料等

水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』美術出版社
『日本美術全集』講談社

学生に対する評価

授業、特に実地見学への参加度（50%）、期末レポート（50%）の比率で評価する。
前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて 4000 字程度のレポートを提出する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教美術についての基礎知識を理解している。
（B）各時代の歴史的背景や仏教美術の特徴を理解している。
（A）各時代に代表的な作品を見ながらその特徴について説明できる。
（S）各時代の仏教美術の特徴を理解し、自分の言葉で説明することができる。

その他

密教学特殊講義Ｃ（後期）をあわせて履修・聴講することが望ましい。
日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。また、授業中に取り上げ、スライドなどで提示する。
仏教美術作品に興味を持ち、できるだけ展覧会等を利用して実際の作品に触れる機会を持ってほしい。

科目名	密教学特殊講義C
学期	後期
単位数	2
担当者	和田圭子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山内に伝わる密教美術や信仰に関わる文化財について画像を示しつつ概観する。
特に高野山霊宝館を中心に、実際の仏像、仏画等に接することによって、より深い仏教美術の知識を学び、培うことを到達目標とする。
テ ー マ：高野山における仏教美術研究

授業の概要

高野山における仏教美術について作品の特徴や歴史的意義について学ぶ。また、高野山霊宝館を中心に実地に仏像、仏画等を鑑賞しつつ知識を深める機会を設ける。

授業計画

1．はじめに：仏教美術作品鑑賞に関する基礎知識
2．高野山の仏教美術の歴史
3．高野山霊宝館等学外での実地見学（1）
4．高野山の仏教美術１
5．高野山の仏教美術２
6．高野山の仏教美術３
7．高野山霊宝館等学外での実地見学（2）
8．高野山の仏教美術４
9．高野山の仏教美術５
10．高野山の密教美術６
11．高野山霊宝館等学外での実地見学（3）
12．高野山の密教美術７
13．高野山の密教美術８
14．高野山の密教美術９
15．高野山霊宝館等学外での実地見学（4）

テキスト

授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。

参考書・参考資料等

『日本古寺美術全集』集英社、『高野山秘宝大観』フジタ

学生に対する評価

授業、特に実地見学への参加度（50%）、期末レポート（50%）、の比率で評価する。
霊宝館等において見学した作品を中心に 1 点選び、それに関する 4000 字程度のレポートを提出する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教美術鑑賞に関する基礎知識を理解している。
（B）高野山の仏教美術作品について概略を簡単に説明できる。
（A）高野山の仏教美術作品を見ながら自分の言葉で説明することができる。
（S）高野山における仏教美術について多角的に説明できる。

その他

密教学特殊講義Ｂ（前期）をあわせて履修・朝貢することが望ましい。
実際に仏像や仏画を見学する機会を増やし、様々な角度から研究してほしい。

科目名	仏教学特殊講義A
学期	後期
単位数	2
担当者	前谷　彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教の基礎知識を徹底的に習得する。
テ　ー　マ：信心について

授業の概要

信心とは何か。

授業計画

1．オリエンテーション
2．信心と信仰の意味概念について考える。
3．親鸞の『歎異抄』に見る信心の意味について考える。①
4．親鸞の『歎異抄』に見る信心の意味について考える。②
5．親鸞の『歎異抄』に見る信心の意味について考える。③
6．親鸞の『歎異抄』に見る信心の意味について考える。④
7．親鸞の『歎異抄』に見る信心の意味について考える。⑤
8．空海の著作に見られる信心の意味について考える。①
9．空海の著作に見られる信心の意味について考える。②
10．空海の著作に見られる信心の意味について考える。③
11．空海の著作に見られる信心の意味について考える。④
12．空海の著作に見られる信心の意味について考える。⑤
13．浄土思想における信心と真言におけるそれを比較する。
14．総まとめ①
15．総まとめ②

テキスト

『歎異抄』金子大栄校注（岩波文庫）、『現代語の十巻章』
※ 必要部分をコピーして配布

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が紹介する。

学生に対する評価

学期末のレポート（100％）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）講義で指示する課題をこなすこと。
（A）仏教要語に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っていること。
（S）講義を通して、学術論文の書き方を習得すること。

その他

科目名	仏教学特殊講義B
学期	後期
単位数	2
担当者	櫻木　潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：奈良時代の日本仏教についてのこれまでの研究を批判的に検討し、「奈良仏教」研究の動向と課題を見出すとともに、弘法大師空海による密教請来以前の日本密教のあり様を探求する。
テ　ー　マ：奈良時代の日本仏教に関する研究動向を理解し、課題を見出す。

授業の概要

奈良時代は、国分寺・国分尼寺の建立や大仏造立に代表されるように、日本仏教が大きく進展する時代であり、これまで多くの研究が蓄積されてきた。本講義では、そのうちの代表的な先行研究を取り上げ、批判的に検討しながら、奈良仏教の研究動向とその課題を見出すとともに、空海請来以前の日本密教のあり様について探求する。

授業計画

1．ガイダンス
2．奈良時代前半の政治史
3．奈良時代後半の政治史
4．1970 年代の奈良仏教研究①（担当箇所の要約）
5．1970 年代の奈良仏教研究②（担当箇所の要約）
6．1970 年代の奈良仏教研究③（担当箇所の要約）
7．1970 年代の奈良仏教研究④（担当箇所の要約）
8．2000 年代の奈良仏教研究①（担当箇所の要約）
9．2000 年代の奈良仏教研究②（担当箇所の要約）
10．2000 年代の奈良仏教研究③（担当箇所の要約）
11．2000 年代の奈良仏教研究④（担当箇所の要約）
12．2000 年代の奈良仏教研究⑤（担当箇所の要約）
13．奈良時代の日本密教に関する研究①（担当箇所の要約）
14．奈良時代の日本密教に関する研究②（担当箇所の要約）
15．奈良時代の日本密教に関する研究③（担当箇所の要約）
16．まとめとレポート提出

テキスト

本講義では、主として『アジア仏教史　日本編Ⅰ　飛鳥・奈良仏教』（佼成出版社、1976 年）・『新アジア仏教史 11　日本Ⅰ　日本仏教の礎』（佼成出版社、2009 年）をテキストとして用いますが、講義箇所をプリントとして配布し進める。

参考書・参考資料等

渡辺晃宏『日本の歴史 04　平城京と木簡の世紀』（講談社学術文庫、2009 年）
坂上康俊『シリーズ日本古代史④　平城京の時代』（岩波新書、2011 年）
吉川真司『天皇の歴史 2　聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018 年）
その他、授業中に適宜紹介します。

学生に対する評価

担当箇所の発表（40%）・期末レポート（40%）・授業への参加度（20%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）奈良仏教に関する先行研究の要点を整理することができる。
（B）奈良仏教の研究史を批判的に検討することができる。
（A）奈良仏教の研究史を批判的に検討し、その問題点を指摘することができる。
（S）奈良仏教の研究史を批判的に検討し、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

その他

卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。本講義では各自に担当箇所を割り当て、研究論文の要約の発表と講義によって進めていきます。発表者は発表レジュメを作成して講義に臨むこと。

科目名	真言密教特殊講義A 密教儀礼の理論と実習1（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	中西雄泰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法の習得
テ　ー　マ：事作法の伝授を通して教師（住職）の役割を理解する

授業の概要

高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授

授業計画

1．授業の概要説明
2．中院流の成り立ちについて（1）
3．中院流の成り立ちについて（2）
4．中院流の成り立ちについて（3）
5．別行次第（理趣法）伝授説明（1）
6．別行次第（理趣法）伝授説明（2）
7．別行次第（理趣法）伝授説明（3）
8．別行次第（理趣法）伝授説明（4）
9．別行次第（理趣法）伝授説明（5）
10．開眼作法等日用小作法伝授説明（1）
11．開眼作法等日用小作法伝授説明（2）
12．開眼作法等日用小作法伝授説明（3）
13．開眼作法等日用小作法伝授説明（4）
14．開眼作法等日用小作法伝授説明（5）
15．開眼作法等日用小作法伝授説明（6）

テキスト

中川善教師編『理趣経法』
岩原諦信師編『真言宗壇用経典』　入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等

必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価

授業態度（100％）　伝授の為試験は行わない。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）出席60％以上で基本的な次第、小作法を理解している。
（B）出席80％以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
（A）出席90％以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
（S）出席100％以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

その他

・受講者は伝法灌頂受了者に限る。
・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。
・前期・後期を通して受講すること。

科目名	真言密教特殊講義B 密教儀礼の理論と実習2（別）
学期	後期
単位数	2
担当者	中西雄泰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法の習得
テ　ー　マ：事作法の伝授を通して教師（住職）の役割を理解する

授業の概要

高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授

授業計画

1. 真言宗の葬儀について（1）
2. 真言宗の葬儀について（2）
3. 引導作法伝授説明（1）
4. 引導作法伝授説明（2）
5. 引導作法伝授説明（3）
6. 引導作法伝授説明（4）
7. 引導作法伝授説明（5）
8. 無常導師作法伝授説明（1）
9. 無常導師作法伝授説明（2）
10. 無常導師作法伝授説明（3）
11. 無常導師作法伝授説明（4）
12. 日用作法伝授説明（1）
13. 日用作法伝授説明（2）
14. 日用作法伝授説明（3）
15. 日用作法伝授説明（4）

テキスト

中川善教師編『理趣経法』
岩原諦信師編『真言宗壇用経典』　入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等

必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価

授業態度（100％）　伝授の為試験は行わない。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）出席60％以上で基本的な次第、小作法を理解している。
（B）出席80％以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
（A）出席90％以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
（S）出席100％以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

その他

・受講者は伝法灌頂受了者に限る。
・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。
・前期・後期を通して受講すること。

科目名	真言密教特殊講義C
学期	前期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山上における教学史を通して、弘法大師の思想が後世どのように問題となり、どのように解釈されてきたのかについて理解する力を身につける。
テ ー マ：『宗義決択集』の研究

授業の概要

高野山上に今日も続く宝門･壽門という２大学派の内、宝門の論義書である『宗義決択集』を取り上げ、それぞれの内容を通して高野山独自の学派である宝壽二門の教理を踏まえつつ、弘法大師の思想がどのように理解されてきたのかについて講義する。

授業計画

第１回　概論(講義の進め方等)
第２回　『宗義決択集』について①―論義について―
第３回　『宗義決択集』について②―宝門と壽門―
第４回　『宗義決択集』について③―内容と構成―
第５回　一乗経劫 －即身成仏は“密教”だけの教えか？ －①即身成仏をめぐる問題
第６回　一乗経劫 －即身成仏は“密教”だけの教えか？ －②華天二宗の成仏論
第７回　一乗経劫 －即身成仏は“密教”だけの教えか？ －③即事而真
第８回　六大四曼互能生 －六大所生・四曼能生はあり得るか？ －①六大と四曼
第９回　六大四曼互能生 －六大所生・四曼能生はあり得るか？ －②壽門の場合
第10回　六大四曼互能生 －六大所生・四曼能生はあり得るか？ －③『大日経』の教主
第11回　理法身説法 －真理そのものは説法するのか？ －①理法身と智法身
第12回　理法身説法 －真理そのものは説法するのか？ －②『大日経』の教主再論
第13回　理法身説法 －真理そのものは説法するのか？ －③真理は一か多か？
第14回　理法身説法 －真理そのものは説法するのか？ －④宝門と壽門の教学
第15回　講義のまとめ
定期試験

テキスト

・『宗義決択集』、『真言宗全書』巻 19、続真言主全書刊行会
※ 授業中にコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・小田慈舟訳『宗義決択集』、『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社
※ その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（60%）、授業内での発表（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）論義の内容を正確に理解できる。
（B）論義の内容を正確に理解し、語注を施すことができる。
（A）論義の内容を正確に理解し、現代語に翻訳することができる。
（S）論義の内容を正確に理解し、その内容についての自分の考えを論理的な文章で論じることができる。

その他

・取り上げる論義については、受講生と話し合い、希望等によって変更する場合もある。
・担当者を決めて、該当論義についての語注・現代語訳を発表してもらう。
・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。
・必ず質問をすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。
・授業実数の３分の１を超えて欠席した者は失格とする。
・遅刻／早退については２分の１欠席と見なす。

科目名	真言密教特殊講義D
学期	前期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：中院流の諸尊法次第とその注釈書を通じて秘密事相の理解を深める。
テ ー マ：中院流三十三尊法の研究

授業の概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期･後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを伝授する。已灌頂者のみが受講できる。

授業計画

1．中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2．別尊次第について１
3．別尊次第について２
4．「金輪」
5．「佛眼」
6．「薬師」
7．「阿弥陀」
8．「釈迦」
9．「尊勝」
10.「聖観音」
11.「千手」
12.「十一面」
13.「馬頭」
14.「準胝」
15.「如意輪」
16.「白衣」

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）次第の漢文を読むことができ、用語を説明できる。
（B）次第の漢文を読むことができ、意味を解説できる。
（A）次第の漢文を読むことができ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）次第の漢文を読むことができ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。
授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。
内容は後期に続くため、「真言密教特殊講義Ｅ」を続けて受講することを推薦する。
受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	真言密教特殊講義E
学期	後期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：中院流の諸尊法次第とその注釈書を通じて秘密事相の理解を深める。
テ ー マ：中院流三十三尊法の研究

授業の概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期･後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを伝授する。已灌頂者のみが受講できる。

授業計画

1．「弥勒」
2．「五字文殊」
3．「八字文殊」
4．「延命」
5．「地蔵」
6．「愛染」
7．「不動」
8．「降三世」「軍荼利」
9．「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10.「法華」
11.「舎利」
12.「光明真言」
13.「毘沙門」
14.「炎魔天」
15.「水天」
16.「聖天」「訶利帝」

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）次第の漢文を読むことができ、用語を説明できる。
（B）次第の漢文を読むことができ、意味を解説できる。
（A）次第の漢文を読むことができ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）次第の漢文を読むことができ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。
授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。
後期から受講できるが、前期の「真言密教特殊講義Ｄ」から続く内容のため、前期からの受講を推薦する。
受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	人間学特殊ゼミⅠA
学期	前期
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業のテーマ

到達目標：悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解する。
テ ー マ：悲嘆に関する心理的支援の在り方について学ぶ

授業の目的及び概要

グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業計画

1．悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3. 犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4. 犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5. 虐めと虐待①（虐め体験について）
6. 虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7. 難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8. 難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援㈠（病と自己）
10. ホスピス･緩和ケアにおける支援㈡(死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援①（遺族の心理）
12. 自死遺族支援②（サポートグループについて）
13. 災害時支援①（災害による喪失体験）
14. 災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15. まとめ

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門―死別の悲しみを学ぶ』昭和堂，2010 年
その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅠB
学期	前期
単位数	2
担当者	松本貴子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：多角的に日本事情を学ぶ事を通して思考力を深め、物事を考察する能力を高める。
テ ー マ：「日本はどのような国なのか」を様々な資料を使用し、多角的に学び、考える。

授業の概要

多角的に文化を研究するために必要な方法を学ぶ。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

授業計画

1．ガイダンス
2．Unit 1　日本ってどんな国？　Section 1
3．　〃　Section 2
4．Unit 2　都市の暮らし・地方の暮らし　Section 1
5．　〃　Section 2
6．Unit 3　日本の旅を楽しもう　Section 1
7．　〃　Section 2
8．Unit 4　いただきます！　Section 1
9．　〃　Section 2
10. Unit 5　季節を楽しむ年中行事　Section 1
11.　〃　Section 2
12. Unit 6　知っておきたい日本の歴史　Section 1
13.　〃　Section 2
14. Unit 7　伝統文化体験　Section 1
15.　〃　Section 2
16. まとめ

テキスト

『クローズアップ 日本事情 15』The Japan Times

参考書・参考資料等

新聞、雑誌等の関連記事を読み込み、日本についての知識、理解を深める。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）資料を読むための日本語力がある。
（B）文化理解、研究のための方法を理解している。
（A）日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
（S）日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

その他

資料を読むだけではなく、発信することも目指す。

科目名	人間学特殊ゼミⅡA
学期	後期
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業のテーマ

到達目標：自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。
テ ー マ：自殺に関する諸理論を学び、防止のためにできることを考える。

授業の目的及び概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業計画

1．日本における自殺の現状
2．世界における自殺の現状
3．自殺についての理論①
4．自殺についての理論②
5．自殺についての理論③
6．自殺と精神障害
7．自殺と自傷
8．自殺対策①：危機介入
9．自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

各講義に関する内容に即したテキストを適時紹介する。

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自殺に関する基本的な知識を身につけている。
（B）自殺を志向する心理について理解している。
（A）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。
（S）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅡB
学期	後期
単位数	2
担当者	松本貴子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：多角的に日本事情を学ぶ事を通して思考力を深め、物事を考察する能力を高める。
テ ー マ：「日本はどのような国なのか」を様々な資料を使用し、多角的に学び、考える。

授業の概要

多角的に文化を研究するために必要な方法を学ぶ。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

授業計画

1．ガイダンス
2．Unit 8　現代文化とポップカルチャー　Section 1
3．　〃　Section 2
4．Unit 9　スポーツの楽しみ方　Section 1
5．　〃　Section 2
6．Unit 10　前進を続ける科学技術　Section 1
7．　〃　Section 2
8．Unit 11　地球のためにできること　Section 1
9．　〃　Section 2
10. Unit 12　教育と子供たち　Section 1
11.　〃　Section 2
12. Unit 13　産業構造と経済　Section 1
13.　〃　Section 2
14. Unit 14　政治と憲法　Section 1
15.　〃　Section 2
16. レポート作成・発表

テキスト

『クローズアップ 日本事情 15』The Japan Times

参考書・参考資料等

新聞、雑誌等の関連記事を読み込み、日本についての知識、理解を深める。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）資料を読むための日本語力がある。
（B）文化理解、研究のための方法を理解している。
（A）日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
（S）日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

その他

資料を読むだけではなく、発信することも目指す。

科目名	密教学演習A
学期	通年
単位数	4
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：唐代の中国書論の重要性を理解し、読解を通じて議論し合い、書学における論文執筆のための研究ノウハウの習得。卒業制作の指導。
テ ー マ：中国書論を読み、討論し合う。

授業の概要

長安へ留学した空海が、中国式仏教ではなくインド仏教を学ぼうと考えたのは、それが原点だからである。書においても、空海が中国最古の書体、篆書を学び、正鋒と呼ばれる筆法を日本に伝えた事を念頭に、当時読んだとされる中国書論を輪読し、書の各分野における本質を分析したい。授業の方法として、随時受講者の研究進度状況をうかがう。

授業計画

1．オリエンテーション	1．卒業論文の中間報告①
2．中国の書論について①	2．卒業論文の中間報告②
3．中国の書論について②	3．空海の書論①
4．中国の書論について③	4．空海の書論②
5．孫過庭『書譜』①	5．空海の書論③
6．孫過庭『書譜』②	6．空海の書論④
7．孫過庭『書譜』③	7．空海の書論⑤
8．孫過庭『書譜』④	8．空海の書論⑥
9．孫過庭『書譜』⑤	9．空海の書論⑦
10. 孫過庭『書譜』⑥	10. 空海の書論⑧
11. 孫過庭『書譜』⑦	11. 空海の書論⑨
12. 孫過庭『書譜』⑧	12. 空海の書論⑩
13. 孫過庭『書譜』⑨	13. 空海の書論⑪
14. 孫過庭『書譜』⑩	14. 空海の書論⑫
15. 予備	15. 予備
16. 総括	16. 総括

テキスト

『精萃図説書法論』(西東書房)、『中国書画全書』（上海書画出版社）、（宋）陳思『書苑菁華』（北京図書館出版社）、『歴代書法論文選』（上海書画出版社）等からコピーを配布する。

参考書・参考資料等

『書譜序注疏』（上海古籍出版社）、中国書法ガイド 38『書譜』（二玄社）、『中国書論大系』〔第二巻、第三巻〕（二玄社）

学生に対する評価

・定期試験（60%）＋それぞれの発表及び提出物（40%）での評価。
・それぞれの発表を10点満点とする。
・上記は、前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）書論の原文を自分自身の解釈で発表できる。
（B）自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。
（A）研究執筆において、目新しい独自の観点を見出すことができる。
（S）高いレベルでのレポート及び論文執筆ができる。

その他

・書または篆刻に関する論文を希望する受講生が望ましく、「書道史」を受講していることが相応しい。
・随時、書道作品に関する課題を課し、授業の中でその進行状況を確認する。
・人数や能力よっては相談により、テキスト等を変更する場合もある。

科目名	密教学演習B
学期	通年
単位数	4
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：明治・大正期の文語を読解し、内容をまとめ、解釈できるようになること。
テ ー マ：釈雲照書簡の研究

授業の概要

釈雲照（1854―1923）は日本近代の代表的な真言僧の１人である。雲照は律師として知られ、目白僧園、十善会を主宰するなどして、日本仏教の復興・改革運動の一翼を担った。その弟子にセイロン（現スリランカ）に留学した釈興然、目白僧園を継いだ釈慶淳などがいる。本授業は、雲照の思想と行動を、彼の書簡を通して探ってゆく。当番制発表形式を取るので、十分な予習が必要である。同時に本授業では卒業論文作成の指導を行う。研究テーマの選び方、資料・先行研究の探し方に始まり、テーマを煮詰め、文章を書き、論文としてまとめるまでを指導する。

授業計画

前期	後期
1．ガイダンス	1．ガイダンス
2．研究テーマと資料の探し方（1）	2．研究テーマを深める（1）
3．研究テーマと資料の探し方（2）	3．研究テーマを深める（2）
4．釈雲照の生涯（1）	4．各自研究課題の発表（1）
5．釈雲照の生涯（2）	5．各自研究課題の発表（2）
6．釈雲照の書簡を読む（1）	6．釈雲照の書簡を読む（1）
7．釈雲照の書簡を読む（1）	7．釈雲照の書簡を読む（2）
8．釈雲照の書簡を読む（2）	8．釈雲照の書簡を読む（3）
9．釈雲照の書簡を読む（3）	9．釈雲照の書簡を読む（4）
10．釈雲照の書簡を読む（4）	10．釈雲照の書簡を読む（5）
11．釈雲照の書簡を読む（5）	11．釈雲照の書簡を読む（6）
12．釈雲照の書簡を読む（6）	12．釈雲照の書簡を読む（7）
13．釈雲照の書簡を読む（7）	13．釈雲照の書簡を読む（8）
14．釈雲照の書簡を読む（8）	14．釈雲照の書簡を読む（9）
15．前期のまとめ	15．後期のまとめ

テキスト

担当者がコピーして配布します。

参考書・参考資料等

教室で指示します。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、発表内容（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学術論文を正確に読み解くことができる。
（B）一次資料を正確に読み解くことができる。
（A）一次資料と学術論文に基づいて、問題の所在を明確にすることができる。
（S）一次資料と学術論文に基づいて、学術的な問題を論ずることができる。

その他

・遅刻３回で１欠席に換算する。
・積極的な授業参加を期待する。

科目名	密教学演習C
学期	通年
単位数	4
担当者	前谷彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教の基礎知識を養う。
テ ー マ：仏教要語の意味を徹底的に探究する。

授業の概要

前期は仏教要語の基礎知識を養い、後期は学術論文の書き方や個々の論文指導卒論指導を行う。

授業計画

1．オリエンテーション
2．仏教要語の原典による解説。①
3．仏教要語の原典による解説。②
4．仏教要語の原典による解説。③
5．仏教要語の原典による解説。④
6．仏教要語の原典による解説。⑤
7．仏教要語の原典による解説。⑥
8．仏教要語の原典による解説。⑦
9．仏教要語の原典による解説。⑧
10．仏教要語の原典による解説。⑨
11．仏教要語の原典による解説。⑩
12．仏教要語の原典による解説。⑪
13．仏教要語の原典による解説。⑫
14．仏教要語の原典による解説。⑬
15．仏教要語の原典による解説。⑭
16．論文指導①
17．論文指導②
18．論文指導③
19．論文指導④
20．論文指導⑤
21．論文指導⑥
22．論文指導⑦
23．論文指導⑧
24．論文指導⑨
25．論文指導⑩
26．論文指導⑪
27．論文指導⑫
28．論文指導⑬
29．論文指導⑭
30．論文指導⑮

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が紹介する。

学生に対する評価

学期末のレポート（100%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）講義で指示する課題をこなすこと。
（A）仏教要語に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っていること。
（S）講義を通して、学術論文の書き方を習得すること。

その他

科目名	密教学演習D
学期	通年
単位数	4
担当者	櫻木潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：歴史学的な視点をテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、歴史学の手法によって考察し、論文を作成する力を養う。
テ ー マ：歴史学の研究手法を身につけ、研究テーマを定め、卒業論文を作成する。

授業の概要

密教学科の学生の中で、主として歴史学を学びたい者を対象に演習を行う。歴史学的な研究手法を指導しながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文の作成を目指す。３年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、４年次生は卒業論文の作成を行う。
授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションをはかってほしい。

授業計画

【前期】	【後期】
1．演習の内容・方針の説明、自己紹介	1．夏休みの成果の確認
2．研究課題への構想（各自の発表）	2．卒業論文の構成について（講義）
3．研究論文の読み方（講義）	3．研究テーマに関する史料の考察①（発表）
4．歴史学の研究手法①（講義）	4．研究テーマに関する史料の考察②（発表）
5．歴史学の研究手法②（講義）	5．研究テーマに関する史料の考察③（発表）
6．先行研究の要約①（発表）	6．研究テーマに関する史料の考察④（発表）
7．先行研究の要約②（発表）	7．研究テーマに関する史料の考察⑤（発表）
8．先行研究の要約③（発表）	8．各自の研究発表と討議①
9．先行研究の要約④（発表）	9．各自の研究発表と討議②
10．先行研究の要約⑤（発表）	10．各自の研究発表と討議③
11．先行研究の要約⑥（発表）	11．各自の研究発表と討議④
12．先行研究の要約⑦（発表）	12．各自の研究発表と討議⑤
13．先行研究の要約⑧（発表）	13．各自の研究発表と討議⑥
14．先行研究の要約⑨（発表）	14．研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導①
15．参考文献表の作成について（講義）	15．研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導②
16．まとめと総括	16．まとめと総括

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

授業への参加度（40%）・発表内容（40%）・レポート（20%）によって評価する。
全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）歴史学の研究手法を理解する。
（B）研究論文の内容を批判的に把握することができる。
（A）関係史料の語るところを正確に読み解くことができる。
（S）研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、自分なりの見解を論じることができる。

その他

・卒業論文の作成に向けて、仏教学講読演習Ｂ・仏教学特殊講義Bを必ず履修すること。
・各自が意欲的に研究課題に向き合うこと。発表ではじっくりと時間をかけて下調べを行い、詳しいレジュメを作成すること。
・高野山内をはじめとするフィールドワークや資料調査などの現地踏査にも積極的に参加してほしい。

科目名	密教学演習E
学期	通年
単位数	4
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山の教学研究史に触れることで、弘法大師の思想が後世どのように解釈されているのかを理解し、事相と教相との関係を意識的に捉えることができるようになる。
テ ー マ：道範『初心頓覚鈔』を読む。

授業の概要

弘法大師空海がもたらした真言密教は、事相と教相の二部門からなる。本演習で取り上げる『初心頓覚鈔』は、初心の真言行者の用心すなわち心得として正智院道範が著わした真言教学の入門書とも言える文献である。この講読演習では、この『初心頓覚鈔』で論じられる真言教学における仏陀・衆生・教義・行者の心得を読み進めながら、教相と事相との関係について考察する。受講生には担当を決め、書き下し・語注などを課す。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．高野山の教学①－大師以後の教学史－
3．〃 ②－覚海と法性・道範－
4．『初心頓覚鈔』を読む ①
5．〃 ②
6．〃 ③
7．〃 ④
8．〃 ⑤
9．〃 ⑥
10．〃 ⑦
11．〃 ⑧
12．〃 ⑨
13．〃 ⑩
14．卒業論文指導①
15．卒業論文指導②
16．卒業論文指導③
1．概要（講義の進め方）
2．『初心頓覚鈔』を読む⑪
3．〃 ⑫
4．〃 ⑬
5．〃 ⑭
6．〃 ⑮
7．〃 ⑯
8．〃 ⑰
9．〃 ⑱
10．〃 ⑲
11．〃 ⑳
12．卒業論文指導④
13．〃 ⑤
14．〃 ⑥
15．後期のまとめ
16．総括

テキスト

『初心頓覚鈔』、『真言宗全集』巻 22、高野山大学続真言主全書刊行会
※ 授業中にコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。
※ その他、授業において指示する。

学生に対する評価

期末レポート（50%）、授業内での質疑応答（30%）、発表（20%）で評価します。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストの書き下し・語釈・現代語訳ができる。
（B）テキストの内容を大筋で理解できる。
（A）テキストの論義の内容を正確に理解できる。
（S）テキストの内容を正確に理解し、その内容についての自分の考えを論じることができる。

その他

・担当者を決めて、該当箇所についての書き下し・語注を発表してもらう。
・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とします。
・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点しますので、そのつもりで予習をすること。
・授業実数の３分の１を超えて欠席した者は失格とする。
・遅刻／早退については２分の１欠席と見なします。
・受講生の関心に応じて、テキストを変更する場合がある。

科目名	密教学演習F
学期	通年
単位数	4
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教・密教尊格の整理と典拠となる文献について学ぶ。
テ ー マ：密教図像学における尊格の変遷について文献通じて考察する。

授業の概要

仏教では大乗仏教の拡がりに相応して多種多様な尊格が登場する。大乗仏教の延長線上に位置する密教では、大乗仏教で生み出された尊格のみならず、密教独自の尊格を生み出し、密教の世界観を顕わす曼荼羅に配置した。これらの密教尊格の成立と発展に関して考察する。

授業計画

1．授業の進め方
2．仏教尊格の基礎知識①
3．仏教尊格の基礎知識②
4．密教尊格の基礎知識①
5．密教尊格の基礎知識②
6．曼荼羅の基礎知識①
7．曼荼羅の基礎知識②
8．曼荼羅の基礎知識③
9．図像資料の講読①
10．図像資料の講読①
11．図像資料の講読②
12．図像資料の講読③
13．図像資料の講読④
14．図像資料の講読⑤
15．研究課題の設定
16．総括

1．研究内容の中間報告①
2．研究内容の中間報告②
3．図像資料の講読⑥
4．図像資料の講読⑦
5．図像資料の講読⑧
6．図像資料の講読⑨
7．図像資料の講読⑩
8．各研究テーマの演習発表①
9．各研究テーマの演習発表②
10．各研究テーマの演習発表③
11．各研究テーマの演習発表④
12．各研究テーマの演習発表⑤
13．各研究テーマの演習発表⑥
14．各研究テーマの演習発表⑦
15．各研究テーマの演習発表⑧
16．総括

テキスト

授業で随時配布する

参考書・参考資料等

『大正新脩大蔵経』「密教部、図像部」、
『The Indian Buddhist Iconography』

学生に対する評価

・それぞれの発表及び提出物で評価。
・それぞれの発表を10点満点とする。
・授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。
・上記は前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原文を自分自身の解釈で発表できる。
（B）自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。
（A）研究において、目新しい独自の観点を見出すことができる。
（S）新知見を用いて論理的に考察できる。

その他

科目名	密教学演習G
学期	通年
単位数	4
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：漢文読解力、真言密教の行法への知識、事相の理解を深める。
テ ー マ：道範の『行法肝葉鈔』を読み、内容を理解する

授業の概要

道範（1184 ～ 1252）撰の『行法肝葉鈔』（三巻）の上巻の冒頭に道場荘厳のことを述べ、次に上中両巻にわたって別行次第による一座行法の印明と作法を丁寧に説き、下巻に護摩の次第を注釈する。古くから『行法肝葉鈔』は真言宗の諸師に依用されている貴重な口決書である。『行法肝葉鈔』を読むことによって事相に関する知識と理解を深める。已潅頂者のみが受講できる。

授業計画

（前期）
1．『行法肝葉鈔』について
2．『行法肝葉鈔』上を読む１
3．同上２
4．同上３
5．同上４
6．同上５
7．同上６
8．同上７
9．同上８
10．同上９
11．同上10
12．『行法肝葉鈔』中を読む１
13．同上２
14．同上３
15．同上４
16．同上５

（後期）
1．『行法肝葉鈔』中を読む６
2．同上７
3．同上８
4．同上９
5．同上10
6．同上11
7．同上12
8．『行法肝葉鈔』下を読む１
9．同上２
10．同上３
11．同上４
12．同上５
13．同上６
14．同上７
15．同上８
16．同上９

テキスト

『真言宗全書』23 のテキストと江戸期の木版本のコピーを配布

参考書・参考資料等

『秘蔵記』、『真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『行法肝葉鈔』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『行法肝葉鈔』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『行法肝葉鈔』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『行法肝葉鈔』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
受講者は伝法潅頂入壇者（已潅頂者）のみとする。

科目名	密教学演習H（再履修）
学期	通年
単位数	4
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な読解力・調査能力を養い、論文執筆に際しての形式などを修得し、文献を批判的に読む訓練をする。
テ ー マ：安世高『人本欲生経』／卒業論文の執筆。

授業の概要

４年次生のみ対象の再履修クラス。前期は、安世高『人本欲生経』を講読し、毎回レポートにまとめる。後期は、各自の卒業論文に関係する文献を読み、疑問点・問題点などを調査し、文章化する。

授業計画

1．ガイダンス
2．安世高『人本欲生経』講読（1）
3．安世高『人本欲生経』講読（2）
4．安世高『人本欲生経』講読（3）
5．安世高『人本欲生経』講読（4）
6．安世高『人本欲生経』講読（5）
7．安世高『人本欲生経』講読（6）
8．安世高『人本欲生経』講読（7）
9．安世高『人本欲生経』講読（8）
10．安世高『人本欲生経』講読（9）
11．安世高『人本欲生経』講読（10）
12．安世高『人本欲生経』講読（11）
13．安世高『人本欲生経』講読（12）
14．安世高『人本欲生経』講読（13）
15．安世高『人本欲生経』講読（14）
16．卒業論文執筆の中間報告（1）
17．卒業論文執筆の中間報告（2）
18．卒業論文執筆の中間報告（3）
19．卒業論文執筆の中間報告（4）
20．卒業論文執筆の中間報告（5）
21．卒業論文執筆の中間報告（6）
22．卒業論文執筆の中間報告（7）
23．卒業論文執筆の中間報告（8）
24．卒業論文執筆の中間報告（9）
25．卒業論文執筆の中間報告（10）
26．卒業論文執筆の中間報告（11）
27．卒業論文執筆の中間報告（12）
28．卒業論文執筆の中間報告（13）
29．卒業論文執筆の中間報告（14）
30．卒業論文執筆の中間報告（15）
31．期末試験

テキスト

宇井伯寿『訳経史研究』（コピーを配布する）。

参考書・参考資料等

『大正新修大蔵経』など。

学生に対する評価

前期レポート（50%）、期末試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）感想文と、レポート・論文とを区別する能力がある。
（B）書式を守ってレポートを作成する能力がある。
（A）テキストを読解し、問題を発見する能力がある。
（S）論文を作成する能力がある。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。

科目名	人間学演習ⅠA・ⅡA
学期	通年
単位数	4
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：卒業論文に作成を通して、企画力や表現力を身につける。
テ ー マ：地域デザインの卒業論文作成

授業の概要

卒業論文作成に向けた準備を行う。他受講生の報告についてのディスカッションも行う。

授業計画

1．卒業論文までの工程
2．論題の設定・確認（1）
3．論題の設定・確認（2）
4．目次の作成.確認（1）
5．目次の作成・確認（2）
6．データの整理・確認（1）
7．データの整理・確認（2）
8．中間報告（1）
9．中間報告（2）
10．中間報告（3）
11．要旨・構成の検討（1）
12．要旨・構成の検討（2）
13．データの検討（1）
14．データの検討（2）
15．草稿の検討（1）
16．中間報告（4）
17．中間報告（5）
18．中間報告（6）
19．要旨・構成の検討（3）
20．要旨・構成の検討（4）
21．草稿の検討（2）
22．草稿の検討（3）
23．草稿の検討（4）
24．最終報告（1）
25．最終報告（2）
26．最終報告（3）
27．口頭試問の検討（1）
28．口頭試問の検討（2）
29．口頭試問の検討（3）
30．卒業論文の成果と課題

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方　第２版』
ミネルヴァ書房、2013 年

学生に対する評価

レポート・課題（50%）、発表など授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）卒業論文の作成方法が理解できている。
（B）卒業論文の計画を立案し、他の人に説明できる。
（A）作成方法に従って卒業論文を作成することができる。
（S）論理的で説得力のある卒業論文を作成することができる。

その他

・３、４回生合同授業のために、学年により進度の違いが生じるが、できるだけ同じペースで授業を進める。
・３、４回生合同授業のために、単位が不認定の場合には留年になるので気を付けること。

科目名	人間学演習ⅠB・ⅡB
学期	通年
単位数	4
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：卒業論文に作成を通して、企画力や表現力を身につける。
テ ー マ：地域デザインの卒業論文作成

授業の概要
卒業論文作成に向けた準備を行う。他受講生の報告についてのディスカッションも行う。

授業計画
1．卒業論文までの工程
2．論題の設定・確認（1）
3．論題の設定・確認（2）
4．目次の作成.確認（1）
5．目次の作成・確認（2）
6．データの整理・確認（1）
7．データの整理・確認（2）
8．中間報告（1）
9．中間報告（2）
10．中間報告（3）
11．要旨・構成の検討（1）
12．要旨・構成の検討（2）
13．データの検討（1）
14．データの検討（2）
15．草稿の検討（1）
16．中間報告（4）
17．中間報告（5）
18．中間報告（6）
19．要旨・構成の検討（3）
20．要旨・構成の検討（4）
21．草稿の検討（2）
22．草稿の検討（3）
23．草稿の検討（4）
24．最終報告（1）
25．最終報告（2）
26．最終報告（3）
27．口頭試問の検討（1）
28．口頭試問の検討（2）
29．口頭試問の検討（3）
30．卒業論文の成果と課題

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方　第２版』
ミネルヴァ書房、2013 年

学生に対する評価
レポート・課題（50%）、発表など授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）卒業論文の作成方法が理解できている。
（B）卒業論文の計画を立案し、他の人に説明できる。
（A）作成方法に従って卒業論文を作成することができる。
（S）論理的で説得力のある卒業論文を作成することができる。

その他
・３、４回生合同授業のために、学年により進度の違いが生じるが、できるだけ同じペースで授業を進める。
・３、４回生合同授業のために、単位が不認定の場合には留年になるので気を付けること。

科目名	企画科目（質的調査論）
学期	後期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：質的調査法の概要を知る。
テ ー マ：社会調査士科目F

授業の概要
質的調査を概説することを通して、データの収集能力を涵養することをめざす。状況によっては質的調査を実体験し、それを報告してもらうこともある。

授業計画
1．質的調査法とは何か
2．報告書を読む（1）
3．報告書を読む（2）
4．面接法（1）
5．面接法（2）
6．参与観察（1）
7．参与観察（2）
8．ライフヒストリー（1）
9．ライフヒストリー（2）
10．ドキュメント分析（1）
11．ドキュメント分析（2）
12．会話分析法
13．フィールドワーク（1）
14．フィールドワーク（2）
15．質的分析と量的分析の交流

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
プリントを配布する。

学生に対する評価
レポート（70%）、小レポートと授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）質的調査の基礎的な用語について説明ができる。
（B）質的調査の各方法について説明ができる。
（A）質的調査の設計ができる。
（S）質的調査の基本を理解して、自ら調査ができる。

その他
・社会調査士科目Ｆ科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。
・授業を聞いた上で、受講者が質的調査を実際行って最終レポートを作成しなければならないので、その点を心得て履修すること。

科目名	企画科目（社会調査入門）
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：社会調査の基礎・概要を理解する。
テ ー マ：社会調査士科目Ａ

授業の概要
社会調査の基礎・概要について学ぶとともに、社会調査がなぜ必要であり、なぜ基礎的な技法を学ばなければならないのかを考える。

授業計画
1．社会調査の目的と意義
2．社会調査の歴史
3．調査倫理
4．量的調査と質的調査
5．既存統計データ（1）
6．既存統計データ（2）
7．量的調査（1）質問紙調査の概要
8．量的調査（2）統計処理の方法
9．量的調査（3）質問紙調査の事例
10．量的調査（4）質問紙調査の事例
11．質的調査（1）質的調査の概要
12．質的調査（2）インタビュー調査の事例
13．質的調査（3）観察法の事例
14．質的調査（4）ドキュメント分析の事例
15．社会調査の可能性－実際の調査事例

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
プリントを配布する。

学生に対する評価
レポート（70%）、小レポートと授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）社会調査の基礎的な用語について説明ができる。
（B）社会調査の各方法について説明ができる。
（A）社会調査の設計ができる。
（S）社会調査を実施できる。

その他
・社会調査を設計し、実際に予備調査を行った上で、レポートを作成することになるので、授業について十分に理解すること。
・社会調査士Ａ科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	宗教伝能（舞踊）企画科目（舞踊）
学期	通年
単位数	2
担当者	辻高祖彩恵子佐智子

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：宗教舞踊の基礎を身につけ、練習を積み重ねることにより、心技体を磨く。
テ ー マ：御詠歌に合わせて舞い、宗教舞踊の楽しさを感得する。

授業の概要
宗教舞踊の基本的な身体の動かし方・理念・法具の扱い方・教典の譜の見方等基本を学ぶ。
御詠歌の歌詞の意味、舞踊で表現されている意味を学び、心の表現の仕方について学ぶ。

授業計画
1．宗教舞踊を見てみる。基本的理念・法具（持ち物）の扱い方の解説。「三宝和讃」
2．「同行二人」により身体の動かし方の基本。
3．「同行二人」（1）
4．「同行二人」（2）
5．「同行二人」（3）
6．「同行二人」の歌詞」
7．「同行二人」の仕上げ
8．「めぐみの光かがやきて」（1）
9．「めぐみの光かがやきて」（2）
10．「めぐみの光かがやきて」（3）
11．「めぐみの光かがやきて」（4）
12．「めぐみの光かがやきて」の歌詞
13．「めぐみの光かがやきて」（5）
14．「めぐみの光かがやきて」の仕上げ
15．教典の譜の見方
16．前期実技試験
1．「楊柳」（1）
2．「楊柳」（2）
3．「楊柳」（3）
4．「楊柳」（4）
5．「楊柳」（5）
6．「楊柳」（6）
7．「楊柳」（7）
8．「楊柳」（8）
9．「楊柳」（9）
10．「楊柳」（１０）
11．「楊柳」の歌詞
12．「楊柳」の仕上げ（1）
13．「楊柳」の仕上げ（2）
14．登壇の仕方
15．後期実技試験
16．１年間の総括

テキスト
高野山宗教舞踊会師範会監修教典（１曲ずつの教典）を大師教会で購入

参考書・参考資料等
高野山金剛流宗教舞踊基本教典
『はじめての「高野山宗教舞踊」入門』セルバ出版

学生に対する評価
授業中の技術の習熟度（30%）　努力度（30%）　実技試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本動作（合掌の形・立座の仕方・法具の扱い方）ができる。
（B）御詠歌に合わせてみんなと一緒に舞う事ができる。
（A）御詠歌に合わせて一人で舞う事が出来る。
（S）歌詞を理解し、心を表現しながら一人で舞う事ができる。

その他
単位取得者は希望により『高野山金剛流宗教舞踊会』の〔入門〕と〔初伝〕が取得できる。

科目名	企画科目（カウンセリング論Ａ）
学期	後期
単位数	2
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：カウンセリング技法についてカウンセリング技法を用いて、簡単なカウンセリングができる。

テ ー マ：カウンセリングの理論・技法について学ぶ

授業の概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業計画

1．オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2．カウンセリングの歴史的背景を知る
3．心理アセスメントについて
4．様々なカウンセリングを知る（クライエント中心療法）
5．様々なカウンセリングを知る（精神分析的心理療法）
6．様々なカウンセリングを知る（解決思考アプローチ）
7．様々なカウンセリングを知る（認知行動療法）
8．様々なカウンセリングを知る（その他）
9．子どもへのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
10．保護者へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
11．発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
12．被虐待へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
13．非行を行う人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
14．自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
15．まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。
・課題（複数）レポート（50%）
・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）カウンセリング技法について、基本的な事項を知っている。
（B）カウンセリング技法について、簡単に理論と考え方を説明できる。
（A）カウンセリング技法について、２つ以上の技法について、その理論と考え方を説明できる。
（S）カウンセリング技法についてカウンセリング技法を用いて、簡単なカウンセリングができる。

その他

できるだけ、わかりやすい授業を心がける。講義と演習を組み合わせて、受講生からの積極的な質疑・意見をいただき、“臨床の知”を共に深めていきたいと考えている。

科目名	企画科目（発達心理学Ａ）
学期	前期
単位数	2
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：発達的観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考えることができる。

テ ー マ：生涯発達の視点から、各発達時期の問題についての知見を深める。

授業の概要

生涯発達の視点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を解説する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考えていく。

授業計画

1.発達心理学とは
2.遺伝と環境、及び、初期経験
3.言語の発達について
4.認知の発達について
5.発達段階と発達課題（総論）
6.乳児期の発達について
7.幼児期の発達について
8.児童期の発達について
9.思春期の発達について
10.青年期の発達について
11.成人期の発達について
12.老年期の発達について
13.発達障害とその支援①
14.発達障害とその支援②
15.まとめ

テキスト

「よくわかる発達心理学」 無藤　隆・岡本裕子・大坪治彦　編
ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

随時、紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（30%）、レポートによる評価（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）人の発達の道筋を理解する。
（B）心理発達的な問題が発生したことへの原因について考えることが出来る。
（A）心理発達的な問題への適切な援助方法を考えることが出来る。
（S）発達的観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考えることが出来る。

その他

科目名	企画科目（地方行政論）
学期	後期
単位数	2
担当者	笛木淳

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：地方自治の在り方について関心を深め、その在り方を考察するの基本的な議論を理解する。

テ ー マ：地方自治とは何か、自治体が私たちの暮らしにおいてどのような働きをしているか。

授業の概要

地方自治は私たちの生活において欠くことのできない働きをしている。この地方自治がどのように機能しているのかについて、地方自治がおかれる様々な文脈に即しつつ、その基本的事項を把握する。

授業計画

第一部　地方自治の制度
1．オリエンテーション、地方自治の意義
2．地方自治の発展（1）
明治の地方自治制度と戦後の地方自治制度
3．地方自治の発展（2）
地方分権改革
4．都道府県と市町村
第二部　地方自治の機構
5．自治体の機関
6．自治体の組織
第三部　管理の在り方
7．公務員制度
8．国による行政統制
9．地方税財政
第四部　自治体の政策プロセス
10．自治体の政策プロセス（1）
11．自治体の政策プロセス（2）
12．自治体の政策プロセス（3）
13．自治体の政策プロセス（4）
第五部　自治体と住民
14．「住民」の意義と、市民参加
15．自治体におけるコミュニティ

テキスト

磯崎初仁＝金井利之＝伊藤政次『ホーンブック 地方自治』
（北樹出版、第３版、2014 年）
＊書店にて購入可能。また、授業ではこのテキストに書かれていない範囲も扱う。足りない部分は毎回配付するレジュメ等でこちらが補う。

参考書・参考資料等

松村岐夫編『テキストブック 地方自治』（東洋経済新報社、第２版、2010 年）
稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣、2011 年）
＊参考書は、必要に応じ、その内容を配付レジュメに盛り込むか、または必要な箇所のコピーを配付する

学生に対する評価

小レポート（40%）、期末テスト（60%）＊テストは持込み不可とする予定。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地方行政の基本的な用語を正確に覚えている。
（B）地方行政の重要な用語を短く説明することができる。
（A）地方行政の理論を用いて，具体的な自治体の働きを的確に説明できる。
（S）地方行政論の発展的な問題を，具体例に即して提示することができる。

その他

授業の形式は、毎回配付するレジュメに沿って内容を説明する講義形式で行い、原則としてディスカッション等は行わない。授業の最後では毎回小レポートを書くこととする。

科目名	企画科目（伝統文化（華道））
学期	通年
単位数	2
担当者	五味和樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的実技の修得。
【後期】高野山の伝統行事（年中行事）に生けられる伝統華・荘厳真華の理解

テ ー マ：【前期】日本の華道史と華道実技の基本
【後期】華道高野山の代表華である真華の修得

授業の概要

【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。
【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を荘厳する真華の解説と真華の実技実習。

授業計画

【前期】	【後期】
1．ガイダンス	1．真華の解説
2．華道高野山についての解説	2．五段華の解説
3．供華様式から投入花の解説	3．五段華の実技実習
4．投入花から現代花の解説	4．真華実習（1）
5．盛花の解説	5．真華実習（2）
6．盛花の実技実習	6．二つ真の解説
7．盛花の変化態の解説と実習	7．仏生会の華の解説
8．投入花の解説と実習	8．白羽の矢竹の解説
9．投入花の変化態の解説と実習	9．小品真華の解説と実習
10．格花の解説と実習	10．法印転衣式の華の解説
11．格花の変化態の解説と実習	11．合真の解説
12．自由化の解説と実習	12．元三の花の解説
13．自由化のテーマのもとめ方と実習	13．万年青の解説と実技
14．実技テスト	14．実技テスト
15．格花 寸胴での実習	15．水仙の葉組
16．前期全体の補足	16．後期全体の補足

テキスト

華道高野山教本

参考書・参考資料等

特に無し

学生に対する評価

実技定期試験（60%）、小試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）盛花・自由花・格花の基本を理解し、生けられる。
（B）作品に創意・工夫が見られる。
（A）高野山の伝統華である真華を理解し、生けられる。
（S）すべての花態を理解し、特に技術的に優れている。

その他

実技実習時に花材費 800 円～ 1,000 円必要である。

科目名	企画科目（地方自治法）
学期	後期
単位数	2
担当者	笛木　淳

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：地方自治法制への関心を深め、基礎知識を身につけ、制度の全体像を把握する。
テ ー マ：地方自治にかかわる法制度の基本的な事項。

授業の概要

地方自治体は、ある一部の領域における統治団体である。したがって、これを法によって基礎づけ、法に依って拘束する必要がある。この授業では、そうした役割を担う地方自治法の概要を理解する。

授業計画

1．オリエンテーション、「地方自治」と「法」
2．地方自治に関わる具体的な法令
3．地方公共団体の意義と種類
4．地方公共団体の機関（1）
5．地方公共団体の機関（2）
6．地方公共団体の事務
7．自治立法（1）
8．自治立法（2）
9．住民
10．住民監査請求と住民訴訟
11．地方税財政（1）
12．地方税財政（2）
13．監査制度
14．国と地方公共団体の関係（1）
15．国と地方公共団体の関係（2）

テキスト

指定なし。

参考書・参考資料等

川崎政司『地方自治法基本解説〔第6版〕』（有斐閣、2015年）
＊参考書は、必要に応じ、その内容を配付レジュメに盛り込むか、または必要な箇所のコピーを配付する。

学生に対する評価

レポート（40%）、期末テスト（60%）
＊テストは持込み不可とする予定。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地方自治法の基本的な用語を正確に覚えている。
（B）地方自治法の重要な概念を自分の言葉で短く説明することができる。
（A）地方自治法の重要な制度を、具体例に即して自分の言葉で説明できる。
（S）地方自治法の発展的な問題について，具体例に即して提示することができる。

その他

授業の形式は、毎回配付するレジュメに沿って内容を説明する講義形式で行い、原則としてディスカッション等は行わない。授業の最後では毎回小レポートを書くこととする。

科目名	企画科目（仏教芸術（別）（仏画）
学期	通年
単位数	2
担当者	有松孝雄

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：筆をとり図像を描くという身体による経験を通して、広く美術・宗教への理解を深めること
テ ー マ：仏を描く・宇宙を描く

授業の概要

墨をすり筆をとって線を引くことから始める。制作と併行して、描かれる尊像の儀軌・背景を学ぶ。多様な尊像を知ることで、仏教で展開される宇宙観についての理解を深める。

授業計画

【前期】
1．授業の概要についての説明
2．基礎1　手の形、顔の線の練習（1）
3．基礎2　手の形、顔の線の練習（2）
4．基礎3　直線・円を描く
5．基礎4　仏・菩薩の全体を描く（1）
6．基礎5　仏・菩薩の全体を描く（2）
7．基礎6　仏・菩薩の全体を描く（3）
8．基礎7　仏・菩薩の全体を描く（4）
9．基礎8　仏・菩薩の全体を描く（5）
10．作品制作　白描の作品を描く（1）
11．作品制作　白描の作品を描く（2）
12．作品制作　白描の作品を描く（3）
13．作品制作　白描の作品を描く（4）
14．高野山霊宝館の見学
15．総括

【後期】
1．絵具・材料・用具の説明
2．表現法1　淡彩色・ぼかし（1）
3．表現法2　淡彩色・ぼかし（2）
4．表現法3　淡彩色・ぼかし（3）
5．表現法4　淡彩色・ぼかし（4）
6．表現法5　繧繝彩色（1）
7．表現法6　繧繝彩色（2）
8．表現法7　繧繝彩色（3）
9．作品制作　彩色仏画（1）
10．作品制作　彩色仏画（2）
11．作品制作　彩色仏画（3）
12．作品制作　彩色仏画（4）
13．作品制作　紺地金泥の仏画（1）
14．作品制作　紺地金泥の仏画（2）
15．鑑賞（国宝仏画・絵画）

テキスト

書写手本及び関係資料はコピーを配布。
以下の教材は担当者が用意する：用紙、彩色筆、念紙、金泥、筆洗、雑巾、日本画絵具。

参考書・参考資料等

「仏画の鑑賞基礎知識」（有賀祥隆著　至文堂）、他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

書写作品・毎回の授業時に制作する課題（70%）
授業参加への積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏画の基本事項を理解している。
（B）仏画の基本事項が理解された上でその描写ができる。
（A）仏教や仏画に関することがよく理解され、作品に表現することができる。
（S）資料を広く読み解くことができ、尊像の理解と表現が優れている。

その他

授業で必要な用具・資材は担当者が支給（貸与）する。
受講生は年間を通して使用する面相筆1本を購入、墨・硯は各自が用意する。

科目名	企画科目（基礎統計学）
学期	後期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：社会調査に必要な統計学に関する基礎知識の習得
テ ー マ：社会調査士D科目

授業の概要

この授業は、統計的データを理解し、利用するために必要な統計学的基礎知識と基礎的能力との習得を目的とする。代表値、散布度、相関関係、標本抽出法、統計的仮説の検定などの社会調査データを理解し、分析するための基本的知識を身につけていく。授業は実習形式でおこない、具体的なデータをあつかいながら、統計学への理解を深めていく。

授業計画

1．イントロダクション：統計学の基礎
2．度数分布
3．代表値
4．分散
5．相関係数
6．確率変数
7．正規分布
8．二項分布
9．母集団と標本
10．区間推定
11．統計的検定
12．$\chi 2$ 検定
13．t 検定
14．相関係数と偏相関係数
15．まとめ：統計学の必要性

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

篠原清夫／清水強志／榎本環／大矢根淳編 ,2010,『社会調査の基礎知識』弘文堂 .
そのほかは授業のなかで適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内の課題（毎回のワークシート）（70%）、発表（10%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会調査に必要な統計学に関する基礎知識について覚えている。
（B）社会調査に必要な統計学に関する基礎知識について資料を使って説明できる。
（A）社会調査に必要な統計学に関する基礎知識を適切な資料を選び自分の言葉で説明できる。
（S）社会調査に必要な統計学に関する基礎知識を使って社会調査ができる。

その他

・統計の基礎について学ぶので、予習・復習を行って、授業について十分に理解すること。
・社会調査士D科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	企画科目（高野文化圏論）
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の生活文化について理解し、説明できる。
テ ー マ：高野文化圏論

授業の概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について生活文化を中心に検討する。

授業計画

1．高野文化圏研究の意義
2．高野文化圏をめぐる環境（1）
3．高野文化圏をめぐる環境（2）
4．景観の諸問題（1）
5．景観の諸問題（2）
6．生業（1）
7．生業（2）
8．生業（3）
9．交通・交易（1）
10．交通・交易（2）
11．交通・交易（3）
12．社会生活（1）
13．社会生活（2）
14．社会生活（3）
15．高野文化圏の生活文化の特徴

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編　高野町　2012年
その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業時の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）高野文化圏の生活文化について基本的事項を説明できる。
（B）授業内容を理解した上で、高野文化圏の生活文化について説明できる。
（A）高野文化圏の生活文化について自己の意見を述べることができる。
（S）高野文化圏の課題に対する対策を提案できる。

その他

授業の最初に小テストを行い、前回の授業内容の復習の程度を確認する。授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	企画科目（古文書読解A）
学期	後期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本の古文書に関する基礎知識や読解能力を身につける。
テ ー マ：「日本の古文書を読む」

授業の概要

この授業では、中世・近世の古文書を教材として、「変体漢文」やくずし字を理解する基礎を養う。

授業計画

1．古文書序説（古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など）
2．中世の古文書を読む①
3．中世の古文書を読む②
4．中世の古文書を読む③
5．中世の古文書を読む④
6．中世の古文書を読む⑤
7．中世の古文書を読む⑥
8．近世の古文書を読む①
9．近世の古文書を読む②
10．近世の古文書を読む③
11．近世の古文書を読む④
12．近世の古文書を読む⑤
13．古文書の原本を熟覧する①
14．古文書の原本を熟覧する②
15．期末試験
16．試験解説
※ 内容は、進度によって変わる場合がある。

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂 出版、1993 年）
書店で購入
また、古文書の図版プリントを配布する

参考書・参考資料等

佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997 年）
石井進『中世の古文書を読み解く』（東京大学出版会、1990 年）
田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993 年）第１部「日本の古文書」
青木和夫ほか編『文献史料を読む－古代から近代－』（朝日新聞社、2000 年）

学生に対する評価

授業中の参加態度（予習および発言、50%）　期末試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎的なくずし字を解読できる。
（B）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
（A）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その内容を理解できる。
（S）古文書の読解能力を習得するとともに、古文書の形態に関する専門的な知識を習得している。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。
毎回、宿題としてプリントを配付するので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。また、『くずし字用例辞典　普及版』を必ず購入して、授業に持参すること。（例年、類似の『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意）。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	企画科目（歴史学）
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：中世前期の高野山について理解を深め、歴史学における史料の重要性について説明できる能力を身につける。
テ ー マ：「中世前期の高野山をめぐる歴史と文化、近世史学史と古文書」

授業の概要

本講義の内容は二つに分かれる。前半では、中世前期の高野山をめぐる諸問題について取り上げ、町石の造立をめぐる歴史、高野山と公武権力との関係について学ぶ。後半では、近世における歴史学の発達について取り上げ、『本朝通鑑』や『大日本史』を中心に、史料批判の発達、史料採訪の始まりについて考える。歴史学の研究方法についても、随所で触れていく予定である。

授業計画

1.高野山町石をめぐる歴史と文化①
2.高野山町石をめぐる歴史と文化②
3.高野山町石をめぐる歴史と文化③
4.北条政子と高野山①
5.北条政子と高野山②
6.北条政子と高野山③
7.後醍醐天皇と高野山①
8.後醍醐天皇と高野山②
9.後醍醐天皇と高野山③
10.近世史学の黎明
11.『大日本史』の史学史的意義
12.佐々宗淳と金剛寺文書・観心寺文書
13.佐々宗淳と高野山文書①
14.佐々宗淳と高野山文書②
15.期末試験
16.試験解説
※ 内容は進度によって変わる場合がある。

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

上横手雅敬『鎌倉時代』（吉川弘文館、1994 年）
山陰加春夫『中世の高野山を歩く』（吉川弘文館、2014 年）
久保田収『近世史学史論考』（皇学館大学出版部、1968 年）
但野正弘『新版 佐々介三郎宗淳』（錦正社、1988 年）

学生に対する評価

期末試験（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中世前期の高野山や近世史学史に関する基礎的事項を理解している。
（B）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて説明できる。
（A）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて、具体的かつ論理的に論じることができる。
（S）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容のみならず、参考文献の読解や自己の調査を踏まえて、新たな問題提起ができる。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。

科目名	企画科目（寺院経営講座）寺院と法律（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	加賀博

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：今後の寺院経営に必要な経営戦略の立て方とマネジメントの方法を修得する。
テ ー マ：21世紀に期待される寺院の経営マネジメントの基本知識を学ぶ。

授業の概要

現在の寺院の経営課題の分析方法を学び、解決方法として期待される寺院の経営理念設計および経営戦略の具体的立案方法と寺院経営マネジメントの方法を講義とグループワーク方式で実践的に学ぶ。

授業計画

1．21世紀寺院のかかえる問題と課題
2．今日まで日本及び日本人を支えてきた寺院の役割
3．21世紀寺院の重要性と再生復活テーマ
4．寺院組織管理重要ポイント
5．宗教法人の経営（会計）管理
6．宗教法人の税務管理
7．僧侶キャリアデザイン
8．僧侶プレゼンテーション基本スキル
9．僧侶ホスピタリティコミュニケーション基本スキル
10．僧侶ホスピタリティコミュニケーション1
11．僧侶ホスピタリティコミュニケーション2
12．僧侶ホスピタリティコミュニケーション3
13．僧侶ホスピタリティコミュニケーション4
14．僧侶としてのストレスケアアドバイス基本スキル
15．寺院、僧侶のリスクマネジメント（パワハラ、セクハラ、トラブル、SNS書き込み対策など）
16.期末試験・講評

テキスト

日本及び日本人のセイフティネット　未来社会を変える寺院基本経営学
著書：加賀　博
㈱カナリアコミュニケーションズ発行

参考書・参考資料等

せとぎわの仏教』－僧侶と寺院の未来－
財団法人　全国青少年教化協議会　編（鎌倉新書　発行）
他は講師が授業内で紹介する。

学生に対する評価

授業態度・自己チェックレポート（毎回提出）（40%）　期末試験（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら説明出来る。
（B）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら自らの寺院経営について内容を表現出来る。
（A）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら具体的計画を作成し説明出来る。
（S）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ずに自ら寺院経営について具体的計画を作成しPR出来る。

その他

将来寺院を継承したり、就業したりするためのモチベーションを高め、21 世紀寺院に求められる社会的役割を自覚し、積極的に将来ビジョンを考え、学生相互に刺激し合い、啓発し合うことを望む。

科目名	企画科目（地域連携）地域福祉B（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山大学が立地する地域に関する理解を深める。
テ ー マ：地域社会を知る

授業の概要

高野山や周辺地域に関わりのある方をゲストスピーカーとして招き、話題提供をしていただき、その後質疑応答、ディスカッションを行う。

授業計画

1．地域社会から考える
2．地方行政－高野町の事例
3．高野山と産業（1）
4．高野山と産業（2）
5．高野山と産業（3）
6．高野山と産業（4）
7．高野山を支える（1）
8．高野山を支える（2）
9．高野山を支える（3）
10．高野山を支える（4）
11．参拝と観光
12．地域と教育
13．高野町の町並み（建築）
14．地方自治
15．地域社会の課題

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

最終レポート（70%）、小レポートと授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地域社会に関する基本用語を説明できる。
（B）地域社会がどのような状況にあるかを説明できる。
（A）地域社会に対して自分の考えを提案できる。
（S）地域社会に対して実際に行動ですることができる。

その他

・高野山周辺を中心として就職したいという強い希望を持ち、真面目に受講することが必要である。
・インターンシップを希望する者は、必ず受講すること。
・授業内容・日程・ゲストスピーカーなど詳細については、第1回目の授業に指示する。
・意見を発表してらもうので、授業を聞いて内容を理解する必要がある。

科目名	企画科目（地域産業論）
学期	前期
単位数	2
担当者	鈴木裕範

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：地方再生に地域産業の復権は不可欠である。地方の地域における産業の特徴と存在意味を知り、地域をみる多角的な目を磨く。

テ ー マ：キーワードは「地域に生きる存在」。

授業の概要

グローバル化、IT 革命、AI 産業の拡大、いっぽうで人口減少・少子高齢化が進む日本。急速に世界・日本が変わるなかで、地域産業のいまを学ぶ意味は大きい。それは、私たちが生きる地域・経済・暮らしの問題だからである。和歌山県を主モデルに、地域に「地域産業」があることの意味を考察する。

魅力があるまちの条件の一つは、文化と地域をつくる産業にある。その産業が地域を特色付け、まちや村の価値を創造することである。私たちは、そのことにもっと目を向けなくてはならない。人が地域をつくり、地域が人をつくる。地域の盛衰を地域経済の活力が握る。和歌山県各地の地域産業をモデルに、地域産業の特色と役割、豊かな地域とは何かをともに考えていく。

授業計画

1．地域産業論　この授業でめざすこと
2．地域産業のプレゼンス
3．企業城下町に学ぶ経済学
4．和歌山県の地域産業地図
5．ウメ産業が牽引、地域経済
6．柑橘産地の産業化戦略
7．食品産業における伝統と革新
8．観光産業で描くまちづくり
9．繊維産業がつくる町のブランド
10. 伝統産業を考える
11. 漆器産地の憂鬱と希望
12.「木の国」木材産業の復活する日
13. 和歌山県の先端産業
14. 地域産業から地域が見える・金沢市の場合
15. 高野町に産業の芽は？

テキスト

授業担当者が各授業で配布する資料

参考書・参考資料等

『地域再生の経済学』（中公新書　神野直彦著　中央公論新社）

学生に対する評価

レポート（70%）、発表（20%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）和歌山県の代表的な地域産業の特色と概要を覚えている。
（B）出身地における地域産業の特徴、動向について説明できる。
（A）地域産業の盛衰がもたらす地域への影響について具体的なモデルを説明できる。
（S）地域産業が生み出す経済的価値と文化的価値、そして企業と地域の関係について説明できる。

その他

授業は担当教員の研究調査を踏まえた資料に基づきパワーポイントで進行する。

科目名	企画科目（声明上級）（声明上級（別））
学期	通年
単位数	2
担当者	辻秀道

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：常楽会法則に使われる声明及び理趣法表白・神分を修得する。

テ ー マ：常楽会法要及び理趣法に使われる声明を通じて種々の声明を研鑽する

授業の概要

1．初級の続きとして、初級で学べなかった種々の声明及び法要を研鑽して声明の視野を広める。
2．導師作法で必要な、「理趣法」の表白・神分を研鑽する。
3．講式の基本的な読み方を研鑽する。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション（テキスト解説）
2．総礼（伽陀）（1）
3．総礼（伽陀）（2）
4．誕生会祭文Ⅰ
5．誕生会祭文Ⅱ
6．誕生会祭文Ⅲ
7．理趣経（中曲）後半（1）
8．理趣経（中曲）後半（2）
9．云何唄（1）
10. 云何唄（2）
11. 出家唄
12. 伽陀（1）
13. 伽陀（2）
14. 伽陀（3）
15. 前期テスト （実技）
16. 御影供祭文（1）

【後期】
1．御影供祭文（2）
2．御影供祭文（3）
3．涅槃講式（1）
4．涅槃講式（2）
5．涅槃講式（3）
6．御影供表白・神分（1）
7．御影供表白・神分（2）
8．御影供表白・神分（3）
9．大般若表白・神分（1）
10. 大般若表白・神分（2）
11. 大般若表白・神分（3）
12. 理趣法表白・神分（1）
13. 理趣法表白・神分（2）
14. 理趣法表白・神分（3）
15. 後期テスト
16. 総括

テキスト

・「祭文集」－高野山出版社発行＝各自高野山出版社で購入すること。（オリエンテーションで説明）
・「理趣法」講義中に伝達する
・御影供／大般若表白、神分（オリエンテーションで説明）
・講式テキスト（オリエンテーションで説明）

参考書・参考資料等

宮野宥智編「南山進流声明類聚」

学生に対する評価

前期末テスト（40%）後期末テスト（40%）授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）南山進流声明上級として、理解は十分ではないが、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（B）南山進流各種声明を概ね理解し、複数の人と合わせて唱える事が出来る。
（A）南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、一人で唱える事が出来る。
（S）南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、講式なども一人で唱える事が出来る。

その他

受講資格を下記の通り設ける
1．本学「声明」初級を習得した者
2．高野山専修学院及び尼僧学院を終了した者
3．高野山高等学校宗教科を終了した者
4．その他同等以上の研鑽を終了した者

科目名	企画科目（日本語留学生中級A）
学期	通年
単位数	2
担当者	廣田恵美子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：大学生活に必要な日本語の四技能の習得

テ ー マ：この授業で習得した日本語を使用し、より幅広い場面で自身の力で言語活動を行う。

授業の概要

テキストに沿い､｢話す･聞く･読む･書く｣の四技能を統合的に学習する。
日本の文化的要素も適宜授業に取り入れ紹介する。
必要に応じて小テストを行う。

授業計画

1．自己紹介・授業の進め方
2．漢字１・文法１－１
3．文法１－２・聴解１
4．語彙１・読解１
5．漢字２・文法２－１
6．文法２－２・聴解２
7．語彙２・読解２
8．漢字３・文法３－１
9．文法３－２・聴解３
10. 語彙３・読解３
11. 漢字４・文法４－１
12. 文法４－２・聴解４
13. 語彙４・読解４
14. 漢字５・文法５－１
15. 文法５－２・聴解５
16. 語彙５・読解５
17. 漢字６・文法６－１
18. 文法６－２・聴解６
19. 語彙６・読解６
20. 漢字７・文法７－１
21. 文法７－２・聴解７
22. 語彙７・読解７
23. 漢字８・文法８－1
24. 文法８－２・聴解８
25. 語彙８・読解８
26. 漢字９・文法９－１
27. 文法９－２・聴解９
28. 語彙９・読解９
29. ディスカッション、レポート作成
30. 発表

テキスト

教師の指示に従うこと。

参考書・参考資料等

グループ・ジャイマン編著『日本語文型辞典』
（ベトナム語版、英語版、タイ語版、韓国語版、中国語版 有り）
友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型辞典 』
大阪ＹＭＣＡ専門学校 岡本牧子他
『くらべてわかる 日本語表現文型辞典』

学生に対する評価

期末試験（40%）、課題の提出（30%）小テスト（20%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習した語彙、文法を限定的ではあるが理解することができる。
（B）学習した語彙、文法をほぼ理解することができる。
（A）学習した語彙、文法を使用することができる。
（S）学習した語彙、文法を使用し、自身の言葉としてアウトプットすることができる。

その他

プレイスメントテストによってクラス分けを行う。
学習効果を高めるため、課された課題には積極的に取り組むこと。
日本語に関する質問であれば、授業外のことでも受け付ける。
欠席の際は必ず事前に連絡すること。

科目名	企画科目（日本語留学生上級A）
学期	通年
単位数	2
担当者	廣田恵美子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：大学生活に必要な日本語の四技能の習得

テ ー マ：大学の講義を受講するに不足ない日本語アカデミックスキルを習得する。

授業の概要

テキストに沿い､｢話す･聞く･読む･書く｣の四技能を統合的に学習する。
レポートや卒業論文に必要なアカデミックライティングの学習も取り入れる。
日本の文化的要素も適宜授業に取り入れ紹介する。
必要に応じて小テストを行う。

授業計画

1．自己紹介、授業の進め方
2．文法１－１
3．文法１－２・聴解１
4．語彙１・読解１
5．文法２－１
6．文法２－２・聴解２
7．語彙２・読解２
8．文法３－１
9．文法３－２・聴解３
10. 語彙３・読解３
11. 文法４－１
12. 文法４－２・聴解４
13. 語彙４・読解４
14. 文法５－１
15. 文法５－２・聴解５
16. 語彙５・読解５
17. 文法６－１
18. 文法６－２・聴解６
19. 語彙６・読解６
20. 文法７－１
21. 文法７－２・聴解７
22. 語彙７・読解７
23. 文法８－１
24. 文法８－２・聴解８
25. 語彙８・読解８
26. 文法９－１
27. 文法９－２・聴解９
28. 語彙９・読解９
29. レポート作成
30. 発表

テキスト

教師の指示に従うこと。

参考書・参考資料等

グループ・ジャイマン編著『日本語文型辞典』
（ベトナム語版、英語版、タイ語版、韓国語版、中国語版 有り）
友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型辞典 』
大阪ＹＭＣＡ専門学校 岡本牧子他
『くらべてわかる 日本語表現文型辞典』

学生に対する評価

期末試験（40%）、課題の提出（30%）小テスト（20%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習した語彙、文法を限定的ではあるが理解することができる。
（B）学習した語彙、文法をほぼ理解することができる。
（A）学習した語彙、文法を使用することができる。
（S）学習した語彙、文法を使用し、自身の言葉としてアウトプットすることができる。

その他

プレイスメントテストによってクラス分けを行う。
学習効果を高めるため、課された課題には積極的に取り組むこと。
日本語に関する質問であれば、授業外のことでも受け付ける。
欠席の際は必ず事前に連絡すること。

科目名	企画科目（日本語留学生中級B）
学期	通年
単位数	2
担当者	松本貴子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：大学生活に必要な日本語能力を総合的に身につける。
テ ー マ：日本語の語彙、文法の基礎知識と、読解力、会話力を総合的に伸ばす。

授業の概要

日本語の「読む、聞く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力の育成を目指す。また、日本語能力試験N3レベルの復習をし、N2レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

授業計画

【前期】
1．N3テキスト1
2．N3テキスト2
3．N3テキスト3
4．N3テキスト4
5．N3テキスト5
6．N3テキスト6
7．N3テキスト7
8．N3テキスト8
9．テキスト1・2の確認
10．テキスト3・4の確認
11．テキスト5・6の確認
12．テキスト7・8の確認
13．N3テキスト9
14．N3テキスト10
15．テキスト9/10の確認

【後期】
16．N2テキスト1
17．N2テキスト2
18．N2テキスト3
19．N2テキスト4
20．N2テキスト5
21．N2テキスト1の確認
22．N2テキスト2の確認
23．N2テキスト3の確認
24．N2テキスト4の確認
24．N2テキスト6
25．N2テキスト7
26．N2テキスト8
27．N2テキスト9
28．N2テキスト10
29．総復習
30．テキスト6～10の確認

テキスト

『TRY! 日本語能力試験N3』『TRY1 日本語能力試験N2』
アスク出版、その他

参考書・参考資料等

『日本語総まとめ』シリーズ　アルク
その他、必要に応じて授業中に提示する。

学生に対する評価

期末テスト（70%）、小テスト（20%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習した文型や表現を理解できている。
（B）学習した文型や表現を正確に使用できている。
（A）学習した文型や表現を応用できている。
（S）学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

その他

受講生の日本語力は問わない。日本語を学びたいと思う学生は誰でも受講すること。学習効果を高めるために課せられる課題にはまじめに取り組むこと。

科目名	企画科目（日本語留学生上級B）
学期	通年
単位数	2
担当者	松本貴子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身に付ける。
テ ー マ：論文執筆に必要な様々なパラフレーズを学び、レポートや論文、発表スライド、発表レジュメなどに使用できるようにする。

授業の概要

日本語の使用目的に合わせて使い分けができるように問題演習を多数行い、アカデミック・ライティングに必要な日本語能力の獲得を目指す。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス
2．日本語の表記法（1）
3．日本語の表記法（2）
4．日本語の表記法（3）
5．実践：音声・発音
6．文体
7．モードチェンジ
8．正しい構造の文
9．文のつながり
10．段落
11．要約文を書く
12．説明文を書く
13．小論文によく使われる表現
14．実践：音声・発音
15．実践：音声・発音

【後期】
16．前期復習
17．意見文を書く
18．事実を示す方法
19．小論文のはじめと終わり
20．実践：音声・発音
21．書き手の視点を示す
22．過去と現在のつながりを示す
23．文章の中の語を示す
24．前後の関係を表す
25．前の文に関係づける
26．実践：音声・発音
27．効果的に意見を述べる
28．実践：音声・発音
29．小論文の作成
30．発表

テキスト

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等

『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版 他、教員が適宜配布。

学生に対する評価

レポート（60%）、発表（30%）、小テスト（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習した内容を最低限理解できている。
（B）学習した内容をある程度使いこなしている。
（A）学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
（S）学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

その他

実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。

科目名	サンスクリット語Ⅱ
学期	通年
単位数	2
担当者	前谷彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：サンスクリット語の短文読解能力を身につける。
テ ー マ：サンスクリット語音論トレーニング

授業の概要

サンスクリット語における音論を中心にして、サンスクリット語という古典言語のダイナミズムに触れ、ことばの本質的な世界の楽しさを味わい、様々な言語に対する豊かな感性を養う。

授業計画

1．導入：サンスクリット語とは？
2．アルファベットとデーヴァナーガリー文字
3．Guza・V3ddhi法則
4．動詞の現在組織
5．語根類推トレーニング①
6．語根類推トレーニング②
7．語根類推トレーニング③
8．連声（Sandhi）法則
9．Sandhi法則トレーニング①
10．Sandhi法則トレーニング②
11．代名詞、前置詞、副詞
12．名詞造語法
13．動詞組織
14．動詞組織
15．複合語トレーニング①
16．複合語トレーニング ②
17．短文読解トレーニング①
18．短文読解トレーニング②
19．短文読解トレーニング③
20．短文読解トレーニング④
21．『三摩耶王経』読解トレーニング①
22．『三摩耶王経』読解トレーニング②
23．『三摩耶王経』読解トレーニング③
24．『三摩耶王経』読解トレーニング④
25．『三摩耶王経』読解トレーニング⑤
26．『十地経』読解トレーニング①
27．『十地経』読解トレーニング②
28．『十地経』読解トレーニング③
29．『十地経』読解トレーニング④
30．総まとめ

テキスト

担当者作成『サンスクリット語サブグラマー』
辻直四郎『サンスクリット文法』
（絶版のため、担当者がコピーして配布する。）

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が指示する。

学生に対する評価

課題に対する予習・復習（30%）、期末試験2回（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）Guza・V3ddhi法則に基づく語根類推能力を身に着ける。
（A）（B）の能力に加え、Sandhi法則を理解し、複合語を分ける能力を身に着ける。
（S）（B）（A）の基礎知識をもとに、短文読解能力を持つこと。

その他

科目名	チベット語（別）
学期	通年
単位数	2
担当者	テンジン・ウセル

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：【前期】文字（ウチェン）と発音、あいさつの習得、チベット語会話の基礎的学習
【後期】チベット語の基礎的な文法の習得
テ ー マ：【前期】チベット語会話
【後期】チベット語の文法入門

授業の概要

この授業は、チベット語文法の基礎を学び、チベット語文献の読解力を高めることを目的とする。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション、チベット語のあいさつ（1）
2．文字（ウチェン）と発音（1）、あいさつ（2）
3．文字と発音（2）、あいさつ（3）
4．文字と発音（3）、1から20まで
5．「私は日本人です」
6．「あなたはチベット人ですか」
7．「私たちは先生ではありません」
8．「彼はよい犬を一匹飼っています」
9．「彼女は多分今授業中でしょう」
10．「私は遊びに行きます」
11．「このカメラはあそこの女の子のものです」
12．「あなたはお食事を召し上がりますか」
13．「あの新しい家の屋根」
14．「私はチベットのチャンも好きです」
15．復習

【後期】
1．イントロダクション
2．文法（1）：文字概説、発音概説
3．文法（2）：結合文字、前置字
4．文法（3）：格助詞①
5．文法（4）：格助詞②
6．文法（5）：副助詞①
7．文法（6）：副助詞②
8．文法（7）：その他の助詞①
9．文法（8）：その他の助詞②
10．文法（9）：名詞
11．文法（10）：数詞、形容詞、指示詞
12．文法（11）：疑問詞、接続詞
13．文法（12）：動詞
14．文法（13）：終助詞
15．文法（14）：敬語

テキスト

ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

参考書・参考資料等

松本栄一・奥山直司『チベット［マンダラの国］』（小学館）
※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（80%）、試験（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）チベット語を少し読め、意味も少し分かる。
（B）チベット語を読める。
（A）チベット語を読め、意味も分かる。
（S）チベット語を読め、意味も分かり、聞き取りもできる。

その他

科目名	中国語Ⅰ
学期	通年
単位数	2
担当者	土生川正賢

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：「学問のための学問」ではなく、実社会で使える語学の習得。
外国語学習を通して自国文化をより深く理解し、多角的な視野を育成。
テ ー マ：中国語の基礎学習

授業の概要

訪日外国人数は3000万人に迫り、2017年国別ランキングでは１位中国・３位台湾・４位香港と中国語圏が圧倒的で、今や中国語は国内でも使う時代となった。「漢文」ではない「使える語学」修得のため、実践的授業を行う。

授業計画

【前期】
1．年間授業計画。中国一般常識、中国語の特性。
2．中国語の声調「四声」、発音記号「ピンイン」母音。
3．「四声」と「ピンイン」子音。
4．中国特有の漢字「簡体字」。
5．電子辞書を含む中国語辞書の紹介と使い方。
「簡体字」と「ピンイン」で書いた受講者ネームカードを配布、名前を使い発音練習。以後出欠は中国語でとる。
6-14.
テキストに従って挨拶や基本文型を学習。
前期は第１～４課。文法解説は最小限にとどめ、「聞く」「話す」に重点をおいた授業。
15. 前期試験について。アンケート。
16. 前期試験（筆記）。

【後期】
1．前期試験の反省と復習。
2-14.
テキストを中心とした授業。
後期は第５～８課。
文法解説は煩雑にならない程度。
学生の発言機会を増やし、発音・文法を検証。
「聞く」「話す」に重点をおいた授業に徹する。
常用文の暗誦等、使える中国語の習得をめざす。
15. 後期試験について。アンケート。
16. 後期試験（筆記）。講評

日中関係など国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても随時考えてゆきたい。

テキスト

喜多山幸子・鄭幸枝『はじめまして！中国語』白水社

参考書・参考資料等

辞書（小学館『中日辞典』等）。電子辞書や参考書籍は随時紹介。

学生に対する評価

①試験（60%）②受講姿勢（20%）③既習項目の習熟度（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中国語の四声とピンインを見て正しい発音ができ、簡体字を理解している。
（B）挨拶語や基礎的な構文を正しく発音でき、基本的な文法を理解している。
（A）基礎的な文法を理解した上で、自己紹介や教科書程度の内容を聞いて話せる会話力がある。
（S）中国人留学生らとの意思疎通が一定程度できる。

その他

聞けぬ話せぬ語学では実社会では役に立たない。簡単な挨拶文から始めるので、学生諸君には積極的に取り組む姿勢を要求したい。

科目名	中国語Ⅱ
学期	通年
単位数	2
担当者	土生川正賢

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：多角的な視野をもち、中国語を使って仕事のできる人材の育成。
我が国の歴史・文化・伝統・政治的立場等を中国語で堂々と主張できる国際人の養成。
テ ー マ：実践的中国語　中国語で意思表示

授業の概要

「聞く」「話す」に重点を置き、受講生の語学力にあわせた個別指導を丁寧に行う。

授業計画

【前期】
1．年間授業計画。語学力チェック。
2．初級クラスの基礎復習。辞書・参考文献の紹介。
3-10.
初級クラス同様「聞く」「話す」に重点を置く。文法の基礎固めをしつつ、初級クラスで未習のテキスト単元を学習。
11-14.
受講生の語学力に適した教材を配布。
中国語作文発表や会話力強化等、実際に使える中国語の習得をめざす。

ヒアリング能力向上のため、可能な限り段階的に中国語で授業をすすめたい。
15. 前期試験について。アンケート。
16. 前期試験（面接）。

【後期】
1．前期既習単元と試験内容、基本文型の総復習。
2-14.
受講生の語学力に適した教材を配布。
常用文の暗誦を義務付け、段階的に応用力を磨く。
学生個々が中国語で自己の意思表現ができるようにつとめたい。各人がレベルアップを実感できるよう、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。
15. 後期試験について。アンケート。
16. 後期試験（面接）。
前期同様実際に使える中国語の習得をめざす。

年間を通して、国際社会における中国の立場を検証。現代中国の抱える諸問題や時事問題にも言及するので、共に考えてもらいたい。

テキスト

初級クラスで用いた教科書の未修単元
今年度は喜多山幸子・鄭幸枝『はじめまして！中国語』白水社

参考書・参考資料等

上記テキスト修了後は、その都度必要な教材・資料を配布。
辞書は毎回必携（電子辞書可）。電子辞書や参考書籍は随時紹介。

学生に対する評価

筆記試験と中国語による個別面接試験、授業中の発表やリポート、受講態度等を加味して総合的に判定。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎的な文法を理解し、自己紹介や簡単な日常会話ができる。
（B）基礎的な文法を理解し、正しい発音で教科書程度の内容について会話ができる。
（A）新聞講読に必要な最低限の語彙力と日常会話能力、「聴・説・読・写」の総合的な力がある。
（S）中国人留学生らとの意思疎通が相当程度できる。

その他

諸君の先輩の中には北京大・復旦大・中山大など中国の一流の大学院に国費留学し学位取得した者もいる。井の中の蛙で終わらず、世界に目を向けよう！

科目名	梵字悉曇（別）
学期	通年
単位数	2
担当者	齋藤天譽

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：梵字悉曇の基礎知識の修得
テ ー マ：梵字・悉曇の書法実践

授業の概要

摩多・体文・切継など、梵字を書きながら学ぶ。

授業計画

【前期】
1．年間授業計画の説明
2．梵字・悉曇の伝来と歴史
3．4．テキストを読みながら説明
5．6．7．筆を使って実習 通摩多12文字
8．9．別摩多４文字　他
10．（ka）（kha）（ga）の３文字
11．（gha）（na）の２文字
12．（ca）（cha）の２文字
13．（ja）（jha）（ña）の３文字
14．（ḍa）（tha）（ḍa）の３文字
15．（ḍha）（na）の２文字
16．復習とテスト

【後期】
1．筆を使って実習
（ta）（tha）の２文字
2．〃（da）（dha）の２文字
3．〃（na）（pa）の２文字
4．〃（pha）（ba）の２文字
5．〃（bha）（ma）の２文字
6．〃（ya）（ra）（la）の３文字
7．〃（va）（śa）（ṣa）の３文字
8．〃（sa）（ha）の２文字
9．〃重字の２文字
10．塔婆の書き方
11．刷毛書体について
12．三尊仏について
13．光明真言①
14．光明真言②
15．諸真言について
16．総まとめとテスト

テキスト

児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房　「小堀南岳堂」で購入

参考書・参考資料等

中川善教 編『真言宗常用諸経要聚』

学生に対する評価

授業参加の積極性（20%）、作品提出（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）習った「梵字」を書くことが出来る。
（B）「梵字」に慣れて、上達が見られる。
（A）きれいな梵字を書くことが出来る。
（S）「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。

科目名	体育実技
学期	通年
単位数	2
担当者	今井邦夫

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ
様々なスポーツを通して基本技能を学習すると同時に仲間とのコミュニケーション能力を高め、生涯スポーツに活かしていく。

授業の概要

【前期】様々なスポーツを楽しみながら仲間作りと基本的技術の習得。
【後期】様々なスポーツを楽しみながら仲間作りと基本的技術の習得。

授業計画

【前期】バレーボール
1．指導概要についての説明
2．ルール、基本動作の徹底
3．個人的技能の習得（1）
4．個人的技能の習得（2）
5．試験（ラリー）
6．個人的技能の習得（1）
7．個人的技能の習得（2）
8．個人的技能の習得（3）
9．試験（アタック）
10．集団的技能の習得（1）（連携プレー）
11．集団的技能の習得（2）（連携プレー）
12．集団的技能の習得（3）（連携プレー）
13．集団的技能の習得（4）（連携プレー）
14．集団的技能の習得（5）（連携プレー）
15．試験（連携プレー）

【後期】フットサル
1．フットサルのルールとボール慣れ
2．チーム作り・個人的技能の習得
3．ゲーム、技術の向上（1）
4．ゲーム、技術の向上（2）
5．ゲーム、技術の向上（3）
6．ゲーム、技術の向上（4）
7．ゲーム、技術の向上（5）
8．ゲーム、技術の向上（6）
9．ゲーム、技術の向上（7）
10．ゲーム、技術の向上（8）
11．ゲーム、技術の向上（9）
12．ゲーム、技術の向上（10）
13．ゲーム、技術の向上（11）
14．ゲーム、技術の向上（12）
15．ゲーム、技術の向上（13）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

実技試験（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）ルールを理解し、意欲的に参加している。
（B）基本的な技術を身に付け、ルールを理解している。
（A）ルールを理解し、仲間と協力し合いながら連携プレーが出来る。
（S）ルールを理解し、技術・リーダーシップを発揮してゲームの雰囲気・質を高められる。

その他

科目名	情報処理
学期	通年
単位数	2
担当者	木地茂典

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：情報ネットワーク社会の中で情報を利用する上での重要な基礎技術をデータ分析を通してそれを習得することを目標とする。
【前期】数学的論理を踏まえ基本的なoffice機能の利用をもってプレゼンテーション化する。
【後期】実践的に表現していく中で、情報理論の体系化を修得をし、分析力を養う。
テ ー マ：入力された情報をＰＣで加工して、その結果を出力することが情報処理でもある。それをどのように表現していくを目的とする。

授業の概要

情報処理という中でこれから必要とされるデータ処理を進めていく。
【前期】基本的なことを通してデータ処理から分析ができるような内容にしていく。それには、数学的論理思考が必要になってくる。
【後期】前期を踏まえて、データ内容から分析まで表現できるものとしてプレゼンテーションし、情報の一般知識を活用してひとつの処理結果を制作していく。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス（序章）
2．Office　機能の確認
3．Word で文書作成（1）
4．Word で文書作成（2）
5．Excel での文書・表作成（1）
6．Excel での文書・表作成（2）
7．情報伝達について（1）
8．情報伝達について（2）
9．暗号化と情報管理
10．データベースの理解と活用
11．オペレーティングシステムの理解
12．サーバとネットワークの構造（1）
13．サーバとネットワークの構造（2）
14．プレゼンテーション
15．総括　機能の活用

【後期】
1．問題解決手法一般について
2．問題の表し方と解決策について
3．データの分析から評価・解決手順
4．プログラム言語と論理について
5．構造プログラムの設計（1）
6．構造プログラムの設計（2）
7．分析論（1）
8．分析論（2）
9．情報活用論（1）
10．情報活用論（2）
11．情報メディアについて
12．情報デザインについて
13．表現メディアの編集と表現について
14．情報メディア
15．総括　メディアのプレゼンテーション

テキスト

必要に応じて文献を提示していく。素材データを共有する。

参考書・参考資料等

毎回参考資料を提示していく。数学的論理・解決が必要でもあり随時提示していく。

学生に対する評価

情報機能の技術を年間通してどれだけ進歩させるかをひとつの評価になり、技術ではなくそれを用いた表現力を身につけることを目標にし、それを生かしてどのように作り上げるかを考えること。
レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）情報機能を興味深く研究する姿勢が感じられること。
（B）情報機能が理解をしていてより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
（A）情報機能が技術的に把握していて、授業を通して認識・理解を探究できること。
（S）情報機能が技術的にできていて、授業を通じて認識・理解できていること。

その他

情報処理の講座を通して今後の社会に出た時の活用も含めてこれからＡＩがより一層の変化・進化していく中でそれをうまく自分のものになるように技術もちろんだが、利用方法を見つける工夫を考える必要がある。

科目名	総合科目（書誌学）
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：古典籍をめぐる諸問題を通して、古典籍を調査・研究する上での学問的素地をつちかう。
テ ー マ：「古典籍と書誌学・文献学」

授業の概要

古典籍の伝来過程、巻子装・折本装などの諸形態を学ぶとともに、著名な蒐書家とその蔵書、古典籍の収蔵機関とその調査方法についての専門的知識を習得する。また、文献学に必要な本文批判の技法についても学ぶ。

授業計画

1．書誌学と古典籍
2．古典籍の諸形態
3．古典籍の保存と伝来の原因
4．古典籍と紙・筆
5．近世の蒐書家たち①
6．近世の蒐書家たち②
7．近現代における古典籍①
8．近現代における古典籍②
9．巻子装と冊子装
10．古典籍の書き方と種類
11．古典籍の取り扱い方
12．文献学と本文批判①
13．文献学と本文批判②
14．文献学と本文批判③
15．高野山霊宝館の見学
16．まとめ
※ 内容は進度によって変わる場合がある。

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

橋本不美男『原典をめざして』（笠間書院、1974 年）
山岸徳平『書誌学序説』（岩波書店、1977 年）
川瀬一馬『日本における書籍蒐蔵の歴史』（べりかん社、1999 年）
藤本孝一『日本の美術　古写本の姿』（至文堂、2002 年）
藤本孝一『日本の美術　文書・写本の作り方』（至文堂、2008 年）
藤本孝一『本を千年伝える』（朝日新聞出版、2012 年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）古典籍について基礎的な知識を習得している。
（B）古典籍の諸形態について理解し、系統的に説明できる。
（A）古典籍の諸形態について系統的な説明ができるとともに、近世・近代の蒐書史についても知識を習得している。
（S）古典籍・蒐書史について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。
必要に応じて、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。なお、書誌学はすぐれて専門性が高いので、内容は高度である。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	総合科目（古文書学）
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本古文書学に関して、様式論・形態論・機能論・伝来論等から総合的に理解する学問的素地を身につける。
テ ー マ：「日本古文書学の諸問題」

授業の概要

古代・中世の古文書を学問的に扱う上では、単に文字情報を解読するだけではなく、文書様式や形態的情報、さらには文書の作成・伝達過程に関わる機能的情報を理解しておかねばならない。本講義では、近年の古文書学の成果にも目を配りつつ、古文書学を理解する基礎を養う。

授業計画

1．古文書学の発達と「古文書」の定義
2．古文書の形状・料紙・種類
3．古文書の保管と紙背文書
4．古文書の宛先と伝存場所
5．古文書の書式と書札礼
6．公式様文書①
7．公式様文書②
8．公家様文書①
9．公家様文書②
10．武家様文書①
11．武家様文書②
12．「関東御教書」と「得宗書状」
13．合戦と古文書
14．起請文の世界
15．高野山霊宝館の見学
16．レポート講評
※ 内容は、進度によって変わる場合がある。

テキスト

日本歴史学会編『演習古文書選　様式編』（吉川弘文館、1976 年）
書店で購入
また、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997 年）
田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993 年）第１部「日本の古文書」
日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983 年）
青木和夫ほか編『文献史料を読む－古代から近代－』（朝日新聞社、2000 年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）古文書の様式や学史について基礎的な知識を習得している。
（B）古文書の様式や、授受をめぐる当事者主義などの中世的原理について説明できる。
（A）古文書について、様式のみならず、形態と機能の面を含めて説明できる。
（S）古代・中世の古文書をめぐる、公家・武家・寺社などの政治的・社会的関係について説明できる。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。
本講義の内容は専門的で、水準は非常に高い。講義中には、古文書の訓読や解釈について随時試問するので、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと（必ず「古文書解読」や「歴史学」などの講義を受けておくこと）。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	宗教学Ⅰ 世界の宗教1（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：宗教学について基礎的な知識を身につけると共に、さまざまな社会・文化現象を宗教の観点から読み解き、自分なりの見方ができるようになる。
テ ー マ：宗教学の基礎を学ぶ

授業の概要

当番がレジュメを用意し、テキストを一緒に読む形で授業を進める。適宜映像資料等を用いて、宗教現象を立体的に理解できるようにする。また「宗教とは何か、宗教はどうあるべきか」をテーマに意見交換の時間（第 10 回）を設ける。

授業計画

1．オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法等を説明する）の後、テキスト第１章「宗教学の立場と分野」を読む
2．テキスト第１章「宗教学の立場と分野」を読む（続）
3．テキスト第２章「宗教の原初形態」を読む
4．テキスト第３章「科学・呪術・宗教」を読む
5．テキスト第４章「宗教の諸類型」を読む
6．テキスト第５章「宗教の構成要素」を読む
7．テキスト第６章「宗教的実在観」を読む
8．テキスト第７章「宗教的人間観」を読む
9．テキスト第８章「宗教的世界観」を読む
10．討論「宗教とは何か、宗教はどうあるべきか」
11．テキスト第９章「宗教儀礼」を読む
12．テキスト第10章「教団と社会」を読む
13．テキスト第11章「宗教体験と人格」を読む
14．テキスト第12章「宗教の機能」を読む
15．まとめ

テキスト

『宗教学入門』（脇本平也著、講談社）

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示、配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）テキストを要約し、批判的に検討することができる。
（A）宗教学の代表的理論を説明することができる。
（S）社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

その他

・遅刻３回で１欠席に換算するので注意。

科目名	宗教学Ⅱ 世界の宗教2（別）
学期	後期
単位数	2
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：各種の宗教思想について基礎的な知識を身につけると共に宗教とその文化に関心を広げる。

テ ー マ：諸宗教の聖典と宗教学の名著を読む

授業の概要

諸宗教の聖典と宗教学の名著（いずれも教員が用意する抄出本）を読むことを通して、様々な宗教のあり方をより深く学んでゆく。映画等を資料にして、宗教現象を立体的に理解できるようにする。

授業計画

1．オリエンテーション、仏典を読む（1）初期経典
2．仏典を読む（2）初期経典（続）
3．仏典を読む（3）大乗経典
4．仏典を読む（4）大乗論書
5．仏典を読む（5）密教経典
6．聖書を読む（2）旧約聖書
7．聖書を読む（2）新約聖書
8．コーランを読む（1）
9．コーランを読む（2）
10. 宗教学の名著を読む（1）フレイザー『金枝篇』
11. 宗教学の名著を読む（2）
ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
12. 宗教学の名著を読む（3）デュルケム『宗教生活の原初形態』
13. 宗教学の名著を読む（4）ジェイムズ『宗教的経験の諸相』
14. 宗教学の名著を読む（5）南方熊楠書簡
15. まとめ

テキスト

授業中に適宜配布する。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）諸宗教の代表的教説を説明することができる。
（A）諸宗教を比較しながら、それぞれの特徴を説明できる。
（S）宗教とその文化に関心を持ち、その角度から社会・文化現象を分析できる。

その他

科目名	宗教思想史ⅠA
学期	前期
単位数	2
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教を含むインドの宗教思想を取り上げ、その歴史と特徴について基礎的な知識を養うと共に現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深める。

テ ー マ：インド宗教思想史

授業の概要

講義形式で授業を進める。インドは東洋における思想・宗教の一大発源地である。この授業では、まず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相を概観してゆく。

授業計画

1．インドが発する人類の思想的課題
－M.K.ガンディーの思想を手懸かりに
2．インダス文明とアーリア人、ヴェーダの神々
3．ウパニシャッドの思想
4．ブッダの生涯とその教え（1）
5．ブッダの生涯とその教え（2）
6．ブッダの生涯とその教え（3）
7．仏教の発展：大乗仏教と密教
8．ヒンドゥー教の思想と文学（1）
9．ヒンドゥー教の思想と文学（2）
10. ヒンドゥー教の思想と文学（3）
11. ヒンドゥー教とイスラーム教
12. 日本とインド
13. 西洋とインドの出会い
14. タゴール、アンベードカルの思想
15. まとめ－M.K.ガンディーと非暴力

テキスト

『古代インドの思想―自然・文明・宗教』（山下博司著、筑摩書房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
（B）インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
（A）インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
（S）インド宗教思想史に関して独自の知見を述べることができる。

その他

・遅刻3回で1欠席に換算する。
・積極的な授業参加を期待する。

科目名	宗教思想史ⅡA
学期	前期
単位数	2
担当者	櫻木潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本人のメンタリティの変化をたどり、現在の日本人の心のあり様と未来への指針を模索する。

テ ー マ：日本人の宗教思想のあゆみをたどり、日本人の精神性をさぐる。

授業の概要

古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、その歴史的変遷を概観し、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、その精神性のルーツを探求する。

授業計画

1．ガイダンス（受講の心得など）
2．日本人の基層信仰－自然崇拝と八百万の神々－
3．仏教の伝来と受容－僧尼令と国家仏教－
4．大仏造立と神仏習合－民衆への仏教のひろがり－
5．「平安仏教」の成立－「日本仏教」の成立－
6．来世への希求－末法の到来－
7．現世をどう生きるか－憂世への克服－
8．東山文化の世界－わび・さびの世界－
9．日本的伝統の源流－総合と啓蒙の時代－
10. 浮世へのまなざし－社会秩序としての儒学－
11. 日本古典への回帰－“復古”への潮流－
12. 世直しの気運－民衆宗教の勃興－
13. 廃仏毀釈と文化財保護－精神文化の転換－
14. 近代仏教の動向－近代社会と仏教－
15.「総力戦体制」時代の宗教界－「国家神道」と宗教－
16. まとめと試験

テキスト

テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

参考書・参考資料等

家永三郎『日本文化史〔第二版〕』
（岩波新書〔黄版〕187、2007年。初版1982年）
村井康彦『茶の文化史』（岩波新書〔黄版〕89、2011年。初版1979年）
田尻祐一郎『江戸の思想史　人物・方法・連環』（中公新書2097、2011年）
村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010年。初版1970年）
その他は、テーマごとに適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本人のメンタリティの歴史的変遷について説明することができる。
（B）日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。
（A）日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の諸課題について論理的に述べることができる。
（S）日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの課題について論理的に述べることができる。

その他

仏像や絵画をはじめとする美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物です。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけてください。講義でも、博物館・美術館などの展覧会の案内をします。

科目名	宗教史Ⅰ 宗教の歴史1（別）
学期	前期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：人類における宗教的営みの中で、古代の宗教やユダヤ教、キリスト教が歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。

テ ー マ：古代宗教～キリスト教

授業の概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、原始・古代における宗教の発生から、ギリシャ・ローマの宗教の歴史を踏まえつつ、キリスト教へとつながる宗教の歴史を概観する。

授業計画

第1回　概論（講義の進め方等）
第2回　宗教の起源
第3回　古代諸文明の宗教①－メソポタミアの宗教－
第4回　古代諸文明の宗教②－古代エジプトの宗教－
第5回　ギリシャ・ローマの神話
第6回　ユダヤ教の歴史①－天地創造からエジプト脱出－
第7回　ユダヤ教の歴史②－王国の成立－
第8回　ユダヤ教の歴史③－バビロン虜囚－
第9回　キリスト教の歴史①－イエス・キリストの生涯－
第10回　キリスト教の歴史②－使徒たちの活動－
第11回　キリスト教の歴史③－ローマ帝国とキリスト教－
第12回　キリスト教の歴史④－東方教会・西方教会－
第13回　キリスト教の歴史⑤－十字軍・魔女裁判－
第14回　キリスト教の歴史⑥－宗教改革－
第15回　講義のまとめ
定期試験

テキスト

・『すぐわかる世界の宗教』（町田宗鳳著、東京美術）

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房）
・『図解 世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21）
※ その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C） 宗教の歴史について大まかに理解している。
（B） 各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
（A） 各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
（S） 各宗教の歴史的展開について詳しく説明ができる。

その他

科目名
宗教史Ⅱ
宗教の歴史2（別）

学期
後期

単位数
2

担当者
土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：人類における宗教的営みの中で、イスラム教や東アジアの諸宗教、現代社会における新宗教が、歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。
テ ー マ：イスラム教／日本宗教史／現代における諸宗教

授業の概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、イスラム教の歴史、東アジアの宗教、さらには現代社会における新宗教の歴史を踏まえつつ、今日に続く宗教の歴史を概観する。

授業計画

第１回　概論（講義の進め方等）
第２回　イスラム教の歴史①－ムハンマドの生涯－
第３回　イスラム教の歴史②－イスラム国家の誕生－
第４回　イスラム教の歴史③－イスラム各派の発生－
第５回　イスラム教の歴史④－復興主義と原理主義－
第６回　東アジアの宗教①－儒教の誕生－
第７回　東アジアの宗教②－儒教の展開－
第８回　東アジアの宗教③－道教の成立－
第９回　東アジアの宗教④－道教の神々－
第10回　東アジアの宗教⑤－神道の世界－
第11回　東アジアの宗教⑥－神道の変遷－
第12回　現代社会と宗教①－世界の新宗教－
第13回　現代社会と宗教②－日本の新宗教－
第14回　現代社会と宗教③－スピリチュアリズムと現代社会－
第15回　講義のまとめ
定期試験

テキスト

・『すぐわかる世界の宗教』（町田宗鳳著、東京美術）

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房）
・『図解 世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21）
※ その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C） 宗教の歴史について大まかに理解している。
（B） 各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
（A） 各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
（S） 各宗教の歴史的展開について詳しく説明ができる。

その他

科目名
哲学方法論

学期
後期

単位数
2

担当者
山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：合理的思考法を学ぶ
テ ー マ：哲学入門

授業の概要

哲学の原点をギリシャに探り、いくつかの基本テーマを学びます。

授業計画

1．哲学の語源的意味
2．ソクラテスとギリシャ世界
3．ソクラテス裁判
4．無知の知について
5．ギリシャの四元徳
6．知と徳
7．魂の世話としての哲学
8．プラトンとイデア論
9．場の記述としてのイデア論
10. アリストテレスの論理学
11. アリストテレスの存在論
12. アリストテレスの倫理学
13. 新プラトンの「一者」の思想
14. キリスト教の哲学
15. 否定神学と哲学
16. テストと総括

テキスト

田中美知太郎『ソクラテス』(岩波新書)

参考書・参考資料等

学生に対する評価

期末テスト（65％）、小テスト（20％）、授業参加への積極性（15％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

	論理的思考力	問題発見力	作文力
C	講義の内容を理解できる。	それぞれのテーマを理解できる。	自分の考えを日本語で表現できる。
B	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。	自分の考えを正確な日本語で表現できる。
A	講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、新しい問題を発見できる。	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。
S	講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、新しい問題を発見し、自分なりの見解を構築できる。	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。

その他

提供された資料を読み解くことで、論理的思考力を高めること。

科目名
哲学
現代思想
哲学B（別）

学期
前期

単位数
2

担当者
山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：人間観の基礎を構築する
テ ー マ：人の間の哲学

授業の概要

「人の間」と書いて「人間」と読むことは、私たち人間にとって他の人とのかかわりが本質的であることをよく示していると思われる。この授業では、人間関係に関する哲学的問題を中心に、現代に生きていくために必要な思想は何かを考える。

授業計画

1．赤ちゃんの人間認識
2．対人関係と言葉
3．自他の境界
4．いじめ
5．「自分」の定義
6．「愛」の諸相
7．聴くことの力
8．理解と誤解
9．自己犠牲は可能か？
10. 待つことの意味
11. 人間関係と時間
12. 死者との共存
13. 切れ字の存在論
14. 実存
15. 住まうこと
16. まとめ

テキスト

永井均『子どものための哲学対話』（講談社文庫）

参考書・参考資料等

授業中に指示

学生に対する評価

期末テスト（65％）、小テスト（20％）、授業参加への積極性（15％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

	論理的思考力	問題発見力	作文力
C	講義の内容を理解できる。	それぞれのテーマを理解できる。	自分の考えを日本語で表現できる。
B	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。	自分の考えを正確な日本語で表現できる。
A	講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、新しい問題を発見できる。	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。
S	講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、新しい問題を発見し、自分なりの見解を構築できる。	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。

その他

科目名
宗教学方法論

学期
後期

単位数
2

担当者
森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗宗教を中心として、宗教学の方法を理解する。
テ ー マ：宗教学研究法を学ぶ

授業の概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について信仰生活を中心に検討することを通して宗教学の方法を理解する。

授業計画

1．高野文化圏の信仰生活について
2．年中行事（1）
3．年中行事（2）
4．年中行事（3）
5．年中行事（4）
6．社寺の行事（1）
7．社寺の行事（2）
8．社寺の行事（3）
9．人の一生（1）
10. 人の一生（2）
11. 人の一生（3）
12. 高野山をめぐる信仰（1）
13. 高野山をめぐる信仰（2）
14. 高野山をめぐる信仰（3）
15. 高野文化圏の信仰生活の特徴

テキスト

プリントを配付する。

参考書・参考資料等

高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編　高野町　2012.3
その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70％）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30％）評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）民俗宗教の基本用語を説明できる。
（B）民俗宗教の事象を説明できる。
（A）民俗宗教の理論を自分の言葉で説明できる。
（S）現実の現象を民俗宗教の理論を使いながら説明できる。

その他

・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起こっているのかを確認しておくこと。
・教職に関する授業であるので、教壇に立つことを意識しながら聞くこと。

科目名	国語学Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	上田恭寿

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：言語としての日本語について基本的な理解を深める。
テ ー マ：言語としての日本語

授業の概要
テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらう。

授業計画
1．言語と人間　二重分節性、言語の機能（1）
2．言語と人間　二重分節性、言語の機能（2）
3．日本語の音声・音韻　音声と音韻、単音の分類、母音（1）
4．日本語の音声・音韻　音声と音韻、単音の分類、母音（2）
5．日本語の音声・音韻　音声器官、子音の基本事項（1）
6．日本語の音声・音韻　音声器官、子音の基本事項（2）
7．日本語の音声・音韻　清濁、拗音（1）
8．日本語の音声・音韻　清濁、拗音（2）
9．日本語の音声･音韻　拍と音節､特殊拍､アクセントとその役割（1）
10. 日本語の音声･音韻　拍と音節､特殊拍､アクセントとその役割（2）
11. 日本語の文字表記　日本語の表記の特色、漢字の将来（1）
12. 日本語の文字表記　日本語の表記の特色、漢字の将来（2）
13. 日本語の文字表記　漢字の構造と用法（六書)､音と訓､国字･国訓（1）
14. 日本語の文字表記　漢字の構造と用法（六書)､音と訓､国字･国訓（2）
15. 日本語の文字表記　平仮名・片仮名、ローマ字

テキスト
藤田保幸『緑の日本語学教本』和泉書店、2010 年　書店で購入

参考書・参考資料等
ジョージ･ユール『現代言語学 20 章－言葉の科学－』（大修館書店）
小泉保『教養のための言語学コース』（大修館書店）
他は授業中に紹介。

学生に対する評価
都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
（B）言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
（A）言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
（S）課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

その他
授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国語学Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	上田恭寿

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：言語としての日本語について基本的な理解を深める。
テ ー マ：言語としての日本語

授業の概要
テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらうようにする。

授業計画
1．日本語の語彙　語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（1）
2．日本語の語彙　語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（2）
3．日本語の語彙　語種（和語･漢語・外来語）（1）
4．日本語の語彙　語種（和語･漢語・外来語）（2）
5．日本語の語彙　語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（1）
6．日本語の語彙　語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（2）
7．本語の文法　学校文法とその限界、文法と言語生活（1）
8．本語の文法　学校文法とその限界、文法と言語生活（2）
9．日本語の文法　現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（1）
10. 日本語の文法　現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（2）
11. 日本語の方言　方言とは、東西差、方言区画、方言周圏論（1）
12. 日本語の方言　方言とは、東西差、方言区画、方言周圏論（2）
13. 日本語の位置　世界の中の日本語の位置、日本語の特質（1）
14. 日本語の位置　世界の中の日本語の位置、日本語の特質（2）
15. まとめ

テキスト
藤田保幸『緑の日本語学教本』和泉書店、2010 年　書店で購入

参考書・参考資料等
ジョージ・ユール『現代言語学20 章－言葉の科学－』（大修館書店）
小泉保『教養のための言語学コース』（大修館書店）
他は授業中に紹介。

学生に対する評価
都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
（B）言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
（A）言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
（S）課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

その他
授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国文法Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：古文を正しく解釈できるように、古典（文語）文法の正しい知識を得ること。
テ ー マ：用言の活用

授業の概要
文語文法（古典文法）の知識を習得する。前期はおもに用言、つまり述語になる動詞・形容詞・形容動詞の活用とその種類を中心にそれぞれの品詞の特質を考える。

授業計画
1．古典文法は何のために学ぶのか
2．文語文法と口語文法のちがい
3．文節とはなにか
4．動詞とはどのような品詞か　自動詞と他動詞
5．動詞の活用（1）四段活用
6．動詞の活用（2）上一段活用と上二段活用
7．動詞の活用（3）下一段活用と下二段活用
8．動詞の活用（4）変格活用 ナ変とラ変
9．動詞の活用（5）変格活用 サ変とカ変
10. 形容詞とはどのような品詞か
11. 形容詞のク活用とシク活用
12. 形容動詞とはどのような品詞か
13. ナリ活用とタリ活用
14. 用言の総合問題
15. まとめ
16. 確認テスト・講評

テキスト
教員が作成した教材を配布する。

参考書・参考資料等
（1）高校で使用した「古典文法」の本（どこの出版社のものでも可）
（2）古語辞書（電子辞書でも可）

学生に対する評価
（1）定期試験（50%）
（2）２回の小テスト（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）文法を学ぶ意義について理解し、用言の活用について理解している。
（B）動詞の活用の種類についての基礎的知識を習得している。
（A）（B）（C）に加えて形容詞についての基礎的知識を習得している。
（S）（A）（B）（C）に加えて、形容動詞についての基礎的知識を習得している。

その他
受講者についてはとくに限定しないが、国語の教育免許状を取得しようとする学生は必ず受講すること。

科目名	国文法Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	下西忠

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：助動詞の正しい知識と敬語の基礎、とりわけ敬意の対象を理解すること。
テ ー マ：文語の助動詞と敬語法

授業の概要
古典（漢文もふくめて）を正しく解釈するためには、古典文法の正しい知識は必須条件である。
とくに助動詞の知識は大切である。接続・活用形などの正しい理解に注意しながら、丁寧に講義をすすめていく。途中で理解度を確かめる意味で小テストを３回、また敬語の基礎も１回の小テストを実施する。

授業計画
1．助動詞とはどのようなものか
2．受身・尊敬・自発・可能の助動詞　「る」「らる」、打消「ず」、打消推量の助動詞「じ」
3．使役・尊敬の助動詞　「す」「さす」「しむ」、願望の助動詞「まほし」
4．推量の助動詞（1）「む」「けむ」「らむ」
5．推量の助動詞（2）「らし」「めり」、反実仮想「まし」
6．推量の助動詞（3）「べし」
7．完了の助動詞（1）「つ」「ぬ」
8．完了の助動詞（2）「たり」「り」
9．過去の助動詞「き」「けり」、願望の助動詞「たし」
10. 伝聞・推定の助動詞「なり」
11. 断定の助動詞「なり」「たり」、比況の助動詞「ごとし」
12. 敬語の基礎　尊敬語・謙譲語・丁寧語とはどのようなものか
13. 敬意の主体と対象
14. 「給ふ」「奉る」「聞こゆ」の識別
15. 敬語の課題
16. 確認テスト・講評

テキスト
教員が作成した教材を配布する。

参考書・参考資料等
（1）高校で使用した「古典文法」の本（どこの出版社のものでも可）
（2）古語辞書（電子辞書でも可）

学生に対する評価
（1）４回の小テスト（80%）
（2）定期試験（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）助動詞の基礎について理解している。
（B）推量の助動詞の基礎的知識を習得している。
（A）（B）（C）に加えて、時制にかかわる助動詞の基礎的知識を習得している。
（S）（A）（B）（C）に加えて敬語の基礎的知識を習得している。

その他
受講生についてはとくに限定しないが、国語の教育免許状を取得しようとする学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	下西　忠

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本の文学のなかで、古代から中世までの文学の歴史を学ぶとともに、その時代の日本文学の特質を理解する。

テ ー マ：日本文学史概観

授業の概要

上代（奈良時代）から中古（平安時代）、さらに中世（鎌倉時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識だけではなく、可能な限り作品の一部でもとりあげてその作品を鑑賞したい。作品の成立背景なども注意しながらその作品の文芸的価値を考えてみたい。

授業計画

1．この講義の目的・目標について
2．上代文学の概観、古事記と日本書紀
3．　万葉集について
4．中古文学の概観、勅撰集について、古今集について
5．竹取物語、伊勢物語など
6．枕草子、源氏物語前後
7．日記文学について　土佐日記・蜻蛉日記など
8．説話文学　日本霊異記・今昔物語集など
9．歴史物語、中世文学の概観
10．新古今集とそれ以後の和歌集
11．連歌の発生とその展開
12．日記・紀行・能狂言について
13．随筆文学について
14．軍記物語について　平家物語など
15．説話文学について
16．確認テスト・講評

テキスト

教員が作成した教材を配布する。

参考書・参考資料等

1、日本文学全史（至文堂）
2、日本古典文学史（双文社）

学生に対する評価

定期試験（50%）と小テスト（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本文学史の基礎的な知識だけしか理解していないもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）下記①②③について触れているもののやや不十分な点があるもの。
（S）①日本文学史の基礎的な知識と②作品成立の背景、さらに③作品の鑑賞にまで言及しているもの

その他

とくに受講生の制限はしないが、国語の教育免許状を取得したい者は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	下西　忠

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本の文学のなかで、中世後期文学（室町時代）ら明治時代まで文学の歴史を学ぶとともに、その時代の日本文学の特質を理解する。

テ ー マ：

授業の概要

中世後期文学（室町時代）と近代文学（明治時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識だけではなく、可能な限り作品の一部でもとりあげてその作品を鑑賞したい。作品の成立背景なども注意しながらその作品の文芸的価値を考えてみたい。

授業計画

1．勅撰集の終焉とその時代の和歌
2．御伽草子の世界
3．近世（江戸時代）文学の概観、江戸時代の和歌
4．貞門俳諧と談林俳諧
5．芭蕉の世界
6．与謝蕪村・小林一茶、狂歌と川柳
7．仮名草子、浮世草子など
8．近松門左衛門の世界
9．読本（上田秋成の世界）、洒落本・人情本など
10．明治初期の文学と文学改良運動
11．浪漫古典主義文学
12．自然主義文学の位置づけと前期自然主義文学
13．後期自然主義文学
14．与謝野晶子の世界
15．総括　文学史の意義
16．確認テスト・講評

テキスト

教員が作成した教材を配布する。

参考書・参考資料等

1、日本文学入門（小峰書店）
2、日本文学全史（至文堂）

学生に対する評価

定期試験（50%）と小テスト（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本文学史の基礎的な知識だけしか理解していないもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）下記①②③について触れているもののやや不十分な点があるもの。
（S）①日本文学史の基礎的な知識と②作品成立の背景、さらに③作品の鑑賞にまで言及しているもの。

その他

前期と同様、受講生についての制限はないが、国語の教育免許状を取得したい者は必ず受講すること。

科目名	日本文学Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本文学（上代・中古文学）の生成基盤と特徴を理解する。

テ ー マ：日本文学の魅力

授業の概要

日本文学とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその生成基盤を理解し、その特徴について考えてみる。前期は上代・中古文学を取り上げる。

授業計画

1．ガイダンス
2．文学のかたち
3．文学と思想
4．文学と四季
5．文学と地理
6．　万葉集の世界
7．王朝和歌の世界
8．紀貫之
9．清少納言と紫式部
10．源氏物語の誕生
11．「あはれ」と「をかし」
12．日記文学の誕生
13．後宮記録と女房たち
14．平安後期物語の世界
15．歴史物語と説話集
16．まとめ、院政期の文学

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

数研出版『クリアカラー国語便覧』、學燈社『古典文学基礎知識必携』

学生に対する評価

毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）上代・中古文学の作品を覚えている。
（B）他文献を参考にしながら上代・中古文学の特徴を述べることができる。
（A）上代・中古文学の生成基盤と特徴を理解している。
（S）上代・中古文学への理解から、日本文学の魅力について論じることができる。

その他

私語厳禁。講義時の疑問等についてはリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本文学（中世・近世文学）の生成基盤と特徴を理解する。

テ ー マ：日本文学の魅力

授業の概要

日本文学とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその生成基盤を理解し、その特徴について考えてみる。後期は中世・近世文学を取り上げる。

授業計画

1．中世の歌壇と歌論
2．中世和歌の世界
3．「幽玄」
4．史論と歴史物語
5．軍記物語と説話
6．「無常」
7．兼好と頓阿
8．文学の継承
9．中世の芸能
10．キリシタン文学と宣教師
11．町人の文学
12．江戸の詩歌
13．松尾芭蕉
14．近世の芸能
15．国学
16．まとめ

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

数研出版『クリアカラー国語便覧』

学生に対する評価

毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中世・近世文学の作品を覚えている。
（B）他文献を参考にしながら中世・近世文学の特徴を述べることができる。
（A）中世・近世文学の生成基盤と特徴を理解している。
（S）中世・近世文学への理解から、日本文学の魅力について論じることができる。

その他

私語厳禁。講義時の疑問等についてはリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学概論Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『百人一首』を通して日本文学の、特に韻文の世界を理解する。
テ ー マ：韻文の魅力

授業の概要

前近代日本文学の中心は和歌であった。唐歌（漢詩）に対しての大和歌である和歌は、三十一音の中に様々な世界が凝縮されている。そうした和歌文学のアンソロジーとでも言うべき『百人一首』は、カルタなどでも親しまれており、「和歌とはどのようなものか」ということを学ぶにはふさわしい題材である。講義では『百人一首』を数種ずつとりあげ、その表現や技法、詠作時の状況などを検討し、日本文学における韻文の世界を理解する。

授業計画

1．ガイダンス
2．『百人一首』の世界－編纂の経緯－
3．1「秋の田の」～ 8「わが庵は」
4．9「花の色は」～16「立ち別れ」
5．17「ちはやぶる」～24「このたびは」
6．25「名にし負はば」～32「山川に」
7．33「ひさかたの」～40「忍ぶれど」
8．41「恋すてふ」～48「風をいたみ」
9．49「御垣守」～56「あらざらむ」
10．57「めぐり逢ひて」～64「朝ぼらけ」
11．65「恨みわび」～72「音に聞く」
12．73「高砂の」～80「ながからむ」
13．81「ほととぎす」～88「難波江の」
14．89「玉の緒よ」～96「花さそふ」
15．97「来ぬ人を」～100「ももしきや」
16．まとめ

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

ビギナーズ・クラシック日本の古典『百人一首』（角川ソフィア文庫）

学生に対する評価

毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『百人一首』のそれぞれの和歌について理解している。
（B）『百人一首』のそれぞれの和歌について理解し、配列についても論じることができる。
（A）『百人一首』の成立について、論じることができる。
（S）『百人一首』を通して韻文について論じることができる。

その他

私語厳禁。講義時の疑問等についてはリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学概論Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『徒然草』を通して日本文学の、特に散文の世界を理解する。
テ ー マ：散文の魅力

授業の概要

兼好法師作『徒然草』は中世を代表する散文であるが、近世、これを模した作品が多く作られた。同じ随筆とされる『枕草子』や『方丈記』とは対照的である。後世、散文の型のひとつともなった『徒然草』の魅力を探り、日本文学の散文について考える。

授業計画

1．ガイダンス―講義の進め方、『徒然草』概論―
2．序段～第１段
3．第２段～第６段
4．第７段～第９段
5．第 10 段～第 12 段
6．第 13 段～第 15 段
7．第 16 段～ 18 段
8．第 19 段
9．第 20 段～第 23 段
10．第 24 段～第 26 段
11．第 27 段～第 30 段
12．第 31 段～第 36 段
13．第 37 段～第 40 段
14．第 41 段～第 43 段
15．第 44 段～第 46 段
16．まとめ

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

三木紀人『徒然草』（講談社学術文庫）

学生に対する評価

毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『徒然草』の各話を理解している。
（B）『徒然草』の各話について理解し、その特徴を論じることができる。
（A）『徒然草』の魅力を理解し、後世への影響を論じることができる。
（S）『徒然草』の魅力を理解し、日本文学の散文の特徴について論じることができる。

その他

私語厳禁。わからならないことがあればリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を望む。

科目名	漢文学概論Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：漢文で書かれた散文作品を読み、国語教員としての能力を身に付けることを目標とする。
テ ー マ：漢文の散文を読む。

授業の概要

志怪・伝奇小説の流れを汲む『聊斎志異』を読む。和訳を参照しながら、漢文を訓読する訓練をする。小テストを毎回実施する。

授業計画

1．ガイダンス
2．「紅玉」（1）
3．「紅玉」（2）
4．「紅玉」（3）
5．「紅玉」（4）
6．「紅玉」（5）
7．「紅玉」（6）
8．「紅玉」（7）
9．「紅玉」（8）
10．「紅玉」（9）
11．「紅玉」（10）
12．「紅玉」（11）
13．「紅玉」（12）
14．「紅玉」（13）
15．「紅玉」（14）
16．期末試験・講評

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価

毎回の小テストは、回数に応じて１：２：３……と、徐々に配分を高くする。小テストの合計を 100 点満点に換算したものと、期末試験とで、得点の高い方を評点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢文法に基づいて、文章の分析ができる。
（B）漢文法に基づいて、返り点を付けることができる。
（A）漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
（S）漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。

科目名	漢文学概論Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：漢詩を読み、国語教員としての能力を身に付けることを目標とする。
テ ー マ：『唐詩選』を読む。

授業の概要

『唐詩選』の作品から、近体詩の特徴を知る。注釈を読むことにより、訓読・読解・鑑賞の訓練をする。小テストを毎回実施する。

授業計画

1．ガイダンス
2．「題瑿公山池」（1）
3．「題瑿公山池」（2）
4．「題瑿公山池」（3）
5．「題瑿公山池」（4）
6．「題瑿公山池」（5）
7．「題瑿公山池」（6）
8．「題瑿公山池」（7）
9．「寄綦母三」（1）
10．「寄綦母三」（2）
11．「寄綦母三」（3）
12．「寄綦母三」（4）
13．「寄綦母三」（5）
14．「寄綦母三」（6）
15．「寄綦母三」（7）
16．期末試験・講評

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価

毎回の小テストは、回数に応じて１：２：３……と、徐々に配分を高くする。小テストの合計を 100 点満点に換算したものと、期末試験とで、得点の高い方を評点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢詩の規範を理解し、漢文法に基づいて、文章を分析することができる。
（B）漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
（A）漢文を逐語訳することができる。
（S）漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。

科目名	国語学講義Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	上田恭寿

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：物語（小説）テクストの生成の機構について理解を深める
テ ー マ：物語（小説）構造と物語（小説）テクスト

授業の概要

これまでの物語構造の研究を踏まえて世界構造としての物語構造を設定し、それに基づいて語りとしての小説テクスト生成機構を導き出す。そして、その機構に沿って物語（小説）テクストを分類、また、いくつかの作品を分析、そこから日本語小説テクストに見られる特性を抽出する。

授業計画

1．物語テクストと日常会話テクスト
2．これまでの物語構造モデル研究
3．複数の世界構造としての小説構造
4．志賀直哉、『小僧の神様』／芥川龍之介、『羅生門』の構造分析
5．村上春樹、『風の歌を聴け』／ドラマ『古畑任三郎』の構造分析
6．『和泉式部日記』の構造と物語性
7．語りとしての物語（小説）テクストの生成機構
8．物語（小説）テクストの分類（1）
9．物語（小説）テクストの分類（2）
10．藤沢周平作品テクストに見られる日本語小説の特性
11．北原亞以子作品テクストに見られる日本語小説の特性
12．宮部みゆき作品テクストに見られる日本語小説の特性
13．連接構文とは
14．日本語小説における時制
15．まとめ

テキスト

なし。都度、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

ジェラルド・プリンス『物語論辞典』（松柏社）、石原千秋他『読むための理論』（世織書房）、山岡實『「語り」の記号論』（松柏社）
他は授業中に紹介。

学生に対する評価

期中でのテクスト分析課題（40%）、および、期末のレポート（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）従来の語り論の理解。
（B）小説における世界構造と世界構造に立った小説テクストの産出機構の理解。
（A）小説テクストの産出機構を用いた小説作品のテクスト分析。
（S）日本語小説テクストの特性の抽出。

その他

授業の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国語学講義Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	上田恭寿

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本語小説テクストの特質、およびその背景としての日本文化について理解を深める。
テ ー マ：日本語小説の特質

授業の概要

日本語の物語（小説）テクストに見られる特質と日本語や他の文学ジャンル、建築や絵画等、日本文化に見られる特質との共通点を抽出、そこから日本語の小説、日本文化の特質について考察する。

授業計画

1．日本語の物語（小説）テクストの特質
2．日本語の特質
3．日本文学の他のジャンルに見られる特質
4．日本の建築、庭園、都市つくりに見られる特質
5．日本の身体表現、音楽、絵画に見られる文化的特質
6．「共通感覚」（中村雄二郎）
7．俳句における共通感覚の表現
8．藤沢周平作品における共通感覚の表現
9．『雪国』のテクストと「純粋経験」（西田幾多郎）
10．「こと」と「もの」と「ことば」
11．日本文化における部分志向性と空間認識様式
12．声の文化と文字の文化
13．日本文学、日本文化における声の文化の特質
14．明治期以後の日本語の言文一致体
15．まとめ

テキスト

なし。都度、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

藤井貞和『物語論講義』（東京大学出版会）
加藤周一『日本文化における時間と空間』（岩波出版）
木村敏『時間と自己』（中公新書）
オング『声の文化と文字の文化』（藤原書店）
他は授業中に紹介。

学生に対する評価

期中でのテクスト制作の課題（40%）、および、期末のレポート（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本文化についてのこれまでの議論の理解と批判。
（B）俳句制作を通した日本語と英語の文芸の対照。
（A）日本文化の特質の抽出。
（S）日本文化の特質の背景の考察。

その他

授業の進行の都合により一部の変更があり得る。

科目名	日本文化特殊講義A
学期	後期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『平家物語』諸本への理解を通じて、異本生成の諸相を学ぶ。
テ ー マ：長門本『平家物語』の世界

授業の概要

長門国赤間関阿弥陀寺（現山口県下関市赤間神宮）所蔵の長門本『平家物語』は部分的に古態を残すとされている延慶本『平家物語』と近似する本文を持ち、兄弟関係を想定されている。近世に多く写されたこの『平家物語』の異本には、特異な記事や表現が多く見られ、問題点が多い。講義ではそうした研究史を踏まえた上で実際に本文を読み比べ、長門本『平家物語』の生成について考えみたい。さらには寺院で形成される軍記文学についても考えてみる。

授業計画

1．ガイダンス
2．『平家物語』の作者
3．『平家物語』の諸本と成立
4．長門本『平家物語』研究史①
5．長門本『平家物語』研究史②
6．長門本『平家物語』研究史③
7．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観①
8．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観②
9．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観③
10．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観④
11．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑤
12．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑥
13．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑦
14．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑧
15．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑨
16．まとめ

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

『平家物語大事典』（東京書籍）
その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパーと受講態度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『平家物語』諸本の基本的な事柄を理解している。
（B）長門本『平家物語』の構成や表現について理解している。
（A）長門本『平家物語』の生成について、意見を述べることができる。
（S）長門本『平家物語』の生成と成立環境について論じることができる。

その他

大学院開講科目「仏教学講読」と合同科目。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文化特殊講義B
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本史や日本文化の研究に取り組む上で必要な研究法について見識を深め、文献学的な実力を養う。
テ ー マ：「日本中世史料の再検討－文献学的方法を通して－」

授業の概要

本講義では、日本中世の史料を素材として、研究史整理、本文校訂、史料批判の能力を練磨する。とくに、講義担当者の研究成果を踏まえ、慈円『愚管抄』、『吉田定房奏状』について取り上げる。

授業計画

1．ガイダンス
2．『愚管抄』をめぐる諸問題①
3．『愚管抄』をめぐる諸問題②
4．『愚管抄』をめぐる諸問題③
5．『愚管抄』をめぐる諸問題④
6．『愚管抄』をめぐる諸問題⑤
7．『愚管抄』をめぐる諸問題⑥
8．『愚管抄』をめぐる諸問題⑦
9．『愚管抄』をめぐる諸問題⑧
10．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題①
11．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題②
12．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題③
13．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題④
14．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題⑤
15．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題⑥
16．総括
※内容は進度によって変わる場合がある。

テキスト

岡見正雄・赤松俊秀校注『日本古典文学大系 86 愚管抄』（岩波書店、1967年）
※品切だが、古書で入手できるので、必ず購入すること。購入方法は、ガイダンスで教える。
また、プリントを配布し、これにもとづいて講義を進めるほか、受講生が作製する報告資料もテキストとなる。

参考書・参考資料等

塩見薫「『愚管抄』雑記」（『寧楽史苑』第3号、1956年）
塩見薫「愚管抄のカナ（仮名）について」（『史林』第43巻第2号、1960年）
坂口太郎「『愚管抄』校訂私考」（『古代文化』第68巻第2号、2016年）
坂口太郎『校本 吉田定房奏状』（私家版、2018年）
村井章介「吉田定房奏状はいつ書かれたか」（『中世の国家と在地社会』校倉書房、2005年）

学生に対する評価

レポート（50%）、講義中での報告（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『愚管抄』、『吉田定房奏状』に関する基礎的事項を理解している。
（B）『愚管抄』、『吉田定房奏状』の文献的特徴について、講義の内容を踏まえて説明できる。
（A）『愚管抄』、『吉田定房奏状』について、講義内容を踏まえて本文校訂を行なうことができる。
（S）『愚管抄』、『吉田定房奏状』の本文校訂について、独創的な指摘を行なうことができる。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。
本講義の内容は多岐にわたる上、大学院生も履修するので、水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。受講生には報告義務を課すので、参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	日本文化特殊講義C
学期	後期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：鎌倉後期の政治史を、真言密教との関係から捉え直す。
中世における院・天皇の宗教的側面を通して、天皇制の歴史的展開を考える。
テ ー マ：「鎌倉後期の王権と真言密教」

授業の概要

本講義では、鎌倉後期の王権について政治史と仏教史の両面から考察する。とくに、近年の研究成果を踏まえつつ、後宇多院・後醍醐天皇について担当者の最新の知見を紹介していきたい。

授業計画

1．網野善彦「異形の王権」をめぐって（1）
2．網野善彦「異形の王権」をめぐって（2）
3．鎌倉後期の政局（1）－両統分立と鎌倉幕府－
4．鎌倉後期の政局（2）－両統の対立と「一代の主」－
5．鎌倉後期の政局（3）－後醍醐天皇の登場と鎌倉幕府滅亡－
6．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（1）
7．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（2）
8．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（3）
9．後醍醐天皇の寺社重宝蒐集（1）
10．後醍醐天皇の寺社重宝蒐集（2）
11．後醍醐天皇の如意宝珠造作（1）
12．後醍醐天皇の如意宝珠造作（2）
13．鎌倉後期宮廷の密教儀礼と王家重宝（1）
14．鎌倉後期宮廷の密教儀礼と王家重宝（2）
15．まとめ
16．レポート講評
※ 内容は進度によって変わる場合がある。

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

網野善彦「異形の王権」
（『網野善彦著作集 6 転換期としての鎌倉末・南北朝期』岩波書店、2007 年）
『網野善彦著作集 5 蒙古襲来』(岩波書店、2008 年）
村井章介編『日本の時代史 10 南北朝の動乱』(吉川弘文館、2003 年）
阿部泰郎「宝珠と王権」
（長尾雅人ほか編『岩波講座 東洋思想 16　日本思想 2』岩波書店、1989 年）

学生に対する評価

レポート（100％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）鎌倉後期の王権と真言密教に関する基礎的事項を理解している。
（B）鎌倉後期の王権と真言密教について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
（A）鎌倉後期の王権と真言密教について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
（S）本講義の内容を踏まえて、中世の真言密教について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。
本講義は、日本史に関する基礎的知識を習得していることを前提として進めるので、受講者は注意すること（できれば、企画科目の「歴史学」などを履修していることが望ましい）。また、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	中国文化講読演習A
学期	前期
単位数	2
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：
1、『説文解字』を学ぶことにより古代文字の基礎知識を修得し、その内容（漢文）の講読力を向上させる。
2、東洋文化の根幹である漢字に興味を持ち、中国文化へ目を向ける第一歩とすることを到達目標とする。
3、説文の研究において、漢字の正・俗を理解する。
テ ー マ： 許慎『説文解字』とその背景及びその講読と篆書体の基礎的知識の修得。

授業の概要

〔漢〕許慎『説文解字』は文字を系統的に分析し、字源の考察をした最古の文字学の専門書である。特に許慎『説文解字』とその背景、またその部首の基礎的知識の修得。

授業計画

1．表意文字と表音文字及び漢字の特徴
2．『説文解字』の背景とその関連書①
3．『説文解字』の背景とその関連書②
4．部首と重文について
5．「六書」について①
6．「六書」について②
7．説文部首 第一巻の部目を読む①
8．説文部首 第一巻の部目を読む②
9．説文部首 第一巻の部目を読む③
10．説文部首 第一巻の部目を読む④
11．説文部首 第一巻の部目を読む⑤
12．説文部首 第二巻の部目を読む①
13．説文部首 第二巻の部目を読む②
14．説文部首 第二巻の部目を読む③
15．まとめ
16．テスト・講評

テキスト

・〔漢〕許慎『説文解字』中華書局、中国書店または江蘇古籍出版社
（個々に東方書店にて購入）
http://www.toho-shoten.co.jp/

参考書・参考資料等

・『字通』（平凡社）　・『説文新義』（平凡社）
・『漢字学』（東海大学出版会）　・『訓読説文解字注』（東海大学出版会）
・『王福庵説文部首目』（西泠印社）
・その他必要に応じてプリントを配る。

学生に対する評価

・ 基本的に期末テスト（60％）＋それぞれの発表及び提出物（40％）での評価をする。（素点）
・毎回の発表を10 点満点で計算する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）それぞれの漢字を『説文解字』により、自発的に調べ上げることができる。
（B）それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、原文の内容を理解する。
（A）それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、自分の研究と先人の見識の違いを発表できる。
（S）毛筆にて、課題の小篆作品を高いレベルで作り上げることができる。

その他

・「六書」及び本文の内容に入ったら、毎回個々に課題が課され、次週に発表をして頂く形式をとる。
・受講者の人数等により、進度が大きく変わることが予想される。
・『新字源』（角川書店）、『新撰漢和辞典』（小学館）、『全訳漢辞海』（三省堂）、『漢字源』（学研）、『漢語林』、『漢語新辞典』（大修館）のうち、どれか一冊を必ず持参すること。版は問わないが、できるだけ新しいものがよい。
（電子辞典を持してもかまわないが、必ず紙媒体の辞典も持参すること）。

科目名	中国文化特殊講義
学期	前期
単位数	2
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：1、書道実技による中国古代思想の理解
2、臨摹による空海の入唐時の王羲之書法の受容
3、王羲之書法を学び、創作を通しての空海書道の展開を体現
テ ー マ：空海活動の中でも最も特異とされる書を通じ、漢字を原点とする東洋思想を学ぶ。

授業の概要

1、王羲之書法と空海書道の形臨と背臨を通じての比較研究。
2、王羲之または空海の書簡風な作品を創作する。
3、書道実技を通して、文房四宝の歴史的重要性を理解する。

授業計画

1．臨摹：「集字聖教序」①
2．臨摹：「集字聖教序」②
3．臨摹：「集字聖教序」③
4．臨摹：「集字聖教序」④
5．臨摹：「集字聖教序」⑤
6．臨摹：「聾瞽指歸」①
7．臨摹：「聾瞽指歸」②
8．臨摹：「聾瞽指歸」③
9．臨摹：「聾瞽指歸」④
10．臨摹：「聾瞽指歸」⑤
11．「集字聖教序」と「聾瞽指歸」の比較研究
12．「聾瞽指歸」の背臨
13．「聾瞽指歸」書風にて創作①
14．「聾瞽指歸」書風にて創作②
15．「聾瞽指歸」書風にて創作③
16．「聾瞽指歸」書風にて創作及び作品提出。
※ 全体的な能力や達成度を見て、変更あり。

テキスト

・中国法書選：16東晋　王羲之「集字聖教序」、唐　李邕「李氏訓碑」二玄社。
・その他必要な場合プリントを配布する。
・弘法大師書跡大成「空海の書」第一巻

参考書・参考資料等

・『もっと知りたい書聖王羲之の世界』東京美術
・『空海』中央公論社、『光明皇后　空海　最澄集』二玄社
・季刊墨スペシャル　第７号『写経』二玄社等々

学生に対する評価

レポート（50％）、授業参加の積極性（50％）
・基本的に数度提出された作品による評価（素点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）臨摹作品ができる。
（B）臨摹を基盤とした創作作品を創作できる。
（A）臨摹を基盤としたより高い創作作品創作できる。
（S）長落款を含めた、レベルの高い創作作品ができる。

その他

・漢字Ⅰ、漢字Ⅱの受講修了者に限る。
・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。（授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。）
・再度受講される方は、相談の上、別の課題を課し指導する。
・レベルの高い受講生は、個々に別の要求をする。
・創作作品は、２月の学外書道展に出品する。（表装の費用は個人で負担）

科目名	日本国憲法
学期	後期
単位数	2
担当者	竹村和也

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：憲法の基本的な枠組みと幾つかの権利に関して基本的な理解を得ること、及び批判的な思考ができること。
テ ー マ：憲法と人権

授業の概要

憲法は国の基本的なあり方を定めた法であり、また守るべき理念や価値を定めた法です。本講義では憲法の中の人権規定とそれに関連するほかの法分野について、特に現代社会において問題となっている権利に焦点を当てます。特に、裁判員制度の導入とともに刑事裁判に社会の関心が集まり、またこの数年冤罪問題がクローズアップされているために、捜査・裁判における人権である身体的自由権に焦点を当てる予定です。さらに、財産権との関係で経済的自由権、家族関係における法との関係で平等権も取り扱う予定です。

授業計画

社会的に注目される新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱いますし、進度により適宜変更の可能性はありますから、あくまで目安として、
1．イントロダクション（法の体系と憲法の特質及び財産権）
2．財産権と私法①（物権）
3．財産権と私法②（契約）
4．財産権と私法③（消費者契約）
5．財産権と私法④（不法行為）
6．平等権と家族①（家族法）
7．平等権と家族②（家族法）
8．刑事司法の過程と身体的自由権（捜査と憲法上の被疑者の権利）①
9．刑事司法の過程と身体的自由権（捜査と憲法上の被疑者の権利）②
10．刑事司法の過程と身体的自由権（裁判と憲法上の被告人の権利）①
11．刑事司法の過程と身体的自由権（裁判と憲法上の被告人の権利）②
12．国民の司法参加①（陪審制度・参審制度）
13．国民の司法参加②（裁判員制度）
14．犯罪被害者の権利と立憲主義
15．中間評価
16．まとめ

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（第５版）2018 年

学生に対する評価

定期試験により（80％）
授業中のミニッツ・ペーパーや小テスト、授業への積極的な参加により（20％）
（昨年度は、学期途中で前半の試験、学期末に後半の試験と、２度の試験を実施しています。）
授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではありません。
授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合があります。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）それなりの努力が読み取れる答案
（B）内容を概ね理解したと思われる答案
（A）授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている答案
（S）授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されているとともに、批判的な検討が行われている場合

その他

受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要です。

科目名	漢字Ⅱ
学期	通年
単位数	2
担当者	木本滋久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：
テ ー マ：
【前期】今年は書体を楷書体、行書体に限定し、その中から一つの法帖を自分で選択し、実習する。その法帖の形、線の特徴をつかみ、実際に上手に表現できるように努める。
【後期】上記２書体に草書体を加えた書体から法帖を一冊選び、その法帖の形、線などの特徴が、実際に表現できるように努める。

授業の概要

臨書中心の実技の授業である。臨書作品を授業中に添削し、参考に指導者が目の前で書いて指導する。授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達はしない。自宅でも筆を持つよう心がけて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。

授業計画

【前期】
1．授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2．
3．
4．
5．
6．
7．
法帖の臨書
8．今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9．
10．
11．
12．
13．
14．
法帖の臨書
15．後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

【後期】
1．各自が法帖を選ぶ。指導者はその相談に応じ共に考えながら法帖を選ぶ。
2．
3．
4．
5．
6．
7．
法帖の臨書
8．今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9．
10．
11．
12．
13．
14．
法帖の臨書
15．後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

テキスト

各自が二玄社あるいは別の法帖から１冊選ぶ。

参考書・参考資料等

二玄社の法帖類

学生に対する評価

２回のレポート（50%）、授業態度（50%）などで評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）臨書している法帖の形と基本的な筆使いが一応できているか
（B）線がしっかり書けていて半紙にうまくまとまっているか
（A）形や余白につりあいがとれ、生き生きした臨書ができているか
（S）形というに及ばず、臨書作品に味わいがあるかどうか

その他

科目名	かなⅡ
学期	通年
単位数	2
担当者	塩野三恵子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：【前期】かなⅠの基本の上に「三色紙」の用筆や運筆の技術を身につける。
【後期】各自が選んだ古筆を臨書し、自己表現の力を身につける。
テ ー マ：【前期】三色紙の臨書をくり返し、その特徴をとらえる。
【後期】古筆を基本とした自己表現の方法を見つける。

授業の概要

【前期】かなⅠおよびそれと同程度のかな経験者を対象にかなの技術・知識のより上達をめざす。ちらし書きの名品としての古筆「三色紙」を鑑賞し臨書する。
【後期】選択した古筆を繰り返し臨書し、ちらし法を研究し、古筆をもとに制作する。

授業計画

【前期】
1．講義目標、概要の解説
2．三色紙の解説
3．「寸松庵色紙」単体文字、連綿の練習
4．「寸松庵色紙」臨書１
5．「寸松庵色紙」臨書２　料紙解説
6．「寸松庵色紙」臨書３
古筆名由来解説
7．「寸松庵色紙」臨書４
8．「寸松庵色紙」臨書５
9．「寸松庵色紙」臨書６
これまでの課題提出
10．「継色紙」単体文字、連綿の練習
11．「継色紙」臨書１
12．「継色紙」臨書２
13．「継色紙」臨書３
14．「継色紙」臨書４
「継色紙」の課題提出
15．「升色紙」臨書1
16．「升色紙」臨書2

【後期】
1．「三色紙」の中から各自の古筆の決定
2．選んだ古筆の臨書１
3．選んだ古筆の臨書２
4．選んだ古筆の臨書３
5．選んだ古筆の臨書４
6．選んだ古筆の臨書５
7．選んだ古筆の臨書６
8．選んだ古筆をもとに制作１
9．選んだ古筆をもとに制作２
10．選んだ古筆をもとに制作３
11．選んだ古筆をもとに制作４
12．選んだ古筆をもとに制作５
13．選んだ古筆をもとに制作６課題提出
14．選んだ古筆をもとに制作７
15．選んだ古筆をもとに制作８
16．まとめ

テキスト

「日本名筆選 12 寸松庵色紙」二玄社・「日本名筆選 13 継色紙」二玄社

参考書・参考資料等

「かな古典の学び方　２寸松庵色紙・継色紙」二玄社

学生に対する評価

授業提出課題（70%）授業への主体的な取り組み姿勢・態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な筆使いと形が表現できる。
（B）「ちらし書き」の行の流れがうまく表現できる。
（A）古筆をもとに「ちらし書き」の制作ができる。
（S）古筆をもとに自分で高いレベルの「ちらし書き」の制作ができる。

その他

・かなⅠを履修した者が好ましい。
・書道具一式、古筆臨書練習用紙は各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）

科目名	篆刻Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：
1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識。
2、東洋文化における印章の重要性及び毛筆との関連性の理解。
3、各時代に沿った印章の違いの理解をもっての刻印技術の修得。
テ ー マ：篆刻の理論と実践

授業の概要

・篆刻の一番基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。
・国内の他大学にはない中国伝統的方法を前提とした指導を行う。

授業計画

1．印材・工具等の紹介
2．古代印章の起源と歴代璽印の変遷
3．毛筆にて篆書の練習①
4．毛筆にて篆書の練習②
5．毛筆にて篆書の練習③
6．双稿填墨・印稿の練習
7．刀法と側款の練習
8．漢印①
9．漢印②
10．漢印③
11．秦印
12．漢印または秦印による創作
13．将軍印①
14．将軍印②
15．予備
16．これまでの摸刻をもとに創作・作品提出

テキスト

・『図解 篆刻入門』（木耳社）

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）
・『故宮博物院蔵古璽印選』（文物出版社）
・『上海博物館蔵印選』（上海書画出版社）
・蓑毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）
・『書の基本資料 14・篆刻』（中教出版）
・書道講座第６巻 篆刻（二玄社刊）
・その他必要に応じてプリントを配布。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自分で篆刻ができる。
（B）篆刻を基に自分で創作できる。
（A）高いレベルでの創作ができる。
（S）色々な書体で、側款が刻せる。

その他

・漢字Ⅰを履修した者が好ましい。
・用具、用材は、大阪の書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）
・実技の授業なので、毎回の宿題が課される。
・１度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。
・２度目の受講者は、明清以降の流派印や秦代以前の古璽等を、相談に応じて個別に指導する。
・達成度により、授業を変更する場合あり。

科目名	篆刻Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：
1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識。
2、東洋文化における印章の重要性及び関連性の理解。
3、各時代に沿った印章の違いの理解をもっての刻印技術の修得。
テ ー マ：篆刻の理論と実践

授業の概要

・篆刻の一番基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。
・国内の他大学にはない中国伝統的方法を前提とした指導を行う。

授業計画

1．前期の復習と双稿填墨・印稿の練習
2．将軍印③
3．将軍印④
4．将軍印での創作
5．流派印の出現とその変遷（理論）
6．浙派印①
7．浙派印②
8．浙派印③
9．徽派印①
10．徽派印②
11．徽派印③
12．浙派印または徽派印による創作
13．肖形印①
14．肖形印②
15．予備
16．これまでの摸刻をもとに創作・作品提出

テキスト

・『図解 篆刻入門』（木耳社）

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）
・『故宮博物院蔵古璽印選』（文物出版社）
・『上海博物館蔵印選』（上海書画出版社）
・蓑毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）
・『書の基本資料 14・篆刻』（中教出版）
・『書道講座第６巻 篆刻』（二玄社刊）
・その他必要に応じてプリントを配布。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自分で篆刻ができる。
（B）篆刻を基に自分で創作できる。
（A）高いレベルでの創作ができる。
（S）色々な書体で、側款が刻せる。

その他

・篆刻Ⅰを履修した者に限る。
・進度により授業の順番を入れ替えたり、省略する場合あり。
・実技の授業なので、毎回の宿題が課される。
・１度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。
・２度目の受講者は、秦代以前の古璽や肖形印等を個別に指導する。
・２月に学外書道展に作品出品を課す。（表装の費用は自己負担）

科目名	条幅制作A（漢字）
学期	通年
単位数	2
担当者	木本滋久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：臨書でつちかった基礎の上に立って、個性豊かでフレッシュな作品を創作する。

テ ー マ：【前期】中国や日本の古典の臨書を通して得た技術で、漢字、近代詩文などの条幅作品を制作する。

【後期】金剛峯寺・高野山大学書道師範取得や、卒業制作にふさわしい作品の制作をめざす。近代詩文などの条幅作品も制作する。。

授業の概要

【前期】○半切に漢字４～14文字の言葉を楷書体、行書体で創作する。（倣書も可）
○半切（正方形）に漢詩、漢語を篆書体、隷書体、又は行書体で創作する。（倣書も可）
○半切に漢字・仮名まじり文を創作する。課題は授業前に提示。

【後期】２尺×８尺（52cm×約228cm）の画仙紙に自分で詩や文章を選び創作する
漢詩を選んだ人は、まず字書ですべての文字を調べ一覧表を作成する。それを参考にして字のくづし方を覚える。漢字仮名まじり文を書こうとする人は、全体の構成や空間のとり方など工夫し、漢字と仮名の調和も考えて製作をすすめる。
提出後、全体で互評会を実施。

授業計画

【前期】
1．この授業の内容、授業の進め方、必要な書道用材の説明
2．
3．
4．
5．
6．
7．
8．
9．
10．
11．
12．
13．
14．
15．
16．

半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。提出後、全体で互評会を実施する。

篆書体、隷書体、行書体で課題を半切（正方形）で創作。又は漢字仮名まじり文の創作。どれかひとつを選び実習する。

【後期】
1～16
２尺×８尺（たて228cm×よこ52cm）の紙面に、書体、題材も自由で受講生が個性と創作意欲にあふれた作品を制作。
・題材、書体は途中変更も可能であるから、試行錯誤をくりかえしながら少しずつ作品が向上する。書き込むより他に道はないと思い、時間外でもしっかり取り組んで欲しい。
・早く仕上がった人は、書体を変えたり、題材を変えたり（漢字仮名まじり文でも可）して小品を制作したらいい。
押印して提出後、互評会を実施する。

テキスト

特に無し。

参考書・参考資料等

字書や二玄社の法帖類、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価

提出作品（50%）、授業の取組（50%）を総合的に評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）規定の大きさにそれぞれの書体で誤字なく書けている。
（B）文字の大小や墨の潤滑に工夫している。
（A）作品に一貫性があり筆力が充実している。
（S）自分なりに工夫を加え、練度の高い作品に仕上がっている。

その他

２尺×８尺の作品は評価の後、２月の高野山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は各自の負担とする。
各自で事前に『字書』を購入しておくこと
画仙紙は事前に大阪の書道用品店で買っておくこと。
この授業は高野山書道師範を取得を希望する者、書道で卒業論文を書こうとする学生は必修です。かなり習熟した技能を持っていることが要求されます。

科目名	条幅制作B（かな）
学期	通年
単位数	2
担当者	塩野三恵子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：【前期】古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現する方法を知る。
【後期】臨書から創作作品へと発展させる。

テ ー マ：【前期】机上作品と条幅作品の相違点を理解する。
【後期】条幅作品に自分なりのかなの美を表現すると共に感動も加えていく。

授業の概要

【前期】 かなⅠ・Ⅱで履修したことを発展させ、かな条幅にあった用具・用材について理解し、半切作品に仕上げる。

【後期】 ２× ６尺以上のかな画仙紙に自分で歌や文章を選び制作する。全体の構成・空間のとり方・墨の扱いなどに工夫し、作品に仕上げる。

授業計画

【前期】
1．条幅「かな」の内容解説・授業の進め方・必要な用具用材等の説明。
2．条幅の基本用筆１
3．条幅の基本用筆２
4．条幅の基本用筆３
5．条幅の基本用筆４
6．古筆を活かし臨書１
7．古筆を活かし臨書２
8．古筆を活かし臨書３
9．半切に拡大臨書 清書
10．半切以上に制作１ 草稿制作
11．半切以上に制作２
12．半切以上に制作３
13．半切以上に制作４
14．半切以上に制作５
15．半切以上に制作６ 清書
16．まとめ

【後期】
1．２×６尺（55×175cm）の紙に制作１
テーマ・内容を決定、集字する。
2．２×６尺の紙に制作２
題材・デッサンを考える。
3．２×６尺の紙に制作３
土台とする古典を臨書しつつ、試行錯誤を繰り返し書き込む。
4．２×６尺の紙に制作４
5．２×６尺の紙に制作５
6．２×６尺の紙に制作６
各自のテーマに沿って創作する。
7．２×６尺の紙に制作７
各自のテーマに沿って創作する。
8．２×６尺の紙に制作８
各自のテーマに沿って創作する。
9．２×６尺の紙に制作９ 互評会
10．２×６尺の紙に制作10
互評会を受けて修正し、各自のテーマに沿って計画的に制作する。
11．２×６尺の紙に制作11
12．２×６尺の紙に制作12
13．２×６尺の紙に制作13 作品提出
14．２×６尺の紙に制作14
15．２×６尺の紙に制作15
16．まとめ

テキスト

特に無し。

参考書・参考資料等

字書や二玄社の法帖類、芸術新聞社の書道関連本、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価

授業提出課題（70%）授業への主体的な取り組み姿勢・態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）かな条幅の基本的用筆ができる。
（B）規定の大きさに効果的に表現できる。
（A）全体構成、空間のとり方、文字の大小・墨の扱いに留意し制作できる。
（S）自分で高いレベルでのかな条幅作品を制作できる。

その他

・かなⅠ、漢字Ⅰを受講済みであること。
・２×６尺以上の作品は評価の後、2月の高野山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は各自の負担とします。
・画仙紙は事前に書道用品店で買っておくこと。
・展覧会などに行き、様々な、かな条幅作品を鑑賞すること。

科目名	書道史（日本）
学期	通年
単位数	4
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：書道作品の鑑賞眼を養い、その基本的事項について理解するとともに、書の世界を味わう。

テ ー マ：古代からの主な作品をできるだけたくさん鑑賞し、我が国の時代変遷との関連を理解する。

授業の概要

わが国における書の展開について講じ、時代ごとにいくつかのテーマを取り上げながら進めてゆく。また書は、その他の芸術をはじめ諸々の文化と密接に関わるものであるので、可能な限りそうした周辺の文化的事柄とも絡めて眺めてゆくこととしたい。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス及び漢字の歴史
2．漢字の伝来
3．飛鳥時代①
4．飛鳥時代②
5．奈良時代①
6．奈良時代②
7．平安時代①
8．平安時代②
9．平安時代③
10．平安時代④
11．平安時代⑤
12．書流・書論の出現
13．鎌倉時代①
14．鎌倉時代②
15．予備
16．テスト

【後期】
1．南北朝時代①
2．南北朝時代②
3．室町時代①
4．室町時代②
5．安土・桃山時代①
6．安土・桃山時代②
7．安土・桃山時代③
8．江戸時代①
9．江戸時代②
10．江戸時代③
11．江戸時代④
12．現代
13．予備
14．復習
15．テスト
16．総括
※日本書道史関連の現地研修を、10月下旬～11月10日過ぎまでに実施の予定。

テキスト

・『［決定版］日本書道史』名児耶明監修 芸術新聞社 定価 3300 円
（書店にて購入）

参考書・参考資料等

・『書道全集（日本編）』平凡社・飯島春敬『日本書道史要説』
（1975 年・東京堂出版）
・小松茂美『展望日本書道史』（1986 年・中央公論社）
・小松茂美編『日本書道辞典』（1987 年・二玄社）
・『墨スペシャル 12 図説日本書道史』（1997 年・芸術新聞社）
・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（2005 年・萱原書房）
・その他必要に応じて、プリントを配布

学生に対する評価

・基本的にペーパーテストによる評価。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）書道用語を理解できる。
（B）書道史に関する時代変遷を自分で発言できる。
（A）自分で調査した書道史に関する研究を、発表できる。
（S）自分で調査した書道史に関する研究を、先人研究者との比較してその違いを発表できる。

その他

・欠席や遅刻は学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て望むこと。
・再試験はしない。

科目名	博物館概論
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：国内外の博物館の歴史を振り返りつつ、博物館に関する基礎的知識、博物館を取り巻く厳しい社会状況について理解を深め、専門性の基礎となる能力を養うことを目的とする。

テ ー マ：「博物館の歴史的意義」

授業の概要

この授業では、博物館学や関係法規の意義について学習するとともに、学芸員の担う職務と博物館の社会的責務について理解を深める。また、明治以降の博物館論の果たした社会的機能について学ぶとともに、博物館とナショナリズムとの関係についても考える。

授業計画

1．博物館学の目的とそのあゆみ
2．博物館の種類と機能
3．学芸員の職務
4．世界の博物館とその歴史①
5．世界の博物館とその歴史②
6．日本の博物館とその歴史①
7．日本の博物館とその歴史②
8．日本の博物館とその歴史③
9．明治期の博物館論
10．大正・昭和前期の博物館論
11．博物館とナショナリズム
12．博物館法とその意義
13．文化財保護制度の歴史
14．博物館をめぐる現状と矛盾
15．まとめ
16．レポートの講評
※ 内容は進度によって変わる場合がある。

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治『博物館学Ⅰ 博物館概論・博物館資料論』
（学文社、2012 年）
浜田弘明編『シリーズ現代博物館学 1 博物館の理論と教育』
（朝倉書店、2014 年）
金子淳『博物館の政治学』（青弓社、2001 年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）博物館の歴史について、基礎的な説明ができる。
（B）博物館の歴史と社会的責務について具体的に説明できる。
（A）博物館の歴史とその社会的責務、日本近代の政治状況が博物館に与えた影響について説明できる。
（S）講義内容と自己の調査に基づいて、博物館の歴史的沿革・意義について論じることができる。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。博物館学芸員への道は非常に険しい。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。

科目名	生涯学習概論
学期	前期
単位数	2
担当者	櫻木　潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：生涯学習や社会教育の意義を理解し、その制度やしくみ、内容や方法を学ぶことを通じて、今後さらに進展する「生涯学習の時代」に対応できるための基礎的な能力を身につける。
テ ー マ：「生涯学習の時代」の現状と今後の課題について考える。

授業の概要

生涯学習とはなにかを理解し、その理論と社会におけるしくみや方法、生涯学習社会におけるネットワーク構築の必要性をさまざまな実践例を紹介することを通じて、生涯学習の指導者としての役割や、今後の課題について探求する。

授業計画

1．ガイダンス／生涯学習とはなにか？
2．生涯学習論の導入と展開
3．生涯学習と日本の行政
4．生涯各期の学習課題
5．生涯学習と家庭・学校・地域社会
6．社会教育制度と生涯学習
7．学校教育と生涯学習
8．博物館と生涯学習
9．図書館と生涯学習
10. 生涯学習の形態と方法
11. 生涯学習を支援する指導者の役割
12. 地域づくりと生涯学習
13. グローバル化する社会と生涯学習
14. これからの生涯学習の動向と課題
15. まとめ／「生涯学習の時代」を生きる
16. 定期試験／講評

テキスト

田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜『テキスト　生涯学習－学びがつむぐ新しい社会－［新訂版］』（学文社、2018 年。初版 2008 年）
その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等

大堀哲編著『司書･学芸員をめざす人への生涯学習概論』（樹村房、2010 年）
関口礼子・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫・神部純一・柳田雅明
『新しい時代の生涯学習〔第３版〕』（有斐閣、2018 年）
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（40％）、毎回の授業時に行う課題（60％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）生涯学習の理論と実践について、基礎的な知識を身につける。
（B）生涯学習の理論と実践についての基礎的な知識を身につけ、問題点を指摘することができる。
（A）生涯学習の理論と実践についての知識を身につけ、これからの取り組みを提案することができる。
（S）これからの生涯学習のあり方について提案することができ、実際に生涯学習活動に参加している。

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。
授業で紹介する実践例以外にも、新聞などを通じて生涯学習に関する各地の取り組みについて関心を持つことを心がけること。

科目名	博物館教育論
学期	後期
単位数	2
担当者	櫻木　潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：学びの場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論や方法、特性を学ぶことを通じて、地域の結節点としての役割を担うための博物館教育とその発信の方法についての基礎的な能力を身につける。
テ ー マ：学びの場として博物館の役割とその方法と実践について考える。

授業の概要

博物館における学びとその特性を理解し、そのための理論と実践についてさまざまな実践例を紹介することを通じて、地域の結節点としてこれからの博物館が担う教育的な役割とその発信方法について探求する。

授業計画

1．ガイダンス／博物館教育とはなにか？
2．博物館における学び
3．博物館教育のあゆみ
4．博物館教育を実践するための理論
5．生涯学習と博物館教育
6．博物館教育の方法①～見ること・聞くことからの学び～
7．博物館教育の方法②～体感することからの学び～
8．学校教育と博物館
9．地域社会と博物館教育
10. 博物館教育の実践①～展示解説をしてみよう～
11. 博物館教育の実践②～展示解説をしてみよう～
12. 博物館教育の実践③～展示解説をしてみよう～
13. 地域の人材を育てる場としての博物館
14. グローバル化する社会と博物館教育
15. まとめ／これからの博物館教育とは？
16. レポート提出

テキスト

黒沢浩編著『博物館教育論』（講談社、2017 年）
その他、授業テーマによってプリントを配布します。

参考書・参考資料等

柿崎博孝・宇野慶『博物館教育論』（玉川大学出版部、2016 年）
その他、授業中に適宜紹介します。

学生に対する評価

期末レポート（30％）、発表（30％）、毎回の授業時に行う課題（40％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育の場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける。
（B）博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その問題点を指摘することができる。
（A）博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる。
（S）これからの博物館教育のあり方について、自身の体験から実例をもとに論じることができる。

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目です。資格取得を目指している者は必ず受講すること。
各地の博物館や美術館などを実際に訪れ、それぞれの博物館が行っている取り組みについて体験することを心がけること。希望があれば、博物館の見学会を行う予定です。

科目名	教育原論
学期	前期
単位数	2
担当者	山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：教育とは何か？教育に関する思想、教育の歴史の中に現れてきた教育の理念を辿り、教育の本質に対する理解を深めるとともに、これまでの実際の教育の営みの変遷をたどり、教員として教育にかかわるための基本的知識を身につける。

授業の概要

１､教育の基本的概念、２､教育思想の歴史、３､教育の営みの歴史を学び、教育の本質に関する理解を深め、教員として教育にかかわっていくための基礎となる知識を身につけます。

授業計画

第 1 回：教育の基本的意味
第 2 回：人間特有の現象としての教育
第 3 回：学ぶことと教えること
第 4 回：こころとからだを育てる
第 5 回：道徳性の発達
第 6 回：教育思想の原点１（ソクラテス）
第 7 回：教育思想の原点２（プラトン）
第 8 回：近代の教育思想１（ロック）
第 9 回：近代の教育思想２（ルソー）
第 10 回：現代の教育思想（デューイ）
第 11 回：家庭・地域・学校
第 12 回：近代学校の性格
第 13 回：日本における学校の歴史
第 14 回：子どもの権利と教育への権利
第 15 回：現代教育の課題
定期試験

テキスト

田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

	論理的思考力	問題発見力	作文力
C	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる。	自分の考えを日本語で表現できる。
B	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。	自分の考えを正確な日本語で表現できる。
A	講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、新しい問題を発見できる。	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。
S	講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、新しい問題を発見し、自分なりの見解を構築できる。	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。

科目名	教職入門
学期	後期
単位数	2
担当者	嶋田　博

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：・学校教育の目的と教職の意義、教員の役割、必要な資質・能力を理解する。
・教員の職務内容、服務と身分保証、職責の遂行と研修について理解する。
・複雑・多様化する教育課題に、チーム学校で対応する重要性を理解する。
・より良い自己実現に向けて、自己の適性と教職の職業的特性を理解する。
テ ー マ：今日の教育改革の動向を踏まえ、教職の意義と教員に求められる役割や資質・能力、教員の職務内容や服務規定を理解し、より良い進路選択に繋げ自己変容を図る。

授業の概要

今日の学校教育の現状と課題、学校教育に係る法令と教職の意義、様々な教職観と教員の役割、答申等に示される教員像、学校組織と教員の職階、教員の職務内容と校務分掌、学習･生徒指導と学級担任の役割、服務･身分上の義務と身分保証、教育改革と教員研修、いじめ･問題行動への対応と保護者対応、リスクマネジメントと危機管理、学校組織の課題とチーム学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

授業計画

第１回：児童・生徒の実態と学校教育の現状及び課題について説明する。
第２回：学校教育及び教職に係る法令、教員免許の取得と採用試験・任用について説明する。
第３回：教職の意義と自己のキャリア形成、求められる資質・能力と自己変容について説明する。
第４回：様々な教職観の変遷と教員の存在意義、期待される教員像について説明する。
第５回：学校組織と教員の種類及び職階、社会的使命について説明する。
第６回：教員の全ての職務内容と校務分掌、校務分掌の改善・充実について説明する。
第７回：「確かな学力」の形成に向けて教員の職務と学校の取り組みについて説明する。
第８回：生徒指導の推進に向けて教員組織の現状と課題、課題解決に向けた実践について説明する。
第９回：いじめ問題等の現状と課題、課題克服に向けたPDCAサイクルについて説明する。
第10回：キャリア教育の推進に向けた教育課程の改善、教員と保護者・地域の連携について説明する。
第11回：教員の職務・課題別研修、専門・教養研修と教員への役割期待・役割達成について説明する。
第12回：教員の職務と根本規準、服務上及び身分上の義務について説明する。
第13回：学校の危機管理とリスクマネジメント、学校評価について説明する。
第14回：学校評議員・学校運営協議会制度、学校組織の課題、チーム学校づくりについて説明する。
第15回：生涯学び続ける教員であるための進路選択・自己決定・自己責任について説明する。
定期試験

テキスト

『新しい教職基礎論』 2019.3 （伊藤一雄他著　サンライズ出版） 書店で購入

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
（B）教員の職務や服務内容、期待される教員の在り方について、テキストを見ながら説明できる。
（A）複雑・多様化する学校教育の課題や子どもの指導・支援に、教員が「教職実践力」を身に着けることが大切であることを、テキストや参考書を見ながら自分の言葉で説明できる。
（S）子どもに「生きる力」を育む視点から、学校教育の改善・充実に向けた「チーム学校」づくりの必要性と教職員が努力すべき事項について、テキストや参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

その他

子どもや教育・福祉、学校教育、教育行政等に係るニュースに関心を持ち、新聞や雑誌等の記事を収集するなど、教職への課題意識や関心・意欲を高めるよう努めて欲しい。

科目名	教育社会学
学期	後期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：教育の中心に置かれてきた学校を社会学的な視点から理解し、どのような課題があるのかを説明できるようになる。

テ ー マ：学校の社会学

授業の概要

学校をめぐる諸問題について説明し、どのような問題があるのかを検討する。授業を通して、社会学的な視点を養う。

授業計画

第１回：教育社会学とはどのような学問かについて説明する。
第２回：学校をめぐる状況の変化（１）
子どもの生活の変化について説明する。
第３回：学校をめぐる状況の変化（２）
少年犯罪・児童虐待について説明する。
第４回：学校をめぐる状況の変化（３）
いじめ、校内暴力について説明する。
第５回：学校をめぐる状況の変化（４）不登校について説明する。
第６回：学校をめぐる状況の変化（５）
学歴社会、格差社会、子供の貧困について説明する。
第７回：学校をめぐる状況の変化（６）
少子化・未婚化・晩婚化について説明する。
第８回：社会の変化と学習指導要領の改訂について説明する。
第９回：教育基本法改正問題について説明する。
第10回：諸外国の教育事情・教育改革の動向を説明する。
第11回：地域と学校の連携と協働について説明する。
第12回：開かれた学校づくりについて説明する。
第13回：学校安全の必要性について説明する。
第14回：生活安全、交通安全、災害安全における課題について説明する。
第15回：持続可能な社会における教育について説明する。
定期試験は実施しない。

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

授業中に資料を配布する。

学生に対する評価

レポート（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育社会学の基本用語が説明できる。
（B）教育の問題について説明できる。
（A）講義内容を理解し、社会学的に説明できる。
（S）現在の学校教育の問題について自分の意見を述べることができる。

その他

真剣に教師を目指す者のみ受講すること。

科目名	教育心理学
学期	後期
単位数	2
担当者	戸来知子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：・学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。
・人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。
・学習と評価の問題について理解を深める。
・発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

テ ー マ：学習指導と生徒指導に心理学を援用して効果をあげる。

授業の概要

学校現場における生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得すると共に、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。学習をより効果的に習得できるように、言語の発達、記憶のメカニズム、学習のプロセスについて学ぶ。さらに学習の評価についても学ぶ。

生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について学ぶ。特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

授業計画

第１回：オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育心理学とは何かについて概観する。
第２回：発達過程と教育の関連について。現代の子どもの心理学的特性を理解する。
第３回：様々なライフサイクル論の紹介。エリクソンのライフサイクル論・乳児期から遊戯期について学ぶ。
第４回：エリクソンのライフサイクル論・児童期・青年期の課題と特徴および学習との関連性を知る。
第５回：エリクソンのライフサイクル論・人生の後半と若い世代への関わりあいについて学習する。
第６回：学習のメカニズムについて学ぶ。動機づけ、記憶のメカニズム等。
第７回：学習効果と自尊感情の関連性について理解する。「無気力」について学習する。
第８回：知的能力の発達について学ぶ（表象的思考の発達と創造性の発達。）
第９回：学習指導の心理学的理論を紹介する。プログラム学習と協同学習について学ぶ。
第10回：学習意欲と教育評価について学ぶ。
第11回：発達障害（LD、ADHGなど）について理解する。発達障害(LD、ADHGなど）について理解する。
第12回：生徒の問題行動とその対応法について考察する（いじめ、不登校、引きこもり等）。
第13回：生徒の不適応とストレス対処法について学ぶ。スクールカウンセラーの役割について考える。
第14回：特別な支援を必要とする生徒について理解を深める（事例を通して学習する）。
第15回：自己指導能力を発達させる方法を学ぶ。これまでの学習の総括を行う。
定期試験

テキスト

桜井茂男編、『教育心理学』、図書文化。

参考書・参考資料等

伊藤良高･永野典詞･大津尚･中谷彪編、『子ども･若者政策のフロンティア』、晃洋書房。

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）、出席状況およびディベート等の状況（25%）、学期末試験（55%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習のメカニズムを理解している。
（B）様々な学習方法を説明できる。
（A）自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
（S）様々な学習評価を理解している。

その他

毎回出席を取る。
テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらう。

科目名	教育課程論
学期	前期
単位数	2
担当者	嶋田博

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：・教育課程の意義、カリキュラムの類型と特徴、学習指導要領の変遷及び性格と位置付け、教育課程の社会的役割や機能について理解する。
・「主体的・対話的で深い学び」を育む教育課程編成の原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性、アクティブラーニングついて理解する。
・教科等横断的な教育内容の選択と配列、カリキュラム・マネジメントの視点に立つ長期的指導計画の作成、カリキュラム評価と改善について理解する。

テ ー マ：「学びの地図」として改訂された学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について、その意義と役割・機能、改訂の方向性と育むべき資質・能力、教育課程の編成原理と方法、教科・領域・学年間をつなぐ教育課程、カリキュラム・マネジメントの意義と指導計画の作成、アクティブラーニング、教育課程の評価と改善について理解する。

授業の概要

教育課程の意義と今日的課題、カリキュラムの変遷と教育課程の類型・特徴、学習指導要領の改訂の歴史と内容及び社会的背景、教育課程改革と新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の役割と機能、カリキュラム・マネジメントとアクティブラーニング、教科等横断的なカリキュラム編成と方法及び指導計画の作成、キャリア教育と学校改善、教育課程の評価と改善等について、学校現場での事例を紹介しながら解説する。

授業計画

第１回：学校における今日的課題と教育課程の意義と役割・機能について説明する。
第２回：カリキュラムの歴史的変遷と教育課程の類型・特徴について説明する。
第３回：我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。（明治～昭和）
第４回：我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。（平成～現在）
第５回：学習指導要領の性格及び位置付け、関連する法令について説明する。
第６回：中央教育審議会答申が示す教育課程改革の構造及び特徴について説明する。
第７回：学習指導要領改訂の特徴と改善の方向性について説明する。
第８回：学習指導要領の枠組みと『総則』に示す改訂のポイントについて説明する。
第９回：カリキュラム・マネジメントの意義と重要性及び３つの側面、方法について説明する。
第10回：カリキュラム・マネジメントと教育課程のＰＤＣＡサイクルについて説明する。
第11回：「主体的・対話的で深い学び」のアクティブラーニングについて説明する。
第12回：育成を目指す資質・能力から教科等横断的な教育内容の選択・配列について説明する。
第13回：教科等横断的な視点からのカリキュラム編成と指導計画の作成について説明する。
第14回：保護者及び地域と協働したキャリア教育の推進と学校改善について説明する。
第15回：チェックリストを活用した教育課程の評価と改善について説明する。
定期試験

テキスト

『教育課程論のフロンティア』 2019.3　改訂版（大津実他著　晃陽書房）

参考書・参考資料等

・『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（文部科学省）
・授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
（B）教育課程の意義や編成原理、学習指導要領の内容について、テキストを見ながら説明できる。
（A）カリキュラム・マネジメントの視点からの教育課程のＰＤＣＡサイクル、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、テキスト等を見ながら自分の言葉で説明できる。
（S）教科等横断的な視点に立ったキャリア教育推進の年間計画の策定やカリキュラムづくりの留意点について説明することができる。

その他

・日本国憲法や教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則等、教育関連法令について事前・事後の学習を充実して欲しい。
・学校教育や子どもに関連する調査や資料、報道等に、関心を持って生活して欲しい。

科目名	道徳教育の研究
学期	前期
単位数	2
担当者	戸来知子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：道徳教育における実践的指導力を身につけることを目標とする。そのために、道徳の意義や原理を理解する。また、学校教育全体における道徳教育の意義と、その中核となる道徳科目標、内容を理解する。

テ ー マ：道徳教育の意義を理解し、実践的指導力を培う。

授業の概要

１、道徳の意義と本質、２、学校教育における道徳教育、３、道徳科指導法を学びます。

授業計画

第 1 回：道徳とは何か１、その本質について学ぶ。
第 2 回：道徳とは何か２、主要な道徳理論を学ぶ。
第 3 回：道徳教育の歴史を解説する（西洋）。
第 4 回：道徳教育の歴史を解説する（東洋）。
第 5 回：現代社会における道徳とは何か理解する。
第 6 回：学習指導要領における道徳教育の目標を知る１
第 7 回：学習指導要領における道徳教育の目標を知る２
第 8 回：子どもの道徳性の発達について学ぶ。
第 9 回：道徳科指導法について説明する。
第 10 回：道徳科の教材と授業計画について解説する。
第 11 回：道徳科指導案作成を行う。
第 12 回：学生による模擬授業を行う。
第 13 回：学生による模擬授業を行う。
第 14 回：模擬授業の振り返りと授業改善の方法を検討する。
第 15 回：道徳化の学数評価を解説する。
定期試験

テキスト

小学校学習指導要領（文部科学省）
中学校学習指導要領（文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）道徳的徳目を六つ以上言える。
（B）集団や社会生活において重視される道徳的価値を説明できる。
（A）生命や自然、崇高なものを敬う気持ちの大切さを理解している。
（S）国際理解と道徳の関連性を理解し、生徒に指導する方法を身につけている。

その他

テーマに沿った話し合い等を行う。

科目名	特別教育活動指導
学期	後期
単位数	2
担当者	戸来知子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：①特別活動の意義、目標について理解する。
②学習指導要領の内容を理解し、特別活動を構成している教育活動の指導方法を学ぶ。
テ ー マ：①総合的な学習の時間の意義を理解し、指導案を作成し模擬授業を行う。
②人間の成長・発達の理論や教育学の代表的な基礎理論を理解する。

授業の概要

学習指導要領において特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。授業では、学校生活（ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事）において学習指導要領の内容について具体的に事例を挙げながら学ぶ。総合的な学習の時間についても、探求的な見方考え方を働かせることを、横断的･総合的な学習の課題を通して学ぶ。指導案作成や教材研究、模擬授業を通して、教師になった時の実践力を身につける。さらに、教育活動の基礎にある人間の成長発達の理論や教育学の理論も学ぶ。

授業計画

1．オリエンテーション。授業計画の説明。特別活動の意義と役割について学ぶ。
2．学習指導要領から「特別活動」の意義や内容について学ぶ。「隠れたカリキュラム」についても学び、教科との関連を理解する。
3．ホームルーム活動について学ぶ。役割の取得と人間関係構築について考える。
4．ホームルーム活動においての教師の指導力を考える。ホームルーム活動の指導案の作成。（公共の精神や生き方・在り方を考える。）
5．ホームルーム活動の模擬授業。（合意形成に向けた話し合い活動とその指導の在り方等）
6．学校行事の意義や内容について学ぶ。家庭や地域住民および関係諸機関との連携を学ぶ。
7．生徒会活動とクラブ活動の意義を学ぶ。具体的実践例とプレゼンテーション。
8．総合的な学習の時間について学ぶ。（目的・経緯、課題など）
9．総合的な学習の時間の具体的事例を知ると共に年間指導計画の作成を学ぶ。
10．総合的な学習の時間の指導案作成と教材研究。（食育・国際理解・ボランティア等）
11．総合的な学習の時間の模擬授業。探求的な学習の過程とそれを実現する手立てを学ぶ。
12．総合的な学習の時間の評価の考え方を学ぶ。
13．総合的な学習の時間と教科の学習との関連性、地域との連携について学ぶ。
14．J.デューイやエリクソンの理論から総合的な学習の果たす役割を考える。
15．学習のまとめとレポートの返却。

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』の特別活動編。（配布する。）

参考書・参考資料等

中園大三郎、松田修編著、『特別活動の理論と実践』、学術研究出版、2018 年。
中村豊、原精治編著、『特別活動』、ミネルヴァ書房、2018 年。
森田真樹、篠原正典編著、『総合的な学習の時間』、ミネルヴァ書房、2018 年。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）特別活動の目標と意義が言える。
（B）総合的な学習の目的と経緯を説明できる。
（A）ホームルーム活動や学校行事の意義を説明できる。
（S）デューイの教育理論に沿って体験学習の教育的意義を理解している。

その他

毎回出席を取る。
体験学習のプレゼンテーションをしてもらう。

科目名	教育方法論
学期	後期
単位数	2
担当者	伊藤博美

授業の到達目標及びテーマ

この授業では、教育の方法・技術を背景となる思想から理解し、最終的には学校教育に留まらず人間形成・人材育成の観点からも検討できるようにすること、また指導案の素案を作成できるようにする。

授業の概要

「教育」は人間に生涯つきまとう営みと考えられる。その方法・技術を教育思想から理論的に検討し、自らの成長や周囲の人の成長を援助する力を育成する契機とする。事例から理論の理解を深め、実践への一歩とする。

授業計画

第１回：導入　教育方法の理論とは　育成されるべき資質・能力の理解
第２回：「学び合い」や「教えない授業」の検討（主体的・対話的で深い学び）
第３回：「教えてから考えさせる授業」の検討（主体性の意味）
第４回：学習のメカニズム　講義、協調学習（対話の意味）
第５回：学習モデル（１）学習転移モデル、経験学習モデル
第６回：学習モデル（２）批判的学習モデル　(深い学びの意味)
第７回：「正統的周辺参加モデル」
第８回：動機づけの理論（１）外発的動機づけ、内発的動機づけ
第９回：動機づけの理論（２）やる気のなさ、やる気を高める方法、フロー理論
第10回：指導案（１）指導案の各項目
第11回：指導案（２）指導案の作成　話法・板書等の基礎的技術
第12回：指導案（３）指導案の修正　授業展開と評価規準
第13回：ICTを活用した授業方法と情報モラル
第14回：「インストラクショナルデザイン」　目標・教材・評価
第15回：「学習環境」のデザイン　学習する組織　場の理論
定期試験

テキスト

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

参考書・参考資料等

佐伯胖『「学ぶ」ということの意味』岩波書店
市川伸一『「教えて考えさせる」授業を創る』図書文化社
ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー（著）、佐伯胖（訳）『状況に埋め込まれた学習　正統的周辺参加』産業図書
中原淳 (編著)『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

学生に対する評価

授業中の課題への取組（50%）、レポート（20%）、授業内での小テスト（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

	論理的思考力	問題発見力	教育方法についての知識
C	講義の内容の概要を理解できる。	それぞれのテーマの概要を理解できる。	さまざまな教育方法を技術的な側面から理解する。
B	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。	それぞれのテーマを思想的背景から理解できる。	さまざまな教育方法について、意義と問題点を理解する。
A	講義の内容を、思想的歴史的背景から理解できる。	それぞれのテーマについて、自分なりに課題を見つけられる。	さまざまな教育方法を、自らの授業設計に応用しようとする。
S	講義の内容を、自分なりに批判的に検討出来る。	それぞれのテーマについて、客観的に課題を見いだすことができる。	さまざまな教育方法を、自らの授業設計に応用し、指導案を立てることができる。

その他

科目名	情報技術論
学期	前期
単位数	2
担当者	戸来知子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：①コンピュータの構成と情報処理の基本知識を学ぶ。
②教師の仕事をこなすために必要なパソコン技術を習得する。
③情報社会の抱える問題点を理解し、情報モラルおよびマナーを身につける。
テ ー マ：①情報活用の実践力を習得すると共に、情報の技術が社会や環境に果たす役割を理解する。
②教科教育に情報機器を取り入れる方法を学ぶ。
③総合的な学習の時間や特別な教科「道徳」との関連で、情報モラルや社会のあり方を考える。

授業の概要

パソコンの使い方を習得しながら、情報処理の基本知識や情報社会のモラルを学ぶ。教科指導、特別な教科「道徳」特別活動、総合的な学習の時間、との関連において、それぞれの課題や目的に応じて、情報を収集・処理・表現・創造する力を育成する。

授業計画

1．オリエンテーション。授業の概要を説明する。情報化社会の現状を認識する。
2．インターネットの匿名性の持つ危険と情報社会でのマナーについて学ぶ。
3．個人情報の取り扱いとプライバシーの保護について学ぶ。ネット被害の事例を紹介する。
4．HR運営・特別な教科「道徳」における情報機器の活用を考える。
5．HRの課題として、Wordを使って「学級通信」を作成する。
6．教科指導・総合的な学習の時間における情報機器の活用を考える。Excelを使用して分布図やグラフを描いてみる。
7．情報検索を体験する。情報通信ネットワークの仕組みを知る。
8．SNSの利便性と危険について解説する。（ブログやフェイスブック等）
9．情報セキュリティとセキュリティ対策について学ぶ。
10．教科指導における情報機器の活用としてパワーポイントの使用を学ぶ。
11．アニメーションのつけ方、写真の挿入の仕方。情報に関する知的財産権と著作権について学ぶ。
12．パワーポイントを使用してのスライド 作成の作成を学ぶ。
13．特別活動における情報機器の活用として「修学旅行の資料」を作成する。
14．「修学旅行の資料」を用いてのプレゼンテーションを行う。
15．学校教育においてのITの活用を学ぶ。提出済の課題を返却する。

テキスト

『インターネット社会を生きるための情報倫理』
（情報教育学研究会　情報倫理教育グループ）

参考書・参考資料等

『エクセル & ワード・パワーポイント便利技ぜんぶ！』TJMook

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）パソコンの基本的な操作ができる。情報社会のマナーについて言える。
（B）Excel を使ってグラフが描ける。
（A）個人情報保護の取り組みが言える。
（S）パワーポイントを使って、教科や総合的な学習の時間に発表することができる。

その他

毎回出席を取る。課題の提出とプレゼンテーションを必ず行うこと。

科目名	生徒指導・進路指導
学期	後期
単位数	2
担当者	戸来知子

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ
・学校教育における生徒指導の目的と原則(ガイダンス)を理解する。
・教育課程における生徒指導および進路指導・キャリア教育の役割を理解する。
・問題行動の社会的背景と集団指導・個別指導の原理を理解する。
・ガイダンスの特性を生かした進路指導・キャリア教育を考える。

授業の概要

生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われるものである。他の教書金や関係機関と連携して、組織的に生徒指導を行うために必要な知識を学ぶ。
進路指導とキャリア教育は共に、生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的な展望からの人間形成を目指す教育活動である。これらのことを念頭に置いて学校の教育課程の中での位置づけを理解し、生徒指導および進路指導・キャリア教育の指導の原理を学び、指導の実際の在り方を考えていく。

授業計画

第１回：オリエンテーション。授業の概要と授業計画。生徒指導・進路指導を学ぶにあたっての留意点を説明する。
第２回：日本の生徒指導の歴史的系譜。世界の生徒指導を比較して学ぶ。
第３回：現代の生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義と課題を考える。
第４回：問題行動と生徒指導の在り方について学習する（問題行動の事例研究と指導について、ディスカッションを行う。）（不登校問題）。
第５回：いじめ問題を考える。（文科省によるいじめの定義と類型化の紹介。いじめ防止対策。）
第６回：生徒指導で直面する現代の問題(ブラックバイト、若者の貧困等)を理解する。DVD鑑賞。
第７回：非行の問題を考える。－新しい荒れと言われる少年非行の問題－（ディスカッションを行う。）
第８回：カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。（事例研究から。）
第９回：進路指導におけるガイダンスの役割について理解する。
第10回：進路指導・キャリア教育の視点から体験活動や授業の改善を考える。
第11回：キャリア教育についての理解。キャリア教育の本質を考える。
第12回：キャリア教育の基本原理を学ぶ。（ブルデュー、スーパー、パーソンズの理論から。）
第13回：「キャリアの時間軸」、ライフキャリアを考える。キャリアイベント、キャリアリスク等について学習する。
第14回：生徒指導および進路指導・キャリア教育に関して、地域との連携について学ぶ。
第15回：これからの生徒指導・キャリア教育に求められることを考える。これまでの学習のまとめを行う。
定期試験

テキスト

生徒指導提要（平成 22 年３月　文部科学省）
伊藤一雄著、『新・教育指導の理論と実践』サンライズ出版

参考書・参考資料等

伊藤一雄著、『キャリア開発と職業指導』、法律文化社
全米キャリア発達学会著、仙崎武・下村英雄編訳、『D.E. スーパーの生涯と理論、図書文化

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）、出席状況とディスカッション等の参加状況（25%）、学期末試験（55%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）生徒指導の目的と理念を言える。
（B）キャリアエデュケーションの目的を説明できる。
（A）問題行動の対処に関しての地域の連携を説明できる。
（S）文部科学書と厚生労働所のキャリアエデュケーションの取り組みを理解している。

その他

毎回出席を取る。

科目名	教育相談
学期	前期
単位数	2
担当者	戸來知子

授業の到達目標及びテーマ
・学校教育相談の意義と課題を理解する。
・教育相談の背景にある問題を理解する。
・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論や概念を理解する。
・発達障害を理解する。

授業の概要
生徒が直面する様々な問題、とりわけ、いじめ、不登校、非行、発達障害などを中心に、生徒の「こころ」の問題と行動を理解し、支援していく方法について学んでいく。また、思春期に発症しやすい神経症的な問題や精神的な疾患について、さらには教師のメンタルヘルスの問題についても知識を持てるようにする。その上で、生徒の相談に応じ、援助していくためのスキルとしてカウンセリングマインドを身につける。加えて、教育相談の経過の作成、校内体制の整備など組織的な取り組みの必要性と、地域の医療・福祉・心理の専門機関との連携の意義と必要性を理解する。

授業計画
第１回：オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育相談を学ぶにあたっての留意点などを説明する。
第２回：教育相談とは何か。学校教育相談および生徒指導との関連について学ぶ。
第３回：児童・生徒の抱える問題の理解と対応の基本姿勢について概説する。
第４回：学校におけるカウンセリングマインドについて学ぶ。
第５回：カウンセリングの基礎的知識を学ぶ（カウンセリングマインドを身につける）
第６回：学校における不適応と問題行動について。不登校を考える。
第７回：学校でのいじめを検討する。
第８回：非行(反社会的問題と非社会的問題)への対処方法を学ぶ。模擬教育相談の実施。
第９回：発達障害について理解する。
第10回：摂食障害や不安神経症、境界性人格障害などの精神・神経疾患の基礎知識を学ぶ。
第11回：同一性の問題について学習する。（自己同一性の問題、並びに性同一性の問題など）
第12回：国際化に伴う教育相談の紹介。（外国人未就学児童の問題など）
第13回：教育相談の学校内体制の整備について学ぶ。（事例の紹介）
第14回：学校教育相談と地域での連携について学習する。
第15回：教師のメンタルヘルスについて現状と対策を学ぶ。
定期試験

テキスト
『教職基礎論』、伊藤一雄編著、サンライズ出版。

参考書・参考資料等
滝口俊子著、『スクールカウンセリング』、放送大学
春日井敏之・伊藤美奈子編著、『よくわかる教育相談』、ミネルヴァ書房

学生に対する評価
小レポートの提出（20%）、模擬教育相談（20%）、学期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教育相談の目標と意義を説明できる。
（B）教師の教育相談としてのカウンセリングと一般的なカウンセリングの違いを理解している。
（A）発達障害にはどのようなものがあるのかを説明できる。
（S）教育相談の地域連携について理解している。

その他
毎回出席を取る。テーマを選んでのプレゼンテーションを各自、１回ずつ行う。

科目名	宗教科教育法Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。

授業の概要
学校教育における宗教教育に必要な理論と実際について学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。

授業計画
第１回：シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（釈尊の生涯に関するもの）
第２回：宗教教育とは：①宗教と宗教教育
第３回：宗教教育とは：②宗教の定義
第４回：宗教教育とは：③道徳教育と宗教教育
第５回：宗教科教育法について：①戦前の教育と信教の自由
第６回：宗教科教育法について：②戦後の教育と信教の自由
第７回：宗教科教育法について：③憲法、教育基本法と宗教教育
第８回：宗教教育の歴史：①日本における宗教教育
第９回：宗教教育の歴史：②宗教と教育の関連
第10回：宗教教育の歴史：③現代青少年の宗教意識の諸相
第11回：カリキュラム構成の実際と計画
第12回：学習指導案の作成：①祖師の生涯を確認する（釈尊と弘法大師）
第13回：学習指導案の作成：②釈尊伝の授業構成を検討する
第14回：学習指導案の作成：③弘法大師伝の授業構成を検討する
第15回：試験およびレポート提出
定期試験

テキスト
斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会（コピー配布）

参考書・参考資料等
教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林
日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』鈴木出版
藤原聖子『教科書の中の宗教』（岩波新書）岩波書店
小口偉一編『宗教学辞典』東京大学出版社、他

学生に対する評価
定期試験（60%）、レポート（釈尊伝の感想文）（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）宗教教育の意義を認識している。
（B）宗教教育の問題点と課題に通じている。
（A）宗教教育および仏教に関する基本知識を備えている。
（S）宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

その他
宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには宗教科の教師になるという意味をよく考えることが必要である。

科目名	宗教科教育法Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：宗教教育科の授業方法や実際について体験して経験値を上げる。模擬授業を通してみた宗教教育の実際を学ぶ。

授業の概要
受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。

授業計画
第１回：シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（弘法大師の生涯に関するもの）
第２回：授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（一心院谷と女人堂）
第３回：教材研究と学習指導案の作成方法について解説する。
第４回：学習指導案の点検、宗教科の授業方法、授業記録の作成方法を解説する。
第５回：模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
第６回：模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
第７回：模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」③成道
第８回：模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」④初転法輪
第９回：提出された授業記録の評価を行う。次回以降の留意点を解説する。
第10回：模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」①誕生
第11回：模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」②青年時代
第12回：模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」③入唐求法
第13回：模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」④高野山開創
第14回：授業記録の提出と反省会
第15回：模擬授業全体の反省と提出された授業記録の評価を行う。レポート提出
定期試験は実施しない。

テキスト
中村元・田辺和子共著『ブッダ物語』（岩波ジュニア新書）岩波書店
松長有慶『空海・心の眼をひらく－弘法大師の生涯と密教－』大法輪閣
富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所

参考書・参考資料等
斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会
教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林

学生に対する評価
模擬授業（学習指導案と教材研究を含む）（80%）、レポート（弘法大師伝の感想文）（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習指導案をまとめる授業構成力が確認できる。
（B）授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力をもっている。
（A）仏教・密教に関する基礎知識を十分にもち、教材研究においても能力が確認できる。
（S）宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

その他
宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。模擬授業における生徒側からの観察力・批判力も重視する。

科目名	宗教科教育法Ⅲ
学期	前期
単位数	2
担当者	岡田英作

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：中学生を対象とした教科「宗教」の授業方法について理解し実践方法を学ぶ。
テ ー マ：中学校における教科「宗教」の展開

授業の概要
受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、中学生を対象とした教科「宗教」の授業内容・方法について学習する。

授業計画
第１回：シラバスの説明、講義の進め方等、ビデオ鑑賞（世界の宗教に関するもの）
第２回：授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（奥之院「大秦景教流行中国碑」等）
第３回：新聞等の記事を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
第４回：映像や音声を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
第５回：教材研究と学習指導案作成の方法（系統型と経験型授業）について学習する。
第６回：模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（系統型授業）
第７回：授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
第８回：模擬授業「イスラームの歴史と教え」（経験型授業）
第９回：授業の振り返り、指導記録の方法を学習する。
第10回：教材研究と学習指導案作成の方法（融合型授業）について学習する。
第11回：模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（融合型授業）
第12回：授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
第13回：模擬授業「イスラームの歴史と教え」（混合型授業）
第14回：授業の振り返りと、評価の種類と活用について学習する。
第15回：授業全体の反省とレポートの講評
定期試験は実施しない。

テキスト
村上重良『世界の宗教－世界史・日本史の理解に－』（岩波ジュニア新書）岩波書店（書店で購入）

参考書・参考資料等
斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会
教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林
岸本英夫編『世界の宗教』原書房または大明堂
他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
模擬授業（学習指導案と教材研究等を含む）（60%）、レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力を有している。
（B）学習指導案を作成する授業構成力が確認できる。
（A）宗教に関する基礎知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。
（S）現代の宗教文化に関する知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。

その他
新聞等の記事にも普段から目を向け、宗教に関する知識を養うこと。

科目名	国語科教育法Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	下西　忠

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：国語への関心を高め、表現力を伸長し、日本文化と伝統についての理解を深める。学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。

授業の概要

教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。学習指導案の作成の意義・手順などを具体的に指導する。また、指導案の書き方を学ぶ。

授業計画

第１回：国語科教育の目的・目標（中学校と高等学校）について解説する。
第２回：中学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
第３回：高等学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
第４回：高等学校における古典の授業の方法を具体的に考える。
第５回：学習指導案とは何か。その意義と目的について解説する。
第６回：教材研究の方法と指導案の作成方法（１）
　　外山滋比古『知的創造のヒント（１）』
第７回：教材研究の方法と指導案の作成方法（２）
　　外山滋比古『知的創造のヒント（２）』
第８回：教材研究の方法と指導案の作成方法（３）
　　古文『十訓抄』－顕宗といふ笛吹き－」
第９回：材研究の方法と指導案の作成方法（４）
　　古文『竹取物語』かぐや姫のおひたち
第10回：教材研究の方法と指導案の作成方法　漢文「返り点のつけかた」
第11回：国文法の授業の問題点と課題（口語の場合）
第12回：国文法の授業の問題点と課題（文語の場合）
第13回：教員による実践授業（１）現代文
第14回：教員による実践授業（２）古文
第15回：総括講義　国語科の授業の必要性など
定期試験

テキスト

国語総合（第一学習社 平成 28 年）
『中学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省・東洋館出版）
『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省・教育出版）

参考書・参考資料等

国語科教育研究（学芸図書）

学生に対する評価

定期試験（50%）とレポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）（B）にやや劣るもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）（S）にやや不十分な点があるもの。
（S）国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

その他

単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。

科目名	国語科教育法Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	下西　忠

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また、引き続き教育法Ⅰにおける各単元における指導案の書き方も研究する。

授業の概要

毎時間１名による模擬授業（50 分）とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導（40 分）。忌憚のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の目的と意義）
第２回：現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の教材研究と指導案作成を解説する。
第３回：現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の模擬授業を行う。
第４回：古文〈物語〉「伊勢物語」の教材研究と指導案作成を解説する。
第５回：古文〈物語〉「伊勢物語」の模擬授業を行う。
第６回：古典文法「動詞の活用」の教材研究と指導案作成を解説する。
第７回：古典文法「動詞の活用」の模擬授業を行う。
第８回：高校現場で国語の授業を見学し授業記録の作成と指導法を学ぶ。
第９回：高校現場で国語担当教員及び教育実習生の体験談を聞く。
第10回：高校現場での体験交流を行い、円滑な模擬授業の参考にする。
第11回：漢文「漁夫の利」の模擬授業と相互評価を行う。
第12回：古文〈物語〉「竹取物語」の模擬授業と相互評価を行う。
第13回：国語表現「報告文と手紙を書く」の模擬授業と相互評価を行う。
第14回：現代文〈詩歌〉「一つのメルヘン」の模擬授業と相互評価を行う。
第15回：古文〈詩歌〉「新古今集」の模擬授業と相互評価を行う。
第16回：優れた授業とはどのような授業なのか模擬授業の振返りを行う。
定期試験

テキスト

国語総合（第一学習社）

参考書・参考資料等

国語科教育研究（学芸図書）
『中学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省・東洋館出版）
『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省・教育出版）

学生に対する評価

定期試験（50%）とレポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）（B）にやや劣るもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）（S）にやや不十分な点があるもの。
（S）国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

その他

単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。

科目名	国語科教育法Ⅲ
学期	前期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：現代文と古文の教材の指導法を習得する。

授業の概要

教壇に立って授業を展開するためには、授業者に明確な授業計画とそれを支える知識がなければならない。そこで本講義はまず、『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』に記された国語科教育の理念や内容を理解し、理想とする国語科教員のイメージについて考える。次に、現代文、古文からそれぞれ題材を選び、教材研究と指導案の作成、模擬授業を通して、国語科教員としての実践力を養っていく。また、不定期に小テストを行い、基礎学力の向上をめざす。

授業計画

第１回：ガイダンス（講義の進め方、成績評価の方法）
第２回：『中学校学習指導要領　国語』の研究①
　　－国語を学ぶ意味－
第３回：『中学校学習指導要領　国語』の研究②
　　－現代文と古文から何を学ぶのか－
第４回：『高等学校学習指導要領　国語総合』の研究①
　　－中学校「国語」との共通点－
第５回：『高等学校学習指導要領　国語総合』の研究②
　　－中学校「国語」との違い－
第６回：高等学校「国語総合」について教材研究の方法を解説する。
第７回：高等学校「国語総合」について学習指導案の作成方法を解説する。
第８回：高等学校「国語総合」の模擬授業を教材研究の視点から考察する。
第９回：高等学校「国語総合」の模擬授業を学習指導案作成の視点から分析する。
第10回：高等学校「古典」について教材研究の方法を解説する。
第11回：高等学校「古典」について学習指導案の作成方法を解説する。
第12回：高等学校古典の模擬授業を教材研究の視点から考察する。
第13回：高等学校古典の模擬授業を学習指導案作成の視点から分析する。
第14回：文学史の知識とその活用法について解説する。
第15回：国語科授業の展開について学習指導案及び模擬授業の総括を行う。
定期試験は実施しない。

テキスト

『中学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省・東洋館出版）
『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省・教育出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

模擬授業（60%）、不定期に実施する小テストならびに小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）国語を学ぶことについて、その意義を理解している。
（B）国語科教員像を提示できる。
（A）基礎学力があり、学習指導案に沿って授業ができる。
（S）（A）（B）に加えて、教え方にわかりやすさが認められたもの。

その他

受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。

科目名	国語科教育法Ⅳ
学期	後期
単位数	2
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：基礎学力の向上、指導法の練成、情報機器を活用する能力の上達。
テ　ー　マ：教壇に立つための基盤をつくる。

授業の概要

基礎的な国語力の養成するため、評論・小説・古文・漢文の読解を通じて、その教材を学ぶ意味、教員としての知識と思考力などを養う。教材研究・指導案作成・模擬授業などを実体験する。

授業計画

第１回：ガイダンス（講義の進め方、成績評価の基準）
第２回：評論文の教材研究の方法について解説する。
第３回：評論文の指導案作成の方法について講義する。
第４回：評論文の模擬授業と授業評価を行う。
第５回：小説を教材研究の視点から考察する。
第６回：小説を学習指導案作成の視点から考察する。
第７回：小説の模擬授業と授業評価行う。
第８回：古文を教材研究の視点から考察する。
第９回：古文を学習指導案作成の視点から考察する。
第10回：古文の模擬授業と授業評価を行う。
第11回：漢文を教材研究の視点から考察する。
第12回：漢文を学習指導案作成の視点から考察する。
第13回：漢文の模擬授業と授業評価を行う。
第14回：現代文を学ぶ意味について考える。
第15回：古典を学ぶ意味について考える。
定期試験

テキスト

なし　中学・高校の国語科教科書が採用している作品を用意して配布する。

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省・東洋館出版）
『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省・教育出版）

学生に対する評価

教材研究（25%）、指導案作成（25%）、模擬授業（25%）、定期試験（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）指導案作成・発話・板書・情報機器活用の基本ができている。
（B）上記について、臨機応変な対応ができる。
（A）上記について、教え方に分かりやすさが認められる。
（S）上記について、豊かな教養や教育への情熱が感じられる。

その他

受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。

科目名	教育実習の研究
学期	前期
単位数	1
担当者	戸来知子　山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ

教育実習を通して、学校教育の全体を体験的・総合的に理解する問い目標を達成するため、事前学習並びに事後振り返りを行う。教員としての能力や適性を確認するとともに、将来教員として行う教育実践と教育実践研究に必要な知識・技能が何かを理解する。

授業の概要

①教育実習の事前に、実習の構造、実習の意義、実習における学びのポイントを確認し、実習に臨む心構えを整える。②教育実習の事後、実習内容のまとめと発表を通じて、実習を振り返り、他の実習生の体験を共有化することで、実習での学びを定着させる。

授業計画

第１回：教育実習の構造と意義（担当：山脇）
第２回：実習生の心得（担当：山脇）
第３回：授業観察のポイント（担当：山脇）
第４回：実習日誌の作成のポイント（担当：山脇）
第５回： 実習日誌作成演習（担当：山脇）
第６回～
第10回：教育実習
第11回：実習内容の振り返り（実習生発表）１（担当：戸来）
第12回：実習内容の振り返り（実習生発表）２（担当：戸来）
第13回：実習生ディスカッション（担当：戸来）
第14回：教員免許取得までに必要な知識・技能（担当：戸来）
第15回：教育実習での学びを踏まえた教員像（担当：戸来）

テキスト

教育実習を考える会編『教育実習の常識』 蒼丘書林

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（40%）、授業における発表（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

	授業実践力	学校における人間関係力	専門職としての教師の理解
C	授業参加において、授業技術を観察できる。	生徒、同僚教員と円満に接することができる。	専門職としての教師の業務の特性を理解できる。
B	授業参観において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。	生徒、同僚教員と積極的に関わることができる。	専門職としての教師の業務の特性を深く理解できる。
A	授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。	生徒、同僚教員と積極的に関わり、その教育的意義を理解できる。	専門職としての教師の業務の特性を深く理解し、教師としての使命を自覚している。
S	授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解し、それを授業実践に生かすことができる。	生徒、同僚教員と積極的に関わり、その教育的意義を理解し、それを実践に生かすことができる。	専門職としての教師の業務の特性を深く理解し、教師としての使命を自覚し、それを実践に生かすことができる。

その他

今年度の教育実習Ｉに行く学生は､必ず｢教育実習の研究｣を受講すること。

科目名	教職実践演習
学期	後期
単位数	2
担当者	戸来知子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：４年間の教職科目の学習及び教育実習の経験などを通じて、教職に対する理解がどれだけ深まったか。教職に対する意欲がどれだけ高揚したかを確認し、具体的な指導方法の向上を図る。
テ ー マ：教職に対する理解の深化と意欲の伸長をはかる。

授業の概要

４年間の教職科目の学習及び教育実習を通じて、教育指導の技術の一層の進化と定着を図ることを目標とする。

授業計画

1．本演習の目指す目標・内容について解説する。各自の教職実践演習カルテの記入。
2．各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。
3．教職および教師に対する見方の変化を発表する。
4．生徒指導（反社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
5．生徒指導（非社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
6．教育実習で体験した生徒指導上の問題について意見交換。
7．自分自身の学校生活を振り返っての生徒指導についての意見交換。
8．キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ｉ
　－進学希望生徒の場合－
9．キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅱ
　－就職希望生徒の場合－
10．キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅲ
　－進路未決定生徒の場合－
11．ミニ模擬授業Ｉ－授業方法と技術－
12．ミニ模擬授業Ｉ－授業構成と評価－
13．授業方法、授業順序、内容構成、生徒指導のかかわりについて考察する。
14．教職実践演習カルテの記入事項の再点検と個人的課題の整理。
15．教職実践演習カルテを記入した個々の学生に対してカウンセリングを行う。まとめ。

テキスト

プリント等、資料を配布する。

参考書・参考資料等

原田恵理子、森山賢一編著、『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版
伊藤一雄 他著 『新・教育指導の理論と実践』サンライズ出版 2006,4

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（40%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教員として必要な最低の実務能力が身についているか。
（B）教員として必要な最低の実務能力を身につけ、教職に対する理解と意欲が深まったか。
（A）生徒指導の基本を身につけ、教職に対する理解が深まったか。
（S）進路指導や職業指導の基本知識を習得しているか。

その他

積極的な発言を求める。

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名	空海の思想入門B
学期	前期
単位数	2
担当者	乾　龍仁

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師の密教思想を学ぶための基礎的な知識を身につける
テ ー マ：弘法大師の教え

授業の概要

高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。その大師の教育思想は『性霊集』に収録されている「綜芸種智院式并びに序」に述べられているが、さらにその背景には密教の思想がある。この授業では、弘法大師の生涯とその思想に関する基礎的な知識を養うことを目標とし、その概略について学習する。併せて密教を知るために必要な仏教の基本知識も学習する。

授業計画

1．インドから世界に広まった仏教　　＊付、般若心経の唱え方
2．仏陀（釈尊）の教えとは（三宝、四諦八聖道、四法印）
3．般若心経とは－その１（五蘊・十二処・十八界）
4．般若心経とは－その２（色即是空・空即是色）
5．般若心経とは－その３（十二因縁・涅槃と菩提・神呪（真言）
6．密教とその広がり
7．高野山の開創とその意義
8．弘法大師の生涯
9．弘法大師の教育観とその教え
10. 青年時代の思想遍歴と『三教指帰』の著作
11. 密教とは（顕教との相違点と密教の相承系譜）
12. 密教の成仏論（即身成仏思想）
13. 十段階の心のあり方（十住心の思想）
14. 密教経典としての般若心経
15. おわりに（まとめ）

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

高神覚昇『般若心経講義』角川ソフィア文庫
中村元・紀野一義『般若心経・金剛般若経』岩波文庫
松長有慶『高野山』(岩波新書) 岩波書店
松長有慶『大宇宙に生きる』(中公文庫) 中央公論新社、他

学生に対する評価

期末の筆記試験（80％）、授業参加への積極性（20％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）般若心経を唱えることができ、仏教や密教の基本用語を覚えている。
（B）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを含む複数の参考書を見ながら自分の言葉で説明できる。
（S）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを含む複数の参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

その他

授業中にノートをしっかり取ること。
配布資料や参考文献の必要な箇所に赤線を引くこと。

科目名	心理学ⅠB
学期	集中
単位数	2
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：心理学の基礎知識を習得する。
テ ー マ：感覚、思考、学習など個人内における心理学現象について学ぶ

授業の目的及び概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達的視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業計画及び授業方法

1．オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2．実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3．感覚と知覚について学ぶ。（その１）
4．感覚と知覚について学ぶ。（その２）
5．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その１）
6．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その２）
7．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その２）
8．学習について学ぶ。（その１）
9．学習について学ぶ。（その２）
10. 学習について学ぶ。（その３）
11. 言語と思考について学ぶ。（その１）
12. 言語と思考について学ぶ。（その２）
13. 言語と思考について学ぶ。（その３）。
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

テキスト

特に指定しない。プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

放送大学テキスト　『心理学概論』、津太子、森公美子編著 ,2018 年

学生に対する評価

レポート（50％）、発表（20％）、授業参加の積極性（30％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
（B）短期記憶、長期記憶などの記憶のメカニズムを理解している。
（A）学習の仕組みを説明することができる。
（S）認知システムについて説明することができる。

その他

毎回出席を取る。

科目名	心理学ⅡB
学期	集中
単位数	2
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：社会と発達の視点から心理学を学ぶ。
テ ー マ：心理学の基礎知識を習得する。

授業の目的及び概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。臨床心理学やカウンセリングの基礎となっている心理学を学習する。とりわけ、社会と発達という視点から、人間の心理活動について学ぶ。

授業計画及び授業方法

1．オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2．動機づけと情動について学ぶ。（その１）
3．動機づけと情動について学ぶ。（その２）
4．動機づけと情動について学ぶ。（その３）
5．性格理論を学ぶ。（その１）
6．性格理論を学ぶ。（その２）
7．性格理論を学ぶ。（その３）
8．人間の発達理論と課題について学ぶ。（その１）
9．人間の発達理論と課題について学ぶ。（その２）
10. 人間の発達理論と課題について学ぶ。（その３）
11. 対人関係の心理学を学ぶ。（その１）
12. 対人関係の心理学を学ぶ。（その2）
13. 対人関係の心理学を学ぶ。（その3）
14. 個人と社会の心理について学ぶ。
15. まとめ。疑問点の再確認等。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜、紹介する。
放送大学、『心理学概論』、津太子、森公美子編著 ,2018 年。

学生に対する評価

レポート（50％）、発表（10％）、授業参加の積極性（40％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）動機づけ・性格理論・発達臨論・対人関係に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
（B）各性格理論について説明するこができる。
（A）エリクソンのライフサイクル論などの発達理論について説明することができる。
（S）対人関係に関する諸理論について説明することができる。

その他

毎回出席を取る。

科目名	祖典講読ⅢC
学期	前期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の著作に親しみつつ、真言密教の教理と実践との関連を理解する。
テ ー マ：『吽字義』を読む （１）

授業の概要

この講義では、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を原典から読み進め、真言密教の教学における真言の意味と教理が、実践行とどのように関連しているのかについて、受講生とともに考えていきたいと思います。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．仏教の言語観と真言
3．『吽字義』概要①
4．『吽字義』概要②
5．『吽字義』を読む（１）吽字の字相①
6．　〃　（２）吽字の字相②
7．　〃　（３）訶字の字義①
8．　〃　（４）訶字の字義②
9．　〃　（５）阿字の字義①
10. 〃　（６）阿字の字義②
11. 〃　（７）阿字の字義③
12. 〃　（８）汙字の字義①
13. 〃　（９）汙字の字義②
14. 〃　（10）汙字の字義③
15. 前期のまとめ

テキスト

高野山大学編　『十巻章』高野山大学出版部

参考書・参考資料等

中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社、1977 年
小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社、1985 年
宮坂宥勝監修『空海コレクション』２、ちくま学芸文庫、2004 年
※ その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業内での素読（40％）、期末試験（60％）で評価します。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『吽字義』の素読ができる。
（B）字相と字義の違いを理解している。
（A）密教における「因不可得」・「本不生」について理解している。
（S）『吽字義』を用いて自分の考えを論理的に主張できる。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名するので、必ず予習をすること。
・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。

科目名	祖典講読ⅢD
学期	前期
単位数	2
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の著作に親しみ、その思想の特質を理解する
テ ー マ：『般若心経秘鍵』を読む

授業の概要

『般若心経』は、人々に最もよく知られている大乗仏教の代表的な経典である。弘法大師空海は、『般若心経』に関して独自の見解を披瀝する著作として『般若心経秘鍵』を著した。『般若心経秘鍵』は、『般若心経』の秘められた本質を解き明かす鍵になる書物という意味を持つ。授業では、この思想の背景にある思想を確認しつつ、『般若心経秘鍵』の原典を読み進めていく。

授業計画

1．概論 (講義の進め方等)
2．『般若心経秘鍵』の特色①
3．『般若心経秘鍵』の特色②
4．『般若心経』の基礎知識
5．『般若心経秘鍵』の歴史的背景と内容構成
6．　序 「題目・帰敬序・発起序・大綱序・大意序」
7．　正宗分 「『般若心経』の題号の釈」
8．「『般若心経』の要旨」
9．「『般若心経』の五分科」
10.「人法総通分」
11.「分別諸乗分・普賢菩薩の悟り」
12.「文殊菩薩の悟り」
13.「弥勒菩薩の悟り」
14.「声聞と縁覚の悟り」
15.. 弘法大師空海の『般若心経』理解の独自性

テキスト

高野山大学編『十巻章』高野山大学出版部

参考書・参考資料等

宮坂宥勝監修 『空海コレクション２』 筑摩書房

学生に対する評価

試験（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる。
（B）原典の内容を部分的に理解できる。
（A）『般若心経秘鍵』を体系的に理解できる。
（S）空海の著作を体系的に理解できる。

その他

科目名	祖典講読ⅣC
学期	後期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の著作に親しみつつ、真言密教の教理と実践との関連を理解する。
テ ー マ：『吽字義』を読む （２）

授業の概要

この講義では、前期に続いて『吽字義』を原典から読み進めます。真言密教の教学における真言の意味と教理が、実践行とどのように関連しているのかについて、受講生とともに考えていきたいと思います。

授業計画

1．前期のまとめと概論（講義の進め方等）
2．『吽字義』を読む（11）汙字の字義④
3．　〃　（12）汙字の字義⑤
4．　〃　（13）汙字の字義⑥
5．　〃　（14）摩字の字義①
6．　〃　（15）摩字の字義②
7．　〃　（16）摩字の字義②
8．　〃　（17）吽字の合説① 要略・別相・通相
9．　〃　（18）吽字の合説② 字相・字義
10.　〃　（19）吽字の合説③ 諸乗
11.　〃　（20）吽字の合説④ 諸経論
12.　〃　（21）吽字の合説⑤ 余義
13.　〃　（22）吽字の合説⑥ 余義
14.　〃　（23）吽字の合説⑦ 余義
15. 後期のまとめ

テキスト

高野山大学編 『十巻章』高野山大学出版部

参考書・参考資料等

中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社、1977 年
小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社、1985 年
宮坂宥勝監修『空海コレクション』２、ちくま学芸文庫、2004 年
※ その他、授業において指示します。

学生に対する評価

授業内での素読（40%）、期末試験（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『吽字義』の素読ができる。
（B）字相と字義の違いを理解している。
（A）密教における「心」・「我」について理解している。
（S）『吽字義』を用いて自分の考えを論理的に主張できる。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名しますので、必ず予習をすること。
・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。

科目名	祖典講読ⅣD
学期	後期
単位数	2
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：弘法大師空海の著作に親しみ、その思想の特質を理解する
テ ー マ：『般若心経秘鍵』を読む

授業の概要

『般若心経秘鍵』についての概論と、前期の授業で扱った内容の復習から始め、前期に引き続いて『般若心経秘鍵』を講読する。前期に引き続き授業を行うので、「祖典講読ⅢD」を受講することが望ましい。

授業計画

1．概論 (講義の進め方等)
2．『般若心経秘鍵』の特色
3．『般若心経』の基礎知識
4．『般若心経秘鍵』の歴史的背景と内容構成
5．「分別諸乗分・観音菩薩の悟り」
6．「行人得益分」
7．「総帰持明分」
8．「秘蔵真言分」
9．「問答形式の補説」
10.「流通分」
11.「上表分」
12.『般若心経秘鍵』のまとめ①
13.『般若心経秘鍵』のまとめ②
14. 弘法大師空海の『般若心経』理解の独自性①
15. 弘法大師空海の『般若心経』理解の独自性②

テキスト

高野山大学編『十巻章』高野山大学出版部

参考書・参考資料等

宮坂宥勝監修 『空海コレクション２』 筑摩書房

学生に対する評価

試験（50% ）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる。
（B）原典の内容を部分的に理解できる。
（A）『般若心経秘鍵』を体系的に理解できる。
（S）空海の著作を体系的に理解できる。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅠC（教育心理学）
学期	前期
単位数	2
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：①生徒の心身の発達の過程および特徴を理解する。
②生徒の発達段階に応じた心理的特性を踏まえた学習活動を支える基礎となる考え方を学ぶ。
テ ー マ：①学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的な指導と結果を得るために学習の基礎理論と心理学的知見を学ぶ。
②発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

授業の概要

生徒の心身の発達について理解することで、より効果的な学習指導ができるように、人間の発達段階とその特性について学ぶ。次に、生徒が学習をより効果的に習得できるように、学習のメカニズムとその基礎理論等を学んでいく。さらに、生徒のやる気を高めるために、学習の動機づけや評価のあり方についても学ぶ。さらには、発達障害など特別な支援や配慮を必要とする生徒に対しても理解を深め、対応できるように学習する。

授業計画

1．教育心理学の目標と範囲を説明する。現代の子どもの特性を考える。
2．子どもの心身の発達に影響を及ぼす外的要因と内的要因を考える。様々なライフサイク論を紹介する。
3．エリクソンのライフサイクル論を学ぶ。
（その1.心理-社会的な発達・相互性について）
4．エリクソンのライフサイクル論を学ぶ。
（その2.乳児期から学童期について）
5．エリクソンのライフサイクル論を学ぶ。
（その3.青年期の課題とその後の人生について）
6．学習のメカニズムについて学ぶ。（動機づけ・記憶のメカニズム・言語の発達など）
7．知的能力の発達について学ぶ。（表象的思考の発達と創造性の発達など）
8．様々な学習の形態とその過程を説明する代表的な理論を学ぶ。
9．様々な学習指導方法を学ぶ。（プログラム学習・協同学習・集合学習等）
10. 生徒の主体的な学習活動の指導とその基礎理論を学ぶ。自尊感情と学習の関係を理解する
11. 学習の評価について学ぶ
12. 学級集団づくりから生徒の社会性の発達や人間関係の問題を考える。
13. 生徒の不適応問題とストレス対処法について学ぶ。
14. 発達障害（LD、ADHDなど）について理解する。特別な支援を必要とする生徒への理解と対応について学ぶ。
15. これまでの学習のまとめとレポートの返却。

テキスト

桜井茂男編、『教育心理学』、図書文化。

参考書・参考資料等

伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編、『子ども・若者政策のフロンティア』、晃洋書房。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習のメカニズムを理解している。
（B）様々な学習方法を説明できる。
（A）自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
（S）様々な学習評価を理解している。

その他

毎回出席を取る。
テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらう。

科目名	人間学特殊ゼミⅡC（人格心理学）
学期	後期
単位数	2
担当者	上野和久

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：性格の諸理論、性格と社会・文化との関連及び性格の適応と異常について理解している。

テ ー マ：人格（性格）についてのこれまでの研究・知見の理解を深める。

授業の概要

日常で何気無く使われる「人格」や「性格」という概念を心理学ではどのように扱っているのかを、これまでの研究を概観しながら理解していく。「自分」と「他者」を理解するための様々な考え方を学び、臨床の現場でどのように活かすことができるかを考える。

授業計画

1．ガイダンス . 講義の目的・概要の解説を行う
2．性格の諸理論①
3．性格の諸理論②
4．性格の諸理論③
5．性格の類型論
6．性格の特性論
7．性格の発達とライフサイクル
8．性役割と性格
9．家族関係と性格 人間関係と性格
10．コミュニケーションと性格
11．適性について
12．問題行動と性格
13．性格の正常と異常
14．性格の適応的変化 . 文化と性格
15．まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊共著
『新心理学ライブラリ９　性格心理学への招待［改定版］
自分を知り他者を理解するために』

学生に対する評価

レポートにて評価する（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）性格の諸理論に関する用語を理解している。
（B）性格の諸理論の説明ができる。
（A）性格の諸理論の説明ができ、かつ、性格と社会・文化との関連について理解している。
（S）性格の諸理論、性格と社会・文化との関連及び性格の適応と異常について理解している。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求める。積極的に参加すること。

科目名	人間学特殊ゼミⅠD（宗教学入門）
学期	前期
単位数	2
担当者	山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：宗教学の基本的知識を習得します

テ ー マ：宗教学入門

授業の概要

テキストを中心に宗教学の基本的な知識、考え方を学びます。

授業計画

1．宗教学の立場
2．宗教の原初形態
3．科学・呪術・宗教
4．宗教の諸類型（有神論と無神論）
5．宗教の諸類型（神秘主義と預言者宗教）
6．宗教の諸類型（救い型・悟り型・つながり型）
7．宗教の構成要素
8．宗教の実在観
9．宗教的人間観・世界観
10．宗教儀礼
11．おまつり
12．宗教と社会
13．宗教体験
14．宗教の機能
15．まとめ

テキスト

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）宗教学の基礎的知識を理解している。
（B）宗教学の基礎的知識をより専門的に理解している。
（A）宗教学の基礎的知識を理解し、自分なりの宗教理解に活かしている。
（S）宗教学の基礎知識の上に、宗教学の専門的事項について、さらに進んだ学習をしている。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅡD（一神教の世界）
学期	後期
単位数	2
担当者	山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の考え方の基本を理解します。

テ ー マ：一神教の世界

授業の概要

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教のそれぞれの経典を読みながら、これらの一神教の考え方を学んでいきます。

授業計画

1．セム語族の宗教
2．ユダヤ教の基本
3．旧約聖書の神
4．旧約聖書の世界創造神話
5．旧約聖書の人間創造神話
6．旧約聖書における信仰
7．十戒の意味
8．キリスト教の基本
9．イエスの生涯
10．イエスという体験
11．三位一体の神
12．キリストとは何か？
13．イスラム教の基本
14．コーランを読む
15．イスラム法

テキスト

参考書・参考資料等

中村圭志『聖書、コーラン、仏典』(中公新書)
授業中に読む経典は、授業中に配布します。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）一神教の本質について、テキストの主張を理解している。
（B）一神教の本質について、テキストの主張を理解し、自分のことばで表現できる。
（A）一神教の本質を理解し、多神教等のほかの宗教との違いを理解している。
（S）一神教の本質についての理解し、現代社会におけるその意味を考察できる。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅠE・F（悲嘆学）
学期	前期
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

テ ー マ：悲嘆に関する心理的支援の在り方について学ぶ

授業の概要

グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業計画

1．悲嘆の定義・理論
2．悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3．犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4．犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5．虐めと虐待①（虐め体験について）
6．虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7．難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8．難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9．ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10．ホスピス･緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11．自死遺族支援①（遺族の心理）
12．自死遺族支援②（サポートグループについて）
13．災害時支援①（災害による喪失体験）
14．災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15．まとめ

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂 ,2010 年
その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅡE（自殺学）
学期	後期
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。

テ ー マ：自殺に関する諸理論を学び、防止のためにできることを考える。

授業の概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業計画

1．日本における自殺の現状
2．世界における自殺の現状
3．自殺についての理論①
4．自殺についての理論②
5．自殺についての理論③
6．自殺と精神障害
7．自殺と自傷
8．自殺対策①：危機介入
9．自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

各講義に関する内容に即したテキストを適時紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自殺に関する基本的な知識を身につけている。
（B）自殺を志向する心理について理解している。
（A）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。
（S）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅡF（スピリチュアルケア実践論）
学期	後期
単位数	2
担当者	大河内大博

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：スピリチュアルケアの理論を正しく理解し、グループワークを通して自らの実践を振り返る視点を身につける。

テ ー マ：スピリチュアルケアの理論と実践とを結びつける。

授業の概要

本授業では、国内のスピリチュアルケアの理論について学習し、加えて、会話記録セッションによるグループワークを通して、自らの実践の振り返り、ケア実践の強みと弱みについての自己理解を深める。

授業計画

1．スピリチュアルケアの基礎
2．スピリチュアルケアの理論①
3．スピリチュアルケアの理論②
4．スピリチュアルケアの理論③
5．スピリチュアルケアの理論④
6．会話記録セッション①
7．会話記録セッション②
8．会話記録セッション③
9．会話記録セッション④
10. 会話記録セッション⑤
11. 会話記録セッション⑥
12. 会話記録セッション⑦
13. 会話記録セッション⑧
14. 会話記録セッション⑨
15. まとめ

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010年）
大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自己課題への気づきを得ている。
（B）自己課題が明確であり、グループダイナミックスを理解できている。
（A）自己開示ができ、課題に取り組み姿勢がみえている。
（S）スピリチュアルケアの基本的対人姿勢が理解できている。

その他

グループワークでは自己開示を必要とする授業である。
土3の「スピリチュアルケア演習」（前後期）とセットで受講することが望ましい。

科目名	密教学特殊講義D
学期	前期
単位数	2
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：漢字に興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識と作品制作。

テ ー マ：書聖空海の漢字思想とその実践

授業の概要

日本の漢字の伝来において、写経は非常に大きな意味合いを占める。また日本の書聖空海の思想には、密教を含む東洋思想が原点である。この東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論と実践の両面から焦点を当てる。

授業計画

1．ガイダンス、空海と漢字
2．臨摹：顔真卿「多寶塔碑」①
3．　〃　〃　②
4．　〃　〃　③
5．　〃　〃　④
6．臨摹：褚遂良「雁塔聖教序」①
7．　〃　〃　②
8．　〃　〃　③
9．　〃　〃　④
10. 顔法と摹法の比較研究
11. 自選の法帖を徹底臨摹①
12. 　〃　〃　②
13. 写経①
14. 写経②
15. 写経③及び作品提出

テキスト

・中国法書選 40　顔真卿「多寶塔碑」、34 褚遂良「雁塔聖教序」：二玄社
・書道字典を持っている方が望ましい。・写経セット〔LA26-59〕を購入の事。
＊その他、必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『說文解字』（中華書局等）
『聾瞽指帰』、『篆隷万象名義』等（高野山大学蔵）
『新書源』（二玄社）等々

学生に対する評価

レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）
・基本的に作品による評価（素点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）筆順を正しく理解する。
（B）旧漢字を正しく理解し、細かい部分まで理解した臨摹ができる。
（A）臨摹を基にしたレベルの高い写経の創作ができる。
（S）尚古思想での願文を含めた、レベルの高い写経の創作ができる。

その他

・中筆（できれば羊毛）、細筆（2～3本）、墨（4～5丁以上の大きさ、原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、文鎮、硯及び宣紙（半紙及び半切）は個々に準備のこと。〔ガイダンス時に説明する〕
・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。
・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。
・基本、本学学部生、大学院生のみ受講可。卒業生は、許可した者のみ可とする。
・2回目の受講生は、希望を相談の上、別課題を出し指導する。
・夏休みの課題として、写経一巻を課す。
・提出された写経作品で最善のものを大学学外書道展に出品する。（表装代は個人持ち）

科目名	密教学特殊講義E
学期	後期
単位数	2
担当者	野田悟

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：空海が最も得意とした行書を学び、王羲之書法とその周辺の理解を深める。

テ ー マ：王氏「集字聖教序」を中国書法教育的視野から学び、同じ目線に立って、空海行書を体現する。

授業の概要

中国は唐時代以降現在に至るまで、王羲之書法は最も重要である。空海もその継承者の一人で、理論と実践を通して理解する。最後は、空海行書の書風にて創作作品を作る。

授業計画

1．臨摹：「集字聖教序」①
2．臨摹：「集字聖教序」②
3．臨摹：「集字聖教序」③
4．臨摹：「集字聖教序」④
5．臨摹：「集字聖教序」⑤
6．臨摹：「聾瞽指歸」①
7．臨摹：「聾瞽指歸」②
8．臨摹：「聾瞽指歸」③
9．臨摹：「聾瞽指歸」④
10. 臨摹：「聾瞽指歸」⑤
11.「集字聖教序」と「聾瞽指歸」の比較研究
12.「聾瞽指歸」の背臨
13.「聾瞽指歸」書風にて創作①
14.「聾瞽指歸」書風にて創作②
15.「聾瞽指歸」書風にて創作及び作品提出

※ 全体的な能力や達成度を見て、変更あり。

テキスト

・中国法書選:16 東晋　王羲之「集字聖教序」、唐　李邕「李氏訓碑」二玄社。
・その他必要な場合プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・弘法大師書跡大成「空海の書」第一巻
・『空海』中央公論社、『光明皇后　空海　最澄集』二玄社
・季刊墨スペシャル　第7号『写経』二玄社等々

学生に対する評価

レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）
・基本的に作品による評価（素点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）臨摹作品ができる。
（B）臨摹を基盤とした創作作品を創作できる。
（A）臨摹を基盤としたより高い創作作品創作できる。
（S）長落款を含めた、レベルの高い創作作品ができる。

その他

・学部生以上の受講生に限る。
・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。
・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。
・再度受講される方は、相談の上、別の課題を課し指導する。
・創作作品は、2月の学外書道展に出品する予定。（表装の費用は個人で負担）

科目名	密教学特殊講義F
学期	前期
単位数	2
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教尊像の基本的な智識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになることを目的とする。
テ ー マ：図像学における密教尊格の表現、および尊格構成とその譜系について学ぶ。

授業の概要

インドに興り、東南アジア･中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乗仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加える。インドの図像資料としては､『サーダナマーラー』や『ニシュパンナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどる。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．漢訳資料の基本的な扱い方
3．漢文資料の基本的な講読練習①
4．漢文資料の基本的な講読練習②
5．尊格表現方法の基本知識①
6．尊格表現方法の基本知識②
7．尊格表現方法の基本知識③
8．尊格表現方法の基本知識④
9．漢訳図像資料講読①
10．漢訳図像資料講読②
11．密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12．図像資料講読演習①
13．図像資料講読演習②
14．図像資料講読演習③
15．図像資料講読演習④

テキスト

大正新脩大蔵経　図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編　『密教を知るためのガイドブック』　法藏館　1995 年
頼富本宏・下泉全暁　『密教仏像図典』　人文書院　1994 年
佐和隆研　『仏像図典』　吉川弘文館　1962 年

学生に対する評価

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内で　の演習およびレポートで判断する
レポート（60%）、授業参加の積極性（30%）、ノート作成（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢訳資料を扱える。
（B）密教尊像に関する知識を得る。
（A）密教図像に関する資料を扱える。
（S）密教図像に関して体系的に理解できる。

その他

科目名	仏教学特殊講義C
学期	前期
単位数	2
担当者	岡田英作

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得する
テ ー マ：心とはなにか

授業の概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乗仏教、密教と仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業計画

1．オリエンテーション（シラバスの説明、講義の進め方等）
2．心について－ことばの多義性－
3．心について－各宗教の思想－
4．心について－現代の場合－
5．心について－仏教の思想－
6．仏教について－歴史的多様性－
7．仏教について－地域的多様性－
8．ゴータマ・シッダッタ－苦の自覚－
9．ゴータマ・シッダッタ－苦からの解放－
10．ゴータマ・シッダッタ－直弟子たち－
11．初期仏教経典－釈迦の直説は現存するか－
12．最古層の仏典－心への配慮－
13．最古層の仏典－執着と煩悩－
14．初期仏教－五蘊、心・意・識－
15．授業の総括とレポートの講評

テキスト

竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社
（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

相良亨『一語の辞典 こころ』三省堂､竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社、佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、師茂樹『『大乗五蘊論』を読む』春秋社、大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ 仏教学の基礎①インド編［改訂版］』大正大学､吉村均『空海に学ぶ仏教入門』筑摩書房。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教についての基礎的な事項を理解している。
（B）仏教における心についての各思想を理解している。
（A）仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
（S）仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

その他

授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	仏教学特殊講義D
学期	後期
単位数	2
担当者	前谷彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：漢訳語と原典における語彙の異相を探る。
テ ー マ：漢訳語と原典語の間に横たわる差異を通して、仏教思想の落とし穴を探る。

授業の概要

仏教思想を理解する上で、漢訳語だけではどれだけ多くの間違いを生じさせるかの実例を示し、原典（サンスクリット語やパーリ語）との異相を探って行く。

授業計画

1．オリエンテーション
2．「八正道」について
3．「善」について
4．「中道」について
5．「慈悲」について
6．仏教用語について考える①
7．仏教用語について考える②
8．仏教用語について考える③
9．仏教用語について考える④
10．仏教用語について考える⑤
11．仏教用語について考える⑥
12．仏教用語について考える⑦
13．仏教用語について考える⑧
14．仏教用語について考える⑨
15．総まとめ

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者がコピーを配布する。

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教の基礎語彙を抑えている。
（B）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（A）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。
（S）縁起の思想を「中道」「慈悲」「非我」のキーワードを用い、その相即的関係を説明できる。

その他

科目名	真言密教特殊講義F
学期	後期
単位数	2
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教・密教に関する語彙・知識を増やし、理解を深め、研究の萌芽となるような疑問を発見することを到達目標とする。
テ ー マ：『密教大辞典』を読む。

授業の概要

『密教大辞典』の中から､受講生個々の興味に応じて項目を決める（授業計画は例）。授業に際しては、活発に質問・議論をしてもらいたい。希望調査により、授業内容を変えることがある。

授業計画

1．ガイダンス（希望調査）
2．（例）「曼荼羅」の読解（1）
3．（例）「曼荼羅」の読解（2）
4．（例）「三摩耶」の読解（1）
5．（例）「三摩耶」の読解（2）
6．（例）「三乗」の読解（1）
7．（例）「三乗」の読解（2）
8．（例）「三劫」の読解（1）
9．（例）「三劫」の読解（2）
10．（例）「自性会」の読解（1）
11．（例）「自性会」の読解（2）
12．（例）「灌頂」の読解（1）
13．（例）「灌頂」の読解（2）
14．（例）「瑜伽」の読解（1）
15．（例）「瑜伽」の読解（2）

テキスト

『密教大辞典』のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

『密教辞典』『仏教辞典』『大蔵経』など。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）未知の語彙に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解できる。
（S）テキストから問題点を抽出できる。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。

科目名	真言密教特殊講義G
学期	前期
単位数	2
担当者	北川真寛

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：1200年の歴史を有する高野山を中心とした宗教文化を学び、自らのスピリチュアリティや仏教・密教学の基礎を涵養する。

テ ー マ：弘法大師や高野山に関係する、基本的な仏教・密教の思想や歴史、文化を総合的に学ぶ。

授業の概要

日本のスピリチュアルケア実践の背景となる宗教の思想、特に日本仏教・密教の基本的な思想や歴史、用語などを学ぶことを目的とし、高野山を中心とした日本の宗教思想や歴史、文化の基礎について講義する。

授業計画

1．弘法大師空海の生涯
2．高野山の歴史
3．高野山の諸堂解説
4．弘法大師空海の教え－即身成仏－
5．弘法大師空海の教え－十住心－
6．真言密教の教え－曼荼羅－
7．高野山の年中行事と学道
8．真言密教の教学－三密行－
9．高野山の文化財
10．中世仏教の動向
11．禅の教え
12．天台の教え
13．浄土の教え
14．神仏習合（1）
15．真言密教の社会福祉史

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、テキストの理解度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な仏教や密教の思想を理解できる。
（B）基本的な仏教や密教の思想・用語を理解できる。
（A）専門的な仏教や密教の思想・用語を理解できる。
（S）専門的な仏教や密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

その他

科目名	真言密教特殊講義H
学期	後期
単位数	2
担当者	北川真寛

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：1200年の歴史を有する高野山の宗教文化を学び、自らのスピリチュアリティや密教学の専門性を涵養する。

テ ー マ：弘法大師や高野山の思想や歴史、文化を総合的に学ぶ。

授業の概要

日本のスピリチュアルケア実践の背景となる宗教の思想、特に日本密教や弘法大師の思想や歴史、専門的な用語などを学ぶことを目的とし、弘法大師や高野山の宗教思想や歴史、文化について講義する。

授業計画

1．絵伝にみる弘法大師空海の生涯（1）
2．絵伝にみる弘法大師空海の生涯（2）
3．絵伝にみる弘法大師空海の生涯（3）
4．弘法大師空海の著作
5．弘法大師空海の教学－第八住心－
6．日本密教の展開と法流
7．真言密教の教学－綵画形像－
8．真言密教の教学－六波羅蜜行－
9．真言密教の教え－一門普門－
10．弘法大師信仰（1）
11．弘法大師信仰（2）
12．高野山の歴史（1）
13．高野山の歴史（2）
14．高野山の神仏習合
15．高野山の町石道

テキスト

北川真寛『はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門』（セルバ出版、2018年）

上記テキストを講義初日に講師が一括で用意するので、講師より購入のこと。

参考書・参考資料等

木下浩良『はじめての「高野山町石道」入門』（セルバ出版、2009年）
山陰加春夫『中世の高野山を歩く』（吉川弘文館、2014年）
松長有慶『訳注 秘蔵宝鑰』（春秋社、2018年）
その他は、講義中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、テキストの理解度（20%）、ディスカッションへの参加度（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な密教の思想を理解できる。
（B）基本的な密教の思想・用語を理解できる。
（A）専門的な密教の思想・用語を理解できる。
（S）専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

その他

「真言密教特殊講義G」をあらかじめ受講しておくか、もしくは並行して受講することが望ましい。ただし、それが本講義受講の絶対条件ではない。

科目名	真言密教特殊講義I（密教瞑想） 密教瞑想（別）
学期	集中
単位数	2
担当者	佐藤隆彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教の世界観、死生観に触れる

テ ー マ：密教瞑想法と密教における死生観

授業の概要

阿字観は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の観法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字観は在家の人でも修することができる。

密教観法の一つである阿字観について一般的な講義をおこなう。阿字観の実修も実際に行う。

後半は聖地巡礼で高野山を巡る。

授業計画

1．密教瞑想とは
2．阿息観の理論
3．阿息観の実践方法
4．阿字の哲学
5．阿息観の実習（1）
6．阿息観の実習（2）
7．密教における死生観（1）
8．密教における死生観（2）
9．月輪観
10．阿字観
11．聖地巡礼
12．聖地巡礼
13．聖地巡礼
14．聖地巡礼
15．まとめ

テキスト

山崎泰廣著『真言密教　阿字観瞑想入門』（春秋社）
その他コピー配布

参考書・参考資料等

『大日経』、『大日経疏』、『定本弘法大師全集』等

学生に対する評価

レポート（80%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の基本的文献を調査し読むことができる。
（B）密教の死生観について基本的内容を理解できる。
（A）密教の死生観についてその内容を深く理解できる。
（S）密教の死生観を踏まえたうえで、自らの死生観を論理的に他者に対して述べることが出来る

その他

楽に坐れる服装で出席のこと。
匂いの強い化粧、ネックレス、イヤリングをしないこと。
受講の間に、釈尊の胸中、空海の悠大な悟境の片鱗に触れていただきたい。

科目名	密教学講読演習F
学期	後期
単位数	2
担当者	乾龍仁

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本密教の歴史について基本的な知識を身につける

テ ー マ：日本密教の歴史

授業の概要

講読演習ですが、ここでは密教の歴史について学ぶために、近年の参考文献から必要な箇所を取り上げ、それを講読しながら、密教の歴史に関して必要な事項を学習し、身につけるようにしたい。主に日本密教の歴史について、その概略を確認することを目的とするが、最初にインド・チベット・中国の密教についても学ぶ機会を持ちたい。

授業計画

1．インドにおける密教の興りと展開
2．密教のチベットへの伝播
3．密教の中国への伝播
4．密教の日本への伝播－奈良時代の密教
5．平安初期と入唐八家
6．平安仏教と最澄
7．空海の密教将来
8．真言宗の成立とその特質
9．空海の弟子たち
10．台密の興りと展開
11．東密の分派
12．高野山の盛衰
13．覚鑁上人の登場
14．真言教学の興隆－応永の大成
15．おわりに（まとめ）

テキスト

松長有慶『密教の歴史』（平楽寺書店）他
必要な箇所をコピーして配布する。

参考書・参考資料等

栂尾祥雲『秘密仏教史』臨川書店
立川武蔵・頼富本宏編『シリーズ密教』1～4、春秋社
密教大辞典、密教辞典、望月仏教大辞典、他

学生に対する評価

レポート（60%）、宿題（20%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の伝播地域や、密教史上の重要人物について覚えている。
（B）密教史の概略や重要人物の歴史上の役割を、テキストを見ながら説明できる。
（A）密教史の概略や重要人物の歴史上の役割を、テキストを含む複数の参考書を見ながら説明できる。
（S）密教史の概略や重要人物の歴史上の役割を、テキストを含む複数の参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

その他

授業中にノートをしっかり取ること。
配布資料や参考文献の必要な箇所に赤線を引くこと。

科目名	密教学講読演習G
学期	後期
単位数	2
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：各種曼荼羅における密教尊像の基本構成を学習し、図像学の立場から密教の流伝を学ぶことを目的とする。
テ ー マ：図像学における密教尊格の表現、および尊格構成とその譜系について学ぶ。

授業の概要

密教学講読演習Ｆで学んだ知識を基本とし、図像学的見地から各種曼荼羅の尊像の成立に関して様々な角度から比較研究を行う。
本授業では、前期で行った図像資料講読演習を基礎とし、曼荼羅に登場する尊格についての譜系を総合的に学習する。そのため、基礎知識として前期の授業での講読演習が不可欠となるので通期で受講することが望ましい。

授業計画

1．概論 (講義の進め方等)
2．曼荼羅尊像に関する基礎知識①
3．曼荼羅尊像に関する基礎知識②
4．曼荼羅尊像に関する基礎知識③
5．曼荼羅尊像に関する基礎知識④
6．曼荼羅尊像に関する基礎知識⑤
7．曼荼羅尊像に関する基礎知識⑥
8．密教の流伝に関する基礎知識①
9．密教の流伝に関する基礎知識②
10．密教の流伝に関する基礎知識③
11．密教の流伝に関する基礎知識④
12．密教の流伝に関する基礎知識⑤
13．密教の流伝に関する基礎知識⑥
14．密教の流伝に関する基礎知識⑦
15．密教の流伝に関する基礎知識⑧

テキスト

大正新脩大蔵経　図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編　『密教を知るためのガイドブック』　法蔵館　1995 年
頼富本宏・下泉全暁　『密教仏像図典』　人文書院　1994 年
佐和隆研　『仏像図典』　吉川弘文館　1962 年

学生に対する評価

レポート（60% ）、授業参加の積極性（30% ）、ノート作成（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）曼荼羅に関する基礎知識を習得する
（B）密教尊像に関する基礎知識を習得する
（A）尊像の流伝に関して理解する
（S）密教図像に関して体系的に理解できる

その他

科目名	仏教学講読演習C
学期	後期
単位数	2
担当者	岡田英作

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得する。
テ ー マ：心とはなにか

授業の概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乗仏教、密教と仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業計画

1．オリエンテーション（講義の進め方等）とビデオ鑑賞（仏教に関するもの）
2．アビダルマ仏教－南方上座部ならびに説一切有部の範疇論－
3．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（1）大地法－
4．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（2）大善地法－
5．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（3）大煩悩地法・大不善地法－
6．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（4）小煩悩地法・不定地法－
7．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（5）心心所の働き方－
8．大乗仏教－大乗経典と大乗論師－
9．大乗仏教－瑜伽行派の範疇論と心の分析（1）六識－
10．大乗仏教－瑜伽行派の心の分析（2）マナ識・アーラヤ識－
11．大乗仏教－転識得智－
12．大乗仏教－仏性・如来蔵－
13．大乗仏教－中観派の範疇論と心の分析－
14．密教－『大日経』「住心品」－
15．授業の総括とレポートの講評

テキスト

竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社
（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

相良亨『一語の辞典 こころ』三省堂、竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社、佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、師茂樹『「大乗五蘊論」を読む』春秋社、大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ 仏教学の基礎①インド編［改訂版］』大正大学、吉村均『空海に学ぶ仏教入門』筑摩書房。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教についての基礎的な事項を理解している。
（B）仏教における心についての各思想を理解している。
（A）仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
（S）仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

その他

授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	仏教学講読演習D
学期	前期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：説話の構造、配列を理解し、『発心集』の面白さを知る。
テ ー マ：『発心集』の魅力

授業の概要

鴨長明の『発心集』巻１と巻２を読む。毎回いくつかの説話をとりあげ、表現や成立背景の追求からそのテーマについて考えてみる。また各話の配列にも留意して説話集として構造についても考える。

授業計画

1．ガイダンス－講義の進め方、『発心集』の序文を読む－
2．巻１を読む①（玄敏僧都）
3．巻１を読む②（平等供奉と千観内供）
4．巻１を読む③（僧賀上人と南筑紫上人）
5．巻１を読む④（教懐上人と大江佐国、仏種房）
6．巻１を読む⑤（天王寺の聖と高野の上人）
7．巻１を読む⑥（藤原顕能）
8．巻２を読む①（安居院聖と永観律師）
9．巻２を読む②（寂心と寂照、仙命）
10．巻２を読む③（楽西上人）
11．巻２を読む④（相真と真浄房）
12．巻２を読む⑤（前滝口助重と橘守助）
13．巻２を読む⑥（念仏聖と老翁、善導）
14．『発心集』の時代
15．まとめ－『発心集』の序文を再び読む－

テキスト

講義資料を配付

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパー（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教説話について理解している。
（B）『発心集』巻1巻２の各話のテーマを理解している。
（A）『発心集』巻１巻２の各話のテーマを理解し、説話集としての構造的繋がりも理解している。
（S）『発心集』巻１巻２のへの理解から、その編纂意図を論じることができる。

その他

私語厳禁。問題意識を持って説話を読んで欲しい。毎回のリアクションペーパーを活用して欲しい。

科目名	仏教学講読演習E
学期	前期
単位数	2
担当者	前谷彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教思想の基本を、仏教における最古の経典と目されている『スッタニパータ』の講読を通して理解して行く。
テ ー マ：ブッダのおしえとはいかなるものであったか。

授業の概要

『スッタニパータ』の講読を通して、ブッダの肉声に迫り、仏教思想の根幹を学んで行く。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『スッタニパータ』という経典について解説する。
3．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。①
4．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。②
5．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。③
6．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。④
7．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑤
8．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑥
9．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑦
10．『スッタニパータ』コラム１を読んで解説。
11．同コラム２を読んで解説。
12．同コラム３を読んで解説。
13．同コラム４を読んで解説。
14．同コラム５を読んで解説。
15．総まとめ

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

前谷　彰　訳・解説『ブッダのおしえ』（講談社）

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教の基礎語彙を抑えている。
（B）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（A）「縁起」「慈悲」「中道」「非我」のメカニズムを説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

その他

科目名	真言密教講読演習F
学期	後期
単位数	2
担当者	櫻木　潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『性霊集』を講読することを通じて、草創期の真言密教について理解する。
テ ー マ：『性霊集』を読み解き、草創期の真言密教について、仏教史的視点から探求する

授業の概要

弘法大師空海の漢詩文集である『遍照発揮性霊集』(『性霊集』) は、草創期の真言密教において重要な文献であるだけでなく、弘法大師空海の生涯や当時のさまざまな動向を知る上で貴重な史料である。本講では、講読演習として『性霊集』所収の漢詩文を読み解きながら、草創期の真言密教のあり様を、仏教史的な視点から探求する。

授業計画

1．ガイダンス（受講の心得・自己紹介など）
2．仏教史的な視点から『性霊集』を読み解くために（講義）
3．奈良・平安時代の社会と仏教（講義）
4．弘法大師空海の生涯①－青年期の環境－（講義）
5．弘法大師空海の生涯②－入唐求法とその前後－（講義）
6．弘法大師空海の生涯③－真言密教の宣布－（講義）
7．弘法大師空海の生涯④－護国と衆生救済－（講義）
8．『性霊集』を読む①
（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
9．『性霊集』を読む②
（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
10．『性霊集』を読む③
（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
11．『性霊集』を読む④
（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
12．『性霊集』を読む⑤
（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
13．『性霊集』を読む⑥
（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
14．『性霊集』を読む⑦
（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
15．まとめ－『性霊集』からみえてくること－

テキスト

講読のためのテキストして、渡邊照宏・宮坂宥勝校注『日本古典文学大系 71　三教指帰　性霊集』(小学館) を用いるが、担当箇所およびその他の講義についてもプリントを配布し、それらをもとに進める。

参考書・参考資料等

坂田光全『性霊集講義－平成新訂－』(高野山出版社、2003 年)
弘法大師空海全集編輯委員会編『弘法大師空海全集　第 6 巻』
(筑摩書房、1984 年)
密教文化研究所弘法大師著作研究会編纂『定本弘法大師全集　第 8 巻』
(密教文化研究所、1996 年)
その他については、講義において適宜紹介する。

学生に対する評価

担当箇所についての発表（60%）、予習・復習などの授業への参加度（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）参考書や辞書などを調べて担当箇所にある語句について説明することができる。
（B）参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈することができる。
（A）参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈し、その内容を深く理解することができる。
（S）参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈し、その内容を深く理解し、課題を見出すことができる。

その他

本講は、演習形式として受講生のみなさんの発表とディスカッションを中心に進める。漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたいと思う。

科目名	真言密教講読演習G
学期	後期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：中原師遠の日記『鯨珠記』の読解を通して、日本中世における真言密教と政治権力との関係についての研究視角を養う。
テーマ：「『鯨珠記』を読む」

授業の概要

真言密教に帰依した中世の政治権力者は、いずれも如意宝珠という宝物に深い関心を抱いた。中でも、院政を開始したことで知られる白河法皇は、複数の宝珠を所蔵し、王権護持の霊力を期待したことで知られる。本演習においては、大治 2 年 (1127) に肥前国神崎荘から白河に献上された宝珠に関わる記録『鯨珠記』(大外記中原師遠の日記) の読解を通して、院政と真言密教の関係について、歴史学の立場から考えていく。あわせて、受講生が中世の古記録を読解する上での、文献学的方法についても学ぶ。

授業計画

1．ガイダンス（『鯨珠記』の概要、演習の進め方、当番の割り振り、文献探索の方法）
2．『鯨珠記』を読む（1）
3．『鯨珠記』を読む（2）
4．『鯨珠記』を読む（3）
5．『鯨珠記』を読む（4）
6．『鯨珠記』を読む（5）
7．『鯨珠記』を読む（6）
8．『鯨珠記』を読む（7）
9．『鯨珠記』を読む（8）
10．『鯨珠記』を読む（9）
11．『鯨珠記』を読む（10）
12．『鯨珠記』を読む（11）
13．『鯨珠記』を読む（12）
14．『鯨珠記』を読む（13）
15．まとめ

テキスト

プリントを配布する。また、受講生が作製する資料もテキストの一部となる。

参考書・参考資料等

高橋秀樹『古記録入門』(東京堂出版、2005 年)
平田俊春『私撰国史の批判的研究』第 4 篇第 3 章（国書刊行会、1982 年）
阿部泰郎「宝珠と王権」
(『岩波講座東洋思想 16 日本思想 2』岩波書店、1989 年)
上川通夫「如意宝珠法の成立」(『日本中世仏教史料論』吉川弘文館、2008 年)
美川圭『白河法皇』(角川ソフィア文庫、2013 年)
※ これ以外については、適宜演習中に紹介する。

学生に対する評価

筆記試験（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『鯨珠記』や白河法皇・如意宝珠に関する基礎的事項を理解している。
（B）『鯨珠記』の原文について、講義の内容を踏まえて正確に読解できる。
（A）『鯨珠記』の原文について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて正確に読解できる。
（S）『鯨珠記』および関係史料（古記録・聖教）を正確に読解するとともに、自分の調査成果を踏まえて新たな解釈を示すことができる。

その他

本演習は、歴史学的な研究視角や史料読解能力の養成、文献学的方法の習熟に重点を置く。受講生には発表を求めるので、毎回丹念な予習・復習が必要である（各図書館の蔵書を最大限に活用してほしい）。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	真言密教講読演習H
学期	後期
単位数	2
担当者	北川真寛

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：1200年の歴史を有する真言密教における実践行を体験し、奥深い真言密教の世界にふれる。
テ ー マ：真言密教の実践行を体感する。

授業の概要

真言密教に伝わる様々な実践行について解説し、実際に体験する。真言密教では、理論と実践は車の両輪に譬えられて両方を重視するため、思想や教理だけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く体験する。

授業計画

1．真言密教の読経－仏前勤行次第解説（1）－
2．真言密教の読経－仏前勤行次第解説（2）－
3．真言密教の読経－仏前勤行次第解説（3）－
4．真言密教の読経－仏前勤行次第解説（4）－
5．真言密教の読経－仏前勤行次第解説（5）－
6．真言密教の読経－仏前勤行次第解説（6）－
7．真言密教の読経－仏前勤行次第解説（7）－
8．真言密教の読経－陀羅尼－
9．真言密教の写仏
10．真言密教の声明（2）
11．高野山の精進料理
12．真言密教の瞑想法（1）
13．真言密教の瞑想法（2）
14．真言密教の戒律
15．真言密教の灌頂

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義での実践行に積極的に参加する。
（B）講義での実践行を完遂できる。
（A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
（S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

その他

実修の際は、動きやすい服装にて行う。
別途、実修費を徴収する場合がある（数百円）。
「真言密教講読演習I」をあらかじめ受講しておくことが望ましい。ただし、それが本講義受講の絶対条件ではない。

科目名	真言密教講読演習I
学期	前期
単位数	2
担当者	北川真寛

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：1200年の歴史を有する真言密教における実践行を体験し、奥深い真言密教の世界にふれる。
テ ー マ：真言密教の実践行を体感する。

授業の概要

真言密教に伝わる様々な実践行について解説し、実際に体験する。真言密教では、理論と実践は車の両輪に譬えられて両方を重視するため、思想や教理だけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端を体験する。

授業計画

1．真言密教の読経－仏前勤行次第－
2．真言密教の読経－観音経・理趣経－
3．真言密教の読経－般若心経－
4．真言密教の写経
5．真言密教の行法－礼拝行－
6．真言密教の行法－護摩行－
7．真言密教の仏像
8．真言密教の荘厳－仏具・衣体－
9．真言密教の声明（1）
10．真言密教の瞑想法（1）
11．真言密教と茶道
12．真言密教の祈願法
13．真言密教の葬制
14．真言密教の回向法
15．巡礼・遍路

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義での実践行に積極的に参加する。
（B）講義での実践行を完遂できる。
（A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
（S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

その他

実修の際は、動きやすい服装にて行う。
別途、実修費を徴収する場合がある（数百円）

科目名	真言密教講読演習Ｊ
学期	後期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：地蔵説話の構成や表現を理解する。
テ ー マ：地蔵説話の世界

授業の概要

地蔵菩薩は私たちに身近な存在である。辻や墓地でその姿を見るだけでなく、「かさじぞう」などの童話でも親しまれている。そうした地蔵菩薩が古典文学作品の中でどのように描かれているのか、いくつかの作品をとりあげて考えてみたい。

授業計画

1．ガイダンス －講義の進め方－
2．地蔵信仰概観
3．宇治拾遺物語①
4．宇治拾遺物語②
5．沙石集①
6．沙石集②
7．沙石集③
8．沙石集④
9．太平記
10．壬生寺縁起とその周辺
11．聖財集
12．『源平盛衰記』①
13．『源平盛衰記』②
14．『源平盛衰記』③
15．近世地誌類と六地蔵信仰

テキスト

講義資料を配付。

参考書・参考資料等

速水侑『地蔵信仰』（はなわ新書 49）
その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパー（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地蔵信仰の基本的な事柄を理解している。
（B）地蔵説話の構成や表現を理解している。
（A）それぞれの地蔵説話の特徴を述べることができる。
（S）寺蔵説話の特徴からその成立背景について論じることができる。

その他

私語厳禁。講義時の疑問等についてはリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を求める。

科目名	密教学演習Ｉ
学期	通年
単位数	4
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：文献研究に関わる者のとしての基本的な手法を習得する。
テ ー マ：文献研究の方法論

授業の概要

密教や仏教の教義・思想を用いて卒業論文を作成することを希望する者を対象とする。研究テーマの決定や資料・先行研究の探し方などを指導しつつ、受講生が各自の研究課題を定めて基礎的な考察を行い、卒業論文につなげていくことを目指す。

授業計画

1．講義概要（授業の進め方）	1．講義概要（授業の進め方）
2．研究テーマについて（ディスカッション）①	2．研究テーマについて（ディスカッション）①
3．〃 ②	3．〃 ②
4．資料の探し方①	4．各自研究課題の発表①
5．〃 ②	5．〃 ②
6．〃 ③	6．〃 ③
7．先行研究を読む①	7．〃 ④
8．〃 ②	8．〃 ⑤
9．〃 ③	9．〃 ⑥
10．〃 ④	10．〃 ⑦
11．〃 ⑤	11．〃 ⑧
12．研究テーマ発表／中間報告①	12．〃 ⑨
13．〃 ②	13．〃 ⑩
14．〃 ②	14．〃 ⑪
15．前期のまとめ	15．後期のまとめ

テキスト

日平勝也「曼荼羅としての経典：
空海の経典理解とその解釈」、『東京大学宗教学年報』ⅩⅦ、1999 年。
※ コピーして配布する。

参考書・参考資料等

桑田てるみ編『学生のレポート･論文作成トレーニング』、実教出版、2015 年（改訂版）

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、発表内容（40%）、レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学術論文を批判的に要約することができる。
（B）一次資料を正確に読み解くことができる。
（A）一次資料と学術論文を用いて、自分の考えを文章化することができる。
（S）一次資料と学術論文を用いて、新知見を論述することができる。

その他

・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。
・積極的な授業参加を期待する。

科目名	密教学演習Ｊ
学期	通年
単位数	4
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：論文作成に必要な知識と技術を習得する。
テ ー マ：論文作成の方法

授業の概要

密教の歴史、文化、芸術等に関連したテーマで卒業論文を作成することを希望する者を対象とする。研究テーマの選び方、資料・先行研究の探し方などを指導しながら、受講生がそれぞれの研究課題を定めて基礎的な考察を行い、卒業論文につなげていく。

授業計画

1．講義概要（授業の進め方）	1．講義概要（授業の進め方）
2．研究テーマについて（ディスカッション）①	2．研究テーマについて（ディスカッション）①
3．〃 ②	3．〃 ②
4．資料の探し方①	4．各自研究課題の発表①
5．〃 ②	5．〃 ②
6．〃 ③	6．〃 ③
7．先行研究を読む①	7．〃 ④
8．〃 ②	8．〃 ⑤
9．〃 ③	9．〃 ⑥
10．〃 ④	10．〃 ⑦
11．〃 ⑤	11．〃 ⑧
12．研究テーマ発表／中間報告①	12．〃 ⑨
13．〃 ②	13．〃 ⑩
14．〃 ②	14．〃 ⑪
15．前期のまとめ	15．後期のまとめ

テキスト

担当者がコピーして配布する。

参考書・参考資料等

教室で指示します。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、発表内容（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学術論文を正確に読み解くことができる。
（B）一次資料を正確に読み解くことができる。
（A）一次資料と学術論文に基づいて、問題の所在を明確にすることができる。
（S）一次資料と学術論文に基づいて、学術的な問題を論ずることができる。

その他

・発表担当回に無断で欠席した者は、即時、失格とする。
・積極的な授業参加を期待する。

科目名	人間学演習ＩＣ・Ｄ・Ｅ（臨床心理学演習）
学期	通年
単位数	4
担当者	Ｃ・Ｄ・Ｅ・森崎雅好　上野和久

授業のテーマ

到達目標：自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。
テ ー マ：心理学領域に関する諸問題を科学的に検証する姿勢を学ぶ。

授業の目的及び概要

３回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関する文献の収集・要約及び研究計画書を作成し、発表をする。この講義は４年生次の卒業論文作成のための準備段階として位置付けられる。

授業計画

【前期】	【後期】
1．講義ガイダンス:研究とは何か。	1．テーマに関する課題の探索①
2．興味関心と研究①	2．テーマに関する課題の探索②
3．興味関心と研究②	3．テーマに関する課題の探索③
4．興味関心と研究②	4．テーマに関する課題の探索④
5．興味関心と研究④	5．テーマに関する課題の探索⑤
6．興味関心と研究⑤	6．目的に関する文献収集①
7．テーマ設定①	7．目的に関する文献収集②
8．テーマ設定②	8．目的に関する文献収集③
9．テーマ設定③	9．目的に関する文献収集④
10．テーマ設定④	10．目的に関する文献収集⑤
11．テーマ設定⑤	11．研究計画書の作成①
12．テーマに関する文献収集①	12．研究計画書の作成②
13．テーマに関する文献収集②	13．研究計画書の作成③
14．テーマに関する文献収集③	14．研究計画書の作成④
15．まとめ：研究テーマ発表	15．まとめ：研究計画書の発表

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表（50%）　最終レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
（B）自身の興味・関心のあるテーマの間に関して、問題点・課題点を列挙できる。
（A）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
（S）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

その他

科目名	人間学演習ⅡC・D・E（臨床心理学演習）
学期	通年
単位数	4
担当者	C・D・E・上野和久・森崎雅好

授業のテーマ

到達目標：自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

テ ー マ：心理学領域に関する諸問題を科学的に検証する姿勢を学ぶ。

授業の目的及び概要

４回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関するデータ収集を行い、研究成果の発表をする。この講義は４年次の卒業論文作成のための作業段階として位置付けられる。

授業計画

【前期】
1．講義ガイダンス:研究とは何か。
2．研究計画書の見直し①
3．研究計画書の見直し②
4．研究計画書の見直し③
5．研究計画書の見直し④
6．研究計画書の見直し⑤
7．データ収集経過報告①
8．データ収集経過報告②
9．データ収集経過報告③
10．データ収集経過報告④
11．データ収集経過報告⑤
12．データ収集経過報告⑥
13．研究経過報告発表会①
14．研究経過報告発表会②
15．研究経過報告発表会③

【後期】
1．卒業論文作成について
2．データ分析①
3．データ分析②
4．データ分析②
5．データ分析④
6．データ分析⑤
7．結果の整理と考察①
8．結果の整理と考察②
9．結果の整理と考察③
10．結果の整理と考察④
11．結果の整理と考察⑤
12．結果の整理と考察⑥
13．研究成果発表会①
14．研究成果発表会②
15．研究成果発表会③

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表（50%）　最終レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
（B）自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
（A）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
（S）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

その他

科目名	総合科目（チベット仏教入門Ⅰ）
学期	前期
単位数	2
担当者	テンジン・ウセル

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：チベット仏教に関する基礎知識を修得すると同時に、初級チベット語の力を身につける。

テ ー マ：チベット仏教入門

授業の概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者が、仏教の基礎と初級チベット語を教授する。

授業計画

1．ガイダンス
2．チベット仏教入門（1）
3．初級チベット語（1）
4．チベット仏教入門（2）
5．初級チベット語（2）
6．チベット仏教入門（3）
7．初級チベット語（3）
8．チベット仏教入門（4）
9．初級チベット語（4）
10．チベット仏教入門（5）
11．初級チベット語（5）
12．チベット仏教入門（6）
13．初級チベット語（6）
14．チベット仏教入門（7）
15．初級チベット語（7）

テキスト

教室で指示する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）チベット文字を正しく読むことができる。
（B）仏教の教えの大要を説明でき、かつ授業で取り上げたチベット語の仏教用語を覚えている。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

その他

科目名	総合科目（チベット仏教入門Ⅱ）
学期	後期
単位数	2
担当者	テンジン・ウセル

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：チベット仏教に関する基礎知識を修得すると同時に、初級チベット語の力を身につける。

テ ー マ：チベット仏教入門

授業の概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者が、仏教の基礎と初級チベット語を教授する。

授業計画

1．ガイダンス
2．チベット仏教入門（1）
3．初級チベット語（1）
4．チベット仏教入門（2）
5．初級チベット語（2）
6．チベット仏教入門（3）
7．初級チベット語（3）
8．チベット仏教入門（4）
9．初級チベット語（4）
10．チベット仏教入門（5）
11．初級チベット語（5）
12．チベット仏教入門（6）
13．初級チベット語（6）
14．チベット仏教入門（7）
15．初級チベット語（7）

テキスト

教室で指示する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）チベット文字を正しく読むことができる。
（B）仏教の教えの大要を説明でき、かつ授業で取り上げたチベット語の仏教用語を覚えている。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

その他

科目名	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）
学期	通年
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのかについて考察して記述することができる。

テ ー マ：特定の場における聖なる体験について、身体感覚を中心に理解する。

授業の概要

聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問・巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート（2,000 ～ 3,200 字）にまとめる。

授業計画

1．講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2．聖地巡礼に向けての計画書作成①
3．聖地巡礼に向けての計画書作成②
4．聖地巡礼に向けての計画書作成③
5．聖地巡礼に向けての計画書作成④
6．聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7．聖地巡礼経過報告①
8．聖地巡礼経過報告②
9．聖地巡礼経過報告③
10．聖地巡礼経過報告④
11．聖地巡礼経過報告⑤
12．聖地巡礼後の報告書作成①
13．聖地巡礼後の報告書作成②
14．聖地巡礼後の報告書作成③
15．総合報告会：まとめ

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

『究極日本の聖地』鎌田東二　KADOKAWA/ 中経出版
『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』岡本亮輔　中公新書

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
（B）聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
（A）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
（S）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

その他

この科目は、３年次に履修することが望ましい。

科目名	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）
学期	通年
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのかについて考察して記述することができる。

テ ー マ：特定の場における聖なる体験について、身体感覚を中心に理解する。

授業の概要

聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問・巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート（2,000 ～ 3,200 字）にまとめる。

授業計画

1．講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2．聖地巡礼に向けての計画書作成①
3．聖地巡礼に向けての計画書作成②
4．聖地巡礼に向けての計画書作成③
5．聖地巡礼に向けての計画書作成④
6．聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7．聖地巡礼経過報告①
8．聖地巡礼経過報告②
9．聖地巡礼経過報告③
10．聖地巡礼経過報告④
11．聖地巡礼経過報告⑤
12．聖地巡礼後の報告書作成①
13．聖地巡礼後の報告書作成②
14．聖地巡礼後の報告書作成③
15．総合報告会：まとめ

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

『究極日本の聖地』鎌田東二　KADOKAWA/ 中経出版
『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』岡本亮輔　中公新書

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
（B）聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
（A）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
（S）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

その他

この科目は、４年次に履修することが望ましい。

科目名	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）
学期	前期
単位数	2
担当者	山本和美

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨む心構えを身につける。

テ ー マ：マインドフルネスを身につけて、人間としての器を作る。

授業の概要

マインドフルネスとは何かを理解し、実践的に身に着けてゆくことを通して、心理的ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆく。授業は、講義と演習を織り交ぜて進めてゆく。

授業計画

1．心理学とマインドフルネス
2．自己認知と他者認知について
3．間主観性について
4．呼吸から息遣いへ
5．身体感覚について
6．感情について
7．ナラティブについて
8．アンビバレンスを受けとめることについて
9．思いやりについて
10．雑念と超自我
11．食とマインドフルネス
12．情動調律
13．今ここに生きること
14．日本の伝統文化とマインドフルネス
15．ふりかえり

テキスト

その都度プリントを配布する。

参考書・参考資料等

『呼吸による気づきの教え』井上ウィマラ　佼成出版社

学生に対する評価

レポート（70%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）マインドフルネスの基本的な考え方を理解する。
（B）マインドフルネスを通じて、自己の感覚と向き合うことができる。
（A）マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づく。
（S）マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨む心構えを身につける。

その他

科目名	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）
学期	後期
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につける。

テ ー マ：生老病死の臨床に全人的に関わることを学ぶ。

授業の概要

人生のあらゆる場面での臨床場面を想定し、どのようなクライアントと面接しているときでも、その人の存在を全人的に理解し関わることができるようにするために、臨床心理学的視点とスピリチュアリティの涵養を含めて理解とトレーニングを積み重ねてゆく。授業は講義と演習を交えながら進めてゆく。

授業計画

1．人生と発達
2．世代間伝達
3．発達促進的環境
4．疾病利得
5．終末期を生きること
6．認知症を生きること・家族の支援
7．悲しむ力と育む力
8．トラウマケア、グリーフケア、スピリチュアルケア
9．スーパービジョンとスピリチュアリティ
10．コンステレーション
11．全人的医療と全人的ケア
12．幸せの心理学
13．感情労働と燃えつき防止
14．苦しみと解放
15．ふりかえり

テキスト

その都度プリントを配布する。

参考書・参考資料等

『スピリチュアルケアへのガイド』井上ウィマラ　青海社
『看護と生老病死』　井上ウィマラ　三輪書店

学生に対する評価

レポート（70%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）生老病死の苦しみについて理解する。
（B）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解する。
（A）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度について考えることができる。
（S）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につける。

その他

科目名	企画科目（古文書読解B）
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本の古文書に関する基礎知識や読解能力を身につける。

テ ー マ：「日本の古文書を読む」

授業の概要

この授業では、中世・近世の古文書を教材として、「変体漢文」やくずし字を理解する基礎を養う。

授業計画

1．古文書序説（古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など）
2．中世の古文書を読む（1）
3．中世の古文書を読む（2）
4．中世の古文書を読む（3）
5．中世の古文書を読む（4）
6．中世の古文書を読む（5）
7．中世の古文書を読む（6）
8．近世の古文書を読む（1）
9．近世の古文書を読む（2）
10．近世の古文書を読む（3）
11．近世の古文書を読む（4）
12．近世の古文書を読む（5）
13．近世の古文書を読む（6）
14．古文書の複製を扱う
15．まとめ

※ 内容は、進度によって変わる場合がある。

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版、1993 年）
書店で購入
また、古文書の図版プリントを配布する。

参考書・参考資料等

佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997 年）
石井進『中世の古文書を読み解く』（東京大学出版会、1990 年）
田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993 年）第１部「日本の古文書」
青木和夫ほか編『文献史料を読む―古代から近代―』
（朝日新聞社、2000 年）

学生に対する評価

期末試験（50%）、授業中の参加態度（予習および発言、50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎的なくずし字を解読できる。
（B）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
（A）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その内容を理解できる。
（S）古文書の読解能力を習得するとともに、古文書の形態に関する専門的な知識を習得している。

その他

毎回、宿題としてプリントを配付するので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。また、『くずし字用例辞典 普及版』を必ず購入して、授業に持参すること。（例年、類似の『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意）。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）
学期	前期
単位数	2
担当者	木下忠恭

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。
テ ー マ：心理検査・アセスメント法（質問紙法）について学ぶ。

授業の概要

本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ，心理的把握の視点を身につける。この講義では、主として、質問紙法によるパーソナリティ把捉や心理的概念を把捉するために開発された心理尺度に触れ、その理論的背景、解釈方法を学ぶ。尚、この講義を受講後に、心理検査法演習Ⅱを受講することが望ましい。

授業計画

1．質問紙法の基本的考え方について
2．パーソナリティ論及びその把捉について①
3．パーソナリティ論及びその把捉について②
4．MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈①
5．MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈②
6．MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈③
7．Y-G 性格検査について
8．Big5 について
9．知能検査について（WISC・WAIS・ビネー式検査など）①
10．知能検査について（WISC・WAIS・ビネー式検査など）②
11．領域別心理測定 (対人関係・価値観について) ①
12．領域別心理測定 (対人関係・価値観について) ②
13．領域別心理測定 (ストレスと適応について) ①
14．領域別心理測定 (ストレスと適応について) ②
15．まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。
・課題（複数）レポート（50%）
・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）心理検査や心理査定について基本的な事項を知っている。
（B）心理検査や心理査定について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
（A）心理検査や心理査定について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
（S）心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

その他

科目名	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）
学期	後期
単位数	2
担当者	木下忠恭

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。
テ ー マ：心理検査・アセスメント法（投影法）について学ぶ。

授業の概要

本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ，心理的把握の視点を身につける。この講義では、投影法によるパーソナリティや心的状態を把捉するための理論や方法を学び、人間理解の一助となる視点を身に付ける。尚、この講義を受講する前に、臨床心理学検査法演習Ⅰを受講していることが望ましい。

授業計画

1．投影法検査の考え方について
2．ロール・シャッハテストについて①
3．ロール・シャッハテストについて②
4．ロール・シャッハテストについて③
5．ロール・シャッハテストについて④
6．P-F スタディについて①
7．P-F スタディについて②
8．風景構成法について①
9．風景構成法について②
10．描画法について（HTP・バウム・スクイッグルなど）①
11．描画法について（HTP・バウム・スクイッグルなど）②
12．箱庭療法の体験、及び、解釈について①
13．箱庭療法の体験、及び、解釈について②
14．箱庭療法の体験、及び、解釈について③
15．まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。
・課題（複数）レポート（50%）
・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）投影法や描画法について、基本的な事項を知っている。
（B）投影法や描画法について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
（A）投影法や描画法について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
（S）投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

その他

科目名	企画科目（心理統計学）
学期	前期
単位数	2
担当者	五明優介

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：統計の基本用語について理解でき、テキストをみて適切な方法で計算を行うことができる。
テ ー マ：心理統計学の基礎を学ぶ。

授業の概要

心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解することを目的とする。

統計学は、本を読むことや授業を聞いただけでは身につかない。課題を自分で解き、また各種のデータを使って自ら演習を行うといった主体的な学習が必要である。この講義で得た基礎的知識を発展させ、卒論研究で必要とされる各種分析手法を身につけるためには、さらに「心理測定法」を受講すること。心理学の研究では、データにもとづいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行う。

授業計画

1．授業の目的と方針：①なぜ心理学研究に統計が必要か
2．授業の目的と方針：②日常生活の中でのデータにもとづく判断
3．さまざまな心理学データ：①変数のタイプ（質的・量的）分類
4．さまざまな心理学データ：②量的変数と質的変数の集計。度数分布・代表値・散布度　等
5．2つの質的変数の分析：①クロス表を用いた場合
6．2つの質的変数の分析：②関連と独立性の判断
7．量的変数の分析：①記述統計指標。度数分布・平均・散布度
8．量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布
9．量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布
10．量的変数の条件間比較：①条件間比較のポイント･散布度の重要性･データ数の重要性
11．量的変数の条件間比較：②１要因分散分析・③平均による比較が適切でない場合
12．量的変数の条件間比較：④対応のあるデータの性質と分析方法
13．２つの量的変質数間の分析：①相関図の作成方法
14．２つの量的変質数間の分析：②相関係数の算出方法
15．２つの量的変質数間の分析：③相関の解釈の問題点。相関関係と因果関係

テキスト

吉田寿夫『本当にわかりやすくすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』

参考書・参考資料等

下山晴彦ほか『心理学研究法入門』東京大学出版会 2004

学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）統計の基本用語を覚えている。
（B）統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
（S）統計の基本用語について理解でき、テキストをみて適切な方法で計算を行うことができる。

その他

科目名	企画科目（心理測定法）
学期	後期
単位数	2
担当者	五明優介

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：統計の基本用語について理解でき、テキストをみて適切な方法で計算を行うことができる。
テ ー マ：心理学研究における測定・統計解析の実際

授業の概要

心理学の研究では、データにもとづいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、また授業時間外課題としてコンピューター（表計算ソフト Excel や統計解析ソフト SPSS などを使用）を用いた分析実習とを行う。

授業計画

1．データ縮約記述
2．推測統計
3．独立変数と従属変数
4．質的変数と量的変数
5．被験者内要因と被験者間要因
6．t 検定と分散分析
7．１要因の分散分析
8．２要因分析　主効果と交互作用・被験者内要因を含む分散分析
9．ノンパラメトリック法
10．相関
11．回帰分析①
12．回帰分析②
13．連関
14．x ２検定①
15．x ２検定②

テキスト

吉田寿夫『本当にわかりやすくすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』

参考書・参考資料等

下山晴彦ほか『心理学研究法入門』東京大学出版会 2004

学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）統計の基本用語を覚えている。
（B）統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
（S）統計の基本用語について理解でき、テキストをみて適切な方法で計算を行うことができる。

その他

本講義は、前期に開かれている「心理統計学」を受講し、統計的方法の基礎的知識を持っていることを前提とする。

科目名	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）
学期	前期
単位数	2
担当者	五明優介

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。
テ ー マ：心理学的実験手法の基礎を身につける

授業の概要

心理学基礎実験演習ⅠとⅡを併せて受講すること。基礎実験演習Ⅰでは、心理学における基本的な実験方法とデータの分析方法、レポートの作成方法の学習を目的とする。各講義時間に提示される実験課題について、グループ毎に実験計画に従って実験実施し、データを収集する。その際に受講者は、毎回実験者と被検査者の両方を経験する。なお、講義時間内に十分なデータを収集できないときには、講義時間外にも実験を行い、データを収集すること。

実験課題毎に各グループで得られたデータを全員が共有し、各自がデータを分析、そして解釈や説明を加えて序論・方法・結果・考察から構成される心理学実験レポートを提出することが必須となる。

授業計画

1．ガイダンス（心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導）
2．感覚・知覚領域①錯視
3．感覚・知覚領域①錯視
4．感覚・知覚領域②大きさの恒常性
5．感覚・知覚領域②大きさの恒常性
6．記憶領域③短期記憶測定
7．記憶領域③短期記憶測定
8．記憶領域④単語の再生と再認
9．記憶領域④単語の再生と再認
10．学習領域⑤両側性転移
11．学習領域⑤両側性転移
12．認知領域⑥ストループ効果
13．認知領域⑥ストループ効果
14．レポート課題発表会（各自で各課題を１つ選択し結果と考察を発表する）
15．まとめ

テキスト

心理学実験指導研究会編『実験とテスト．心理学の基礎－実習編－』 培風館
鎌原雅彦 他『心理学マニュアル　質問紙法』北大路書房
フィンドレイ『心理学実験研究レポートの書き方』北大路書房

参考書・参考資料等

随時、紹介する。

学生に対する評価

課題毎に提出するレポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）心理学的実験の用語を覚えている。
（B）心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。
（A）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。
（S）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

その他

実験の授業は一旦始まると時間的な融通を利かせられないところがあるので、できるだけ遅刻欠席をしないようにすること。また、本講義は基礎的な心理学の知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくこと。

科目名	企画科目（災害心理学）
学期	後期
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：災害時における心理的支援に学んだ知見を活用する態度を理解している。
テ ー マ：災害時の心のケアについて多角的に学ぶ。

授業の概要

PTSD、複雑性悲嘆などの基本的概念を理解したうえで、災害後の時期によって変化してゆく多様なニーズに応えるための心理学的、及び、その周辺領域の知識を修得する。

授業計画

1．災害時支援における我が国の現状と課題
2．災害教育
3．心のケア（サイコロジカル・ファースト・エイドについて）①
4．心のケア（サイコロジカル・ファースト・エイドについて）②
5．心のケア（サイコロジカル・ファースト・エイドについて）③
6．復興支援学とは
7．復興とコミュニティ
8．復興と災害障害者
9．復興支援とボランティア
10．復興支援とホスピス活動
11．復興支援とナチュラル・サポーター
12．復興支援とジェンダー
13．復興時の分断と格差への対応
14．復興支援と宗教
15．まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

適時、紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（70%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）災害時に起こりうる心理的事象を理解している。
（B）災害時におこりうる心理的事象を理解し、必要な心理的支援を考えることができる。
（A）災害時における心理的支援に関する知見を活用する態度を理解している。
（S）災害時における心理的支援に関する知見を活用する態度を理解している。

その他

科目名	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）
学期	後期
単位数	2
担当者	五明優介

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：心理学的実験の目的・意義を理解して実施し、かつ、適切にレポートにまとめることができる。
テ ー マ：心理学的実験手法の基礎を身につける。

授業の概要

心理学基礎実験演習ⅠとⅡを併せて受講すること。基礎実験演習Ⅱでは、主として心理学における基本的な質問紙、及び、インタビュー調査法とデータの分析方法、レポートの作成方法の学習を目的とする。各講義時間に提示される実験課題について、グループ毎に実験計画に従って実験実施し、データを収集する。その際に受講者は、毎回実験者と被検査者の両方を経験する。なお、講義時間内に十分なデータを収集できないときには、講義時間外にも実験を行い、データを収集すること。

実験課題毎に各グループで得られたデータを全員が共有し、各自がデータを分析、そして解釈や説明を加えて序論・方法・結果・考察から構成される心理学実験レポートを提出することが必須となる。

授業計画

1．ガイダンス（心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導）
2．社会領域⑦パーソナルスペース測定
3．社会領域⑦パーソナルスペース測定
4．社会領域⑧囚人のジレンマ（ゲーム行動）
5．社会領域⑧囚人のジレンマ（ゲーム行動）
6．産業領域⑨SD法
7．産業領域⑨SD法
8．産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
9．産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
10．人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
11．人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
12．臨床領域⑫インタビュー面接法（KJ法）
13．臨床領域⑫インタビュー面接法（KJ法）
14．レポート課題発表会（各自で各課題を１つ選択し結果と考察を発表する）
15．まとめ

テキスト

心理学実験指導研究会編『実験とテスト．心理学の基礎－実習編－』 培風館
鎌原雅彦 他『心理学マニュアル　質問紙法』北大路書房
フィンドレイ『心理学実験研究レポートの書き方』北大路書房

参考書・参考資料等

随時、紹介する。

学生に対する評価

課題毎に提出するレポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）心理学的実験の用語を覚えている。
（B）心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。
（A）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。
（S）心理学的実験の目的・意義を理解して実施し、かつ、適切にレポートにまとめることができる。

その他

実験の授業は一旦始まると時間的な融通を利かせられないところがあるので、できるだけ遅刻欠席をしないこと。また、本講義は基礎的な心理学知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくこと。

科目名	企画科目（こころのケアとは）
学期	前期
単位数	2
担当者	山添正

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：倫理の視点より、心のケアの問題を①意思決定、②価値観と援助関係　③境界の扱いと多重関係の三つの視点より理解する力をつける。
テ ー マ：倫理は哲学の一分野ですが、心のケアという実践においてなぜ、上に述べた３つの領域が問題になるか説明する。

授業の概要

心のケアの実践をする主体は、人であり、人と人との関わりの中でケアする訳である。場面を大きく３領域に分け、抽象的に学ぶのではなく、Corey 教授の倫理のテキストとビデオを使い、各事例を視聴した後、ワークブックの問題に取り組む事で、倫理の学習を具体的に進める。

授業計画

1．倫理的決定と７つのステップ
Ⅰ　意思決定
2．十代の妊娠と守秘義務
3．Big brother への対処とカウンセラーの逆転移
4．異文化（多様性）理解と IAT
Ⅱ　価値観と援助関係
5．離婚と子どものケア
6．価値観の葛藤：親からの自立と責任
7．不倫と倫理
Ⅲ　境界問題と多重関係
8．面接室外での面接
9．治療関係と友人関係
10．治療関係と恋愛感情への対処
Ⅳ　スピリチュアルケアと倫理
11．出生前診断と障害児の中絶
12．同性愛と“カミングアウト”
13．安楽死と人生の終結の決断
14．死刑囚をめぐるスピリチュアルな倫理的問題
15．まとめ

テキスト

授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

ジェラルド コウリー、パトリック キャラナン　2004 年
『援助専門家のための倫理問題ワークブック』創元社

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）倫理の４領域の事例の状況について知識の上では理解ができている。
（B）倫理の４領域の事例の状況について実践的に部分的理解ができている。
（A）倫理の４領域の事例の状況について実践的に全体的理解ができている。
（S）倫理の４領域の事例の状況について自分が対処できる自信がある。

その他

科目名	企画科目（深層心理学）
学期	後期
単位数	2
担当者	山添　正

授業のテーマ

到達目標：臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。
テ　ー　マ：精神分析学と分析心理学の基本的な概念を学ぶ。

授業の目的及び概要

日常の生活を送る上で、私たちは、自身の言動をすべて意識して行っているわけではない。例えば、普段口にしないようなことを思わず口走ってしまうことや、平時であればなんでもないことでも、ストレスフルな環境下では、些細なことでも怒りが湧いてくるといったことは誰もが体験していることだろう。このように自身が意識・感知していない領域、すなわち、無意識の心理過程が我々にはあると考え、研究を重ねてきた領域が深層心理学の分野である。

本講義では、深層心理学の分野において多大な影響を与えている精神分析学とその諸派の基本的な概念、及び、分析心理学の概念について取り扱う。

授業計画

1．精神分析学以前の学説
2．精神分析誕生について .夢判断・錯誤行為
3．無意識の発見・心的構造論
4．神経症の症例を通じて
5．自我心理学とライフサイクル論について
6．自己心理学について
7．対象関係論について①
8．対象関係論について②
9．ラカンの精神分析理論について
10．分析心理学誕生について
11．タイプ論
12．夢分析
13．元型論
14．集合的無意識と東洋思想
15．まとめ

テキスト

松井紀和　2001 年『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター　03-3407-3363 1000 円

参考書・参考資料等

適時、紹介する。

学生に対する評価

レポートにて評価する（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）精神分析に関心がある。
（B）精神分析に関する基礎的な知識を身につけている。
（A）精神分析の知識のみならず技能も理解している。
（S）臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

その他

講義中における活発な質疑､議論を求めます。積極的に参加すること。

科目名	企画科目（臨床心理学面接演習ⅠA）
学期	前期
単位数	2
担当者	山添　正

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：テキストは面接過程を13段階にわけており、段階ごとの基本的概念とテクニックを学ぶ。
テ　ー　マ：カウンセラーとしてケアワーカーとして、ケアを必要としている人との係わり方についての理論的概念かつ実践的なテクニックを学ぶ。それだけではなく、関わりの記録方法を学び、スーパービジョンを受ける事で実際の面接への応用方法を理解する。

授業の概要

まず面接のプロセスが、来談者と面接者との出会いから始まり、治療的関係が形成され、面接作業がどのように進むかについての理論学習と平行して、各ステップごとに教科書と関連する DVD を視聴して、具体的にどのように面接が進められているか実践的に理解します。その後、受講生同士で面接（ビア面接）を行い、記録に残してスーパービジョンを受け、実践的に面接技術の学習をする。

授業計画

1．面接のはじめ
2．治療的関係
3．治療目標の確立
4．多様性の理解と対応
5．抵抗の理解と対処
6．面接における認知的焦点化
7．面接における感情的焦点化
8．面接における行動的焦点化
9．面接における発達的焦点化
10．統合的視点
11．転移
12．逆転移
13．過去が現在に与える影響の理解
14．決断と行動変化への作業
15．評価と終結

テキスト

ジェラルド・コーレイ　2011 年　『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践』金子書房　3800 円

参考書・参考資料等

『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践　DVD 版』金子書房　10290 円

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的概念の理解はできている。
（B）概念だけでなく技能の理解も出来ている。
（A）概念＋技能＋ロールプレイのパーフォーマンスが優れている。
（S）臨床現場でここでの学びを応用実践できる。

その他

科目名	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡA）
学期	後期
単位数	2
担当者	山添　正

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：事例に対する12の理論の基本とテクニックを学ぶ。
テ　ー　マ：事例に対して、12のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパービジョンを通して学ぶ。

授業の概要

ボランティアまたは実習で係わった人との事例報告書作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかを 12 のアプローチ方法を比較しながら、それを自分の発表ケースに当てはめながら、他の受講生の感想も参考にしながら、スーパービジョンを通して学ぶ。

授業計画

1．スーパービジョンについてのガイダンス
2．精神分析的視点からのケース・アプローチ
3．アドラー派の視点からのケース・アプローチ
4．実存分析的視点からのケース・アプローチ
5．来談者中心療法の視点からのケース・アプローチ
6．ゲシュタルト療法的視点からのケース・アプローチ
7．行動療法的視点からのケース・アプローチ
8．認知行動療法的視点からのケース・アプローチ
9．現実療法的視点からのケース・アプローチ
10．フェミニスト療法的視点からのケース・アプローチ
11．ポストモダン的視点からのケース・アプローチ
12．家族療法的視点からのケース・アプローチ
13．統合的視点からのルースへのケース・アプローチ
14．受講者自身の面接スタイルの探求
15．日本人との面接の留意点

テキスト

松井紀和　2001 年『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター　03-3407-3363 1000 円

参考書・参考資料等

Gerald Corey 2009　Case approach to Counseling and Psychotherapy　Belmont Thomson

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）臨床場面でかかわったケースの記録をまとめている。
（B）ケース・アプローチ方法の基礎知識を理解している。
（A）ケース・アプローチ方法の知識のみならず、技能も理解している。
（S）自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解が出来ている。

その他

科目名	企画科目（発達心理学B）
学期	前期
単位数	2
担当者	西川みち子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：発達的観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考えることが出来る。
テ　ー　マ：生涯発達の視点から、各発達時期の問題についての知見を深める。

授業の概要

生涯発達の視点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を解説する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考えていく。

授業計画

1．発達心理学とは
2．遺伝と環境、及び、初期経験
3．言語の発達について
4．認知の発達について
5．発達段階と発達課題（総論）
6．乳児期の発達について
7．幼児期の発達について
8．児童期の発達について
9．思春期の発達について
10．青年期の発達について
11．成人期の発達について
12．老年期の発達について
13．発達障害とその支援①
14．発達障害とその支援②
15．まとめ

テキスト

『よくわかる発達心理学』無藤　隆・岡本裕子・大坪治彦　編　ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

随時、紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（30%）、レポートによる評価（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）人の発達の道筋を理解する。
（B）心理発達的な問題が発生したことへの原因について考えることが出来る。
（A）心理発達的な問題への適切な援助方法を考えることが出来る。
（S）発達的観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考えることが出来る。

その他

科目名	企画科目（家族心理学）
学期	後期
単位数	2
担当者	西川 みち子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：人を援助するにあたって、その背景にある「家族」を読み解く力を身につける。
テ ー マ：家族を心理学の視点から理解する。

授業の概要

夫婦というヨコの関係、親子など血縁というタテの関係、法律上の家族、地域社会との関係など複雑に絡みあった関係から生じる種々の家族問題について、社会的背景を踏まえつつ、事例を通じて、心理学的視点から家族のあり方を考察し、支援方法について学ぶ。

授業計画

1．家族とは何か。
2．夫婦について
3．父と息子について
4．父と娘について
5．母と息子について
6．母と娘について
7．兄弟・姉妹について
8．家族の危機について
9．高齢者と家族について
10．家族と地域について
11．家族療法について
12．家族を支援する自助グループについて
13．家族と地域支援ネットワークについて
14．シェルターと自立支援施設について
15．まとめ

テキスト

『家族の心理』平木典子・中釜洋子　共著　サイエンス社

参考書・参考資料等

『よくわかる家族心理学』柏木恵子　編著　ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業参加の積極性（30%）、レポートによる評価（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）家族関係について理解できる。
（B）問題が発生した場合、その病理を関係性から読み取ることが出来る。
（A）適切な援助法を考えることができる。
（S）人を援助するにあたって、その背景にある「家族」の関係性を読み解く力がある。

その他

科目名	企画科目（学校心理学）
学期	前期
単位数	2
担当者	木下 忠恭

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。
テ ー マ：学校教育場面における様々な問題の理解とその対応について学ぶ。

授業の概要

学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深める。

授業計画

1．学校教育と心理学 . 歴史的背景を知る
2．発達心理学的視点と学校教育
3．学校内チーム支援について
4．保護者と学校を支援する視点
5．児童期の発達と学校教育
6．児童期の学習の問題について
7．児童期の不登校について
8．児童期の仲間関係といじめについて
9．児童期における学校内チーム支援の在り方について
10．思春期・青年期の発達と学校教育
11．思春期・青年期の学習の問題について
12．思春期・青年期の不登校について
13．思春期・青年期の仲間関係といじめについて
14．思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について
15．まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

・石隈利紀著『学校心理学――教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』（1999・誠信書房）
・学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック』第2版（2007・風間書房）
・その他の参考書は、適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。
・課題（複数）レポート（50%）
・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学校における心理学的な課題について、基本的な事項を知っている。
（B）学校における心理学的な課題について、資料を見ながらその内容や問題点を説明できる。
（A）学校における心理学的な課題について、一つの事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。
（S）学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

その他

できるだけ、わかりやすい授業を心がけたい。現在的の課題を扱い、受講生からの積極的な質疑・意見をいただき、“臨床の知”を共に深めていきたい。

科目名	企画科目（カウンセリング論B）
学期	後期
単位数	2
担当者	木下 忠恭

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：カウンセリング技法についてカウンセリング技法を用いて、簡単なカウンセリングができる。
テ ー マ：カウンセリングの理論・技法について学ぶ。

授業の概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業計画

1．オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2．カウンセリングの歴史的背景を知る
3．心理アセスメントについて
4．様々なカウンセリングを知る（クライエント中心療法）
5．様々なカウンセリングを知る（精神分析的心理療法）
6．様々なカウンセリングを知る（解決思考アプローチ）
7．様々なカウンセリングを知る（認知行動療法）
8．様々なカウンセリングを知る（その他）
9．子どもへのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
10．保護者へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
11．発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
12．被虐待へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
13．非行を行う人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
14．自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
15．まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。
・課題（複数）レポート（50%）
・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）カウンセリング技法について、基本的な事項を知っている。
（B）カウンセリング技法について、簡単に理論と考え方を説明できる。
（A）カウンセリング技法について、２つ以上の技法について、その理論と考え方を説明できる。
（S）カウンセリング技法についてカウンセリング技法を用いて、簡単なカウンセリングができる。

その他

できるだけ、わかりやすい授業を心がけたい。講義と演習を組み合わせて、受講生からの積極的な質疑・意見をいただき、“臨床の知”を共に深めていきたい。

科目名	企画科目（メンタルヘルス）
学期	前期
単位数	2
担当者	根岸 和政

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：セルフケアが個人・グループで実行できること。
テ ー マ：メンタルヘルスにおける予防策とセルフケアの体験

授業の概要

メンタルヘルスの概念、セルフケアの重要性、ケア・予防を軸としたレジリエンス UP、グループケアの体験について説明する。

授業計画

1．メンタルヘルスについて
2．セルフケア（ケアする側のケア）の重要性（trauma　Care）
3．自己分析
4．セルフケアⅠの心構え
5．セルフケアⅡ（受容と共感）
6．セルフケアⅢ（リフレーム）
7．レジリエンスについてⅠ人間関係力
8．レジリエンスについてⅡ自己肯定感・自己効力感
9．グループケアについて１ファシリテーションスキル
10．グループケアについて２自己開示
11．グループケアについて３（受容・共感）
12．グループケアについて４（分かち合い）
13．グループケアについて５（問題解決の模索法）
14．グループケアについて６（勇気づけ）
15．試験（小論文）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

・『スタンフォードのストレスを力に変える教科書』大和書房　ケリーマクゴニガル　神崎朗子訳
・『心を癒すノート』創元社　伊藤正哉　樫村正美　堀越　勝
・『世界のエリートがIQ・学歴よりも重視レジリエンスの鍛え方』久世浩司　実業之日本社
・『子どもの「逆境に負けない心」を育てる本』楽しいワークで身につく「レジリエンス」足立啓美　鈴木水季　久世浩司　イローナ・ボニウエル（監修）法研
・『仏教とアドラー心理学』岡野守也　佼成出版社
・『仏教とカウンセリング』友久久雄 編 法蔵館
・『自分を信じるレッスン』手塚郁恵　春秋社
・『心理療法に生かすロールプレイング・マニュアル』レイモンドJ.コルシニ　金子賢（監訳）金子書房
・『一番やさしくNLPのことがわかる本』浦　登記　白石由利奈 監修 日本実業出版社
・『コミュニケーション能力　理論と実践』サンドラ・サヴィニョン　法政大学出版局
・田中万里子のDVD　『子どもの心育て講座』　田中万里子Ph.D InnerCore9

学生に対する評価

小論文（30%）、発表（20%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義内容を理解している。
（B）演習に積極的に取り組むことができる。
（A）演習に積極的に取り組み、自己開示ができる。
（S）自己洞察による課題発見および解決ができる。

その他

無理に自己開示する必要はない。他の学生の批評・批判は禁忌とする。講義・演習において知り得た個人情報については、外部に漏らしてはならない。

科目名	企画科目（社会心理学）
学期	後期
単位数	2
担当者	松下歩睦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：社会心理学の基本用語について、自分の言葉で説明が出来、深く理解できている。
テ ー マ：社会の中で生きる人の心の心理過程について学ぶ。

授業の概要

自己と他者･集団･社会の社会心理学の基礎的テーマを講義し、様々な社会心理現象をより細かく知ることで講義の理解を深める。自己と他者の分野では、社会における個人の自己のありかたや他者に対する認知や感情が研究されている。また、集団・社会の分野では、より応用的な研究が行われている。たとえば、対人関係を円滑にするための社会的スキル・説得的コミュニケーションなどがあげられる。この授業では、講義をはじめ、映画を通してワールドカフェ法などを行いながら、それらの研究を支える様々な理論的枠組みについて話し合いながら学んでいくことを行う。

授業計画

1．社会心理学概論
2. 社会的認知の基礎　脳と認知
3. 対人認知　第一印象形成
4. 対人感情
5. 自己概念
6. 自己開示
7. 向社会的行動
8. 反社会的行動
9. 対人コミュニケーション　言語的
10. 対人コミュニケーション　非言語的
11. 説得的コミュニケーション
12. 集団の中の人間　リーダー
13. 集団の中の人間　葛藤
14. ネットワーク
15. まとめ

テキスト

山岸俊男編集『社会心理学キーワード』有斐閣

参考書・参考資料等

堀　洋道『新編　社会心理学 [改訂版]』福村出版

学生に対する評価

授業参加の積極性＋小レポート（70%）　各テーマ発表（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会心理学の基本用語を覚えている。
（B）社会心理学の基本用語について、参考書やノートの言語を用いて、説明できる。
（A）社会心理学の基本用語について、参考書やノートを見て、自分の言葉で説明できる。
（S）社会心理学の基本用語について、自分の言葉で説明が出来、深く理解できている。

その他

科目名	企画科目（臨床心理学面接演習ⅠB）
学期	前期
単位数	2
担当者	山添正

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：テキストは面接過程を13段階にわけており、段階ごとの基本的概念とテクニックを学ぶ。
テ ー マ：カウンセラーとしてケアワーカーとして、ケアを必要としている人との係わり方についての理論的概念かつ実践的なテクニックを学ぶ。それだけではなく、関わりの記録方法を学び、スーパービジョンを受ける事で実際の面接への応用方法を理解する。

授業の概要

まず面接のプロセスが、来談者と面接者との出会いから始まり、治療的関係が形成され、面接作業がどのように進むかについての理論学習と平行して、各ステップごとに教科書と関連する DVD を視聴して、具体的にどのように面接が進められているか実践的に理解する。その後、受講生同士で面接（ピア面接）を行い、記録に残してスーパービジョンを受け、実践的に面接技術の学習をする。

授業計画

1．面接のはじめ
2．治療的関係
3．治療目標の確立
4．多様性の理解と対応
5．抵抗の理解と対処
6．面接における認知的焦点化
7．面接における感情的焦点化
8．面接における行動的焦点化
9．面接における発達的焦点化
10. 統合的視点
11. 転移
12. 逆転移
13. 過去が現在に与える影響の理解
14. 決断と行動変化への作業
15. 評価と終結

テキスト

ジェラルド・コーレイ　2011 年　『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術 . 理論と実践』　金子書房　3800 円

参考書・参考資料等

『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術 . 理論と実践』DVD 版　金子書房　10290 円

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的概念の理解はできている。
（B）概念だけでなく技能の理解も出来ている。
（A）概念＋技能＋ロールプレイのパーフォーマンスが優れている。
（S）臨床現場でここでの学びを応用実践できる。

その他

科目名	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡB）
学期	後期
単位数	2
担当者	山添正

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：事例に対する12の理論の基本とテクニックを学ぶ。
テ ー マ：事例に対して、１２のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパービジョンを通して学ぶ。

授業の概要

ボランティアまたは実習で係わった人との事例報告書作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかを 12 のアプローチ方法を比較しながら、それを自分の発表ケースに当てはめながら、他の受講生の感想も参考にしながら、スーパービジョンを通して学ぶ。

授業計画

1．スーパービジョンについてのガイダンス
2．精神分析的視点からのケース・アプローチ
3．アドラー派の視点からのケース・アプローチ
4．実存分析的視点からのケース・アプローチ
5．来談者中心療法の視点からのケース・アプローチ
6．ゲシュタルト療法的視点からのケース・アプローチ
7．行動療法的視点からのケース・アプローチ
8．認知行動療法的視点からのケース・アプローチ
9．現実療法的視点からのケース・アプローチ
10. フェミニスト療法的視点からのケース・アプローチ
11. ポストモダン的視点からのケース・アプローチ
12. 家族療法的視点からのケース・アプローチ
13. 統合的視点からのルースへのケース・アプローチ
14. 受講者自身の面接スタイルの探求
15. 日本人との面接の留意点

テキスト

松井紀和　2001 年『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター　03-3407-3363 1000 円

参考書・参考資料等

Gerald Corey 2009　Case approach to Counseling and Psychotherapy　Belmont Thomson

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）臨床場面でかかわったケースの記録をまとめている。
（B）ケース・アプローチ方法の基礎知識を理解している。
（A）ケース・アプローチ方法の知識のみならず、技能も理解している。
（S）自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解が出来ている。

その他

科目名	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）
学期	前期
単位数	2
担当者	大河内大博

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化
テ ー マ：スピリチュアルケアの対人援助姿勢・理論・援助論の修得とグループワークの基礎的演習

授業の概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業計画

1．講義ガイダンス：スピリチュアルケアにおけるグループワーク
2．グループワークの基礎①
3．グループワークの基礎②
4．グループワークの基礎③
5．グループワークの基礎④
6．生育歴セッション１－①
7．生育歴セッション１－②
8．生育歴セッション１－③
9．生育歴セッション１－④
10. 生育歴セッション１－⑤
11. 生育歴セッション２－①
12. 生育歴セッション２－②
13. 生育歴セッション２－③
14. 生育歴セッション２－④
15. 生育歴セッション２－⑤：まとめ

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第 3 集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010 年）
大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014 年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（振り返りシート）（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自己課題への気づきがあり、今後取り組む姿勢ができている。
（B）自己課題が明確であり、グループダイナミックスを理解できている。
（A）自己課題への取り組みが出来ており、他者のケアができている。
（S）自己課題への取り組みをグループダイナミックスを通して行い、他者のケアができている。

その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。
原則的に秋学期の「スピリチュアルケア演習Ⅱ」と両方の受講を求める。
各回、欠席のないようにすること。

科目名	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）
学期	後期
単位数	2
担当者	大河内 大博

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化
テ ー マ：スピリチュアルケアの対人援助姿勢・理論・援助論の修得とグループワークの基礎的演習

授業の概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業計画

1．スピーチセッション１－①
2．スピーチセッション１－②
3．スピーチセッション１－③
4．スピーチセッション１－④
5．スピーチセッション１－⑤
6．スピーチセッション２－①
7．スピーチセッション２－②
8．スピーチセッション２－③
9．スピーチセッション２－④
10．スピーチセッション２－⑤
11．IPR セッション①
12．IPR セッション②
13．IPR セッション③
14．IPR セッション④
15．IPR セッション⑤：まとめ

テキスト

参考書・参考資料等

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第３集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010 年）
大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014 年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（振り返りシート）（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自己課題への気づきがあり、今後取り組む姿勢ができている。
（B）自己課題が明確であり、グループダイナミックスを理解できている。
（A）自己課題への取り組みが出来ており、他者のケアができている。
（S）自己課題への取り組みをグループダイナミックスを通して行い、他者のケアができている。

その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。
原則的に春学期の「スピリチュアルケア演習Ⅰ」の受講者を対象とする。
各回、欠席のないようにすること。

科目名	企画科目（スピリチュアルケア概論）
学期	集中
単位数	2
担当者	窪寺俊之

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：スピリチュアルケアの基本的概念を理解し関心と興味をもつこと。
テ ー マ：スピリチュアルケア、スピリチュアリティ、宗教的ケア、心理的ケア、終末期医療、日本的スピリチュアリティなどの概念。

授業の概要

各授業時間（90 分）の内 60 分を講義に使い、残りの 30 分は受講者とのディスカッションをする。受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くようにする。

授業計画

1．スピリチュアルケアとは何か（I）WHOの健康定義の改正案
2．スピリチュアルケアの必要性、終末期医療現場での苦悩
3．スピリチュアルケアの必要性と現代医療の問題点（治療中心医療の限界）
4．スピリチュアルケアに求められているもの
5．スピリチュアルケアとは何か（II）
　スピリチュアルケアの定義の多様性
6．スピリチュアルとは何か、スピリットとは何か
7．スピリチュアルケアの本質、関係性、人間とは何か
8．スピリチュアルケアの目的（QOLの向上）
9．スピリチュアルケアと宗教的ケア、心理的ケアの相違点
10．スピリチュアルティの垂直的関係
11．ケアとは何か
12．スピリチュアルケア・ギバー（提供者）の養成
13．スピリチュアルな感性を磨く（スピリチュアルな視点、側面、テーマなど）
14．「竹取物語」のスピリチュアルティ
15．金子みすゞのスピリチュアリティ・授業の振り返り

テキスト

窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店、2000

参考書・参考資料等

窪寺俊之『スピリチュアルケア序説』三輪書店、2004
窪寺俊之『スピリチュアルケア概説』三輪書店、2008

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）スピリチュアルケアの基本的用語を理解する。。
（B）スピリチュアルケアの基本に加えて、宗教的ケア、心理的ケアとの関係など周辺領域との関係を広く理解する。
（A）スピリチュアルケアを全体的に理解することに加えて、ケア者（スピリチュアルケア援助者）として、他の参考図書を読んで理解できる。
（S）スピリチュアルケアを全体的に理解することに加えて、ケア者（スピリチュアルケア援助者）として、他の参考図書を読んで理解し、他者に説明することができる。

その他

科目名	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）
学期	集中
単位数	2
担当者	橋本久仁彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得する。
テ ー マ：最前線の現場でのコミュニケーション場面で必須となる「聞く」ことの肝心要を「稽古」する。

授業の概要

学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手（カウンセラー）と語り手（クライアント）の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間(聞き手と話手)の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を体験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ＝現場の発見を促す。

授業計画

1．講義ガイダンス：身体とコト・バについて
2．身体の動きを聞く芸能①：影舞
3．身体の動きを聞く芸能②：影舞
4．身体の動きを聞く芸能③：影舞
5．身体の動きを聞く芸能④：影舞
6．身体の動きを聞く芸能⑤：影舞
7．ミニカウンセリング①：傾聴
8．ミニカウンセリング②：傾聴
9．ミニカウンセリング③：傾聴
10．ミニカウンセリング④：傾聴
11．逐語録検討①：音韻
12．逐語録検討②：間合い
13．逐語録検討③：環境音
14．他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について①
15．他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について②・まとめ

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に伝える。

学生に対する評価

レポートによる評価（50%）・講義への積極的参加（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま辿らず自分の言葉で編集する。
（B）15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
（A）15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
（S）非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

その他

講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目（「コミュニケーション演習Ⅱ」）を受講することが望ましい。

科目名	企画科目（死生観）
学期	集中
単位数	2
担当者	山本佳世子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本人の死生観についての理解を深めると同時に、受講者それぞれの死生観を見つめ直し、培う場とする。
テ ー マ：映画や絵本に現れる日本人の死生観

授業の概要

日本人の死生観の変遷と、現代日本人の死生観について、映画や絵本を取り上げながら、理解を深める。ディスカッションの時間を可能な限り取り入れ、受講者が自身の死生観を見つめ直し、培う場としたい。

授業計画

1．死生学と死生観
2．死生観の生成と涵養
3．死に向き合う（映画「赤ひげ」）
4．死までの生を生きる（映画「生きる」）
5．グループワーク、ディスカッション①（絵本『100万回生きた猫』）
6．死からの生を生きる（映画「殯の森」「岸辺のふたり」）
7．故人との関係性（絵本『老夫婦』、映画「加奈子のこと」）
8．日本人の死生観と他界観（絵本『このあとどうしちゃおう』）
9．死者を送る（映画「おくりびと」）
10．この世とあの世を媒介するもの：お迎え（映画「赤ひげ」、絵本『わすれられないおくりもの』）
11．この世にいる死者：幽霊（映画「岸辺の旅」）
12．新しい葬送の形：死者はどこにいるのか（歌「千の風になって」）
13．受け継がれていく生（映画「歩いても歩いても」）
14．「無宗教」という死生観
15．まとめ

テキスト

適宜、指示する

参考書・参考資料等

・佐藤弘夫『死者の花嫁―葬送と追悼の列島死』幻戯書房、2015 年
・波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞出版、2004 年

学生に対する評価

期末レポート（50%）、毎回の授業時に提出する課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本人の死生観について基本概念を理解し、自身の死生観をなんとなく説明できる。
（B）日本人の死生観とその変遷を配布資料に沿って理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
（A）日本人の死生観とその変遷を配布資料を含む複数の資料を見ながら他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
（S）日本人の死生観とその変遷を資料を見ずに他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、「日本人の死生観」に比較言及しながら自身の死生観を自分の言葉で説明できる。

その他

映画は時間の関係で一部しか鑑賞できない。ぜひ、全編鑑賞することをすすめる。
授業計画は予定であり、取り上げる映画等、一部変更する可能性がある。

科目名	企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）
学期	集中
単位数	2
担当者	橋本 久仁彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得する。
テ ー マ：最前線の現場でのコミュニケーション場面で必須となる「聞く」ことの肝心要を「稽古」する。

授業の概要

企画科目（「コミュニケーション演習Ⅰ」）での学びをさらに深めることを目的とする。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手（カウンセラー）と語り手（クライアント）の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間（聞き手と話手）の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を体験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ＝現場の発見を促す。

授業計画

1．講義ガイダンス：他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について
2．身体の動きを聞く芸能①：影舞
3．身体の動きを聞く芸能②：影舞
4．身体の動きを聞く芸能③：影舞
5．身体の動きを聞く芸能④：影舞
6．身体の動きを聞く芸能⑤：影舞
7．ミニカウンセリング①：傾聴
8．ミニカウンセリング②：傾聴
9．ミニカウンセリング③：傾聴
10．ミニカウンセリング④：傾聴
11．逐語録検討①：観念
12．逐語録検討②：固定
13．逐語録検討③：観察
14．物語と作品①
15．物語と作品②

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に伝える。

学生に対する評価

レポートによる評価（50%）・講義への積極的参加（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま辿らず自分の言葉で編集する。
（B）15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
（A）15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
（S）非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

その他

講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。「企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）」を受講していることが望ましい。

科目名	企画科目（もの語り心理学）
学期	集中
単位数	2
担当者	やまだようこ

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：もの語り（ナラティヴ）から人生とスピリチュアル・ケアを深く考える。
テ ー マ：喪失の語りと人生心理学

授業の概要

もの語り心理学の理論と方法論の基礎を、語りの共同生成の実践から体験しながら学ぶ。特に「喪失の語り」をテーマに、「人生」「スピリチュアリティ」「ケア」と関連づけるワークと討論を行う。

授業計画

1．人生のイメージ
2．人生観とライフストーリー
3．もの語り（ナラティヴ）とは？
4．人生をもの語る
5．もの語りアプローチの人間観
6．喪失から生成へのもの語り
7．「いのち」とスピリチュアリティとケア
8．いない人のイメージと人生のもの語り
9．生成継承性と日本文化の死生観
10．この世とあの世のイメージと「たましい」の表象
11．喪失から生成へのもの語り
12．もの語りの語り直しと生き直し
13．もの語りによる人生の転換とレジリエンス
14．もの語りによるリフレクション
15．まとめ

テキスト

やまだようこ 『喪失の語り－生成のライフストーリー』新曜社

参考書・参考資料等

やまだようこ（編）『人生を物語る』ミネルヴァ書房
やまだようこ（編）『人生と病いの語り』東京大学出版会
やまだようこ（編）『この世とあの世のイメージ』新曜社

学生に対する評価

授業への積極的参与と授業時の小レポート（50%）最終レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業への積極的参与。
（B）授業への積極的参与とレポートの提出。
（A）授業への積極的参与と優れたレポートの提出。
（S）授業への積極的参与と特に優れたレポートの提出。

その他

科目名	企画科目（臨床実習Ⅰ）
学期	通年
単位数	2
担当者	森崎 雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。
テ ー マ：苦悩する方々へのケアの多様な在り方を学ぶ中でケアの本質を把捉し、その学びの中において自己の死生観を養う。

授業の概要

スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は60時間とする。また、3年次の履修とする。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．スピリチュアルケアと臨床現場
3．ケアと倫理
4．実習：傾聴活動①
5．実習：傾聴活動②
6．実習：傾聴活動③
7．実習：傾聴活動④
8．実習：傾聴活動⑤
9．実習：傾聴活動⑥
10．実習：傾聴活動⑦
11．実習：傾聴活動⑧
12．実習：傾聴活動⑨
13．実習：傾聴活動⑩
14．実習の振り返り
15．まとめ：苦悩とケア

テキスト

特に指定はしない。

参考書・参考資料等

適時紹介する。

学生に対する評価

実習中の態度（30%）・実習日誌（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
（B）スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
（A）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
（S）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することでできる。

その他

スピリチュアルケア師資格取得を希望する者は、臨床実習Ⅰ（3年次）と臨床実習Ⅱ（4年次）を履修すること。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅱ）
学期	通年
単位数	2
担当者	森崎 雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。
テ ー マ：苦悩する方々へのケアの多様な在り方を学ぶ中でケアの本質を把捉し、その学びの中において自己の死生観を養う。

授業の概要

「臨床実習Ⅰ」での学びをさらに深めることを目的とし、4年次の履修とする。スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は60時間とする。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．スピリチュアルケアと死生観
3．ケアと倫理
4．実習：傾聴活動①
5．実習：傾聴活動②
6．実習：傾聴活動③
7．実習：傾聴活動④
8．実習：傾聴活動⑤
9．実習：傾聴活動⑥
10．実習：傾聴活動⑦
11．実習：傾聴活動⑧
12．実習：傾聴活動⑨
13．実習：傾聴活動⑩
14．実習の振り返り
15．まとめ：苦悩とケア

テキスト

特に指定はしない。

参考書・参考資料等

適時紹介する。

学生に対する評価

実習中の態度（30%）・実習日誌（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
（B）スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
（A）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
（S）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することでできる。

その他

スピリチュアルケア師資格取得を希望する者は、臨床実習Ⅰ（3年次）と臨床実習Ⅱ（4年次）を履修すること。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅲ）
学期	通年
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の世界観を再確認し、社会実践活動に結び付ける視点を身につける。。

テ ー マ：学びを通じて、自身のこれまでの世界観を振り返り、新たなる世界観構築の機会を体験する。

授業の概要

キリスト教の教義及び世界観並びに神道の教義及び世界観と社会実践活動の実際について、学外実習を通じて学ぶ。遠隔地での学外実習のため現地にて宿泊する。また、各実習終了後、自身の学びや気づきについてキーワードを３つ挙げ、レポート（2,000 ～ 3,200 字以内）にまとめる。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．事前学習①：キリスト教について
3．事前学習②：教会の活動について
4．現地実習①：活動現場視察
5．現地実習②：実践講義1
6．現地実習③：実践講義2
7．現地実習④：礼拝出席
8．実習の振り返り①
9．事前学習③：神道について
10. 現地実習⑤：ワークショップ1
11. 現地実習⑥：ワークショップ2
12. 現地実習⑦：伊勢神宮参拝
13. 実習の振り返り②
14. 全体の振り返り
15. まとめ：宗教とケア

テキスト

特に指定はしない。

参考書・参考資料等

適時紹介する。

学生に対する評価

実習への参加態度（30%）・レポートによる評価（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）様々な宗教的世界観を理解する。
（B）様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の抱く世界観を理解する。
（A）自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結びつける視点を身につけている。
（S）自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結びつける視点を身につけ、それらを他者に伝えることできる。

その他

臨床宗教師資格取得を希望する者は必ず受講すること。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅳ）
学期	通年
単位数	2
担当者	川口道雄

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養を身につける。

テ ー マ：新たな課題に触れることで課題に関する自身の意識が変わる体験をする。

授業の概要

各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、学術大会や研修会、ボランティア活動などに３回または３ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを３つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート（2,000 ～ 3,200 字以内）にまとめる。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．事前学習①
3．事前学習②
4．現地実習①
5．現地実習②
6．現地実習③
7．現地実習④
8．実習中間報告会
9．現地実習⑤
10. 現地実習⑥
11. 現地実習⑦
12. 現地実習⑧
13. 実習の振り返り
14. 実習報告会①
15. 実習報告会②

テキスト

特に指定はしない。

参考書・参考資料等

適時紹介する。

学生に対する評価

レポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
（B）現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
（A）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
（S）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

その他

臨床実習Ⅳは３年次に履修すること。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅴ）
学期	通年
単位数	2
担当者	川口道雄

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養や態度を身につける。

テ ー マ：新たな課題に触れることで課題に関する自身の意識が変わる体験をする。

授業の概要

各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、研修会、学術大会、ボランティア活動などに３回または３ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを３つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート（2,000 ～ 3,200 字以内）にまとめる。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．事前学習①
3．事前学習②
4．現地実習①
5．現地実習②
6．現地実習③
7．現地実習④
8．実習中間報告会
9．現地実習⑤
10. 現地実習⑥
11. 現地実習⑦
12. 現地実習⑧
13. 実習の振り返り
14. 実習報告会①
15. 実習報告会②

テキスト

特に指定はしない。

参考書・参考資料等

適時紹介する。

学生に対する評価

レポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
（B）現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
（A）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
（S）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

その他

臨床実習Ⅴは４年次に履修すること。

科目名	サンスクリット語ⅠB
学期	通年
単位数	4
担当者	前谷彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：サンスクリット語とはどんな言語か。

テ ー マ：サンスクリット語を通して、仏教思想の根幹に迫る。

授業の概要

サンスクリット語とはどんな言語かを理解するために、その文法体系を学び、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を養う。

授業計画

1．オリエンテーション
2．音論を中心にした文法体系の理解を深める。①
3．音論を中心にした文法体系の理解を深める。②
4．音論を中心にした文法体系の理解を深める。③
5．音論を中心にした文法体系の理解を深める。④
6．音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑤
7．音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑥
8．短文読解力を身に着ける。①
9．短文読解力を身に着ける。②
10. 短文読解力を身に着ける。③
11. 短文読解力を身に着ける。④
12. 短文読解力を身に着ける。⑤
13. 原典翻訳①
14. 原典翻訳②
15. 原典翻訳③
16. 原典翻訳④
17. 原典翻訳⑤
18. 原典翻訳⑥
19. 原典翻訳⑦
20. 原典翻訳⑧
21. 原典翻訳⑨
22. 原典翻訳⑩
23. 原典翻訳⑪
24. 原典翻訳⑫
25. 原典翻訳⑬
26. 原典翻訳⑭
27. 原典翻訳⑮
28. 原典翻訳⑯
29. 原典翻訳⑰
30. 原典翻訳⑱

テキスト

担当者作成のテキストのコピーを配布する。

参考書・参考資料等

辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波全書）

学生に対する評価

学期末（前期・後期）の試験（80%）と、授業態度（20%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）Sandhi法則を理解し、結合文字を分解できること。
（B）音法則の理解を通して、語根を類推する能力を身に着けていること。語の音論を理解していること。
（A）簡単な短文を翻訳する能力を身に着けていること。
（S）難解な仏教外文献を翻訳できること。

その他

科目名	宗教思想史ⅠB
学期	後期
単位数	2
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教を含むインドの宗教思想を取り上げ、その歴史と特徴について基礎的な知識を養うと共に現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深める。

テ ー マ：インド宗教思想史

授業の概要

講義形式で授業を進める。インドは東洋における思想・宗教の一大発源地である。この授業では、まず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相を概観してゆく。

授業計画

1．インドが発する人類の思想的課題－M.K.ガンディーの思想を手懸かりに
2．インダス文明とアーリア人、ヴェーダの神々
3．ウパニシャッドの思想
4．ブッダの生涯とその教え（1）
5．ブッダの生涯とその教え（2）
6．ブッダの生涯とその教え（3）
7．仏教の発展：大乗仏教と密教
8．ヒンドゥー教の思想と文学（1）
9．ヒンドゥー教の思想と文学（2）
10．ヒンドゥー教の思想と文学（3）
11．ヒンドゥー教とイスラーム教
12．日本とインド
13．西洋とインドの出会い
14．タゴール、アンベードカルの思想
15．まとめ―M.K.ガンディーと非暴力

テキスト

『古代インドの思想―自然・文明・宗教』（山下博司著、筑摩書房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
（B）インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
（A）インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
（S）インド宗教思想史に関して独自の知見を述べることができる。

その他

・遅刻３回で１欠席に換算する。
・積極的な授業参加を期待する。

科目名	宗教思想史ⅡB
学期	前期
単位数	2
担当者	櫻木潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本人のメンタリティの変化をたどり、現在の日本人の心のあり様と未来への指針を模索する。

テ ー マ：日本人の宗教思想のあゆみをたどり、日本人の精神性をさぐる。

授業の概要

古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、その歴史的変遷を概観し、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、その精神性のルーツを探求する。

授業計画

1．ガイダンス（受講の心得など）
2．日本人の基層信仰－自然崇拝と八百万の神々－
3．仏教の伝来と受容－僧尼令にみる国家と仏教－
4．大仏造立と神仏習合－民衆への仏教のひろがり－
5．「平安仏教」の成立－「日本仏教」の成立－
6．来世への希求－末法の到来－
7．現世をどう生きるか－憂世の克服－
8．東山文化の世界－わび・さびの世界－
9．日本的伝統の源流－総合と啓蒙の時代－
10．浮世へのまなざし－儒学による社会秩序の構築－
11．日本古典への回帰－“復古”への潮流－
12．世直しの気運－民衆宗教の勃興－
13．廃仏毀釈と文化財保護－精神文化の喪失－
14．「総力戦体制」時代の宗教界－「国家神道」と宗教－
15．まとめ（レポート提出）

テキスト

テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

参考書・参考資料等

家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007年。初版1982年）
村井康彦『茶の文化史』（岩波新書〔黄版〕89、2011年。初版1979年）
田尻祐一郎『江戸の思想史　人物・方法・連環』（中公新書2097、2011年）
村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010年。初版1970年）
その他は、テーマごとに適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本人のメンタリティの歴史的変遷について説明することができる。
（B）日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。
（A）日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の諸課題について論理的に述べることができる。
（S）日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの課題について論理的に述べることができる。

その他

仏像や絵画などの美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物である。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけること。講義でも、博物館・美術館などの展覧会について紹介する。

科目名	中国文化講読演習B
学期	前期
単位数	2
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：漢籍を読むために必要な語彙・知識を修得し、専門的な論文や研究書などを読むための基礎力を養うことを到達目標とする。

テ ー マ：『新釈漢文大系』を読む。

授業の概要

『新釈漢文大系』の中から、受講生個々の興味に応じてテキストを決める（授業計画は例）。授業に際しては、活発に質問・議論をしてもらいたい。希望調査により、授業内容を変えることがある。

授業計画

1．ガイダンス（希望調査）
2．（例）『論語』の読解
3．（例）『大学』の読解
4．（例）『中庸』の読解
5．（例）『小学』の読解
6．（例）『孟子』の読解
7．（例）『荀子』の読解
8．（例）『老子』の読解
9．（例）『荘子』の読解
10．（例）『古文真宝』の読解
11．（例）『韓非子』の読解
12．（例）『伝習録』の読解
13．（例）『文選』の読解
14．（例）『文章軌範』の読解
15．（例）『易経』の読解

テキスト

『新釈漢文大系』（明治書院）のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

『新字源』『大漢和辞典』『中国学芸大事典』など。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）未知の語彙に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解できる。
（S）テキストから問題点を抽出できる。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

大　学　院

◆目次について

この『平成 31 年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学科のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門	乾　　龍　仁	2	1 年次	−		1

開講学期
曜日
時間

講義コード

授業科目名

担当教員名

単位数

シラバス
ページ番号

◆講義コードについて

講義コードは 5 ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

課程
3 = 文学部 1 回生用
4 = 文学部 2 ～ 4 回生用
5 = 文学部共通
8 = 別科生用
9 = 大学院生用

曜日
1 = 月曜日
2 = 火曜日
3 = 水曜日
4 = 木曜日
5 = 金曜日
6 = 土曜日
7 = 集中講義
8 = 実習
9 = 論文

時限
1 = 1 講時
2 = 2 講時
3 = 3 講時
4 = 4 講時
5 = 5 講時

通し番号
01 ～ 49 = 前期授業
および通年授業
51 ～ 99 = 後期授業

◆受講登録について

1　受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、**4月8日（月）から4月12日（金）午後5時まで**に教務課へ提出してください。

2　履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。

①　学籍番号（※ 身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。

②　履修登録欄には、今年度に受講するすべての授業科目を、『平成31年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。

3　履修登録票を教務課へ提出した学生は、**4月19日（金）から4月26日（金）午後5時まで**に、教務課で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、教務課へ提出してください。

4　最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。

5　履修を取り消したい科目がある場合は、前期は5月31日（金）まで、後期は11月1日（金）まで受け付けますので教務課に申し出てください。（※ ただし、導入研修、英語Ⅰ・Ⅱは履修取り消しができません。）

6　後期（9月23日開講）授業科目の追加及び登録変更は、**9月23日（火）から9月27日（金）午後5時まで**の後期履修登録変更期間に、教務課へ申し出てください。ただし、通年科目の追加･変更･取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第3回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。

それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」(999)になりますので留意してください。

◆報恩日（21日）の授業実施について

報恩日（21日）は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

◆ＧＰＡについて

１　ＧＰＡとは

ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のＧＰ（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

２　目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを目的としています。

３　対象

平成31年度入学生から対象となります。

４　ＧＰＡの計算方法

履修登録した各科目の成績（ＧＰ）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第３位は四捨五入。

合　否	評　点	評語	ＧＰ	判　定　基　準
合　格	90点以上	S	4	特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	優れた成績である
	79点～70点	B	2	妥当と認められる成績である
	69点～60点	C	1	合格と認められる最低限の成績である
不合格	59点以下	D	0	合格と認められない成績である
失　格	999点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認　定	888点	N	対象外	編入等で単位を認定した

計算式

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録した科目のＧＰ×その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

５　ＧＰＡに参入されない科目

他大学で取得し、本学にて認定された「Ｎ」評価の科目。

６　履修取り消し

前期は５月31日（金）まで、後期は11月１日（金）までと履修取り消し期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、ＧＰＡ算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目（導入研修・英語Ⅰ・Ⅱ）もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

1．文学研究科修士課程（修了要件：30 単位）

［密教学専攻　博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース］

1）基礎科目

学期	曜日	時限	コード	授　業　科　目	担当者	単位	備　考	頁
前期	月	2	91201	密教学講義（大）	佐藤隆彦	2	8 単位を超えて修了要件に参入できない。	院 -1
前期	水	1	93101	仏教学講義（大）	前谷彰	2		院 -1
前期	月	3	91301	インド学講義（大）	奥山直司	2		院 -1
前期	月	4	91401	祖典演習（大）	佐藤隆彦	2		院 -1

2）主要科目

学期	曜日	時限	コード	授　業　科　目	担当者	単位	備　考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究Ａ（大）	Ｔ.ドライトライン	2	主要科目 12 単位必修	院 -2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究Ｂ（大）	Ｔ.ドライトライン	2		院 -2
前期	火	3	92301	密教史特殊研究Ａ（大）	土居夏樹	2		院 -2
前期	木	3	94301	密教史特殊研究Ｂ（大）	坂口太郎	2		院 -2
後期	木	3	94351	密教史特殊研究Ｃ（大）	坂口太郎	2		院 -3
前期	水	1	93102	密教学演習１（大）	南昌宏	2		院 -3
後期	水	1	93152	密教学演習２（大）	南昌宏	2		院 -3
後期	月	3	91351	密教史演習（大）	奥山直司	2		院 -3
後期	月	4	91451	密教学講読（大）	佐藤隆彦	2		院 -4
後期	月	2	91251	密教史講読（大）	松長恵史	2		院 -4
前期	木	2	94202	現代社会と宗教（大）	森崎雅好	2	社会人コースは４単位必修	院 -8
後期	火	3	92351	密教と文化（大）	土居夏樹	2		院 -4
前期	金	2	95201	事相研究Ⅰ－１（大）	Ｔ.ドライトライン	2	僧侶コースは４単位必修	院 -5
後期	金	2	95251	事相研究Ⅰ－２（大）	Ｔ.ドライトライン	2		院 -5
前期	木	1	94102	事相研究Ⅱ－１（大）	Ｔ.ドライトライン	2		院 -5
後期	木	1	94152	事相研究Ⅱ－２（大）	Ｔ.ドライトライン	2		院 -5

3）関連科目

学期	曜日	時限	コード	授　業　科　目	担当者	単位	備　考	頁
前期	火	2	92201	仏教学特殊研究（大）	前谷彰	2		院 -6
後期	木	1	94151	仏教史特殊研究（大）	櫻木潤	2		院 -6
前期	水	2	93201	仏教学演習（大）1	前谷彰	2		院 -6
後期	水	2	93251	仏教学演習（大）2	前谷彰	2		院 -6
前期	木	1	94101	仏教史演習（大）	櫻木潤	2		院 -6
後期	水	1	93151	仏教学講読（大）	浜畑圭吾	2		院 -7
前期	月	5	91501	仏教史講読（大）	浜畑圭吾	2		院 -7

4）共通科目

学期	曜日	時限	コード	授　業　科　目	担当者	単位	備　考	頁
後期	水	2	93252	アジア地域の宗教文化の研究（大）	南昌宏	2		院 -7
後期	木	4	94451	比較宗教の研究（大）	森本一彦	2		院 -7
後期	木	2	94252	現代社会と仏教の研究（大）	森崎雅好	2		院 -8
後期	木	1	94153	教育学特殊研究（大）	山脇雅夫	2		院 -8
通年	－	－	99001	修士論文（密教学）	大学院委員長	0		－
前期	－	－	99003	修士論文（密教学）（前期）	大学院委員長	0	７月提出許可者	－

2．文学研究科修士課程（修了要件：30 単位）

［仏教学専攻　博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース］

1）基礎科目

学期	曜日	時限	コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	月	2	91201	密教学講義（大）	佐藤隆彦	2	８単位を超えて修了要件に参入できない。	院 -1
前期	水	1	93101	仏教学講義（大）	前谷彰	2		院 -1
前期	月	3	91301	インド学講義（大）	奥山直司	2		院 -1
前期	月	4	91401	祖典演習（大）	佐藤隆彦	2		院 -1

2）主要科目

学期	曜日	時限	コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	2	92201	仏教学特殊研究（大）	前谷彰	2	主要科目12単位必修	院 -6
後期	木	1	94151	仏教史特殊研究（大）	櫻木潤	2		院 -6
前期	水	2	93201	仏教学演習（大）１	前谷彰	2		院 -6
後期	水	2	93251	仏教学演習（大）２	前谷彰	2		院 -6
前期	木	1	94101	仏教史演習（大）	櫻木潤	2		院 -6
後期	水	1	93151	仏教学講読（大）	浜畑圭吾	2		院 -7
前期	月	5	91501	仏教史講読（大）	浜畑圭吾	2		院 -7
前期	木	2	94202	現代社会と宗教（大）	森崎雅好	2	社会人コースは４単位必修	院 -4
後期	火	3	92352	仏教と文化（大）	土居夏樹	2		院 -4
前期	金	2	95201	事相研究Ⅰ－１（大）	T.ドライトライン	2	僧侶コースは４単位必修	院 -5
後期	金	2	95251	事相研究Ⅰ－２（大）	T.ドライトライン	2		院 -5
前期	木	1	94102	事相研究Ⅱ－１（大）	T.ドライトライン	2		院 -5
後期	木	1	94152	事相研究Ⅱ－２（大）	T.ドライトライン	2		院 -5

3）関連科目

学期	曜日	時限	コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究Ａ（大）	T.ドライトライン	2		院 -2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究Ｂ（大）	T.ドライトライン	2		院 -2
前期	火	3	92301	密教史特殊研究Ａ（大）	土居夏樹	2		院 -2
前期	木	3	94301	密教史特殊研究Ｂ（大）	坂口太郎	2		院 -2
後期	木	3	94351	密教史特殊研究Ｃ（大）	坂口太郎	2		院 -3
前期	水	1	93102	密教学演習１（大）	南昌宏	2		院 -3
後期	水	1	93152	密教学演習２（大）	南昌宏	2		院 -3
後期	月	3	91351	密教史演習（大）	奥山直司	2		院 -3
後期	月	4	91451	密教学講読（大）	佐藤隆彦	2		院 -4
後期	月	2	91251	密教史講読（大）	松長恵史	2		院 -4

4）共通科目

学期	曜日	時限	コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
後期	水	2	93252	アジア地域の宗教文化の研究（大）	南昌宏	2		院 -7
後期	木	4	94451	比較宗教の研究（大）	森本一彦	2		院 -7
後期	木	2	94252	現代社会と仏教の研究（大）	森崎雅好	2		院 -8
後期	木	1	94153	教育学特殊研究（大）	山脇雅夫	2		院 -8
通年	－	－	99002	修士論文（仏教学）	大学院委員長	0		－
前期	－	－	99004	修士論文（仏教学）（前期）	大学院委員長	0	７月提出許可者	－

3．文学研究科博士後期課程（修了要件：12 単位）

［密教学専攻］

学期	曜日	時限	コード	授　業　科　目	担当者	単位	備　考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究Ａ（大）	Ｔ.ドライトライン	2	※密教特殊演習4単位を含め、12単位以上を履修しなければならない。（複数回履修可）	院 -2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究Ｂ（大）	Ｔ.ドライトライン	2		院 -2
前期	火	3	92301	密教史特殊研究Ａ（大）	土居夏樹	2		院 -2
前期	木	3	94301	密教史特殊研究Ｂ（大）	坂口太郎	2		院 -2
後期	木	3	94351	密教史特殊研究Ｃ（大）	坂口太郎	2		院 -3
前期	水	1	93102	密教学演習１（大）	南昌宏	2		院 -3
後期	水	1	93152	密教学演習２（大）	南昌宏	2		院 -3
後期	月	3	91351	密教史演習（大）	奥山直司	2		院 -3
後期	月	4	91451	密教学講読（大）	佐藤隆彦	2		院 -4
後期	月	2	91251	密教史講読（大）	松長恵史	2		院 -4
前期	木	3	94302	密教特殊演習Ａ－１（大）	佐藤隆彦	2		－
後期	木	3	94352	密教特殊演習Ａ－２（大）	佐藤隆彦	2		－
前期	金	3	95301	密教特殊演習Ｂ－１（大）	奥山直司	2		－
後期	金	3	95351	密教特殊演習Ｂ－２（大）	奥山直司	2		－

［仏教学専攻］

学期	曜日	時限	コード	授　業　科　目	担当者	単位	備　考	頁
前期	火	2	92201	仏教学特殊研究（大）	前谷彰	2	※仏教特殊演習4単位を含め、12単位以上を履修しなければならない。（複数回履修可）	院 -6
後期	木	1	94151	仏教史特殊研究（大）	櫻木潤	2		院 -6
前期	水	2	93201	仏教学演習（大）１	前谷彰	2		院 -6
後期	水	2	93251	仏教学演習（大）２	前谷彰	2		院 -6
前期	木	1	94101	仏教史演習（大）	櫻木潤	2		院 -6
後期	水	1	93151	仏教学講読（大）	浜畑圭吾	2		院 -7
前期	月	5	91501	仏教史講読（大）	浜畑圭吾	2		院 -7
前期	火	1	92101	仏教特殊演習１（大）	前谷彰	2		－
後期	火	1	92151	仏教特殊演習２（大）	前谷彰	2		－

講　義　概　要

・

授　業　計　画

科目名	密教学講義（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。
テ ー マ：密教の基礎知識を養成する。

授業の概要

インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は９世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観する。

授業計画

1．講義内容の説明
2．真言密教の仏陀観：①釈迦如来から大日如来へ
3．真言密教の仏陀観：②大日如来と四仏（五仏）・密教の仏身観
4．真言密教の仏陀観：③様々な信仰の対象、密教の祖師
5．曼荼羅：①両部曼荼羅の成立
6．曼荼羅：②四種曼荼羅とは
7．真言密教の人間観：①空海と心の本性の探求
8．真言密教の人間観：②心性本浄思想の源流
9．即身成仏への道：①密教の三昧耶戒、②四重禁戒と十善戒
10．即身成仏への道：③浄菩提心と観法
11．即身成仏思想：①六大・四曼・三密１
12．即身成仏思想：①六大・四曼・三密２
13．即身成仏思想：②即身の意味と三種即身成仏
14．密教の特性
15．試験
16．試験の解答と確認

テキスト

高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

参考書・参考資料等

松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店
勝又俊教著『密教入門』春秋社
金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫
佐和隆研編『密教辞典』法藏館
中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店

学生に対する評価

試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の基本的な用語を理解している。
（B）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる
（A）配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる
（S）配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を独自の視点で説明できる。

その他

講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。
授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートすること。

科目名	仏教学講義（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	前谷彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教の基礎知識についての確認作業を行い、仏教の思想が将来的にどのように生かし得るかについて、それぞれの認識を深めてもらう。
テ ー マ：仏教とは何か

授業の概要

仏教とは何かについての基本的疑問を提示することによって、仏教が初期・大乗・密教と歴史的に展開してきた足跡を追うことによって、仏教の何たるかについての基本的問題に焦迫する。

授業計画

1．オリエンテーション
2．初期仏教の基礎知識の確認（1）
3．初期仏教の基礎知識の確認（2）
4．アビダルマの基礎知識の確認
5．大乗仏教の起源について（1）
6．大乗仏教の起源について（2）
7．大乗とは何か（1）
8．大乗とは何か（2）
9．密教とは何か（1）
10．密教とは何か（2）
11．初期仏教思想を現代にどのように生かすか
12．大乗・密教を現代にどのように生かすか
13．現代への応用とその方法論的疑問（1）
14．現代への応用とその方法論的疑問（2）
15．現代への応用とその方法論的疑問（3）
16．総まとめ

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

佐々木閑『科学するブッダ: 犀の角たち』（角川ソフィア文庫）
佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか: アビダルマ仏教の科学的世界観』（DOJIN選書）

学生に対する評価

授業時に指示する課題をどれだけこなしているか（50%）、学期末のレポート（50%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。

科目名	インド学講義（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：インド・チベット密教史に関する基礎的な知識を身につける。
テ ー マ：インド・チベット密教史

授業の概要

インド密教がどのようにして形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点について映像資料などをまじえながら立体的に講義する。

授業計画

1．イントロダクション
2．インド・チベット仏教における密教経典分類法
3．インド初期密教 萌芽から形成へ
4．インド中期密教 組織化の時代１
5．インド中期密教 組織化の時代２
6．インド後期密教 新たな展開１
7．インド後期密教 新たな展開２
8．古代チベット王国と仏教の伝来
9．仏教国教化への道のり
10．古代チベット王国の崩壊と仏教の復興
11．諸宗派の形成１
12．諸宗派の形成２
13．ゲルク派の覇権
14．ダライ・ラマ法王とは何か
15．筆記試験
16．まとめ

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

松長有慶『密教の歴史』平楽寺書店
奥山直司『チベット［マンダラの国］』小学館

学生に対する評価

課題レポート（20%）、期末試験（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教、大乗仏教、密教、上座部仏教の関係が説明できる。
（B）インド・チベット仏教における密教経典分類法が説明できる。
（A）チベット仏教の四大宗派の特徴が説明できる。
（S）インド・チベット密教史の流れが概括的に説明できる。

その他

遅刻３回で１欠席と見なす。

科目名	祖典演習（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『吽字義』の総合的理解
テ ー マ：密教実践の教理的解釈

授業の概要

『吽字義』は『即身義』『声字義』とあわせて三部書といわれる。ところが、内容的には密教の実践法とも密接なかかわりが想定される。そこで、『吽字義』と密教実践について着目してみたい。特に密教教理と密教実践との接点を『吽字義』に探り、多角的総合的に理解を深めたい。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『吽字義』の成立背景
3．『吽字義』の綱領
4．『吽字義』の講読
5．『吽字義』の講読
6．『吽字義』の講読
7．『吽字義』の講読
8．『吽字義』の講読
9．『吽字義』と『阿字観用心口訣』
10．『吽字義』と『阿字観用心口訣』
11．『吽字義』と『秘蔵記』
12．『吽字義』と『秘蔵記』
13．『吽字義』と字輪観
14．『吽字義』と字輪観
15．総復習とレポート提出
16．総括

テキスト

『十巻章』高野山大学出版

参考書・参考資料等

小田慈舟著『十巻章講説』高野山出版社など

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）・試験（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる
（B）原典の基本的な内容を理解できる
（A）原典の基本的な内容を注釈書に沿って理解できる
（S）原典の内容を批判的に検討できる

その他

科目名	密教学特殊研究A（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教観法の理解
テ ー マ：月輪観と阿字観の理論と実習（初級）

授業の概要

密教に伝わる瞑想の初級編。密教の代表的な観法の月輪観の理論を解説するとともに実習をおこないながら、秘密儀軌のなかの月輪観の典拠の一つである『無畏三蔵禅要』を講読する。阿字観の基本を『阿字観用心口決』から学ぶ。観法の前行として数息観と阿息観の実習もおこなう。理論だけでなく瞑想の実習を授業に取り入れる。

授業計画

1．顕教と密教における瞑想：目的と種類
2．数息観の理論と実習１
3．数息観の理論と実習２
4．月輪観の理論
5．『無畏三蔵禅要』１
6．『無畏三蔵禅要』２
7．『無畏三蔵禅要』３
8．『無畏三蔵禅要』４と月輪観の実習
9．『無畏三蔵禅要』５と月輪観の実習
10．『無畏三蔵禅要』６と月輪観の実習
11．『阿字観用心口決』１
12．『阿字観用心口決』２
13．『阿字観用心口決』３
14．『阿字観用心口決』４と阿字観の実習
15．『阿字観用心口決』５と阿字観の実習
16．『阿字観用心口決』６と阿字観の実習

テキスト

『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』のコピーを配布

参考書・参考資料等

北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明できる。
（B）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』の要点を説明できる。
（A）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』の全文を読むことができる。
（S）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』の全文を読むことができ、密教観法の思想的背景について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
プログラムは改訂される場合がある。
瞑想の実践を毎回行うので、僧侶でない受講者は座りやすい服装で受講すること。
僧侶の受講者は黒衣に如法依で受講する。
その他のことは講師と相談すること。

科目名	密教学特殊研究B（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教観法の理解
テ ー マ：阿字観の理論と実習の深み（中級）

授業の概要

密教瞑想の中級編。前期の数息観・月輪観・阿字観の実習と理論を踏まえて、さらに深く阿字観について学んでいくため、頼瑜の『阿字秘釈』を講読する。理論だけでなく阿字観の実践を前期に続けておこなう。

授業計画

1．数息観・月輪観・阿字観について
2．『阿字秘釈』１と阿字観の実習
3．同上２
4．同上３
5．同上４
6．同上５
7．同上６
8．同上７
9．同上８
10．同上９
11．同上10
12．同上11
13．同上12
14．同上13
15．同上14
16．同上15

テキスト

『阿字秘釈』の刊本のコピーを配布

参考書・参考資料等

北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明できる。
（B）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の要点を説明できる。
（A）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の全文を読むことができる。
（S）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の全文を読むことができ、密教観法の思想的背景について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
プログラムは改訂される場合がある。
瞑想の実践を毎回行うので、僧侶でない受講者は座りやすい服装で受講すること。
僧侶の受講者は黒衣に如法依で受講する。
その他のことは講師と相談すること。

科目名	密教史特殊研究A（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山上における教学史を通して、弘法大師の思想が後世どのように問題となり、どのように解釈されてきたのかについて理解する力を身につける。
テ ー マ：高野山教学史の研究

授業の概要

高野山上に今日も続く宝門・壽門という２大学派の内、宝門の論義書である『宗義決択集』を取り上げ、それぞれの内容を通して高野山独自の学派である宝壽二門の教理を踏まえつつ、弘法大師の思想がどのように理解されてきたのかについて講義する。

授業計画

第１回　概論(講義の進め方等)
第２回　『宗義決択集』について①－論義について－
第３回　『宗義決択集』について②－宝門と壽門－
第４回　『宗義決択集』について③－内容と構成－
第５回　一乗経劫 －即身成仏は“密教”だけの教えか？－①即身成仏をめぐる問題
第６回　一乗経劫 －即身成仏は“密教”だけの教えか？－②華天二宗の成仏論
第７回　一乗経劫 －即身成仏は“密教”だけの教えか？－③即事而真
第８回　六大四曼互能生 －六大所生・四曼能生はあり得るか？－①六大と四曼
第９回　六大四曼互能生 －六大所生・四曼能生はあり得るか？－②壽門の場合
第10回　六大四曼互能生 －六大所生・四曼能生はあり得るか？－③『大日経』の教主
第11回　理法身説法 －真理そのものは説法するのか？－①理法身と智法身
第12回　理法身説法 －真理そのものは説法するのか？－②『大日経』の教主再論
第13回　理法身説法 －真理そのものは説法するのか？－③真理は一か多か？
第14回　理法身説法 －真理そのものは説法するのか？－④宝門と壽門の教学
第15回　講義のまとめ
定期試験

テキスト

・『宗義決択集』、『真言宗全書』巻19、続真言主全書刊行会
※授業中にコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・小田慈舟訳『宗義決択集』、『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社
※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（60%）、授業内での発表（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）論義の内容を正確に理解できる。
（B）論義の内容を正確に理解し、語注を施すことができる。
（A）論義の内容を正確に理解し、現代語に翻訳することができる。
（S）論義の内容を正確に理解し、その内容についての自分の考えを論理的な文章で論じることができる。

その他

・取り上げる論義については、受講生と話し合い、希望等によって変更する場合もある。
・担当者を決めて、該当論義についての語注・現代語訳を発表してもらう。
・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。
・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。
・授業実数の３分の１を超えて欠席した者は失格とする。
・遅刻／早退については２分の１欠席と見なす。

科目名	密教史特殊研究B（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：日本史や日本文化の研究に取り組む上で必要な研究法について見識を深め、文献学的な実力を養う。
テ ー マ：「日本中世史料の再検討－文献学的方法を通して－」

授業の概要

本講義では、日本中世の史料を素材として、研究史整理、本文校訂、史料批判の能力を練磨する。とくに、講義担当者の研究成果を踏まえ、慈円『愚管抄』、『吉田定房奏状』について取り上げる。

授業計画

1．ガイダンス
2．『愚管抄』をめぐる諸問題①
3．『愚管抄』をめぐる諸問題②
4．『愚管抄』をめぐる諸問題③
5．『愚管抄』をめぐる諸問題④
6．『愚管抄』をめぐる諸問題⑤
7．『愚管抄』をめぐる諸問題⑥
8．『愚管抄』をめぐる諸問題⑦
9．『愚管抄』をめぐる諸問題⑧
10．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題①
11．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題②
12．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題③
13．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題④
14．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題⑤
15．『吉田定房奏状』をめぐる諸問題⑥
16．総括
※内容は進度によって変わる場合がある。

テキスト

岡見正雄・赤松俊秀校注『日本古典文学大系 86 愚管抄』（岩波書店、1967年）
※品切だが、古書で入手できるので、必ず購入すること。購入方法は、ガイダンスで教える。
また、プリントを配布し、これにもとづいて講義を進めるほか、受講生が作製する報告資料もテキストとなる。

参考書・参考資料等

塩見薫「『愚管抄』雑記」（『寧楽史苑』第3号、1956年）
塩見薫「愚管抄のカナ（仮名）について」（『史林』第43巻第2号、1960年）
坂口太郎「『愚管抄』校訂私考」（『古代文化』第68巻第2号、2016年）
坂口太郎『校本 吉田定房奏状』（私家版、2018年）
村井章介「吉田定房奏状はいつ書かれたか」（『中世の国家と在地社会』校倉書房、2005年）

学生に対する評価

レポート（50%）、講義中での報告（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『愚管抄』、『吉田定房奏状』に関する基礎的事項を理解している。
（B）『愚管抄』、『吉田定房奏状』の文献的特徴について、講義の内容を踏まえて説明できる。
（A）『愚管抄』、『吉田定房奏状』について、講義内容を踏まえて本文校訂を行なうことができる。
（S）『愚管抄』、『吉田定房奏状』の本文校訂について、独創的な指摘を行なうことができる。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。
本講義の内容は多岐にわたる上、大学院生も履修するので、水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。受講生には報告義務を課すので、参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	密教史特殊研究C（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	坂口太郎

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：鎌倉後期の政治史を、真言密教との関係から捉え直す。
中世における院・天皇の宗教的側面を通して、天皇制の歴史的展開を考える。
テ ー マ：「鎌倉後期の王権と真言密教」

授業の概要
本講義では、鎌倉後期の王権について政治史と仏教史の両面から考察する。とくに、近年の研究成果を踏まえつつ、後宇多院・後醍醐天皇について担当者の最新の知見を紹介していきたい。

授業計画
1．網野善彦「異形の王権」をめぐって（1）
2．網野善彦「異形の王権」をめぐって（2）
3．鎌倉後期の政局（1）－両統分立と鎌倉幕府－
4．鎌倉後期の政局（2）－両統の対立と「一代の主」－
5．鎌倉後期の政局（3）－後醍醐天皇の登場と鎌倉幕府滅亡－
6．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（1）
7．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（2）
8．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（3）
9．後醍醐天皇の寺社重宝蒐集（1）
10．後醍醐天皇の寺社重宝蒐集（2）
11．後醍醐天皇の如意宝珠造作（1）
12．後醍醐天皇の如意宝珠造作（2）
13．鎌倉後期宮廷の密教儀礼と王家重宝（1）
14．鎌倉後期宮廷の密教儀礼と王家重宝（2）
15．まとめ
16．レポート講評
※内容は進度によって変わる場合がある。

テキスト
プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等
網野善彦「異形の王権」（『網野善彦著作集６転換期としての鎌倉末・南北朝期』 岩波書店、2007年）
『網野善彦著作集５蒙古襲来』岩波書店、2008年）
村井章介編『日本の時代史 10 南北朝の動乱』（吉川弘文館、2003年）
阿部泰郎「宝珠と王権」（長尾雅人ほか編『岩波講座 東洋思想16 日本思想2』 岩波書店、1989年）

学生に対する評価
レポート（100％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）鎌倉後期の王権と真言密教に関する基礎的事項を理解している。
（B）鎌倉後期の王権と真言密教について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
（A）鎌倉後期の王権と真言密教について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
（S）本講義の内容を踏まえて、中世の真言密教について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

その他
講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。
本講義は、日本史に関する基礎的知識を習得していることを前提として進めるので、受講者は注意すること（できれば、企画科目の「歴史学Ⅰ・Ⅱ」などを履修していることが望ましい）。また、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	密教学演習1（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な読解力・調査能力を養い、論文執筆に際しての形式などを修得し、文献を批判的に読む訓練をする。
テ ー マ：熊沢蕃山の思想。

授業の概要
受講者は、授業に際して、文献の翻訳、語彙の解説などを作成し、必要に応じて、補助的な資料を準備しなければならない。受講生相互の質疑によって、理解を深める。受講生には、資料作成による発表を必須とする。

授業計画
1．ガイダンス
2．（例）『孝経小解』講読
3．（例）『孝経小解』講読
4．（例）『孝経小解』講読
5．（例）『孝経小解』講読
6．（例）『孝経小解』講読
7．（例）『孝経小解』講読
8．（例）『孝経小解』講読
9．（例）『孝経小解』講読
10．（例）『孝経小解』講読
11．（例）『孝経小解』講読
12．（例）『孝経小解』講読
13．（例）『孝経小解』講読
14．（例）『孝経小解』講読
15．（例）『孝経小解』講読

テキスト
授業計画は例であり、受講生が希望・持参したものを読む。

参考書・参考資料等
『密教大辞典』『仏教語大辞典』『大漢和辞典』『国史大辞典』など。

学生に対する評価
発表 50％。発表回数最多の者を 50 点とし、回数に応じて比例配点する。レポート 50％。授業中に発言がない者は欠席とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）テキストを音読できる。未知の語彙に気付く。発表の資料を作成できる。
（B）テキストの内容を理解できる。未知の語彙を説明できる。発表資料を用いて上手く説明できる。
（A）テキストを研究対象にできる。未知の語彙の背景まで理解できる。発表資料に研究の萌芽が窺える。
（S）テキストを研究対象として、論文を作成する能力が十分にある。

その他
授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。

科目名	密教学演習2（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な読解力・調査能力を養い、論文執筆に際しての形式などを修得し、文献を批判的に読む訓練をする。
テ ー マ：熊沢蕃山の思想。

授業の概要
受講者は、授業に際して、文献の翻訳、語彙の解説などを作成し、必要に応じて、補助的な資料を準備しなければならない。受講生相互の質疑によって、理解を深める。受講生には、資料作成による発表を必須とする。

授業計画
1．ガイダンス
2．（例）『孝経小解』講読
3．（例）『孝経小解』講読
4．（例）『孝経小解』講読
5．（例）『孝経小解』講読
6．（例）『孝経小解』講読
7．（例）『孝経小解』講読
8．（例）『孝経小解』講読
9．（例）『孝経小解』講読
10．（例）『孝経小解』講読
11．（例）『孝経小解』講読
12．（例）『孝経小解』講読
13．（例）『孝経小解』講読
14．（例）『孝経小解』講読
15．（例）『孝経小解』講読

テキスト
授業計画は例であり、受講生が希望・持参したものを読む。

参考書・参考資料等
『密教大辞典』『仏教語大辞典』『大漢和辞典』『国史大辞典』など。

学生に対する評価
発表 50％。発表回数最多の者を 50 点とし、回数に応じて比例配点する。レポート 50％。授業中に発言がない者は欠席とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）テキストを音読できる。未知の語彙に気付く。発表の資料を作成できる。
（B）テキストの内容を理解できる。未知の語彙を説明できる。発表資料を用いて上手く説明できる。
（A）テキストを研究対象にできる。未知の語彙の背景まで理解できる。発表資料に研究の萌芽が窺える。
（S）テキストを研究対象として、論文を作成する能力が十分にある。

その他
授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。

科目名	密教史演習（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	奥山直司

授業の到達目標及びテーマ
到達目標：明治・大正期の真言宗を中心とする海外進出の動きとその意義とを理解すること。
テ ー マ：明治印度留学生の研究

授業の概要
明治維新以降、日本仏教界に起こった新たな動きの一つに仏教徒による海外進出がある。西洋への調査団・留学生の派遣とならんで顕著なのが、釈尊の故地として改めて注目されるようになったセイロン・インドへの求法渡航の動きである。わが国最初の印度留学生は真言宗の釈興然であった。以後、各宗派の僧侶が続々と南アジアに渡航するが、なかでも多数を占めたのは真言僧であった。本講義では、彼らの動向を一次資料等に基づいて詳細に跡付けると共に、その意義について考察を加える。

授業計画
1．ガイダンス
2．釈興然のセイロン留学の軌跡（1）
3．釈興然のセイロン留学の軌跡（2）
4．釈興然のセイロン留学の軌跡（3）
5．釈宗演の来島（1）
6．釈宗演の来島（2）
7．真宗僧侶たちの動向（1）
8．真宗僧侶たちの動向（2）
9．真宗僧侶たちの動向（3）
10．小泉了諦と善連法彦のトルコ・欧州行（1）
11．小泉了諦と善連法彦のトルコ・欧州行（2）
12．小泉了諦と善連法彦のトルコ・欧州行（3）
13．ブッダガヤー回復運動の始まり（1）
14．ブッダガヤー回復運動の始まり（2）
15．まとめ

テキスト
教室で配布する。

参考書・参考資料等
教室で指示、配布する。

学生に対する評価
期末レポート（60％）、授業参加状況（40％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）一次資料を正確に読み解くことができる。
（B）一次資料その他を用いて、出来事を立体的に再現できる。
（A）一次資料その他を用いて、印度留学生たちの思想と行動の意義を明らかにできる。
（S）彼らの思想と行動に学んで、これからの仏教界に提言することができる。

その他

科目名	密教学講読（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『菩提心論』の講読を通して密教瞑想法の理解を深めることを目的とする。

テ ー マ：『菩提心論』の研究。

授業の概要

『菩提心論』は勝義、行願、三摩地の三種心を説く。このうち、三摩地段は古来不読段に触れる場合が少なくない。そこで今回は、『菩提心論』の三摩地段に着目して講義を進める。『菩提心論』の講読を通して密教の構造を解明する端緒としたい。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『菩提心論』梗概
3．『菩提心論』梗概
4．『菩提心論』梗概
5．『菩提心論』「菩提心の概説」①
6．『菩提心論』「大悲行願心について」②
7．『菩提心論』「大悲行願心について」③
8．『菩提心論』「大智勝義心について」④
9．『菩提心論』「大智勝義心について」⑤
10．『菩提心論』「大智勝義心について」⑥
11．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑦
12．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑧
13．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑨
14．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑩
15．三種心の総復習とレポート提出
16．総括

テキスト

高野山大学編『十巻章』高野山出版

参考書・参考資料等

吉祥真雄著『菩提心論講説』藤井佐兵衛
小田慈舟著『十巻章講説』高野山出版社
田中千秋著『田中千秋著作講話集』高野山出版社
生井智紹編『密教　自心の探求『菩提心論』を読む』大法輪閣

学生に対する評価

授業参加への積極性（40%）　レポート（60%）とし評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる
（B）原典の基本的な内容を理解できる
（A）原典の基本的な内容を注釈書に沿って理解できる
（S）原典の内容を批判的に検討できる

その他

科目名	密教史講読（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	松長恵史

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高める。

テ ー マ：『秘密漫荼羅教付法傳』を読む。

授業の概要

『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深めることを目的とする。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。

授業計画

1．ガイダンス
2．付法傳の歴史的背景
3．『広付法傳』講読１　因起感通分第一　叙意
4．『広付法傳』講読２　叙意
5．『広付法傳』講読３　第一祖大日如来　金剛薩埵
6．『広付法傳』講読４　龍猛①
7．『広付法傳』講読５　龍猛②
8．『広付法傳』講読６　龍智
9．『広付法傳』講読７　金剛智①
10．『広付法傳』講読８　金剛智②
11．『広付法傳』講読９　金剛智③
12．『広付法傳』講読 10　金剛智④
13．『広付法傳』講読 11　金剛智⑤
14．『広付法傳』講読 12　金剛智⑥
15．『広付法傳』講読 13　金剛智⑦
16．まとめ

テキスト

「定本弘法大師全集」第一巻

参考書・参考資料等

『密教』中央文庫　松長有慶
『弘法大師空海全集』第二巻　筑摩書房

学生に対する評価

予習状況（50%）、授業参加状況（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）付法傳を正確に読むことができる。
（B）付法傳の内容を理解できる。
（A）付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
（S）密教付法に関して体系的に理解できる。

その他

十分に予習して授業に臨んでもらいたい。

科目名	現代社会と宗教（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解する。

テ ー マ：悲嘆に関する心理的支援の在り方について学ぶ

授業の概要

グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業計画

1．悲嘆の定義・理論
2．悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3．犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4．犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5．虐めと虐待①（虐め体験について）
6．虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7．難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8．難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9．ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10．ホスピス･緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11．自死遺族支援①（遺族の心理）
12．自死遺族支援②（サポートグループについて）
13．災害時支援①（災害による喪失体験）
14．災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15．まとめ

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門―死別の悲しみを学ぶ』昭和堂，2010 年
その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

その他

科目名	密教と文化（大） 仏教と文化（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	土居夏樹

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教思想における死生観の変遷を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解する。

テ ー マ：弘法大師の教学における死生観

授業の概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教思想における死生観を前提に、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように捉えられ得るのかについて考える。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．凡夫の生死①－苦としての生死－
3．　〃　②－五蘊と無我－
4．　〃　③－十二因縁 －
5．　〃　④－輪廻の世界－
6．仏陀観の変遷①－釈尊の生涯－
7．　〃　②－変容する釈尊－
8．　〃　③－仏陀の出現－
9．即身成仏の思想①－六大と人間－
10．　〃　②－真理の表現－
11．　〃　③－心とマンダラ－
12．生死の意味①－字相と字義－
13．　〃　②－縁起生から本不生へ－
14．　〃　③－真に帰す－
15．期末テスト
16．まとめ

テキスト

プリントを授業中に配布する。
※ 授業中にコピーを配布する

参考書・参考資料等

・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。
※ その他、授業において指示する。

学生に対する評価

期末試験（60%）、授業内での質疑応答（30%）、発表（20%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教用語の基礎知識を身に付けている。
（B）仏陀観の変遷について基本的な説明ができる。
（A）大乗仏教と密教の関係について基本的な説明ができる。
（S）弘法大師警覚における死生観を説明できる。

その他

・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。
・授業実数の３分の１を超えて欠席した者は失格とする。
・遅刻／早退については２分の１欠席と見なす。

科目名	事相研究Ⅰ－1（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深める。
テ ー マ：中院流の金剛界の伝授次第の伝授と講義

授業の概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では､『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期･後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを伝授する。已灌頂者のみが受講できる。

授業計画

1．中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2．別尊次第について１
3．別尊次第について２
4．「金輪」
5．「佛眼」
6．「薬師」
7．「阿弥陀」
8．「釈迦」
9．「尊勝」
10.「聖観音」
11.「千手」
12.「十一面」
13.「馬頭」
14.「準胝」
15.「如意輪」
16.「白衣」

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）次第と『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。
授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。
内容は後期に続くため､「事相研究Ⅰ－２」を続けて受講することを推薦する。
受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	事相研究Ⅰ－2（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深める。
テ ー マ：中院流の金剛界の伝授次第の伝授と講義

授業の概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では､『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期･後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを伝授する。已灌頂者のみが受講できる。

授業計画

1．「弥勒」
2．「五字文殊」
3．「八字文殊」
4．「延命」
5．「地蔵」
6．「愛染」
7．「不動」
8．「降三世」「軍荼利」
9．「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10.「法華」
11.「舎利」
12.「光明真言」
13.「毘沙門」
14.「炎魔天」
15.「水天」
16.「聖天」「訶利帝」

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』､高岡隆心『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）次第と『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言 参考書を見ずに自分の言 参考書を見ずに自分の言 参考書を見ずに自分の言 葉で 真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。
授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。
後期から受講できるが､前期の「事相研究Ⅰ－１」から続く内容のため、前期からの受講を推薦する。
受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	事相研究Ⅱ－1（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。
テ ー マ：十八道次第の関連儀軌を読む

授業の概要

十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道次第の理解を深める。『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁麼儀軌』、『阿閦法』等を平行して解読しながら比較研究を行う。已灌頂者のみが受講できる。

授業計画

1．秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較１
3．同上２
4．同上３
5．同上４
6．同上５
7．同上６
8．同上７
9．同上８
10. 同上９
11. 同上 10
12. 同上 11
13. 同上 12
14. 同上 13
15. 同上 14
16. 同上 15

テキスト

浄厳の木版『秘密儀軌』からコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
プログラムは改訂される場合がある。
已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	事相研究Ⅱ－2（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	T・ドライトライン

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。
テ ー マ：秘密儀軌を読み、内容を理解する

授業の概要

一尊法に関する漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界と胎蔵界次第の理解を深める。胎蔵次第・金剛界次第と関連する秘密儀軌の内容について考察する。『大日経』関連の成就法として『聖観自在儀軌』､『七支念誦法』､『立印儀軌』などを読む。『金剛頂経』系の儀軌については『蓮華部心軌』、『如意輪瑜伽』、『文殊菩薩供養法』、『五秘密儀軌』などを読む。已灌頂者のみが受講できる。

授業計画

1．『大日経』関連の儀軌を読む１
2．同上２
3．同上３
4．同上４
5．同上５
6．同上６
7．『金剛頂経』系の儀軌を読む１
8．同上２
9．同上３
10. 同上４
11. 同上５
12. 同上６
13. 同上７
14. 同上８
15. 同上９
16. 同上 10

テキスト

浄厳の木版『秘密儀軌』からコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。
別に課題を与えて受講生による発表を行う。
プログラムは改訂される場合がある。
已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	仏教学特殊研究（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	前谷　彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：原語と漢訳語の比較作業を通して、仏教思想のある意味での「歪み」を修正できればよいと考えている。
テ ー マ：原典における原語と漢訳語の異相

授業の概要

サンスクリット語やパーリ語の原典における原語と、漢訳語との間には仏教思想を根底から覆さなければならないような重要な異相を認めることができるので、当講義では重要な原語を取り上げ、それらの語がどのような漢語に置き換えられているかを検証することによって、仏教思想の誤謬性について考察する。

授業計画

1．原語と翻訳語の異相全般について概略する。
2．八正道について
3．梵行・清浄行について
4．顕示・開顕について①
5．顕示・開顕について②
6．苦行について
7．清浄について
8．菩提心・菩薩について
9．一乗・一趣道について
10．一心について
11．涅槃について
12．渇愛について
13．小乗・大乗・密教について①
14．小乗・大乗・密教について②
15．まとめ

テキスト

担当者がプリントを用意する。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

学期末のレポートによって評価（100％）する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）漢訳語の曖昧さを疑う力を身につける。
（A）原典と漢訳経典におけるキーワードを比較することができる。
（S）仏教における問題のある原語を自分の言葉で説明できる。

その他

科目名	仏教史特殊研究（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	櫻木　潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：奈良時代の日本仏教についての研究史を批判的に検討し、「奈良仏教」研究の動向と課題を見出すとともに、弘法大師空海による密教請来以前の日本密教のあり様を探求する。
テ ー マ：奈良時代の日本仏教に関する研究動向を理解し、課題を見出す。

授業の概要

奈良時代は、国分寺・国分尼寺の建立や大仏造立に代表されるように、日本仏教が大きく進展する時代であり、これまで多くの研究が蓄積されてきた。本講義では、そのうちの代表的な先行研究を取り上げ、研究史を批判的に検討しながら、奈良仏教の研究動向とその課題を見出すとともに、空海請来以前の日本密教のあり様について探求する。

授業計画

1．ガイダンス
2．奈良時代前半の政治史
3．奈良時代後半の政治史
4．1970 年代の奈良仏教研究①（担当箇所の要約）
5．1970 年代の奈良仏教研究②（担当箇所の要約）
6．1970 年代の奈良仏教研究③（担当箇所の要約）
7．1970 年代の奈良仏教研究④（担当箇所の要約）
8．2000 年代の奈良仏教研究①（担当箇所の要約）
9．2000 年代の奈良仏教研究②（担当箇所の要約）
10．2000 年代の奈良仏教研究③（担当箇所の要約）
11．2000 年代の奈良仏教研究④（担当箇所の要約）
12．2000 年代の奈良仏教研究⑤（担当箇所の要約）
13．奈良時代の日本密教に関する研究①（担当箇所の要約）
14．奈良時代の日本密教に関する研究②（担当箇所の要約）
15．奈良時代の日本密教に関する研究③（担当箇所の要約）
16．まとめとレポート提出

テキスト

本講義では､主として『アジア仏教史　日本編Ⅰ　飛鳥･奈良仏教』(佼成出版社、1976 年)･『新アジア仏教史 11　日本Ⅰ　日本仏教の礎』(佼成出版社、2009 年)をテキストとして用いますが、講義箇所をプリントとして配布し進める。

参考書・参考資料等

渡辺晃宏『日本の歴史 04　平城京と木簡の世紀』（講談社学術文庫、2009 年）
坂上康俊『シリーズ日本古代史④　平城京の時代』(岩波新書、2011 年)
吉川真司『天皇の歴史２　聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018 年）
その他、授業中に適宜紹介します。

学生に対する評価

担当箇所の発表（40%）・期末レポート（40%）・授業への参加度（20%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）奈良仏教に関する先行研究の要点を整理することができる。
（B）奈良仏教の研究史を批判的に検討することができる。
（S）奈良仏教の研究史を批判的に検討し、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。
（A）奈良仏教の研究史を批判的に検討し、その問題点を指摘することができる。

その他

修士論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。本講義では各自に担当箇所を割り当て、研究論文の要約の発表と講義によって進め、研究史の整理の仕方についての習得を目指します。発表者は発表レジュメを作成して講義に臨むこと。

科目名	仏教学演習（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	前谷　彰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：仏教の基礎知識についての確認作業を行い、浄土思想が誕生した背景について考える。
テ ー マ：浄土思想とは何か

授業の概要

仏教とは何かについての基本的疑問を提示することによって、仏教が初期・大乗・密教と歴史的に展開して行く中にあって、どのような社会的背景をもとに、浄土思想が誕生したかについて考える。

授業計画

1．オリエンテーション
2．初期仏教の基礎知識の確認
3．原始浄土思想と問題の所在①
4．原始浄土思想と問題の所在②
5．原始浄土思想の成立①
6．原始浄土思想の成立②
7．本生説話からみた阿弥陀仏起源考極楽浄土の観念①
8．本生説話からみた阿弥陀仏起源考極楽浄土の観念②
9．本生説話からみた阿弥陀仏起源考極楽浄土の観念③
10．臨終来迎思想①
11．臨終来迎思想②
12．実践に関する諸問題①
13．実践に関する諸問題②
14．念仏思想とその系譜①
15．念仏思想とその系譜②
16．臨終来迎思想①
17．臨終来迎思想②
18．臨終来迎説の構造
19．浄土経典における問題点
20．信の形態①
21．信の形態②
22．原始仏教における信との関係①
23．原始仏教における信との関係②
24．原始仏教における信との関係③
25．浄土思想の展開と総まとめ①
26．浄土思想の展開と総まとめ②
27．浄土思想の展開と総まとめ③
28．浄土思想の展開と総まとめ④
29．浄土思想の展開と総まとめ⑤
30．総括と試験

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

授業時に指示する課題をどれだけこなしているか（50％）、学期末のレポート（50％）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。

科目名	仏教史演習（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	櫻木　潤

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：奈良時代の歴史書や寺院の資財帳の講読を通じて、仏教史研究の研究手法を身につける。
テ ー マ：『続日本紀』・『西大寺資財流記帳』を読み、弘法大師空海が請来する以前の日本密教と、奈良時代の社会と仏教について考える。

授業の概要

仏教史研究を歴史学からアプローチする際の研究手法について学ぶ。歴史学は、史料にもとづいて歴史的事実を解明する学問であり、史料が読解できることは不可欠なスキルである。本授業では､奈良時代研究の基本史料である『続日本紀』と、空海請来以前の日本密教を考える上で重要な寺院史料である『西大寺資財流記帳』の輪読を通して、史料批判の方法を習得し、仏教史研究の課題を見出すことを目指す。

授業計画

1．授業ガイダンス
2．歴史学研究における史料とその読解
3．奈良時代の社会と仏教－『続日本紀』･『西大寺資財流記帳』を読む前に－
4．『続日本紀』とはどのような史料か？－歴史資料としての歴史書－
5．『続日本紀』「称徳紀」を読む（1）（担当箇所についての発表）
6．『続日本紀』「称徳紀」を読む（2）（担当箇所についての発表）
7．『続日本紀』「称徳紀」を読む（3）（担当箇所についての発表）
8．『続日本紀』「称徳紀」を読む（4）（担当箇所についての発表）
9．『続日本紀』「称徳紀」を読む（5）（担当箇所についての発表）
10．『西大寺資財流記帳』とはどのような史料か？－歴史資料としての仏教史料－
11．『西大寺資財流記帳』を読む（1）（担当箇所についての発表）
12．『西大寺資財流記帳』を読む（2）（担当箇所についての発表）
13．『西大寺資財流記帳』を読む（3）（担当箇所についての発表）
14．『西大寺資財流記帳』を読む（4）（担当箇所についての発表）
15．『西大寺資財流記帳』を読む（5）（担当箇所についての発表）
16．まとめ

テキスト

テキストとして、黒板勝美編『新訂増補国史大系　続日本紀』(吉川弘文館、1981 年)･竹内理三編『寧楽遺文　中巻』(東京堂出版、1977 年)を用いますが、プリントとして配布します。

参考書・参考資料等

吉川真司『天皇の歴史 02　聖武天皇と仏都平城京』(講談社、2011 年)
勝浦令子『ミネルヴァ日本評伝選　孝謙･称徳天皇』(ミネルヴァ書房､2014 年)
佛教史学会編『仏教史研究ハンドブック』(法藏館、2017 年)
その他、授業中に適宜紹介します。

学生に対する評価

輪読担当部分の発表（50%）・予習・復習などの授業への参加度（50%）によって評価する。
全授業の 3 分の 2 以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教史研究における史料読解の重要性を理解する。
（B）仏教史の研究手法と史料としての歴史書や仏教史料の読み方について理解する。
（A）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を読むことができる。
（S）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を解釈することができる。

その他

修士論文を歴史学的にアプローチすることを計画している場合は、必ず受講すること。本授業では各自に担当箇所を割り当て、発表により史料を読み進めていきます。辞書などを使って予習をして毎回の授業に臨むとともに、積極的に討論に参加することを望みます。

科目名	仏教学講読（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：『平家物語』諸本への理解を通じて、異本生成の諸相を学ぶ。
テ ー マ：長門本『平家物語』の世界

授業の概要

長門国赤間関阿弥陀寺（現山口県下関市赤間神宮）所蔵の長門本『平家物語』は部分的に古態を残すとされている延慶本『平家物語』と近似する本文を持ち、兄弟関係を想定されている。近世に多く写されたこの『平家物語』の異本には、特異な記事や表現が多く見られ、問題点が多い。講義ではそうした研究史を踏まえた上で実際に本文を読み比べ、長門本『平家物語』の生成について考えてみたい。さらには寺院で形成される軍記文学についても考えてみる。

授業計画

1．ガイダンス
2．『平家物語』の作者
3．『平家物語』の諸本と成立
4．長門本『平家物語』研究史①
5．長門本『平家物語』研究史②
6．長門本『平家物語』研究史③
7．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観①
8．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観②
9．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観③
10．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観④
11．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑤
12．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑥
13．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑦
14．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑧
15．長門本『平家物語』を中心とした諸本対観⑨
16．まとめ

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

『平家物語大事典』（東京書籍）
その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパーと受講態度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『平家物語』諸本の基本的な事柄を理解している。
（B）長門本『平家物語』の構成や表現について理解している。
（A）長門本『平家物語』の生成について、意見を述べることができる。
（S）長門本『平家物語』の生成と成立環境について論じることができる。

その他

「日本文化特殊講義Ａ」との合同科目。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	仏教史講読（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	浜畑圭吾

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山に関する軍記文学の特徴を理解する。
テ ー マ：高野山関係軍記文学の研究

授業の概要

織田信長の高野攻めを描く軍記文学『天正高野治乱記』を取り上げる。受講者と相談の上、各回の発表者を決め、本文を翻刻して諸本を対観する。同作品の構造や表現、または背景となった事柄について発表してもらう。

授業計画

1．ガイダンス－講義の進め方－
2．後期軍記の世界
3．『天正高野治乱記』読解①
4．『天正高野治乱記』読解②
5．『天正高野治乱記』読解③
6．『天正高野治乱記』読解④
7．『天正高野治乱記』読解⑤
8．『天正高野治乱記』読解⑥
9．『天正高野治乱記』読解⑦
10．『天正高野治乱記』読解⑧
11．『天正高野治乱記』読解⑨
12．『天正高野治乱記』読解⑩
13．『天正高野治乱記』読解⑪
14．『天正高野治乱記』読解⑫
15．『天正高野治乱記』読解⑬
16．まとめ

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

古典遺産の会編『戦国軍記事典』群雄割拠篇・天下統一篇（和泉書院）

学生に対する評価

発表（60%）、受講態度（40%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『天正高野治乱記』の基本的な事柄について理解している。
（B）『天正高野治乱記』について、他文献を利用して、その特徴を述べることができる。
（A）『天正高野治乱記』を基にして、高野山関係軍記文学の特徴を述べることができる。
（S）『天正高野治乱記』を基にして、高野山での軍記文学生成について論じることができる。

その他

４回以上理由もなく無断で欠席した者は、受講者名簿から削除するので注意すること。発表とディスカッションが中心である。積極的な受講を求める。

科目名	アジア地域の宗教文化の研究（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	南昌宏

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な読解力・調査能力を養い、論文執筆に際しての形式などを修得し、文献を批判的に読む訓練をする。
テ ー マ：安世高『人本欲生経』

授業の概要

受講者は、授業に際して、文献の翻訳、語彙の解説などを作成し、必要に応じて、補助的な資料を準備しなければならない。受講生相互の質疑によって、理解を深める。受講生には、資料作成による発表を必須とする。

授業計画

1．『人本欲生経』講読
2．『人本欲生経』講読
3．『人本欲生経』講読
4．『人本欲生経』講読
5．『人本欲生経』講読
6．『人本欲生経』講読
7．『人本欲生経』講読
8．『人本欲生経』講読
9．『人本欲生経』講読
10．『人本欲生経』講読
11．『人本欲生経』講読
12．『人本欲生経』講読
13．『人本欲生経』講読
14．『人本欲生経』講読
15．『人本欲生経』講読

テキスト

宇井伯寿『訳経史研究』（コピーを配布する）

参考書・参考資料等

『大正新修大蔵経』

学生に対する評価

発表 50 %。発表回数最多の者を 50 点とし、回数に応じて比例配点する。 レポート 50 %。 授業中に発言がない者は欠席とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを音読できる。未知の語彙に気付く。発表の資料を作成できる。
（B）テキストの内容を理解できる。未知の語彙を説明できる。発表資料を用いて上手く説明できる。
（A）テキストを研究対象にできる。未知の語彙の背景まで理解できる。発表資料に研究の萌芽が窺える。
（S）テキストを研究対象として、論文を作成する能力が十分にある。

その他

科目名	比較宗教の研究（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗宗教を中心として、宗教学の方法を理解する。
テ ー マ：宗教学研究法を学ぶ

授業の概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について信仰生活を中心に検討することを通して宗教学の方法を理解する。

授業計画

1．高野文化圏の信仰生活について
2．年中行事（1）
3．年中行事（2）
4．年中行事（3）
5．年中行事（4）
6．社寺の行事（1）
7．社寺の行事（2）
8．社寺の行事（3）
9．人の一生（1）
10．人の一生（2）
11．人の一生（3）
12．高野山をめぐる信仰（1）
13．高野山をめぐる信仰（2）
14．高野山をめぐる信仰（3）
15．高野文化圏の信仰生活の特徴

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編 高野町 2012 年
その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）民俗宗教の基本用語を説明できる。
（B）民俗宗教の事象を説明できる。
（A）民俗宗教の理論を自分の言葉で説明できる。
（S）現実の現象を民俗宗教の理論を使いながら説明できる。

その他

・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起こっているのかを確認しておくこと。

科目名	現代社会と仏教の研究（大）
学期	後期
単位数	2
担当者	森崎雅好

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。
テ ー マ：自殺に関する諸理論を学び、防止のためにできることを考える。

授業の概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業計画

1．日本における自殺の現状
2．世界における自殺の現状
3．自殺についての理論①
4．自殺についての理論②
5．自殺についての理論③
6．自殺と精神障害
7．自殺と自傷
8．自殺対策①：危機介入
9．自殺対策②：予防的介入
10．自殺対策③：事後の対応
11．自殺とメディア
12．自殺とインターネット
13．自殺と文化
14．自殺と社会
15．まとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

各講義に関する内容に即したテキストを適時紹介する。

学生に対する評価

レポートによる評価

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自殺に関する基本的な知識を身につけている。
（B）自殺を志向する心理について理解している。
（A）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。
（S）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し共感しようとする姿勢を身につけている。

その他

科目名	教育学特殊研究（大）
学期	前期
単位数	2
担当者	山脇雅夫

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：学校経営・管理とキャリア教育がどれだけ密接に関わっているかの理解度に焦点を当てる。
テ ー マ：キャリア教育を活かした学校経営・管理

授業の概要

本講義は中学校及び高等学校教諭の専修免許状を取得することを目的とした科目である。学校管理・経営とキャリア教育という一見関係のなさそうに見えるこの問題は、根幹のところで深くつながっていることを考察する。

授業計画

1．学校経営とはどのような営みなのか解説し考察する。（1）
2．学校管理とはどのような営みなのか解説し考察する。（2）
3．学校管理と組織運営の問題について考察する。（1）
4．学校管理と組織運営の問題について考察する。（2）
5．学校管理と組織運営の問題について考察する。（3）
6．日本のキャリア教育について考察する。（1）
7．日本のキャリア教育について考察する。（2）
8．米国のキャリア教育の現状について解説する。
9．欧州（独仏中心）のキャリア教育について解説する。
10．キャリア教育と学校経営・管理との有効な関係を考察する。（1）
11．キャリア教育と学校経営・管理との有効な関係を考察する。（2）
12．キャリア教育と学校経営・管理との有効な関係を考察する。（3）
13．学校管理の問題とキャリア教育、進路指導、職業指導の関係を明らかにする。
14．学校管理の問題とキャリア教育、真の指導、職業指導の関係を考察する。
15．総括講義
16．参加者による振り返り

テキスト

なし、必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

伊藤一雄著 「キャリア開発と職業指導」 法律文化社　2011

学生に対する評価

講義内容に対する理解と考察の深さで判断する。
課題レポート（70%）、議論への参加（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

	論理的思考力	問題発見力	作文力
C	講義の内容を理解できる。	それぞれのテーマを理解できる。	自分の考えを日本語で表現できる。
B	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。	自分の考えを正確な日本語で表現できる。
A	講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、新しい問題を発見できる。	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。
S	講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、新しい問題を発見し、自分なりの見解を構築できる。	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。

その他

教職関係科目を履修していることが望ましい。

科目名
学期
単位数
担当者

科目名
学期
単位数
担当者

科目名
学期
単位数
担当者

科目名
学期
単位数
担当者

科目名
学期
単位数
担当者

科目名
学期
単位数
担当者

教　員　別　索　引

【あ　行】

有　松　孝　雄　企画科目（仏画）　文 - 29
　　仏教芸術（別）　文 - 29
伊　藤　博　美　教育方法論　文 - 46
伊　藤　佳世子　英語Ⅱ（再履修）　文 - 3
　　英語Ⅰ　文 - 2
　　英語Ⅱ　文 - 2
　　英語Ⅰ（再履修）　文 - 3
乾　　龍　仁　空海の思想入門Ａ　文 - 1
　　空海の思想入門Ｂ　文 - 50
　　密教学講読演習Ｆ　文 - 55
　　弘法大師空海の生涯（別）　文 - 1
今　井　邦　夫　体育実技　文 - 33
上　田　恭　寿　国語学Ⅰ　文 - 37
　　国語学Ⅱ　文 - 37
　　国語学講義Ⅰ　文 - 40
　　国語学講義Ⅱ　文 - 40
上　野　和　久　企画科目（カウンセリング論Ａ）　文 - 28
　　企画科目（発達心理学Ａ）　文 - 28
　　人間学基礎ゼミⅢＡ　文 - 6
　　人間学基礎ゼミⅣＡ　文 - 6
　　人間学演習ⅠＢ　文 - 27
　　人間学演習ⅡＢ　文 - 27
　　人間学概論Ⅱ　文 - 8
　　心理学ⅠＢ　文 - 50
　　心理学ⅡＢ　文 - 50
　　人間学演習ⅠＣ（臨床心理学演習）　文 - 58
　　人間学演習ⅡＣ（臨床心理学演習）　文 - 59
　　人間学特殊ゼミⅠＣ（教育心理学）　文 - 51
　　人間学特殊ゼミⅡＣ（人格心理学）　文 - 52
上 野・ 森 崎　企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）　文 - 60
上山・辻・本間　企画科目（詠歌）　文 - 11
　　布教Ｂ（詠歌）　文 - 11
内　海　周　浩　法式　文 - 10
　　法式（別）　文 - 10
大河内　大　博　人間学特殊ゼミⅠＦ（悲嘆学）　文 -
　　人間学特殊ゼミⅡＦ（スピリチュアルケア実践論）　文 - 53
　　人間学演習ⅠＥ（臨床心理学演習）　文 -
　　人間学演習ⅡＥ（臨床心理学演習）　文 -
　　企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）　文 - 65
　　企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）　文 - 66
岡　田　英　作　仏教学特殊講義Ｃ　文 - 54
　　仏教学講読演習Ｃ　文 - 56
　　宗教科教育法Ⅲ　文 - 47
岡　本　文　音　伝統文化実習（茶道）　文 - 17
　　伝統文化（茶道）　文 - 17
奥　山　直　司　密教史概説Ⅰ　文 - 7
　　密教学特殊講義Ａ　文 - 21
　　密教学演習Ｂ　文 - 25
　　宗教思想史ⅠＢ　文 - 69
　　密教学演習Ｊ　文 - 58
　　宗教学Ⅰ　文 - 34
　　宗教学Ⅱ　文 - 35
　　密教特殊演習Ｂ - 1（大）　院 - 4
　　密教特殊演習Ｂ - 2（大）　院 - 5
　　宗教思想史ⅠＡ　文 - 35
　　世界の宗教（別）1　文 - 34
　　世界の宗教（別）2　文 - 35
　　インド学講義（大）　院 - 1
　　密教史演習（大）　院 - 3

【か　行】

加　賀　　博　企画科目（寺院経営講座）　文 - 30
　　寺院と法律（別）　文 - 30
川　口　道　雄　企画科目（臨床実習Ⅳ）　文 - 68
　　企画科目（臨床実習Ⅴ）　文 - 68
川　崎　一　洋　密教学講読演習Ｄ　文 - 19
　　密教学講読演習Ｅ　文 - 19
木　地　茂　典　企画科目（自然科学）　文 - 16
　　教養講義（自然科学）　文 - 16
　　企画科目（数的処理）　文 - 16
　　教養講義（数的処理）　文 - 16
木　地　茂　典　情報処理　文 - 34
北　川　真　寛　真言密教特殊講義Ｇ　文 - 55
　　真言密教講読演習Ｈ　文 - 57
北　川　真　寛　真言密教講読演習Ⅰ　文 - 55
　　真言密教特殊講義Ｈ　文 - 58
木　下　忠　恭　企画科目（心理検査法演習Ⅰ）　文 - 61
　　企画科目（心理検査法演習Ⅱ）　文 - 61
　　企画科目（学校心理学）　文 - 64
　　企画科目（カウンセリング論Ｂ）　文 - 64
木　本　滋　久　条幅制作Ａ（漢字）　文 - 43
　　漢字Ⅱ　文 - 42
窪　寺　俊　之　企画科目（スピリチュアルケア概論）　文 - 66
高祖彩恵子/辻佐智子　企画科目（舞踊）　文 - 27
　　宗教芸能（舞踊）　文 - 27
五　味　和　樹　企画科目（華道）　文 - 28
　　伝統文化（華道）　文 - 28
五　明　優　介　企画科目（心理統計学）　文 - 61
　　企画科目（心理測定法）　文 - 61
　　企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）　文 - 62
　　企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）　文 - 62
近　藤　堯　寛　布教　文 - 11
　　布教Ａ　文 - 11
　　布教（別）　文 - 11

【さ　行】

齋　藤　天　譽　梵字悉曇　文 - 33
　　梵字悉曇（別）　文 - 33
坂　口　太　郎　企画科目（古文書読解Ｂ）　文 - 60
　　真言密教講読演習Ｇ　文 - 57
　　総合科目（書誌学）　文 - 57
　　書誌学　文 - 34
　　総合科目（古文書学）　文 - 34
　　古文書学　文 -
　　人間学概論Ⅰ　文 - 8
　　日本文化特殊講義Ｂ　文 - 40
　　日本文化特殊講義Ｃ　文 - 41
　　企画科目（歴史学）　文 - 30
　　歴史学　文 - 36
　　企画科目（古文書読解Ａ）　文 - 30
　　古文書読解　文 -
　　密教史特殊研究Ｂ（大）　院 - 2
　　密教史特殊研究Ｃ（大）　院 - 3
　　博物館概論　文 - 43
櫻　木　　潤　宗教思想史ⅡＡ　文 - 35
　　密教史概説Ⅱ　文 - 8
　　密教学基礎ゼミ１　文 - 4
　　密教学基礎ゼミ２　文 - 4
　　宗教思想史ⅡＢ　文 - 69
　　真言密教講読演習Ｆ　文 - 57
　　生涯学習概論　文 - 44
　　密教学演習Ｄ　文 - 25
　　仏教学講読演習Ｂ　文 - 19
　　仏教学特殊講義Ｂ　文 - 22
　　仏教史演習（大）　院 - 6
　　仏教史特殊研究（大）　院 - 6
　　博物館教育論　文 - 44
佐　藤　隆　彦　密教学概論Ⅰ　文 - 7
　　密教学概論Ⅱ　文 - 7
　　祖典講読ⅢＡ　文 - 14
　　祖典講読ⅣＡ　文 - 15
　　密教特殊演習Ａ - 1（大）　院 - 6
　　密教特殊演習Ａ - 2（大）　院 - 6
　　真言密教特殊講義Ⅰ（密教瞑想）　文 - 55
　　真言宗の教え（別）1　文 - 7
　　真言宗の教え（別）2　文 - 7
　　真言宗典講読２- 1（別）　文 - 14
　　真言宗典講読２- 2（別）　文 - 15
　　密教瞑想（別）　文 -
　　密教学講義（大）　院 - 1
　　祖典演習（大）　院 - 1
　　密教学講読（大）　院 - 4
塩　野　三恵子　かなⅠ　文 - 11
　　かなⅡ　文 - 42
塩　野　三恵子　条幅制作Ｂ（かな）　文 - 43
静　　春　樹　英語Ⅲ　文 - 2
嶋　田　　博　教育課程論　文 - 45
　　教職入門　文 - 44
下　西　　忠　国語科教育法Ⅰ　文 - 48

下　西　　忠	国語科教育法Ⅱ	文 - 48
	日本文学史概説Ⅰ	文 - 38
	日本文学史概説Ⅱ	文 - 38
鈴　木　裕　範	企画科目（地域産業論）	文 - 31

【た　行】

高　田　綾　子	キャリアカウンセリングⅠ - 1	文 - 12
	キャリアデザインⅠ	文 - 12
	企画科目（キャリアカウンセリングⅠ - 2）	文 - 12
	キャリアデザインⅡ	文 - 12
	キャリアカウンセリングⅢ - 1	文 - 13
	企画科目（キャリアカウンセリングⅢ - 2）	文 - 13
	キャリアカウンセリングⅡ - 1	文 - 12
	キャリアデザインⅡ	文 - 12
	企画科目（キャリアカウンセリングⅡ - 2）	文 - 12
	キャリアデザインⅡ - 2	文 -
高　柳　健太郎	漢文Ⅱ（再履修）	文 - 4
	漢文Ⅰ（再履修）	文 - 4
竹　村　和　也	日本国憲法	文 - 41
	現代の人権	文 - 16
	教養講義（人権論）	文 - 16
	人権と福祉（別）	文 - 16
辻　　秀　道	声明	文 - 10
	企画科目（声明上級）	文 - 31
	声明（別）	文 - 10
	声明上級（別）	文 - 31
テンジン・ウセル	総合科目（チベット仏教入門Ⅰ）	文 - 59
	総合科目（チベット仏教入門Ⅱ）	文 - 59
	チベット語	文 - 32
土　居　夏　樹	密教学演習Ⅰ	文 - 58
	祖典講読ⅢC	文 - 50
	祖典講読ⅣC	文 - 51
	祖典講読ⅢB	文 - 14
	祖典講読ⅣB	文 - 15
	祖典講読ⅠB	文 - 14
	祖典講読ⅡB	文 - 14
	真言密教特殊講義C	文 - 23
	真言密教講読演習A	文 - 20
	密教学演習E	文 - 25
	宗教史Ⅰ	文 - 35
	宗教史Ⅱ	文 - 36
	宗教の歴史１（別）	文 - 35
	宗教の歴史２（別）	文 - 36
	密教史特殊研究A（大）	院 - 2
T.ドライトライン	密教学基礎ゼミ１	文 - 4
	密教学基礎ゼミ２	文 - 4
	密教学演習G	文 - 26
	真言密教講読演習B	文 - 20
	真言密教講読演習C	文 - 20
	密教学講読演習B	文 - 18
	密教学講読演習C	文 - 18
	真言密教講読演習D	文 - 20
	真言密教講読演習E	文 - 21
	真言密教特殊講義D	文 - 23
	真言密教特殊講義E	文 - 23
	観法の理論と実習（別）１	文 - 18
	観法の理論と実習（別）２	文 - 18
	事相研究Ⅱ - 1（大）	院 - 5
	事相研究Ⅱ - 2（大）	院 - 5
	密教学特殊研究A（大）	院 - 2
	密教学特殊研究B（大）	院 - 2
	事相研究Ⅰ - 1（大）	院 - 5
	事相研究Ⅰ - 2（大）	院 - 5
徳　重　弘　志	サンスクリット語ⅠA	文 - 3
	サンスクリット語（別）	文 - 3

【な　行】

中　西　雄　泰	真言密教特殊講義A	文 - 22
	真言密教特殊講義B	文 - 22
中　西　雄　泰	密教儀礼の理論と実習１（別）	文 - 22
	密教儀礼の理論と実習２（別）	文 - 22
西　川　みち子	企画科目（発達心理学B）	文 - 63
	企画科目（家族心理学）	文 - 64
根　岸　和　政	企画科目（メンタルヘルス）	文 - 64
野　田　　悟	篆刻Ⅰ	文 - 42
野　田　　悟	篆刻Ⅱ	文 - 42
	密教学演習A	文 - 24
	密教学特殊講義D	文 - 53
	密教学特殊講義E	文 - 53
	書道史（日本）	文 - 43
	書道史	文 -
	漢字Ⅰ	文 - 11
	中国文化特殊講義	文 - 41
	中国文化講読演習A	文 - 41

【は　行】

橋　本　久仁彦	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）	文 - 66
	企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）	文 - 67
土生川　正　賢	中国語Ⅰ	文 - 33
	中国語Ⅱ	文 - 33
浜　畑　圭　吾	国文法Ⅰ	文 - 37
	国文法Ⅱ	文 - 37
	日本文学Ⅰ	文 - 38
	日本文学Ⅱ	文 - 38
	国語科教育法Ⅲ	文 - 48
	日本文学概論Ⅰ	文 - 39
	日本文学概論Ⅱ	文 - 39
	仏教史講読（大）	院 - 7
	日本文化特殊講義A	文 - 40
	人間学概論Ⅰ	文 - 8
	仏教学講読演習D	文 - 56
	真言密教講読演習J	文 - 58
廣　田　恵美子	人間学基礎ゼミⅢB	文 - 6
	人間学基礎ゼミⅣB	文 - 6
	企画科目（日本語留学生中級A）	文 - 31
	企画科目（日本語留学生上級A）	文 - 31
笛　木　　淳	企画科目（地方行政論）	文 - 28
	企画科目（地方自治法）	文 - 29
福　本　幹　雄	社会福祉各論Ⅰ（地域福祉Ⅰ）	文 - 9
	社会福祉論	文 - 9
	社会保障総論Ⅰ	文 - 10
	社会保障論	文 - 10
	地域福祉A（別）	文 - 9
	社会保障B（別）	文 - 10
戸　來　知　子	情報技術論	文 - 46
	教育心理学	文 - 45
	道徳教育の研究	文 - 45
	道徳教育指導論	文 -
	特別教育活動指導	文 - 46
	生徒指導・進路指導	文 - 46
	教育実習の研究	文 - 49
	教職実践演習（中・高）	文 - 49
	心理学ⅠA	文 - 9
	心理学ⅡA	文 - 9
	教育相談	文 - 47
	教育実習Ⅰ	文 -
	教育実習Ⅱ	文 -
	心の科学（別）１	文 - 9
	心の科学（別）２	文 - 9

【ま　行】

前　谷　　彰	サンスクリット語Ⅱ	文 - 32
	仏教学特殊講義A	文 - 22
	仏教学講読演習A	文 - 19
	仏教学概論Ⅰ	文 - 7
	仏教史概説Ⅰ	文 - 8
	密教学演習C	文 - 25
	仏教特殊演習１（大）	院 - 3
	仏教特殊演習２（大）	院 - 3
	サンスクリット語ⅠB	文 - 68
	仏教学特殊講義D	文 - 54
	仏教学講読演習E	文 - 56
	釈尊の生涯（別）	文 - 8
	仏教学特殊研究（大）	院 - 6
	仏教学講義（大）	院 - 1
	仏教学演習（大）	院 - 6
松　下　歩　睦	企画科目（社会心理学）	文 - 65
松　長　恵　史	宗教科教育法Ⅰ	文 - 47
	宗教科教育法Ⅱ	文 - 47
	密教学講読演習A	文 - 18

松　長　恵　史	密教学基礎ゼミ１	文 - 4
	密教学基礎ゼミ２	文 - 4
	祖典講読ＩＡ	文 - 14
	祖典講読ⅡＡ	文 - 14
	密教学演習Ｆ	文 - 26
	祖典講読ⅢＤ	文 - 51
	祖典講読ⅣＤ	文 - 51
	密教学特殊講義Ｆ	文 - 54
	密教学講読演習Ｇ	文 - 56
	真言宗典講読１- １（別）	文 - 14
	真言宗典講読１- ２（別）	文 - 14
	密教史講読（大）	院 - 4
松　本　貴　子	人間学特殊ゼミＩＢ	文 - 24
	人間学特殊ゼミⅡＢ	文 - 24
	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	文 - 32
	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	文 - 32
南　　昌　宏	密教学演習Ｈ（再履修）	文 - 26
	国語科教育法Ⅳ	文 - 48
	中国文化講読演習Ｂ	文 - 69
	真言密教特殊講義Ｆ	文 - 54
	アジア地域の宗教文化の研究（大）	院 - 7
	漢文	文 - 3
	漢文学概論Ｉ	文 - 39
	漢文学概論Ⅱ	文 - 39
	密教学演習１（大）	院 - 3
	密教学演習２（大）	院 - 3
	密教学演習（大）１/密教学演習（大）２	院 -
宮　田　永　明	常用経典	文 - 10
	常用経典（別）	文 - 10
森　崎　雅　好	人間学特殊ゼミＩＥ（悲嘆学）	文 - 52
	人間学特殊ゼミⅡＥ（自殺学）	文 - 53
	人間学演習ＩＤ（臨床心理学演習）	文 - 58
	人間学演習ⅡＤ（臨床心理学演習）	文 - 59
	企画科目（災害心理学）	文 - 62
	人間学特殊ゼミＩＡ	文 - 23
	人間学特殊ゼミⅡＡ	文 - 24
	企画科目（臨床実習Ｉ）	文 - 67
	企画科目（臨床実習Ⅱ）	文 - 67
	企画科目（臨床実習Ⅲ）	文 - 68
	現代社会と宗教（大）	院 - 4
	現代社会と仏教の研究（大）	院 - 8
	企画科目（聖地巡礼Ｉ）	文 - 59
	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）	文 - 60
森　本　一　彦	企画科目（社会調査入門）	文 - 27
	企画科目（質的調査論）	文 - 27
	社会学Ｉ	文 - 9
	社会学	文 - 9
	宗教学方法論	文 - 36
	人間学基礎ゼミＩＡ	文 - 5
	人間学基礎ゼミⅡＡ	文 - 5
	企画科目（高野文化圏論）	文 - 29
	企画科目（基礎統計学）	文 - 29
	人間学演習ＩＡ	文 - 26
	人間学演習ⅡＡ	文 - 26
	人間学概論Ⅱ	文 - 8
	伝統文化実習（民俗調査）	文 - 18
	企画科目（地域連携）	文 - 30
	教育社会学	文 - 45
	企画科目（人文科学）	文 - 15
	教養講義（人文科学）	文 - 15
	企画科目（社会科学）	文 - 15
	教養講義（社会科学）	文 - 15
	企画科目（キャリア研修）	文 - 46
森　本　一　彦	社会保障Ａ（別）	文 - 9
	地域福祉Ｂ（別）	文 - 30
	比較宗教の研究（大）	院 - 7

【や　行】

山　添　　正	企画科目（こころのケアとは）	文 - 62
	企画科目（深層心理学）	文 - 63
	企画科目（臨床心理学面接演習ＩＡ）	文 - 63
	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＡ）	文 - 63
	企画科目（臨床心理学面接演習ＩＢ）	文 - 65
	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＢ）	文 - 65
やまだようこ	企画科目（もの語り心理学）	文 - 67
山　本　佳世子	企画科目（死生観）	文 - 66
山　脇　雅　夫	哲学方法論	文 - 36
	企画科目（死生観）	文 -
	現代思想	文 - 36
	哲学	文 - 36
	人間学基礎ゼミＩＢ	文 - 5
	人間学基礎ゼミⅡＢ	文 - 5
	人間学特殊ゼミＩＤ（宗教学入門）	文 - 52
	人間学特殊ゼミⅡＤ（一神教の世界）	文 - 52
	教育原論	文 - 44
	人間と宗教	文 - 1
	教育学特殊研究（大）	院 - 8
	教育実習の研究	文 - 49
	教職実践演習（中・高）	文 -
	教育実習Ｉ	文 -
	教育実習Ⅱ	文 -
	哲学１（別）	文 - 1
	哲学２（別）	文 - 36
	教育学特殊研究（大）	院 -

【わ　行】

和　田　圭　子	密教学特殊講義Ｂ	文 - 21
	密教学特殊講義Ｃ	文 - 21
学　科　主　任	導入研修	文 - 1
	企画科目（加行Ｉ）	文 - 16
	加行Ｉ	文 - 16
	企画科目（加行Ⅱ）	文 - 17
	加行Ⅱ	文 - 17
	企画科目（巡礼・遍路）	文 - 17
	巡礼・遍路	文 - 17
	企画科目（ボランティア）	文 - 17
	ボランティア	文 - 17
	総合科目（インターンシップ）	文 - 13
就　職　担　当	企画科目（キャリア研修）	文 - 13

講義概要・授業計画　平成31年度（2019）

2019年４月１日発行

編集・発行　高　野　山　大　学
〒648-0280　和歌山県伊都郡高野町高野山385
Tel.（0736）56－5027（教務課）
Fax.（0736）56－5048
E-mail : kyomu@koyasan-u.ac.jp
URL : http//www.koyasan-u.ac.jp

印刷　藤井印刷株式会社

KOYASAN UNIVERSITY